聖書に導かれて
南無妙法蓮華経

1	千華物語	H27 年度
2	善良なる罪人	H29 年 12 月
3	遥かなる泥土	H30 年 10 月

一つしかない神の美しき愛ひろがれ。

義人

令和２年

目次

義人の想い、～真実の愛～‥ 2

ヨハネの第一の手紙‥‥‥‥ 4

千 華 物 語‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6

善良なる罪人‥‥‥‥‥‥ 154

遥かなる泥土‥‥‥‥‥‥ 237

義人の想い、～真実の愛～

私が神、再臨したイエスであることを信じてほしい。私は自覚と聖書の導きにより生きています。私は世に問いたい。ルサンチマン（恨み）からではなく、人々を弱いとか強いとかに分ける価値観を、もう一度再確認してほしい。後ろからぼっ立て、競争に仕向け、苦しむ人々の姿を見て、悦に入っているのはサタンです。勝つためにはどんな汚いことでもする。負けたものには容赦ない侮辱。そんな世界はもう終わりにしないといけません。どうか皆様のおおらかな賛意をください。私は私の書きものが世に流布されることが唯一サタンへの対抗手段であると訴えます。真実の愛があるからです。ここに共鳴した善人に神の国、不老不死、永遠の命が約束されるでしょう。　すべての経緯が判明します。神の国は近い。永遠の命を確かなものにするため、愛を確実なものにする。すべてはひとりひとりの信仰にある。私を信じて下さい。私は多くの方々が福音にふれ、幸せになり、神の義、愛に、涙も消え去ってゆくことを望んでいます。欲望から放れ、美しい想いを抱くこと、大事です。不完全な人達も誠意と思いやり、信仰によって神の義を抱き、完全円満な姿、成仏と呼ばれる境涯へと誘われてゆきます。日蓮は久遠元初の仏であり創造主（神）です。つまりイエスと日蓮は同一の存在。復活と

成仏、同様に愛に包まれた暖かい境界にあります。私、梶原義人はその名の通り、煩悩が燃え盛る、火事の原野にひとり立つ正義の男です。皆様に真実の信仰を掴んでいただきたい。一人でも多くの人が神の王国の住人になれるよう衷心より願う次第であります。私は三位一体の支持者です。聖霊は固定観念から放れ自由に生きていくことの大切さを体感によって知らせてきます。そして聖書とのダイアローグ（対話）は私にとっての神への自覚を促す基本です。すべての完結が私、義人によってなされるということです。人々の不安を煽るような終末論は展開致しません。ただ何かが生まれ起こるはずです。それだけは確かです。皆様と共に幸福へと歩んでゆきたいです。本物の信仰を抱いて。「子たちよ、誰も惑わされてはならない。彼が義人であると同様に義を行なうものは義人である」（ヨハネの第一の手紙　3章7節）ご覧下さりありがとうございます。「義人の想い」と銘打って、これにて私のあいさつに代えさせて頂きたいと思います。　尚、私の他の作品もＰＤＦ（電子書籍）で無料、開放しています。是非、そちらへと宜しくお願い申し上げます。この小道が広く大きな愛の街道となり皆さまの幸福に必ずや貢献されると信じて疑いありません。では、いざ、よろしく。

新約聖書

ヨハネの第一の手紙

第３章

わたしたちが神の子とよばれるには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたち、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

２愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものになることを知っている。その御姿(みすがた)を見るからである。

３彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあらわれるように自らをきよくする。

４すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

5あなたが知っているとおり、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんら罪がない。

6すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯すものは彼を見たこともなく、知ったこともない者である。

7子たちよ。だれにも惑わされてはいけない。彼が義人であると同様に、義を行うのは義人である。

Ｈ２７度作品

千　華　物　語

真説　蜷川神話

先生へ

真説蜷川神話

２３歳のとき蜷川青年団が演劇祭に参加するということで脚本と演出を担いました。当時アマチュア劇団に所属し、そんな縁から客員でチェーホフの三人姉妹の演出をされた、劇団四季にいらっしゃった宮嶋春彦氏よりその手法を学びました。私にたいする青年団の人達はそう好意的ではありませんでした。というのは仲介してくれたのが職場の先輩で、ここで取り上げたパワーハラスメントに対しての認識に大きなずれが生じていたからです。でも積極的で優秀なキャストとスタッフに恵まれ、そのお陰にて日の目をみることができました。本格的に上演された私の唯一のものです。

出来上がった芝居はその躍動感、つかこうへいと野田秀樹の影響をもろ受けた感がありました。ひな壇に座りのんびりと絵空事を話たり、舞台の展開についての段取りもまずく、発声も貧弱な完成度が低い他の作品らと比べ格段に優っているだろうと自負していたのです。しかし結果は落選でした。やはりここにも、まだ人格改造につながるパワハラの怖さへの認識が不足していたのです。みんなに私

の力不足だとあやまりました。
芝居の内容としては組織、そしてそのヒエラルキーがうみだす非人間的な言動。すなわち権力が神であり、それへの忠誠心が試される。自然な感情をもつ人間になりたいが人間になれない。いやなんの力もない人間になんぞなってたまるか。パワハラと競争。何をやっても勝てばいいという価値観の存在。しかしそのなかで逆説に気づく、自らの思いやりのなかったこと、愛の大切さ。この想いこそが真の神の心であろう。
人々は凶作や戦が続いてもカミに祈り豊作と平和を願い続けた。なぜカミを放り投げなかったのだろう。大魔神の怒りをおさめたのは美しい無垢な女の涙であった。そのことを昔の人たちは語り継ぎたかったのであろう。
そんなおり本当に因縁を感じる。ハンガリーの戯曲トートファミリーを公演することになった。私に聖職者の役がまわってきた。当たり役となり出番は少なかったが私の演技は絶賛されることになった。なぜかそれはこの芝居の核心というもの、私が当時からに持っていた問題意識とまったくアナロジーしていたからだ。戦場と職場の違いであってもそのアンバランス、理不尽、狂気、恐怖からもたらされるアイデンティティの喪失。個に固執する人は、労苦がないと見出せないのかもしれないが、仕方なく空気を読むという処世術を知る。私の作品もこの戯曲

も淫狸な雰囲気をかもしだしている。コミカルにグロテスク。もしかしたら狂気とはそんなものなのかもしれない。これは原本で改訂版があったのですが、あまりに執着がなく、手元に置いておらず、今、真由子先生にお見せ出来なくて歯噛みしているところです。

真説蜷川神話

登場人物

トカヒコ
イナヒコ
イスルギヒコ
サラヒメ
ホソヒメ
マミ
オクムラヒコ
女A
女B
タカタノオキナ
その他

第1幕

（男神三人）やしろ

イスルギヒコ「バカヤロー。気合いを入れていけ、気合いを。そんなことしていたらなあ人間は神様を信じなくなるんだよ。わかるだろう。かすみが食えなくなるんだよ。おまえだって知っとるやろが。人間の信仰心に太陽光線が当たるとゲル化反応を起こして、なぜか酸素とかすみを放出するって。学校で習っただろう、学校で。かすみがなくなったら鳥目どころか死んじゃうんだぜ。そんな事何年神様やってんだい。かっこばっかつけて。死んだっておれたちゃ行くとこないんだぜ。ここがあの世なんだから。最近おまえ、死神と仲いいんだって？神様が魔界のやつと談合したらどうなるかわかってんだろうな。さっさと仕事行け」

イスルギヒコ、トカヒコが去るのを見てる。おどおどしているイナヒコにちょっと視線を送って去る。（間）トカヒコ帰ってくる。

トカヒコ「かなわんなあ、イスルギ君にも。なにがゲル化反応だ。あの人、神様のくせして何にも知らないんだぜ。こないだもなあ、リアス式海岸の作り方、ききにいったんだよ。そしたらなあ、おれたち

イナヒコ
トカヒコ

ゃ技術屋じゃないからそんな事知らなくてもいいんだよ。そのくせてめえの知ってることとなると、そんな事もしらねえんか、とこうくるんだよな。とにかく感情優先の人なんだよ。あ、おまえ、あの人の昔話聞いたことあるか」

「えっ」

「知らないのか。かれこれ五百年ぐらい前の話だがよ。イスルギヒコがよ、アネクラヒメというかみさんがいながら、能登のノトヒメというのを第二夫人にしたんだよ。かみさん怒ったのなんのって。石つぶてノトヒメを攻めたのがきっかけで、上へ下への大騒ぎよ。当然、上の耳にも入るわなあ。かみさんは流刑になっちゃって第二夫人のノトヒメも重い罰くらったのに、なぜか、あの方だけは、おかまいなし。あの人仕事だけはできたからなあ。しかし、それも運があったんだし、どだい上に立つ器じゃないのよ。おれが昔いた出雲地区であんなスキャンダルを起こしたら窓際族かコレもんだよ。それにこりずに今でも女囲ってんだから、どういう性格してんのかね。自分のことは単なる神経質ぐらいにしか思ってないんだから。おまえー神様になって何年になる」

イナヒコ「あ、はあはい。今年でちょうど二十年になります」
トカヒコ「おい、おまえ自分で自分のことどう思う。」
イナヒコ「どう思うって、いい面が悪い面で、悪い面がいい面ってことがあるし・・・それは周りが決める事であって、だから、ぼくは・・・」
トカヒコ「けっこう、おまえ理屈っぽいんだな。あんまし理屈っぽいと嫌われるぞ。まあ、おれも理屈っぽいほうだけど。ちょっと聞くけどな。おまえ便所で大のときと小のとき、どっちのとき手を洗う?」
イナヒコ「どっちも洗いますよ」
トカヒコ「バカヤロー。急用が待ってんだよ。女房のお産がはじまったときみたいにあとの用事がひかえててあわててるんだ」
イナヒコ「珍しい神様だなあ」
トカヒコ「どっちだ」
イナヒコ「ううん・・・どっちかというと大のときでしょうね」
トカヒコ「バカヤロー。おまえの大のときは手でふくのか」
イナヒコ「はい」
トカヒコ「バカヤロー。違う。ちゃんと紙でふくんだろう。それともにじん

イナヒコ　で手にくっつくか」
トカヒコ　「・・・・。」
「大のときは手が汚れないけど、小のときは、つかむだろ。ナニを汚いじゃないか」
イナヒコ　（感心しながら）「理屈だ」
トカヒコ　「な、そういう事だよ。そういう所に目が向くように今から訓練していかないと神様なんかやってけないよ」（間）
トカヒコ　「しかしイスルギ君の女ぐせの悪さにはあきれるよ、まったく。この前の相手は人間の女でさ、１５人ガキ作ったとかでさあ、子だくさん一家で有名になった。亭主が戦で飛んできた矢をよけるつもりがよけたところにほら貝の音にびっくりしたイノシシが突っ込んで来て角で突かれて死んだ。神様新聞に出ていただろ。そのかみさんの所へ夜ばいして１５人の子供に見つからなかったのはいいが、いたすこといたしたあとに犬にかんづかれて吠えられて、吠えられて、びっくりしてその場で消えちゃったんだよ。今じゃ、死んだだんなが化けて出てきたって蜷川の百姓の間じゃ評判さ。あの方はギリシャにでもいたら一角の神様になれたかも

しれないなあ」（間）

トカヒコ「おまえ女友達ぐらいいるだろ」

イナヒコ「いませんよ。そんな気のきいたもの」

トカヒコ「いなくて自慢なんかならないんだぜ。最近の子はみんなドライだろう。どんどん作ってガバガバやりゃいいんだよ。しかし結婚するなら見合いだろうな。」

イナヒコ「見合いですか」

（イビツなホソヒメ登場）

トカヒコ「だいたい、恋愛なんか、うそっぱちだろう。ある場所に目やにだらけの娘と、歯くそだらけの娘がいる。はじめはまあ何とも思ってなくともどちらかといえば、あまり気にはしなくても、あの娘が入れたお茶がおいしいとか、弁当のたくあんのかわりにキュウーリのキューちゃんをもってきたとかで好きになっちゃうのよ。いや好きになったような気がするんだよ。そのうち下の方でたまってくるから、目先のそいつしかないように思ってきちゃうわけよねえ。結局てめえの知ってる世間でしか女見つけられねえんだ

から、知り合い結婚だわな、こりゃ。見合いってのはよ、冷静な時に広く世間を見れるわけだから的を射ているわなあ――それには財産とか性格とかいろいろ考えなきゃいけないわな。やっぱり結婚するには・・見合いじゃできねえじゃないか、おれは。」

イナヒコ「ちょっと聞いていいです?」

（トカヒコがなおかつしゃべろうとするのにかんぱつ入れず）

イナヒコ「トカヒコさんって、関東の人ですか?だって発音がかわっているから」

トカヒコ「バカヤロー。話の腰を折るんじゃねえ。だいたいおれの話を聞く気があるのか、ねえのか。そういう態度、神様営業部員としては最低だっせ」

イナヒコ「どこの生まれなんだ」（つぶやき、うつむく）

トカヒコ「まあ若いから仕方なかんべ」（イナヒコなおかつ、うつむいている）

「おれに気をつかわせるつもりか。おれにここまでしゃべらせてこれ以上おまえにものを教えてやさしさをプレゼントしろと言うのか。おれは神様だ。人間にはやさしさを売るが神様は甘やかさ

ないぞ」

（イナヒコ上目づかいでトカヒコを見る）

トカヒコ「だからだ。ようはたくさん女を見ればいいわけだ。おれは見合い写真は一万枚は集めるつもりだ。そのうち一割が美形でもざっと千人はいる勘定になるから、そのなかからフィーリングのあったのを選べばいいんだよ。そうそう、あの、こんぴら様がな粋なカラクリ物をお作りになった。こんぴーらと言ってな、そういうふうに考えている頭のいい男女を登録しといて自分にあった相手を一発で見つけてくれるそうだ」

イナヒコ「こんぴーらですか」

トカヒコ「おお、これは人間世界でも五百年後ぐらいにコンピュータと名付けられて出回るてはずになっているそうだ。これで、こんぴらさんも大儲けできるだろう。」

イナヒコ「こんぴら様は船の安全の神様だけでなく、カラクリものの神様もやられるのか。儲ける為に何でもやるんですねえ」

トカヒコ「ホソヒメ、おまえなんか一生嫁になんか行けないぞ」

ホソヒメ「なにけ—あんただってだねか」

トカヒコ　「なに言ってんだい。結婚どころか一生処女だぞ」
（イナヒコ、プッと笑う）
ホソヒメ　「イナヒコさんまで何け、そのバカにした笑い」
イナヒコ　「それがいけないんだよ。少しは女らしくしたらどうだい」
ホソヒメ　「私、そんなん、きらいだもん」
イナヒコ　「まあ、言ってもむだか」
ホソヒメ　（うつむいて）「だって、だって、だって」
トカヒコ　「おまえいつものように一生ボケッとしとれ」
イナヒコ　「ひでえなあ」（笑いをこらえる）
ホソヒメ　「なにけえ」
（イスルギヒコ登場）
イスルギヒコ　「トカヒコ、おまえ、まだおるんか、行けまあ」
トカヒコ　（ちょこまかしながら）「ちょっとお・・・」
イスルギヒコ　「えー」
トカヒコ　「行ってきます」（そそくさと出ていく）
（イスルギヒコ、残った二人をジッとにらむように見つめる）
幕

第2幕

（娘二人着席し、机にむかっている）
（イナヒコ入ってくる。ふりむいた一人の娘にウインクする）
（気持ち悪いという素振りを見せたあと、チラッと気のある視線をイナヒコに浴びせる）

（サラヒメ登場）
サラヒメ「ねえ、イナヒコさん、私、最近肩こっちゃって、ここらへんなの」
イナヒコ「もめっていうのか」
イナヒコ「かなわんなあ」（と言いながら遠慮がちに肩をもむ）
サラヒメ「違うの、ここ」
（イナヒコ、もむのをやめてむすっとする）
サラヒメ「私ねえ、トカヒコさんのこと好きなの知ってた」
（イナヒコ無言で他の二人の女に視線をやる）
（女二人、イナヒコを意識的に無視する）
（サラヒメ誰かを見つけたようで去っていく）
（イナヒコ女二人に話かけようとする）
（一人の女はうつろ）

もうひとりの女「イナヒコさんに気があるのはサラヒメさんだけよ」
（女二人去って行く）

（舞台にイナヒコ独り、にかっと笑ってやがてしょんぼりして上を向く）

イナヒコ「やっぱり、おれにはできない」

（暗くなり真ん中だけあかりが照らされる）
（イナヒコとマミが浮かび上がる）

イナヒコ「何だ、まだ起きてたのか」
マミ「・・・・。」
イナヒコ「どうしたんだ」
（いきなりマミが抱きつく、イナヒコそれをつき飛ばす）
イナヒコ「スケベが先にねてりゃいいだろ。赤ん坊みたいに。　だいたいおまえみたいなやつが女神になろうってのが甘いんだ。自分一人でどうにもできないで、おれはまだ若いんだよ。酒ぐらい飲みた

いんだ」
（マミがみっともなく泣く）
マミ　「だってパパのにおいがせんと眠れんもん」
イナヒコ　「もうままごとはたくさんだ。おまえは処女じゃなかったし」
マミ　「もうマミちゃんのこと、きらいになったんだ」（また泣く）
イナヒコ　「いまさら気づいたのか、大きらいだ」
マミ　「パパだましたわ。結婚するってだましたんだわ。でももうダメだわ。子供できたもん」
イナヒコ　「冗談でもそんな事いうなよ」
マミ　「でも、ほんとうだもん」
イナヒコ　「頼む。違うといってくれ、頼む。今できてみろ、二人とも神様になれないんだぞ。おろすしかないな」
（びっくりして）
マミ　「イヤー」（又、泣き出す）
イナヒコ　「うるさいぞ、しまいには殺すぞ」
マミ　「殺して」
イナヒコ　「よし」（といって刀を抜く）（力をぬいてニヤッと笑う）

（女を抱こうとして、手を引っ張ろうとするが、女は拒むように逃げようとするが、つかまえて抱く）

（照明、暗くなる）

（ふたたび明るくなった時、女はいない）

イナヒコ　「マミ」（つぶやくように嘆息する）

トカヒコ登場

（沈痛なおももち）

イナヒコ　「どうしたんですか」

トカヒコ　「どうもこうもない。このままじゃ人間にされてしまう。出雲の頃はよかったなあ。京都もよかった。街中は飢えや病におかされた人間がうようよして助けを求めていた。またこっちの方がひどかったが、飢えてない人間どもは日夜、策謀、淫乱のさなかに猜疑心と憎悪とをはぐくみ、願うことといえば出世の敵を呪い殺せ、だのとか、原因不明の熱病を治せとか、それを犠牲、祭り、お祓い、呪文の力でと、我々の手にゆだねてきたものだ。それがどう

だ、この蜷川は本店から遠く飛ばされ支店の出張所に回されて、しかしノルマはもとのままだ。激しい恋の果てに、どうにか命までも捨ててまでも添い遂げたいというような気のきいた願掛けも全くなくて、神様魂はいっこうにくすぶっていて、百姓どもの祈ることといえば、たかが一週間ほど暑い日が続いたから雨を降らせろ、などと。やつら雨を降らせることがどんな面倒なことか知らないんだよ。俺みたいなヒラの神様がおいそれとアマテラスの大神になんか会って頼めるもんか。ややこしい手続きがいるんだよ。雨がちょっとでも遅れると[天はみはなした]。大げさな。ま、それでも仕事があればいいが、最近は一向宗とかで南無阿弥陀仏。この世はだめだ。せめてあの世で。誰も俺たちのことを信じようと思わない。俺の立場はどうなるんだい。桃井直常あたりのいくさで少しは景気よくなると思ったら、みんなそっちにとられて。この先この稼業がだめになるのはわかってるんだ」

「平和な世の中が出来たほうがやっぱりいいんですかね」

「そうだろうなあ。少しはまだ薄利多売な儲け話があるはずなんだ。入学祈願とか交通安全とかな」

イナヒコ
トカヒコ

イナヒコ　「へえ」
トカヒコ　「しかしそれらは新興の天神様に持ってかれちまうんだよ。死神と組んで派手に疫病でもはやらせて死人の魂は奴に、残った信仰心は俺がいただくって寸法で図ったんだが、どうやら上にばれちまったし、神様が死神と組んだってわかったら始末書じゃ済まないからなあ。みんな陰でやってるのにようかでよ。こっちは粟やひえだ。やってられないよ全く。京都のやつらはいいよなア」

イナヒコ　「でも、それぞれつらいことがあるんじゃないですか」
トカヒコ　「何、偉そうに言ってんだ」
イナヒコ　「いやー」
トカヒコ　「わかってるよ、そんなこと（間）俺は人間になんかなりたくない。いつもおどおどしててめえですべて解決できるつもりでいて実際は何一つ解決できないものなんかに」

イナヒコ　「・・・・」
トカヒコ　「ウズメ知ってるだろう。ほら、アマテラスの大神が岩におか

くれになったとき、ストリップを踊ったって。今あいつ近くで店出してんだよ。この前紹介された不細工な女神連れていったんだよ。今までどんな女、連てっても何にもいわなかったのにそん時だけは近くによってきてさ、いや、トカヒコさん、かわいい子だね。いやかわいい、おにあいだよ、だってよ。いつもは高天原ボケでさ、そっちからきたっていうと妙にはしゃぎだすんだよ。いつもは、おまえら田舎もんが来る所じゃないって若い衆に愛嬌一つふりまかないのに。そしたら突然キリキリと音がして何かと思ったら俺、無意識に歯ぎしりしていたんだよ。おまけに二人でジャズでもどうって券2枚差し出すんだよな。あったまきて、俺が連れている女は非常にブスなんだぜ」

イナヒコ「もらわなかったんですか」

（トカヒコ、うなずく）

イナヒコ「そりゃ、そんなブスならねえ」

トカヒコ「買ったんだよ」

（イナヒコ、ガクッとくる）

イナヒコ「それで聴きに行ったんですか」
トカヒコ「それがきのうでさ、誘ったら（今日は忙しいの）って断られてよ。非常なブスにヨ」
イナヒコ「かわいそうだから誘ったのにねえ―」
トカヒコ「きょうデートの約束したんだよ。俺、情けなくて・・・」
（イナヒコ、あきれる）
（間）

イナヒコ「ねエ、トカヒコさん心に昔つき合った女が残っていて他の女とつき合えないってめめしいと思いませんか」
トカヒコ「バカヤロー（間）そんなもん当たり前じゃないか。みんな初めていれこんだ女はどっかに残っていて離れないんだよ。ハードボイルドの主人公なんてみんなそうだぜ」
（サラヒメ入ってくる）
サラヒメ「イナヒコさん。私、なんだか今日は妙にお酒が飲みたいの」（トカヒコ、イナヒコ、サラヒメ向かいあう）

幕

第3幕

サラヒメ　「何、こんな気持ちの悪い所へ呼び出して」
イナヒコ　「今日どうだい。酒でも飲もうと思って」
サラヒメ　「だめ、今日来るみたいなの。仕事だっていったら仕事なんかするな、部屋で待ってろって、そりゃすごい剣幕なの」
イナヒコ　「彼氏か、それじゃ仕方がない。今まで散々人を誘惑しといて、俺よりもそんなに彼氏のあれがいいのか」
サラヒメ　「みっちゃんは、テクニシャンなの。あなたのは、大きいだけなの」
イナヒコ　「いつもながらはっきりいうね。だけどお前のは、悪気はないからなア。嫌味には聞こえないよ」
サラヒメ　「いつもそういわれるわ」
イナヒコ　「結婚の一番の条件は、愛よりセックスがいいことなのか」
サラヒメ　「そうよ」
イナヒコ　「お前だったのか。うわさじゃよく聞くけど今だかってみた事のなかった、すぐやらせる娘ってゆうのは。お前の友達なんかも、みんなそうなのか」

サラヒメ「ちがうよ。でもみんな思ってることは同じじゃないの。ただ心になにかがあるからできないだけ」
イナヒコ「道徳、愛、貞操観念」
サラヒメ「そんなのわかんない」
イナヒコ「俺は心の中で、お前みたいな娘を求めていたような気もする。妙に落ち着くんだよなア」

（オクムラヒコ、登場）

サラヒメ「オクムラヒコさん今度どこか連れていって」
イナヒコ（つぶやくように）「嫉妬に気づくときもある」
サラヒメ（サラヒメ、オクムラヒコが持ってきたオリの中のものを指さして）
オクムラヒコ「ねエ—この気持ちの悪いのはなに」
「ああこれかい、いままでの失敗作さ。地球上の生物の規格にはそぐわないんだって」
サラヒメ「ねエ、イナヒコさんも神様にそぐわないんじゃない。いまだに小聞使いみたいなもんだもんね」
オクムラヒコ「それじゃ」

サラヒメ　「もう、行っちゃうの」
オクムラヒコ「この品物、急いでいるから」
　（オクムラヒコ去って行く）
サラヒメ　「それじゃ私も。あっ、イナヒコさん、今度、ひまな・とき私から誘うわ」
　（サラヒメ去る）
イナヒコ　（笑って手を上げる）マミとは全然違うタイプだ。サラヒメのおかげで他の女に全部ソッポ向かれちまった。思わず話をしちまうんだよなア。いやらしさを感じさせないんだよ。女ということをまるで自覚してないみたいだ。もしかすると、俺がもてるのも俺は男だって片意地はらないからじゃないかなア。最近はそういうのがはやりなんだよね。あーマミ」
　（ホソヒメ登場）
イナヒコ　（一人言で、うっ、びっくりした。思わず規格はずれの失敗作が抜け出してきたのかと思ったぜ）
イナヒコ　「いやあ、ホソヒメさん元気」
ホソヒメ　「何、言うとんがけ。あんた」

イナヒコ「そうだ。男の子、紹介してあげようか」
ホソヒメ「えーいっちゃよ。でもどんながけ」
イナヒコ「非常にいい男なんだ。スタイルばっちし、肉体美」
ホソヒメ「うーん。やめとくちゃ」
イナヒコ「いい男だぞ。三田明に似ている」
ホソヒメ「さ、だれけ」
イナヒコ「お前とつきあう為に生まれてきたような男なんだぜ」
ホソヒメ「本当け、でも、やめとくちゃ、でも」
イナヒコ「俺はどっちだっていいんだぜ。ホソヒメさんのことを考えて」
ホソヒメ「イナヒコさんは、彼女」
イナヒコ「俺はいいよ、もうすぐ見合いするんだから」
ホソヒメ「本当け、お見合いするがけ、どうして」
イナヒコ「俺はいいから、会うのか、会わないのか、会ってみろ」
ホソヒメ「だって会って断ったら悪いねかー、なんか、似顔絵みたいなもん、あるうとか、いったりして」
（一人言）「こいつ自分に選ぶ権利があると思っているのか」
イナヒコ「いい男だぞ、断ったらもったいないぞ」

ホソヒメ　「ちょっと考えさせてよ」
イナヒコ　「いいけど早くしないと」
（間髪入れずに）
ホソヒメ　「会ってみっちゃ」
イナヒコ　「そしたらあとでちゃんと連絡してあげるから。もう休み時間おしまいだよ」
ホソヒメ　「なにけよ。自分は仕事いいがけとか言って、やっぱ、やめようかな。いうたりして」
イナヒコ　「いいから早く行け」
（ホソヒメ、ブツブツいいながら去る）

（それと同時に爺さん入ってくる）
イナヒコ　「タカダノオキナさんトカヒコさん人間にされるって本当ですかね」
タカタノオキナ「ううん（間）さ、なん、おらのことあ（笑いを含みながら）何も言えんねどお、そうかもしれんな－ぐらいにしか言えんで、なん、おらのこたあ、みんな知っとれど－だろわいぐらいにしか言えんねかい、なん、おらのこた、みんな知っとんが、だけど、

おわが言うとったとなってくっと、さ、何わからんとって言うとんがい。こうなってくんねかい。なああん、おわのこたあ、だまって聞いとんが、あんたらっちゃ、若いからよう、わからんかろけど、おらっちゃみんな知っとんが。経験からもの言うとんが。言ってみりゃ、あんたらっちゃ－みんな、おわの子供みたいもんだちゃ」

イナヒコ「はい、よくわかりましたけど、トカヒコさん、人間にされるんですかねえ」

タカタノオキナ「最前から言うとるように、おれがこう言うとったちゅうことになると、おわが、よわんねか」

（タカタノオキナ、イナヒコが渋い顔をしとるのを尻目に）

「人間になってしまりゃ、神様のときのことは全部忘れてしまうがだとよのお」（タカタノオキナ去る）

イナヒコ「やっぱし、トカヒコさんは人間にされちまうんだ。それで今まで育ってきた、そして今まで見てきたこの世界も出会った友達も、愛した女も全ての記憶という記憶は消され全く別の生き物として存在することになる。しかし神様ってなんだろう。西洋の神様

は全知全能だそうだ。しかし我々は人間どもの祖先。創造主のまねごともするが、実際は俺たちも多分作られたんだろう。でなけりゃ、こんな思索にふけり人間どものように哲学し思い悩むことはないはずだ。俺はサラヒメを抱いた。これが上に知れたら人間にされるかもしれない。

しかし俺は初めて、何も考えずに肉欲だけを満たすことに成功した。この先人間界では五百年後ぐらいにこんなことが一部のものの楽しみではなくしごく一般的なものとなるだろう。俺たちはただ人間より少し早く歴史を先行しているに過ぎないんだ。それならば明日のこともわからぬ人間の方が幸せではないか。あーあ人間になりたい。俺たちみたいになまじっか、あやふやな予知能力があるってのは本当に困ったもんだ。しかし俺もノルマを達成する為、人々の信心を得なければならない。そのためにはひでりを起こそう。いくさを起こし疫病を流行らそう。人間どもにおのれの無力さを知らしめ、どん底で、俺に救いを求めさせるんだ。しょせん人間になんか勝手になれないんだから。いや人間になりたくても、人間になることができても、やっぱり人間になんかはな

りたくないからだ」

（イナヒコ去る）

幕

あとがき

聖書のローマ人への手紙の一節に

［なぜなら、彼らは神を知っていながら神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである］と記されている。私が［真説蜷川神話］のあとがきを付けるのに聖書へたずねたのである。つまり聖書の神はやはり愛であり、人々の自由を認めておられ、皆その内なる心、ひたすら神、善を真摯に求め続ける信仰によって各位、救われるのである。

この戯曲で悪意に満ちたカミサマを登場させることによって、社会に出てから今日まで感じている、人間界、世間のアンバランス、不合理を描くことに成功したのではと。ここで私は自賛すると共に、酷く苦痛を意識しておる次第です。作品に顕在する悪意、それは清潔をモットーとする女性たちにはダイレクトに受けがわるく、私は困惑したからです。真実をえぐり出す問題作はどこか醜悪な部分を強調することが基本的とも言え、美しい、楽しい話を求める人たちにとっては唾棄すべきものにうつるのでしょう。エロ、グロ、ナンセンスの汚れを払拭する為には少し説明が必要であると。

淫猥さ、独り善がりさ。バカヤローの罵声に代表する、パワハラ、セクハラ、そして今日やっと問題になってきたモラルハラスメント。醜い濁流としてこの作品に現出しており、正直、実体験からも私自身、非常に不快になるのです。
だが負荷がなければ自律に達するありがたみは、実感として湧いてこないという悲しい現実。一応平和にみえる職場でも、営利という目的を意識したとき、反して踏みにじられる愛は心あるものに哀しく自覚される。
一方、組織である限り、立場，視座にてその本質は見えてくる。険しいがそれを踏まえ己の良心に基づく柔軟でバランスのとれた愛を持つことが大切だ。
ひとの欲望を含め、不幸があるから需要が生まれ供給によって生活が成り立っている一面が。そして人がひとりでは生きていけない悲しみに涙するとき、真の友は人々の原罪を背負い贖罪のため十字架についたイエス、その御心を領解された神以外には存在しないのではないだろうか。サタンを戴き自由意志を持った人間。イエスへの信仰による救われ。そして神は全知全能だからこそ苦悶するのである。

この不完全な世界に笑ったり、無関心であったりすることが全宇宙において最も善良な神に出来うることであろうか。ただ御国をもとめよ、あなたの神を、心をこめて愛せよ。神は比較から生まれる権力ではなく愛である。自由意志から聖霊の宮（神の意思）へ

この戯曲は逆説です。人々が求めなければならないものは思いやり、愛、互いの尊重なのである。目先のものにとらわれてはいけない。善意は必ず存在している。とりあえず置かれた境遇に感謝するひとが、いつの世も幸福なのである。それが唯一安楽へ。

その後、火宅のようにみえる世も南無妙法蓮華経という智慧と慈悲によって鬼の住みかではない、仏、神の遍満する、鮮やかで明るい世界へと浄化することができる。そしていつも真っ直ぐに生きる自己を、肯定する必要はある。悪意に満ちた人たちから離れるために、である。

コーラ、酢、ライム

コーラ、酢・ライム

場所　オーディション会場
劇場の舞台

人物　福瀬
岡崎かずみ
種田あずさ
もずみ
小林ともこ
関井
谷井ようこ
星名まさゆき
舟本
種田正輝

紳士床
女性A
声

第一幕　第一場

（全員、板つき。谷井除く）

声　君達の踊りは、素晴らしかった。今度は少し話を聞かせてほしい。

小林　話ってどんなことですか。

声　なんだっていい。

種田　昔、昔、あるところに、寝太郎という、たいそうなまけものの若者がおりました。

豊田障子という、障子貼り屋さんで働いていたのですが、いつもトイレットペーパーを障子紙と偽っては、人をだましてばかりいたので、ある日、すまきにされて川に放り込まれてしまいました。運良く、通りかかったアリさんに助けられ、「まじめに働かなきゃ」と説教されたんですが、さすが寝太郎どんアッカンベーをして、いずこともなく去って行ってしまいました。まったくたいしたもんです。その後アリさんは、働きすぎからくる過労で、亡くなったそうです。めでたし、めでたし。

（間）

声　次、誰か。

岡崎　私がやります。
声　名前は
岡崎　岡、おかおかおか丘を越えてゆこうよ、真澄の空はほんがらかに晴れて楽しい心ー。岡崎、岡崎和美です。
声　君には、お父さんの話をしてもらいたい。
岡崎　お父さんですか。
声　どうした。
岡崎　分かりました。父は四方の漁師です。朝は三時から起きて、沖へ船で出ていきます。私も父について二つの頃から漁に出ていました。おなかまであるゴム長とねじりはちまきが私のトレードマーク。網を引く私の耳に「もっと気入れてひっぱらんか」潮風にきたえられた、父の声が聞こえてきます。とったばかりのイワシがとんでこないのが幸いです。そんな幸せな日々も長くは続きませんでした。波浪注意報が出ているにもかかわらず、ブリ起こしがおれを呼んでると勇んで海へ出ていった父は、そのまま帰らぬ人となったのです。
関井　船が難破したのね。
岡崎　父がなんぱしたの。

関井　だから船が難破したんでしょう。
岡崎　ブリで儲けたお金をもってよそでこさえた女ととんずらしたのよ。父はその女を総曲輪でナンパしたの。幼心にキズついた二十四才の私でした。そんなときです、バレエと出会ったのは、初めて観たバレエー。美しかった。
声　バレエ団の名は。
岡崎　ＯＯ舞踊研究所。
一同　あれは最高だ。
（谷井あらわれる）
谷井　私にもこのオーディション受けさせて。
声　ようこ。
谷井　お願い。
声　ようこ、これはコーラスだ。だめだ君はうますぎる。
紳士　ようこ、ようこってあの人、長門裕之みたい。
関井　シー静かにしられま。
谷井　わざとヘタに踊るわ。
声　そういうことじゃないんだ。踊りが違いすぎる。
（間）分かった許可しよう。

（星名、倒れる）
声　どうした。
小林　当然の結果だわ。三日前から踊りっぱなしなんだから。
星名　大丈夫です。心配しないで下さい。ただの栄養失調です。
声　仕事が欲しいか。
星名　はい。
声　北日本新聞の配達員はどうだ、朝夕配って月七万円になるぞ。
星名　長門先生、僕に、僕にもっと詳しく教えてください。すいませんが。
声　よし分かった。ひとついっとくが私は長門というものじゃない。しかし、私の名前も知らずにオーディションを受けにきたのか。腹がへっては礼儀もなにもあったもんじゃない。よし五分間休憩にしよう。集合には遅れないよう。
（福瀬、一人残っている）
福瀬　ちょっと聞いてもらいたいことが。
声　後で聞く。
福瀬　今、お願いします。僕は、女の子にもてたいんです。
声　私もそう思っているが。

福瀬　僕は暗いんです。そうなんです。ダンスもお芝居も。気持ちがしずんでいたのでクラインとこのビアガーデンに行ったんだ。僕はそこで生まれて初めて女の子に声をかけたんだ。得意のジョークですっかりしらけたあと意気揚々と外へ連れだし、大木の下でキッスの嵐をおくったんです。だけど、その後が良くなかった。彼女のうるんだ瞳を見たとたん、僕はゲップをしてしまったんです。気が付くとその子は我に返り、泣いて駆け出していました。せめてレバニラを食べずに、ギョウザ五個でやめていたら、いや臭いのせいじゃないんです。間だ。間がわるかったんだ。いっきに駆け上がらなくてはならぬ官能の階段を、僕はうかつにも踏みはずしたんだ。ウブな娘を相手にしたときの鉄則を不用意にも踏みにじってしまったんだ。こんな僕でもミュージカルは出来ますか。

声　自信がないのか。

（関井、紳士入ってくる。）

関井　なんけあんた、そのスタイルでよう参加したわね。

紳士　何いってるの。私は御覧の通り、八頭身よ。

関井　誰が二倍にして答えなさいって言った。

紳士　あんたこそ何よ。このオーディションは二十五才までよ。

二人　フン。
声　二人ともマグニチュード8・5位だ。
関井　そこにいらしたんですか。人の悪い、なんですのそれ。
声　地震の話だ。大きい地震はときとして、本当に大事なものを壊すことがある。
福瀬　私はグラグラしています。震度六です。小林本当にグラグラしてるわ――
一同　地震だ、地震だ。声ストップ。
（あずさ、種田に抱きつく。）
声　ゆるしてくれたまえ、これもテストのうちだ。
谷井　あんたふざけられんなよ。むかしからだねかん、あんた。
小林　ようこさん。
（みんな、谷井を見詰める。）
声　もしかしたら君にもコーラスができるかもしれない。
岡崎　ちょっとおたくら、いつまでくっついてんの。
あずさ　実は私たち、夫婦なんです。
（間）
もずみ　へーそうだったの。

紳士　似合いの夫婦だわね。
あずさ　私たちは一心同体、いつでもどこでも、ネエー正輝さん。
種田　アーヒック
一同　（その風貌から想像されず）
　まさきさん。
小林　私、信じられない。
声　みんな、これが最後の質問になるだろう。
　このオーディションに漏れた場合どうする気だ。
小林　私にとってミュージカルは人生そのものと言って過言ではありません。キャッツのオーディションに落選した時はショックで神経がおかしくなりかけました。私にとっても今日が最後のチャンスです。おふくろがくにに帰って見合いしろとうるさいんです。そこんとこよろしく。
もずみ　私は家事手伝いしていて、またこういう機会があって、暇だったら参加してもいいなあと思っています。今日はどうもありがとうございました。
声　これですべてが終わった。定員は男性二名、女性は四名、発表は幕があいたらすぐだ。
―幕―

第二幕

声　発表します。
紳士床
種田正輝
星名まさゆき
谷井ようこ
小林ともこ
以上の方は本当に残念でした。

一同　キタネエー。

（ブーブー言いながら、みんな去る）

声　山口さんて方にホカホカ弁当をもらって自由にして下さい。カツも入って五百円にしちゃおいしいですよ。
合格者諸君、本番はこれからだ。今は何も言うまい。『期待に応えてほし

い、解散。

―幕―。

第三幕

みんな今までよく耐えた、ありがとう。ミュージックスタート、レッツ、ダンシング

（幕が開く。児童向けミュージカル、ロボットオオカミのラストダンスシーン）

―幕―

あとがき

これは劇団時代に忘年会の余興に私が脚本を用意し「声」を演じまた演出も担ったものです。評価がよく、テレビ放送作家にもなれるとおだてられましたが、当時私は小さな商社に勤め、今で言う、上司による、パワハラ、モラルハラスメントに苦しみ悩んで、小さな自分から大きな愛に踏み出さず、自分の殻に閉じこもっていました。
上司は叱咤で鍛えているつもりだったのかもしれないが、すべて口述ですむことばかりだった。恫喝、そして言葉足らず、私も報、連、相が面倒になり関係は冷え込むばかり。商品知識は深くなるが、勝手に先輩を立て、そうするうちに上の評価は低くなる。総務課の横柄なやつが若いながらも幅をきかせていた。ひとを蔑む私の最も嫌いな人種であった。そして彼は責任さえ果たせば態度など関係ないことを私に大仰に見せつけた。
大事なのは会社の利益と自分の位置の確保である。雇用などの道義的、社会的責任はどこかに忘れさられていた。それより目的追求の企業始め組織ならコンプライアンス（規則順守）ガバナンス（統治）重視は当たり前であった。そして営業の仕事とはそんな杓子定規ではかれるも

のではない。なんでもそうだが利口過ぎてもいけないし馬鹿ではできない。中途半端はなお悪い。まず上司、先輩を立てねばならぬ処だが、私はどこか神経質な社風が嫌だった。嫌、嫌、嫌の大安売りだが２３の甘ちゃんのわがままな若造に経営者の真似事などは、どだい無理だったのである。私は会社と劇団の掛け持ちで相当、疲れていた。この後「チェーホフの［桜の園］の主役級、ロパーヒンは俺にしかできない。それでないなら劇団を辞める」とごねた。私は、無理は承知だった。真実は舞台に立つのが恐かったのである。私は表立つ役者より演出を希望していた。

芸術学部出身の音響を担当していたヤサ男に「音響担当を目指すのも面白いですね」といったら「俺は俳優がやりたかったんだ」と弱々しく凄んだ。これじゃ役者はだめだと思った。代表は「いかなるときも自分を捨ててはいけない」と世渡り上手らしくいっていたが、今、そのことが良く分かる。私は自分をなくしていた。

テアトロマニ（演劇熱）にとりつかれていたが、私は自分を立てるにはまず他人を立てるということが見えなかった。先ほどのヤサ男は「もっと、ひどい目に遭う」と笑みをうかべて喜んだ。私は彼を侮辱したのだ

ろう。たぶん私は問題意識をみつけるなにか嗅覚というか狂った才能は、確かにあった。しかしそれが自分だけにある特別なものだと断定したのがよくなかった。自己肯定は絶対、必要である。そしてみな、だれも自尊心があるということだ。だからこそ他人を理解し増上慢になったり卑下したりして他人も自分も傷つけてはいけないのだ。

結局、私は会社も劇団も辞めることになる。所詮、プライドの高い、ひとのいいなりになっては生きて行けない男だった。曲がりくねった道、正解を導き出したかった。この作品リチャードアッテンボロー監督コーラスラインのパロディだが「コーラ、酢、ライム」という題名を「コーラ、酢、ワイン」に変えろと一つ年上の先輩の男が横槍を入れてきた。なおかつ主導権まで執ろうとしたので口論になり、題名の変更は認めたが後は一歩も引かなかった。当たり前だ。俺が構想をねって無から有を産み出したんだ。馬鹿野郎。人生これでいいのである。愛するひとを連れて、明るく素直に温かく。そして神を忘れずにね。

カキ丼と七人の侍

（原案）

安雄は老人病院の事務員であった。生真面目ではあったが同僚と馴染めずいい加減に仕事をする人間を軽蔑していた。また自尊心が強く下がって馬鹿になることができなかった。マザーテレサと宇野重吉を敬愛し福祉に没入することをよしとしていた。そんな安雄が、仕事と割り切り給料の安さに吠える者達と快を分かつのも時間の問題であった。
彼は軋轢から精神を病んでいった。理事長の妾でもある婦長の館の玄関口で「鳥も虫も生きています。もう酷いことはしないで下さい」と手を広げた。夜であった。知らせを聞いてとんできた母の頬に唇を寄せていた。
その翌日彼は入院した。正気に戻ったものの耐え難い苦痛に、じっとしているのも困難であった。不思議と夜は治まった。その苦しみも癒え始めたころ、些細なことから長い間入院している山口とゆう男と諍いを起こした。かつて強盗もやったと安雄を脅しつけた。ナースステーション、安雄はファイテングポーズをとりステップをふんだ。看護師が仲に入り収まった。
三ヵ月で退院した安雄は精神科のリハビリ機関であるデイケアに通うこととなった。そこで館林と知り合う。寡黙でタバコの煙を肺に入れず始終ふかすこの男を安雄はあまり意識しなかった。
ある日街の映画館で七人の侍がかかった。安雄は市役所に勤める茂を「これを観

なかったら映画はかたれん」と誘い、出かけた。デパートで菓子パンを買い、館内にはいると客は適当に散らばり座っていた。入口から3列上の中央に館林がいた。帰りのエレベータの中で中年の男が「何度観てもいいねえ」と眩いた。興味を持った安雄は、館林をデイケアの帰り、送って行くことにした。館林は生活保護を受けているらしかったが詳しいことは話さなかった。館林の家は街に近く、閑静な住宅地のなかそこだけ別世界のような古いたたずまいを見せていた。「腹減ったろ」彼は二間の奥にある台所にゆくと慣れた手つきでなにかを作った。「カキ丼よ」それはちゃんとしたお膳にのっけられた料理であった。安雄は感動した、こんな親切を他人から受けるのははじめてだった。

家には別方向だったが何度も館林の家に足を運んだ。その度に彼はお茶を飲むか、エロビデオ観るかと盛んにもてなした。それは主に物欲的なものが多かったが安雄には新鮮だった。安雄は館林とショッピングを決行する。そこで館林の為にたくさんのものを買った。それは安雄の友と呼べる者への初めてのプレゼントであった。

安雄は山口を想った。生意気だった自分に気づいた。２０年も病院に入れられ自らを天皇の工作員と想わなければやっていけない身を哀れに思った。安雄は一枚のＴシャツとエコーワンカートン買うと閉鎖病棟へ向かった。当事者関係の面会

は駄目だと言われた。差し入れだと品を看護師に渡した。
数日後デイケアの室へ山口が現れた。買い物の途中らしく急いでいたが安雄を見つけるとニヤリと笑い二枚のはがきを手渡した。「山口さん」看護師の声がした。おうと山口は答え出ていった。はがきには宮内庁と書かれてあるのが分かった。だが内容は読めぬ程乱筆だった。安雄はポストにそれを投函した。
その夜、茂に電話した。茂は高校時代からの友であった。この所仕事が遅くなっていた。「何時だと思っとるんや、9時やぞ」その声は厳しかった。安雄は黙って電話を切った。それから電話はしていない。
館林に変化が生じた。まえからであったが自分の弱みをみせず、鼻唄のように同じメロデイーをくり返し発するのだが、親しくなってから他人の悪口を言うようになった。それも全人的に人物を評するのではなく「イクエのトド、タケダのブタ」とか幼稚なものであった。薬の副作用もありデイケアに通う彼女達の見かけが悪くなるのは決して本人に責任があるわけではなく多分に同情の余地があった。館林は、自分は高尚な人物であり関係してくるものはそれに相応しいものでなければ気にくわないと考えていた。しかしその価値観は極めて独善的なものであった。
安雄は館林とのコミュニケーションの取りにくさを感じていた。館林のことをむ

かしから知っている中川はそれが彼の病気だと言った。安雄は何も批判もできずニヤニヤ笑むだけの自分が嫌になり館林と距離をとるようになった。
そんなときデイケアの仲間である菅野が自殺する。金銭的問題から来る自分の存在価値を疑っての結果であった。
安雄はひとりデパートの広場に来ていた。テーブルに座り、行く人をしばらく眺めていた。「館林さんあなたは僕に変われるのは自分だけだと教えてくれた、僕は言う、自分と相容れない異質な人でもその存在を理解し尊重し認めていかなくてはならないんだと、そして人は生きてるだけで十分なんだと」彼は心の中で呟くのであった。

感想

怠惰と拝金主義がはびこる中、自己犠牲を本分とした安雄。しかしそれは片寄った正義感と精神論に裏打ちされており、個人が大切にされるとゆう見地からすれば、哀しきかな、相入れることは微妙であった。プライド、嫉妬、野望、恋、出世、打算、願望、理想、意地、夢、策略、挫折、失敗、効率性とパワーハラスメントなどがない混ぜになって安雄をとりかこみ彼の道徳心と信仰心は軋みをあげ心配と恐怖という大きなストレスとなり安雄は悩乱し、そして妄想と散乱とが彼を錯乱へと導いていったのである。親友と思っていた茂。電話での心ない言葉に安雄は、自分は茂にとって必要のない、もっといえば迷惑になっている存在ではないかと思います。しかしそれは両者の現在の境遇からくる安雄の卑屈さであることは否めなかった。本来友人関係に利害や、社会的身分などが介入する余地はないのである。最後の安雄の眩きには青臭いと思われる人もいれば、なるほどそうだと共感する人もいるだろう。人間は本源的には孤独である。その孤独を生きるという覚悟をもって、安雄は今をかみ締めているのである。カキ丼は友情、親切、愛の象徴である。そして全編には七人の侍のヒューマニズムが底流しているので

ある。尚、人物設定は
杉田安雄２８歳
館林豊司４１歳
山口善次４７歳
です。

「母、その愛」

1家

蛍光灯がつく

男仁王立ち

利男「おら結婚するじゃ」

老婆が寝ている。

母「う～ん。クルマで帰ってきたんか」

利男「のんどらんじゃ。ウーロン茶3杯4500円よ。結婚するからの。中国人ママと。結婚してくれ言われて、身元もわかっとるからの。大連出身で18の息子が神戸の大学にかよっとる。金儲けんなんがもわかっとる」

母「わかったちゃ、今度わしも連れてかれ。でも今日会ったばかりだろがいね」

利男「お互い感じるものがあっての。フランス人なら即よ。結婚するからの。二人を夕闇が包むこの窓辺に」

君といつまでもを、口ずさみながら二階へ上がって行く

母「バカ、南無妙法連華経」

2うどん屋

山中「だまされとんがだねかい」

利男「いちいち結婚してくれいう必要ないねか」
山中「殺されるぞ」（当時はこわい中国人組織の存在があった）
利男「世の中何軒、中国人のスナックあるおもとるが死体だらけになるぜ」
山中「ＥＤどうするがよ」
利男「ママに治してもらう」
山中「甘いのう」
利男「愛があるからね。しかし営業はいいねえ自由で」
山中「なにゆうとるがよ、契約とれんにゃ、おしまいだねか。ゲーセンどうよ」
利男「あかんちゃ。お母さんどうけ」
山中「持ち直してきて」
利男「こういう言い方おかしいのかもしれんけどしぶといねえ」
山中「あんぽんたんの田沢君のお母さんがガンで亡くなられたとよ」
利男「アキラ君のお母さんか」

３家

利男無言で二階へ上がろうとする
母　「利男どうした」

利男「土合さんときたまたまらなく寂しくなるそうで病気のせいかな」
母　「中国人のママはどうした」
利男座る
利男「ツキダシが出てきて、俺たいがいのものは食べるけど、あんまりまずくて、ママにわからんように土合さんに、こんなものくえんと小声で言ったがよ。そしたら土合さんママの前でペロとくっちまって。そしたらママ、私の料理うまいでしょと自慢気に、俺困ってしまって……土合さんプッとふいちまって……ママ感づいて土合さんの横に座ってカッコイイ、カッコイイて。俺負けたと思って意気消沈して、眠い、て言って帰ってきたんだ」」
母　「仏さまのはからいかね。きっと縁が無かったんやちゃ」
利男「だまされとったというよりは感違いしとったんかな、でもママ一瞬でも本気だったのかなあ、俺にはようわからん、まあある意味ではすっきりしたちゃ」
4精神科外来
精神科の表示が写る
利男歩いてくる。長椅子に座る後ろ姿の男。利男声を掛ける
利男「田沢さん」利男　正面に回る。

利男「アキラ君、夏にマフラーは暑かろ」
田沢「お母さん編んでくれたの、お母さん優しかったよ」
利男缶コーヒーを差し出し
利男「微糖、飲まれ」
完

思うこと

はじめどうゆう題名にすればいいか、迷いに迷いました。迷ったというより、思い浮かびませんでした。テーマは愛なんです。そうなんです。親子の愛、男女の愛。結局「母、その愛」なんか加山雄三さんの歌みたいなタイトルに落ち着きました。ちょっと仰仰し過ぎるきらいもありますが許して下さい。（誰にや）（いや、みんなに）

主人公の利男はゲーセン勤めの見かけも悪い中年。金には縁のない男、そして障害者でＥＤ。それでも女を求め結婚に憧れる悲しい性。なんともはや、おぼつかない身の上。しかし彼は、恋は知性や条件でするものではなく感性でするものだと思っている。

話はとぶ、エノケンさんのうたではないが、水商売の女の誘いに乗って美人局にあったりする話は古今東西ごまんとある。男というものは自分の場合だけは違うとある種の自惚れを個々に抱いているのではないであろうか。

中国人のママにプロポーズされた利男。利男の母もわきまえていてあえて否定はしない。かつては小売りの商売を営んでいた、客扱いはお手のものだ。だが信仰を持ち正直をモットーに生きてきたのである。ママの心を図りかねる。ただ

大学生の息子を持つ身を考えれば恋よりもお金の方が大切と思っているのが普通であろうと思慮している。山中は現実的だ。男女の付き合いはお金がベースになっていると信じている。来るもの拒まず去るもの追わずの精神だから本当の恋はできそうにない。大上段から利男はだまされていると決めつける。そんな山中も入院中の母を案じている。

利男には自信があった。それは多くの男と違って中国人のママに対し自分は敬意をはらっているということであった。それがつきだしの件でふっとぶこととなる。土合の示した自己犠牲的な行為、利男には無理だったのである。

利男、山中、土合、アキラ精神障害者つながりである。彼らも中高年。かつての保護者たちは年を取り、鬼籍に入ったものもいる。幸福というものは人それぞれだが、本人達は何かを達成するとか至福の時とかいったものは難しいと思っている。せめてもの安定、心の平和を望んで行くことが目標になる。身の丈にあった幸福とは、おそらく生きることの意味、生きることの価値という問題につながってくるに違いない。そのことについては私見もあるがここでは割愛する。話は大きく発展してしまったが、利男は水商売を今一つ理解していなかった。利男には一途に真面目に構えず、うたかたの世界を楽しむ位の気持ちで人生を渡って行ってほしいと願うのだが、正直、無理がある。利男はそして、母を想う

故にまた彼の世界へ旅立とうとするアキラに心を打たれるのである。マザコンとかたづけるのは簡単であろう。しかし母の愛は高く、厚く、深いのである。母親を大事に出来ない人間は他人との関係でもつまずくのではないであろうか。

［カキ丼と七人の侍］は、フォルツア総曲輪企画、４５分程の映画を作成するということで原案募集に応募した原稿です。条件としては西町、総曲輪を舞台にしたものということでした。落選しました。選ばれたのは就活に関するありきたりの根性ものの作品で、私の思想の真逆となるものです。いやがおうにも人々は、なにものかに尻を叩かれる、そんな本質的な問題をどうして逃げて、直視しないのか。本当の幸福は盛況、成功の中からだけ生まれるものではないだろう。もっと良質な映画を提供していかなければ。選考委員に小声でいいたい気がした。

［母、その愛］は１５分ほどの映画を作成するという趣旨があって、これまたフォルツア総曲輪の企画に応募したものです。ここではやはり精神障害者の市民権を今一度考えざるをえない経験でした。集まった人は若者が多く、映像には興味があるものの、正義を見据える眼力、弱者の視座に立脚することができず。

鑑みると彼らがもつ成功したいという夢は、生存競争、強者への志向とも言え、強弱、相反すれば、二律背反もうかがえる、そして娯楽のなかにも問題意識をもった作品は、当方以外は全滅でした。たとえば虐げられるマイノリテイ、差別などに立ち向かう。そんな骨のある社会派のいい脚本が、これから若者の中から出てくるのかと残念で不安になりました。きっとそんな意識のある子達は福祉の世界や法曹、医療など現実的な社会正義の道へと進むのでしょうね。立派な若者は存在する。きっと。そう信じたいのです。そして、いつかだれもが人生経験をつんで本当の優しさが解るとき、とるにたらないように見えるこの短編は皆の心に光を放つだろう、そんな想いがするのですが・・・・

今振り返り母との関係はかならずしも良くない。早い話が毎日格闘だ。当方も８２の老婆に真剣に向き合う。そしてぶつかるのである。うまい具合に人間関係を築けないのも事実である。私たちは特別な人格をもつものとして自覚しなければならない。障害者のための法律もできた。しかし思うのは、やはり健常者とのハードルというものは自らの心の中につくっているひとが一番多く、その高さもまちまちであるということだ。本当は嘆かずその純粋さをむしろ武器に戦略的に、難しいたとえかもしれないがカメレオンのように、したたかに生きなければならぬときである。具体的には各位、考察して下さい。垣根は自分が作っていると知ること。なにせカテゴリーでくくればなんでも違いにできるからだ。（老人と若者、男と女、金持ちと貧乏人、大人と子供）。保護が必要な場合もある。そしていわれなき差別もあるかもしれない。障害者も一緒である。しかしこの問題に携われた先人たちのご苦労を思えば、いまをありがたく感謝して愉しく暮らして行こうよ。みんな。そんな偏狭な差別論者ばかりではないから。嫌なら怨憎会苦に悩まずに素直にその場から逃げればいい。もう一度言うが愉快にやろうよ、明日は明日の風が吹く。口笛吹いて、さあ青空の下歩いて生きて行こう。また新たなる道が見えてくるかもしれない

千華物語

千華物語

登場人物

千華（観世音菩薩）　10歳
クニユウ　37歳
達也　35歳
昭子　68歳
善一　36歳
朱美　33歳
御上人　50歳
けらい1
けらい2
魔王
金子（男）（所長）　55歳
金子（女）（所長の妻）　49歳
端保（職員）　78歳
奥田（ボランティア）　47歳

秀宗　36歳
ホームレス1
ホームレス2
ホームレス3
高校生1　18歳
高校生2　17歳
理恵　9歳
理恵の祖母　65歳
子供1
子供2
子供3
子供4
子供5
子供6

長塚（ボランティア）　40歳
木村（利用者）　52歳
前花（利用者）　55歳
川西（利用者）　48歳
早島（利用者）　67歳
スエ子（利用者）　27歳
田中（利用者）　31歳
クニユウの祖父、当時　60歳
クニユウの母、当時　28歳
年寄り奥さん　80歳
ススム　49歳

由起子　43歳
周二　35歳
専務　50歳
コンビニの社員　33歳
その他
ホームレス
病院スタッフ
患者たち
ウェイトレス
高校生たち

ミュージカル
千華物語
第一幕　（線路の側　積んだ枕木の回り）第1場

クニユウ　5歳
回りに数人の子供
枕木の回りに走りよってくる。
唄　世界で一番かしこい子供はだれ　クニユウ
世界で一番偉い子供はだれ　クニユウ
みんなが愛している
誰もが愛している
僕も愛している
わたしも愛している
みんなのアイドル
クニユウ　クニユウ

クニユウ、積んだ枕木の上に立つ

クニユウ「おまえら、そこに座れい」
子供1　「なにもっとるが」
クニユウ「これか。たまごよ」
子供2　「たがも」
子供3　「違う。たまもだねけ」
クニユウ「おまえらダラじゃないがか。やるからみんな座れ」

子供たち、座る。
クニユウ「みんなで仲良く分けて食べれ」
子供1にクニユウ袋を渡す
子供1のところへみんな集まる
子供たち、手にゆで卵を持って唄い出す
唄　世界で一番かしこい子供はだれ　クニユウ
世界で一番偉い子供はだれ　クニユウ
みんなが愛している。だれもが愛している。僕も愛している
わたしも愛している。みんなのアイドル、クニユウ、クニユウ

クニユウ「おれは偉い」

クニユウが手をあげると同時に枕木がくずれる

第2場

クニユウ小学1年生　住民運動会

クニユウの祖父　「リレーだれでるがい」
クニユウの母　「自転車屋の清ちゃんだねか」
祖父　「あんなもん速いがかよ」
母　「じいちゃんそんなこといわれんなよ」
祖父　「おら本当のこと言うとんがだねか、あんな寝小便たれ走れるわけないちゃ」
母　「じいちゃん、まあみとらんまいけ」
祖父　「おっ、走った。あらころんだ。かっなんよ。ケツッポだねかい」
母　「かわいさげに、泣いとんねか」

祖父　「クニユウわかるか。お前も走りたかったろが、まだ無理か。しかしよく意識が回復したもんだな。おまえ頭もよかったんだぞ。枕木の始末ちゃんとしとらんかったからだのう」
クニユウ「かあちゃん、たがも食いたい、たがも」
母　「たまごだろう」

唄　あそこの踏切から二軒目、佐藤さんちのとなりの古屋敷、いつも寝ているクニユウさん。どうして寝るかとたずねたら、頭がうういとまた寝込んでた。

第3場
共同作業所
木村　「クニユウ。掃除した後にズボンを引きずって外から入ってきたら掃除の意味がないだろう。」
クニユウ「奥田さん結婚する前なにやっとったが」
奥田（職員）「私インテリアの仕事しとったが」
クニユウ「インテリアと栄養士とどっちが頭いいが」

前花「クニユウやっぱりダラやの。そんなもんどうやってくらべるがよ」
木村「だいたいなんで栄養士がでてくるがよ」
クニユウ「おら太っとろが、栄養士の嫁はんもろて、やせよおもてよ」
前花「なんでおまえとこに栄養士がくるがよ」
クニユウ「なん、占い師が言うとったもん。学校の先生か、教育者か、ガソリンスタンドの女があたると」
木村「えらい幅広いの。でもなんで栄養士がはいっとらんがよ」
クニユウ「えっ栄養士ちゃ教育者だねけ」
端保（職員）「クニユウ、おまえみつえちゃんと結婚しろ」
クニユウ「みつえちゃん精はくだねけ、おら、やじゃ」
端保「クニユウもたいしたことないがだけどのう。みつえちゃんとお似合いだ思うけどのう」
唄　クニユウどこにいるのやら、山の中の共同作業所か。細い風の口笛が、からの頭に響く。ああ足し算、引き算、かけ算、割り算、ルートに分数、クニユウ何もわからない

クニユウあたまうったのさ、いまは障害者、もうだめなのか。つらい日々

を過ごしても、だれも気にもとめない、あああきらめることさえも、できない、できない、毎日クヨクヨ、クニユウ、今日もイライラ

早島　「おまえら真面目にやっとんがか」

全員　「オー、ハーさん」

早島　「クニユウ、最近いいことあったか」

クニユウ「島田が死んだことやね」

金子（所長、男）「さっクニユウ君、何言うがだ」

クニユウ「おら正直に言うとるがだぜ」

金子（男）「クニユウ君、そりゃまちがっとるよ」

早島　「しかし昔、島田と川西なケンカしてよ、おれが止めたけど本当やじゃ。おれが止めた、おれがケンカを止めた」

端保　「ハーさんあっちいこ」

早島　「端保さん、おれが島田と川西のケンカを止めた」

端保　「わかった、わかった」

連れさって行く

前花　「ハーさんも調子悪いがだな」

深川　「すいません」

金子（妻）玄関口「はい、中に入られ。みなさん今日から仲間になる、深川君で
す。深川君挨拶しられ」
深川　「深川達也といいます。よろしく」
金子（妻）「深川君こっち座られ。奥田さん仕事、教えてあげて」

木村　「えらい暗い奴やなあ」
クニユウ「深川さん、おら、クニユウゆうが、五木ひろしに似とろ。掛布に似とろ」
前花　「また、はじまった。クニユウは初対面で必ず、五木に似とろ、掛布に似とろだからのう」
木村　「そうやのう。五木ひろしを5、6発殴って、川へ突き落として、十日後に引き上げたらクニユウみたいになっとるかのう」
前花　「でも五木いうたら不細工だぜ。似とるいわれてうれしいかのう」
クニユウ「ダラや、五木ちゃ、もてるがやじゃ、おっ深川さん笑った」
深川　「クニユウさんおもしろい人やね」

端保が入ってくる
端保　「ダラなだけやちゃ」
クニユウ「下の名前どういうがだったっけ」
深川　「達也です」
クニユウ「達也さんそう呼ぶちゃ、おら、ジャンボ鶴田にも似とろ」
深川　「似とる、似とる」

クニユウ「達也さん、おらね、小さいとき、頭をうったが、ここへっこんどろ」
クニユウ額を指さす
深川　「それで障害者に」
クニユウ「なあん、ハタチのとき東京行ったが、歯科技工士になろおもて、歯、いじくっとったら欠けしもて社長な営業やれいうて、そしたら頭、ウーなって、芸能人におおたが、そして幻聴聞こえてきて」
前花　「クニユウや、いつもの話やの、芸能人な金を送ってくるいうて」
クニユウ　「おら、こっだけひどい目におおたら芸能人な、かわいそうだおもて金、送ってくるおもて」
端保　「もう金送ってくるとはおもとらんがだろが」
クニユウ「おら、十年、金送ってくるおもて、家で寝とったんだぜ、なん金ちゃ送ってこんもんだちゃ　榊原郁恵と結婚式せんなんおもとったんだぜ。達也さんはどうして病気になったが」
達也　「ちょっと仕事のことで上司とうまくいかなかったんだよ」

ひとつ人より大馬鹿で
ふたつ古里あとにして
花の東京で営業だ
みっつ未来の精神科
クニちゃんドバッと幻聴だ
てんてん天下のいなかっぺ

よっつ弱気なことばかり
いつつ、いつでも五木ひろし
鍛えぬけぬけ　大爆笑
むっっムシャクシャする時は
母ちゃんなぐって丸はだか
てんてん天下のいなかっぺ

第４場（千華の登場）

千華　「ママ見て、見て、こんなにいっぱいのどんぐり。神様が千華のために落としてくれたのかな」

朱美　「そうだね、だけど神様は千華だけでなく、みんなが喜ぶように、みんなのこと考えておられるのよ」

千華　「ふうん」

女１　「理恵ちゃんは虫が好きなんだね」

理恵　「帰って、標本にするの」

千華　「そんなに好きなら殺すなよ」

昭子　「千華、朱美、観音様にお参りするよ」

千華　「バアちゃん、観音様に何、お願いするが」

昭子　「おじちゃんが元気になるようにね」

千華　「ママ、パパもこればいかったんに」

朱美　「パパは日曜日も仕事だよ」

千華　「わかっとるよ」

千華　「観音様、優しい顔しとるね」

お坊さん現れる

昭子　「お上人さん」

上人　「深川さん今度のお参りは佐渡だからね」

昭子　「行けるか、どうか」

上人　「達也君はどうかな。こんなときこそ、お参りに行かなくちゃ。南無妙法蓮華経だよ」

上人去る

昭子　「お上人さんところも子供3人。上の子は高校生、お金もかかろう。お参りに行かんにゃあかんかなあ」

千華、気を失う

朱美　「千華どうしたん。千華、千華」

唄

眠る千華　たどりついた心の中　みんなの想いどこへ行く
千華よ、めざめよ　千華よ、めざめよ
眠る千華　花もいつかは目をさます
月はいつでも昇り来る
千華よ、めざめよ　千華よ、めざめよ

第5場（クニユウの部屋）

クニユウ寝ている

観世音菩薩（以下観音菩薩）　「クニユウさん、クニユウさん」
クニユウ「今日は寝小便、たれとらんぞ」
観音菩薩「クニユウさん」
クニユウ「エーあんただれけ」
観音菩薩「私は千華、仏様の子供」
クニユウ「千華、いったいなにけ、こんな夜中に」

観音菩薩「助けてほしいの」
クニユウ「助けていわれても、おらなんにもできんじゃ、おら病気だし」
観音菩薩「クニユウさんしかできないの」
クニユウ「おらしかできん、いったいなんよ。おらむかし病院で人生相談やったんよなんでもいうてめ」
観音菩薩「千華ちゃんが死んじゃうの」
クニユウ「あんたが死んじゃうの」
観音菩薩「違うの本当の千華ちゃんが死ぬの」
クニユウ「本当の千華ちゃん。おらをダラにしとんがか、あんた千華ちゃんだろうが」
観音菩薩「よくきいてクニユウさん。私は人間じゃないの」
クニユウ「人間じゃない。お化けか」
観音菩薩「違うの、私はみんなの願いをかなえ、救うためにいろいろなものになって現れるの」
クニユウ「全然全然わからんよなってきた」
観音菩薩「まあきいて私がこうして人間の少女の姿になっているのは千華ちゃんのおかげなの。私はみんなに観世音菩薩とよばれているの。私はいろ

いろな姿に身を変えて困っている人を助けるの　私は現在（いま）千華ちゃんの姿を映しているの」

クニユウ「観音様だったのか、それでどっちの千華ちゃんを助けりゃいいが」
観音菩薩「私は・・・・-。」
クニユウ「よく聞こえんな」
観音菩薩「私は魔王のワナにはまって魔界の牢獄にとじこめられたの」
クニユウ「あんた偉いから自分でなんとかしたらいいがに」
観音菩薩「この牢獄は中からは開かないの、ここを出るには、みんなの愛、善意、希望などの前向きな心の力が必要なの。外からの大きな力が必要なの」
クニユウ「おら、わからんじゃ」
観音菩薩「いいえ、クニユウさんにしかわからないの。私の神通力もあとわずか。最後の力を振り絞って言うわ。私の力が無くなったら、千華ちゃんは死んじゃうの、それが千華ちゃんの宿命なの」
クニユウ「いったいどうしたらいいがよ」
観音菩薩「偉い、お坊さんに法華経を説いてもらうの。千華ちゃんの枕元で。千華ちゃんが目を覚ませば私はここからでられるの。」

クニユウ「ほけきょう、きいたこともない」
観音菩薩「お経よ」
クニユウ「なんまんだぶ、か」
観音菩薩「私の力もあとわずか、千華ちゃんを助けて」
クニユウ「千華ちゃんや偉いお坊さんはどこにいるんだ」

観音様の姿が消えてゆく

観音菩薩「それはね・・・・」
クニユウ「あっ観音様、千華ちゃん、千華ちゃん」

クニユウ目が覚める

クニユウ「夢か、でもおっかしいのう。芸能人に会ったときみたいな感じやのう。達也さんは白日夢だとかいうとったけど。まあいいか。夢だろう。ありゃ五木ひろしに似とるかきくが忘れとったのう」

第６場

（魔界）

唄　（魔界のけらいたち）
おれたちは魔王のけらい
いつもびくびくおどされて
人と人との間に不信をめばえさせ
今日もイライラ　ビクビク　神経衰弱
地震きたなら下敷きだ。洪水きたなら
おぼれ死に　金が無ければ首つりだ
人の幸福くやしければ自分の不幸を呪い
たい。
おれたちはいっでも人の中に忍びこんで
いるのさ

けらい１「バカヤローもたもたするな　俺たちはだな、人間の外的条件、つまり五感で感じるものに影響を与え、妬んだり、恨んだり、怖がったり、

後悔したり、ガックリしたりさせることを目的に存在するんだ。妄想、迷信、心配、不安、恐怖、これらを人間の世界に蔓延させるんだ」

魔王、現われる

魔王　「バカヤロー、えらそうに講釈たれずに働け、働け、働かなければクビだ。明日からは路頭に迷うんだ、働け」

けらい1「はい、わかりました」

魔王　「本当に解っとるのか。人間のネガティブな感情が我々への信仰につながる。その信仰心が我々の欲望を満たすのだ。頭を使ってでかい事件、たとえば戦争でもおこしてみろ。しかし観音をうまくだまして牢獄に閉じ込めたな。俺は天才だな。これで俺たちはやりたい放題だ。　ちゃんとやれよおまえら」

魔王去る

けらい1「クソッ、魔王のやつ、俺がうまく絵図をかいたから観音を閉じ込める

ことができたんじゃないか。おまえと俺が［改心して魔界から足を洗いたい］と涙ながらに訴えて［魔王とうまく話をつけてくれ］と頼み［魔王は牢獄の中にいる］と話をもっていき扉をあけたその瞬間、うしろから蹴りいれたんだよな。あの扉はどんな力を使っても内からは開かないんだ。」

けらい２「ただ」

けらい１「なんだ。おまえ口をはさむな、ただ外からの力には弱い」

けらい２「あの観音ですけど昨日、少しのパワーを発信したのを確認しています」

けらい１「なんだ少しのパワー」

けらい２「はいクニユウという男に、あることを託したみたいなんです。」

けらい１「あることとはわかっているのか」

けらい２「千華というガキの命を助けるとか。千華は観音の化身のモデルになったガキです。観音堂の前で気を失って、それから眠ったままです。千華の目が覚めれば観音の神通力は復活するみたいです。」

けらい１「よしクニユウを見張れ」

けらい２「千華が目を覚ますには法華経を読誦する坊主が必要です。それさえ邪魔すれば千華の命運も尽きます」

けらい1「そっちの方は俺にまかせろ、いっとくがさっき魔王のことを悪く言ったが告げ口するなよ。まあおまえにはそんな度胸もないか、早くいけ」
けらい2「へい」

第7場

（ファミリーレストラン）

クニユウとススム二人で歩いてくる

二人　「ククククニユウの大爆笑、ススムもますます元気です。笑ってちょうだい今日もまた、みんなそろって始めよう。」
ススム　「クニユウさん、ワシね、今日ね、社長、きたから礼したがやちゃ　そしたらね社長なね、そんなことしとるからロスだすがや。ちゃんと機械みてやれゆうて」
クニユウ「ススム正直者だのう。おまえは会社で預かってもろとんが」
ススム　「ワシ、クニユウさんの会社にかわりたい。」
クニユウ「オマエでは無理だのう」

ススム　「ワシ、会社まで歩いて行くとき、たまに車みかけるけど、どうやって会社いっとんが」
クニユウ「さっ汽車で行くときもありゃ自転車で行くときもあっちゃ」
ススム　「ほう～ん」
クニユウ「ススム、法華経ちゃ知っとるか」
ススム　「ホケキョウ、さっうぐいすじゃないがホーホーホケキョホーホケキョ」
クニユウ「ダラ、お経だじゃ」
ススム　「お経ちゃ葬式によむもんだろがいね」
クニユウ「そうやのう。ススム、なら、おら、五木ひろしに似とるか」
ススム　「五木ひろしより渡辺徹に似とるとワシおもうがだけどね」
けらい2「こいつら本当のバカどもだ。とりあえずクニユウを恐れることはない。でもなんで観音がこんなバカを頼ったりしたのかなあ。こいつらはほっといても大丈夫だ」
クニユウ「ススムあそこでなんか、のまんまいか」
ススム　「クニユウさん、ワシ、コヒーのんだら眠たなったぜ」
クニユウ「寝れんがだろが、おまえ頭どうかしとるがじゃないがか」

二人ファミレスへ入る。達也がいるのを見つけて
クニユウ「達也さん」
達也　「クニユウさん」

クニユウ、ススムをちらっと見て

クニユウ「最近、会社いっとるがけ。（小声で）やっぱおもしなかろ、おらも木村とか前花とかおっから、あんまり行きたないがよ」
達也　「姪が調子悪くてね」
クニユウ「病気けどうしたんけ」
達也　「眠り続けているんだ。大きな声で呼んでも、体をゆすってもおきない。医者はどこも悪くない。家に帰って安静にと言ってるんだ」
クニユウ「入院しとるがけ」
達也　「さっき帰ってきたんだ。千華という名前で、娘のように想っているんだ」
クニユウ「千華。達也さん。千華いうがけ」
達也　「そうだけどクニユウさんどうかしたの」

クニユウ「達也さん、電話番号教えて」
達也　「深川酒店で電話帳にでてるよ」
クニユウ「あとで電話すっちゃ、偉い坊さんをみつけてこんと、千華ちゃんは三日で死ぬんだよ」
達也　「よくわからんな、クニユウさん状態、悪いんじゃない」
クニユウ「これは本当の話、急がんにゃ。ススム行くじゃ」
ススム　「クニユウさん、何も飲んどらんぜ」
クニユウ「なん、いいが、急用できたからの。ススム行くじゃ」

二人が出ていく。入れ替わり由紀子が入ってくる
テーブルに座る。ウエイトレスくる

由紀子　「ホットコーヒーお願いします」
ウェイトレス　「はい、かしこまりました」
由紀子　「達也さん、千華ちゃん病気なんだって」
達也　「よくわからないんだ。ただ眠り続けている。もう丸二日になる。医者も手のほどこしようがなくて」

由紀子「あまり気にしないで、からだにさわるわ」
達也「俺をふくめて精神障害者というのは、気が小さくて臆病で、馬鹿正直で神経質でプライドばっかり高い自己憐憫の強いやつと相場がきまっている。」
由紀子「随分ね、一般的にいってそういう人が多いのかもしれないけど精神病患者でも無神経な自省のかけらもない人はたくさんいると思うわ。達也さんの言ったことを別の角度から見れば、精神病患者は感受性の強い、誇り高い、心優しき人といえるわ」
達也「困るな、複雑な感じがするが中味はもっと単純で、感謝というものを知らず自分についてのことだけは神経質に聞き耳を立て何か気にくわないことを言われようものなら待ってましたとばかりに、傷ついて、場合によっては吠える、泣く、しまいには自殺までする始末、そのくせ周りに対する態度は無神経そのもので自己中心の固まりで忍耐などさらさらない子供と一緒なんだ。」
由紀子「そんなに自分も他人も責めるもんじゃないわ。お母さん元気そうだわね」
達也「俺は意気地のない詐欺師だ。足腰の悪くなった母親。午前四時に白内

障を患って手術したばかりの両目をこすり、長年、重い酒の入った箱を、二人の子供を育てるために運び続け、痛んだ腰に――」

由紀子「達也さんやめて。」

達也「コルセットを巻き何かをひきずるように起き上がる老女。七十にふたつ前の歳。今日もその身を呪いながら、夫の位牌のある仏壇のまえに一日の無事を祈って座る女。息子に対し屈折した思いを持ち、なにかで一突きされれば噴き出す、不平不満、そんな姿を複雑な思いで見ている俺。」

由紀子「達也さん。」

達也「冷ややかに死ぬまで利用してやるとも思えず、親孝行を演じることもできない。冷静なのかと、聞かれればそうじゃない。愛と憎しみが繰り返し、波のように寄せて返す。あの女のためにどれだけ苦しんできただろう。俺の精神構造に深く入り込み、ひとつの規範と法則をもって俺を締め上げ、その呪いの中で俺はたくさんの人を傷つけてきた。」

由紀子「もうやめて」

達也「ごめん、こうやって俺は深刻にものごとをとらえ人々の和を裂き、こんな病気になったんだ。本当はそんな母でも感謝してるんだ。それより

千華だ。千華はどうなってしまったんだ。ごめん君の話を聞いてあげなきゃいけないんだけど、自分のことばかりだ。」

由紀子　「私の別れた人だけどね、」

達也　「いいんだ。君に他人の悪口を言わせたくない」

由紀子　「私の元のダンナね、女をつくって去っていったけど、結婚してすぐに私が嫌いになったんだって。かわりの女がいなかったから我慢していたんだって。それに気付かなかった私って本当に馬鹿ね。」

達也　「ひどい話だ」

由紀子　「そんな中で娘が自殺して。気付いたらこの病気になっていたの。私も死のうと思って首をつろうとしたんだけど、気が遠くなる途中でやめたわ。ダメね。」

達也　「前向きに生きないと、俺も由紀子さんも。もし俺が自殺でもしたら千華がかわいそうだ。」

由紀子　「達也さん本当に千華ちゃんを愛しているのね。まるで自分の子供みたいに。」

達也　「この前、アイスエイジっていう映画を千華と観にいったんだ。ふたりっきりでどこかへ出かけるなんて初めてだったから、そりゃ嬉しいやら

緊張するやらで。ポップコーンを食べようといったんだけど、千華は好きじゃないからいらないって。映画料金は大人千五百円で、あんまり高いんでびっくりしたよ。映画もひさしぶりだったから、しかも一本しかやってないし、人の入れ替えもあるんだね。最近、多くなったシネコンてやつだけど。千華は学校で割引券をもらっていて八百円で観られたんだよ。映画は子供にとってはよかったみたいだね。俺はものたりなかったけど。マンモスが人間の描いた壁画に触れると、絵の中の子供のマンモスが、人間に、よってたかって殺されるシーンになって、千華、泣いていたんだね。しきりに目をこすっていた。帰りにハンバーガーショップによって、俺の財布には千円しかなくて、千華は一番安い六十円のハンバーガーを注文して。帰り際に俺は千華に言い訳していた。［おじちゃん、せこいんじゃないよ。こんど、ばあちゃんに、お金もらってくるね］って。千華はちゃんと分かっていたんだよ。おじちゃんにお金がないことを。」

クニユウ走って入ってくる

クニユウ「達也さん、偉い坊さん、さがして千華ちゃんのところへ連れていかんなんがやちゃ、でも偉い坊さんに心当たりがなくて」

唄　（子供たち）

人に尊敬され、人に見上げられ、悩みもなくて、りんとした、偉いお坊さんどこにおられる、どこにおられる、人にあがめられ、ひとにたたえられる、さとりきった、りんとした、お坊さん、どこにおられる、どこにおられる。

達也　「クニユウさんのいうことやっぱりよくわからない」

クニユウ「千華ちゃんが夢の中にでてきたがやちゃ。千華ちゃんのこと助けるには法華経をとなえんながやちゃ」

達也　「千華は、観音堂の前で気を失った。それから死んだように丸2日、眠っている。クニユウさんが法華経のことを始めから知っていたとは思

えない。何かある。クニユウさんお坊さんを捜そう、千華を救うにはそれしかないような気がする」

クニユウ「達也さんやっとわかってくれたか。達也さんオラね、新聞のちらし見たがよ。願満寺ゆう所なんだけど、そこで人生相談やって、魔除けやってくれるがやちゃ。一緒にいってくれんけ」

達也「わかったよ。由起ちゃん、そういうわけでかける」

由紀子「大丈夫」

達也「たぶん」

ススム「クニユウさんワシかえっちゃ」

クニユウ「ススム、お前頼りにならんから帰れ」

ススム「ワシもいっしょうけんめいだったがやぜ」

クニユウ「悪かったのう」

達也「まあまあクニユウさん」

第８場

（寺）

クニユウ「達也さん願満寺のそうじゅくいうとったがどうする」

達也　「クニユウさん住職だろ」
クニユウ「そうだった。なんでオラこんなおもしいことといおかのう。祈祷するから五十六万円だせ、いうとったね、オラ、ききめあるような気すんがやれど」
達也　「クニユウさんあれは詐欺だよ。それに法華経とは関係ない密教だよ」
クニユウ「達也さんそうかね」
達也　「それよりこのお寺、うちのおふくろが信心しててよく来るんだけど、臼蓮宗のお寺なんだ。ここのお上人さんには何度かあったけど」
クニユウ「偉い坊さんけ」
達也　「本部の身延にいってもだいぶ上の位らしいよ」
クニユウ「よしいってみんまいけ」
達也　「ごめん下さいお上人様おられますか」
年寄り奥さん「ああ深川のあんちゃん、お母さん元気け」
達也　「はい、元気でやっています。お上人様は」
年寄り奥さん「いま、呼んでくるから、お題目あげるとき、ちゃんとお上人に合わせてね、また怒るから」
達也　「わかりました」

年寄り奥さん「そこのあんちゃんは」
クニユウ「オラ、クニユウいうが、五木ひろしに似とろ」

（お上人来る）

達也　お上人様どうも、こんにちわ」
上人「達也君、店の手伝いはしているの」
達也「はい、少しですけど」
上人「君は」
クニユウ「オラ、クニユウゆうが、五木ひろしに似とろ」
上人「今日はどうしたんだい」
達也「ちょっと相談ごとがありまして」
クニユウ「あの―オラ、スチュワーデスと結婚できるかね」
上人「何をいってるんだ」
達也「クニユウさん、ちゃんと話をして」
クニユウ「ごめん、ごめん、実は千華ちゃんが夢にでてきて、千華ちゃんの命が危ないと、三日の命、千華ちゃんは偉いお坊さんに法華経をとなえてもらわないと千華ちゃんが死んでしまう」

上人　「それで私に法華経をとなえてくれと」
達也　「そうなんです。千華はもう丸二日、ねむりっぱなしです。なんとかお上人様の力で千華の目をさまさせてほしいんです。お願いします。偉いお坊さんというと、お上人様以外考えられません」
上人　「にわかに信じがたい話だがわかった、とはいってもすぐというわけにはいかない、私にも所用がある。明日十時莚千華ちゃんに会いに行こう」
達也　「お願いします、お上人様」
上人　「わかりました。達也くん南無妙法蓮華経だよ」
達也　「では明日十時、お待ちしています。失礼します」
クニユウ「達也さん、梅ちゃん約束してくれてよかったね」
達也　「梅ちゃん」
クニユウ「梅沢富美男みたいな声しとるから」
達也　「クニユウさん本当に千華のこと心配しているの」
クニユウ「しとる、しとっちゃよ」

第九場（千華の家）

昭子　「お上人様こられるが、こうなったら不思議な力におすがりするしかないね。来てくださるゆうてよかったね。そこにおるひとがクニユウさんけ」

クニユウ「五木ひろしに似とろ、掛布に似とろ」

達也　「クニユウさん落ちついて」

昭子　「千華も眠ってから三日めだね」

クニユウ「三日、ありゃ、千華ちゃん三日で死ぬいうて、ありゃオラまちがっとったかのう。わからんようなってきたじゃ」

達也　「クニユウさんしっかりしてよ」

昭子　「朱美どこ行ったんかね。千華ほったらかして、善一さん朱美はどこへ」

善一　「お義母さん、実は朱美が、ある祈祷しをみつけまして今日つれてくるといってでていったんです」

昭子　「祈祷し、お上人様がこられるというのに」

朱美が帰ってくる

朱美　「千華は大丈夫」
達也　「朱実、祈祷し連れてきたのか」
朱美　「千華、千華、もう大丈夫よ。偉い祈祷しのひとに来てもらったから」

けらい1が入ってくる
朱美　「先生、先生、千華です。お願いいたします」
上人　「ごめんください」
昭子　「お上人様だわ」
部屋の外へ出ていく
達也　「はち合わせだな」
昭子、部屋へ入って来る
昭子　「お上人様、今日はどうもありがとうございます。お上人様お願いします」
上人　「女の子はねむったままなの」
昭子　「ええ、お医者さんも家で様子をみて下さいと言われて」
上人、祈祷し（けらい1）をみる

昭子　「お上人様すいません、娘も千華のことが心配で、この方をお連れしたんです」
朱美　「この方は、前の道を歩いておられて、この家に不幸があると見通されてわざわざ寄られたのよ、この方は本物だわ、お上人様はいつも佐渡へ行け、身延へ行けと自分の寺のことしか考えてないわ」
昭子　「いくら千華がヘンだといってもそれは言い過ぎだよ、朱美」
善一　「朱美、わかった、わかった、もういい」
上人　「深川さん、朱美さんは気が動転しているようだ、今日のところはひきとりましょうか」
昭子　「お上人さん申しわけありません」
達也　「お上人さん、千華には法華経が必要なんです」
クニユウ　「本当だぜ、偉いお坊さんが必要ながっぜ」
けらい1　「エヘン、その人の心の中は名誉欲がうずまいている。偉くなりたいという気持ちでがんじがらめになっているんだ」
上人　「失礼な人だ」
けらい1　「日蓮の名をかたって、高い布施をつつませ、考えているのは自分の寺と子供のこと、そこらへんにいる者と変わりはない。帰られい」

上人　「無礼な。あんたはどういう人だ」
けらい１「私は長い修行を重ね、この世の表と裏、そのもののなりようを観ることのできるようになった、空円と申す。この千華は悪魔にとりつかれているが、私が十日の祈祷を行えば、かならずや床から起き上がる。そなたの法華経などなんの役にもたたんわ」
上人　「あんたこそその驕慢な態度、偉い人とは到底申されまい」
けらい１「私は自分が偉いとは思っていない。ただ私が祈祷をすれば病む人が救われるということじゃ」
朱美　「お母さん、お上人さんに帰ってもらって」
クニユウ「せっかくきてもらったのに、そんなわけいかんちゃ、千華ちゃんを救うには偉いお坊さんに法華経を唱えてもらわんながやちゃ」
朱美　「この人だれ」
達也　「兄ちゃんの友達だ。クニユウさんといって、なんでも千華の夢をみたらしい。それでお上人様をお呼びしたんだ」
朱美　「そんなこと信じられないわ」
達也　「とにかくお上人さんお願いします」
けらい１「待て、待て、そなたの出番じゃない（小声で）やばい、ここで法華経

を唱えられればどうもこうもない」

善一　「空円様、ここはひとつ、お上人様のお顔をお立てして、お払いをして頂こうかと思います。朱美それでいいな。お上人様、お願いいたします」

けらい1「やばい」

上人　「妙法蓮華経如来寿量品第十六　自我得佛來　所經諸劫敷　無量百千萬億載阿ソウギコウーーーーー」

みんな口々に

「千華、千華、千華ちゃん」

上人　「南無妙法蓮華経」

千華、起きない

朱美　「その人の夢なんか、あてになるわけないでしょ。千華、十日の辛抱よ。空円様がきっと助けて下さるわよ」

けらい1「帰られよ。ここは私におまかせあれ」

昭子　「お上人様」
上人　「私は帰ります。もう一度、医者に診せた方がいい。あの人を信用してはいけないよ」
けらい1「帰られよ」

唄（子供たち）

偉い人とはどういう人
地位のある人、お金のある人
頭のいい人、声の大きい人
花の名前をたくさん知っている人
鳥の名前をたくさん知っている人
子供のたくさんいる人、奥さんを愛している人
偉い人ってどういう人
カッコイイ車に乗っている人
大きな家に住んでいる人
可愛い猫を飼っている人
恐い犬を飼っている人

素敵な服を着ている人
賢い息子のいる人
病気をしたことのない人
けらいのたくさんいる人
ずばり王様のような人
偉い人ってどんな人
偉い人ってどんな人
金メダルをとった人
偉い人ってどんな人

第１０場（公園）

（クニユウひとり）

クニユウ　「わからんよなった、わからんよなった。偉い人、偉い人、千華ちゃん、許してくれ。おらにはむつかして、ようわからん、千華ちゃんごめんよ」

ホームレス１「だんなさん。　何、泣いとられるの」

クニユウ　「なんよプー太郎か」

ホームレス１「ひどい差別用語だね。ホームレスとよんでよ」

クニユウ　「おら泣いてちゃおらんじゃ」

ホームレス１「ほら涙が」

クニユウ　「よだれだがい」

ホームレス１「辛いことあるみたいだね」

クニユウ　「おおう」

ホームレス１「このマフラーいいでしょ、お母さんが編んでくれたんだよ。お母さん死んでしまった。お母さんいる」

クニユウ　「おう、この前、かあちゃんなぐったら、耳の中でキーンゆうとるいうてよわったじゃあ」

スピーカーの音で

「救いとは欲しいものをすべてなくすことです。どんなにお金があっても富もすべてなくす。欲しがりさえしなければ救われます。欲しくても欲しくても切りがありません。人のものを欲しがってはなりません」

クニユウ　「なんよあら」

ホームレス1「さあ、キリスト教の人みたいけど、よく炊き出しとかあってね。ぼくもよくごちそうになるんだけど」

スピーカーの音で

「中には、この教会のことを悪く言う人たちもあります。どうしようかと思っています。でも神は許してやりなさい、がまんしなさいと言っているので、今のところはそうします。そのような人には裁きがおります」

秀宗　「それは違う。神は愛だ。弱きもの、貧しきものを本当に救って下さる。欲望を捨てろということは死ねということだ。欲望に振り回されて煩悩になるのはよくないが欲望をよくコントロールし、生きる意欲

に結びつけることが大事なんだ。人間の欲望を悪く考えるのは見当違いだ。それに神が高いところから人々をこらしめるというのも人に恐怖をうえつけるだけで何の救いもそこにはない」

クニユウ「だれよ」

ホームレス1「土井の秀宗だよ。もっともなことを言うんだが、人を見れば、あなたは仏になる人だからけっして軽蔑しませんとかいって、反対にバカにしてるのかと、いつもおっぽらわれてる奴なんだよ」

クニユウ「なんやら、おもしろいやつばかりおるのう」

ホームレス2「また、おまえか」

秀宗「あなたは仏になる人です。けっして軽んじません」

ホームレス2「仏だと、なにを言っているんだ、あっちへ行け」

ホームレス3「秀宗さんあなたも僧侶のはしくれならプライドをお持ちなさいよ」

秀宗「私は僧侶ではありません。あなたこそ僧侶なら、なぜ炊き出しなど施す者はキリスト教関係の人たちばかりなのか、おこたえねがいたい」

ホームレス3「仏教はむしろ自分自身の解脱のためのもの、すなわち極めて個人的なもの他人を助ける目的はないわけです。托鉢するくらいなんだ

から、施すことはないですよ」
秀宗　「それは少し違いませんか、托鉢するということは人々に、ものごとに執着する心をとり払っていただき自分もまた感謝によってすくわれることを目的に行うものです。あなたもそういった菩薩の行を続けていけばいずれ仏になれると思います」
ホームレス3「話にならん」
去って行く
ホームレス1「二人とも坊さんに見えるかい」
クニユウ　「見えんの」
ホームレス1「ここは宗教家もどきがたくさんいるんだよ」
クニユウ　「ちょっと、あんた法華経しっとっか」
秀宗　「法華経、もちろん知ってます。私は常不輕の行を続けているんです」
クニユウ　「話かわっけど、おら五木ひろしに似とろ」
秀宗　「はあ。よくわかりません」
クニユウ　「似とるがよ、まあいいわ、あんたどう見ても偉い人には見えんから」

秀宗　「あなたも人助けをすれば仏になれる」
クニユウ　「仏になってなんかいいことあるがなあ」
秀宗　「心の平安がえられます」
クニユウ　「おら病気ながよ。病院にも神とか天皇陛下とかたくさんおるわ。あら達也さんとこのかあちゃん」
昭子、入ってくる
昭子　「クニユウさん。あんたこの人と知り合いけ」秀宗に「あんたとしゃべっとるひまなんかないわ」

秀宗　「心を清らかにすれば平和がおとずれます」
昭子　「だいたいあんた、寺いって修行もしとらんがに、なんでそんなこと言うが、まず人な信用せんかろがいね、そんなことより自分の始末、考えられ」
秀宗　「あなたもいつかわかります」
昭子　「なにいうとんがいね」
昭子、去る
高校生4、5人入ってくる

高校生１　「オイ、プー太郎どもボコボコにしたろうか。おまえら社会のゴミだ」
秀宗　「人はすべて尊い命をもって生まれてきます。みなそれぞれかけがいのない命なのです」
高校生２　「なに学校の先公みたいなこというとる。こら」
秀宗、逃げる
高校生１　「おまえらもバカだろう」
ホームレス１　「逃げよう」
みんな逃げる
クニユウ　「頭にきたのう、あの高校生たち」
ホームレス１　「しょうがないよ、ぼくたちはムシケラ同然さ」
クニユウ　「オラ、ホームレスと違うじゃ」
ホームレス１　「ぼくははじめ同じホームレスかと思ったよ」
クニユウ　「なにいうとんがい、オラいくじゃ」
秀宗　「あの子達は不幸だ。人間として生まれてきたというのに本当の幸福というものを知らない」
クニユウ　「あんた頭にこんがか」
秀宗　「怒りや恨みはなんの意味もないばかりか破滅への道です。大事な

のは、優しく同情することです」
クニユウ「少しも腹立たんか」
秀宗　「はい」
クニユウ「あんた偉い人かもしれんのう、オラ、いつもバカにされとっけど、いつも頭にきてイライラするじゃ」

第１１場（千華の家）

クニユウ「達也さんおられっけ」
昭子　「あんたけ、達也おらんな、あんた作業所いかんがけ」
クニユウ「千華ちゃんの件で」
昭子　「千華の心配せんでいっちゃ」
クニユウ「ならね。おそろしいのう、やっぱり土井さんかくしておいてよかったの、よわったのう」
達也　「クニユウさん」
クニユウ「達也さん。よかった。達也さんとこのかあちゃん、おそろして、おそろして」

達也　「あいかわらず気が小さいね。クニユウさん、この人は」
クニユウ「土井秀宗さんいうて法華経のことすごくくわしいがやちゃ」
秀宗　「土井といいます。千華ちゃんのことはクニユウさんからききました。私でよかったら力を尽くします」
達也　「おふくろがいつも噂している人だなあ、クニユウさん、おれはいいけど、おふくろは許さんだろう。妹の朱美もあの祈祷師を信じきっている」
クニユウ「どうすりゃいいがかのう達也さん」
達也　「そしたら友達ということにしよう」
秀宗　「それはよくない、私に対しお母さんは反発の意思をもっておられます。ここはヘンな才覚はやめて、仏様を念じていきましょう」
昭子　「達也どこへいっとんたんけ。作業所もいかんと、また由起子さんと会っとたんじゃないがけ」
達也　「おれのことはほっといてくれ。千華は」
昭子　「まだ眠むっとるちゃ。朱美はつきっきりだちゃ。なにこの男、ホームレスじゃないがけ」
秀宗　「法華経は実践のためのものです。おかみさん、私は私なりの修行をし

ています。信じて下さい」
クニユウ「達也さんの母ちゃん、この人は立派なひとだ。オラにはよくわかる。千華ちゃんを助けるには法華経が必要なんだ。本当に千華ちゃんの命が危ないんだ」
千華「う～ん」
朱美「千華。目を覚ましたの、千華、千華が声をあげた」
秀宗「失礼します」
けらい1「なんだ、お前は」
秀宗「あなたこそあやしげな。なにをしてる。千華ちゃんにはわかるんです。私が必要だということが」
けらい1「なに」
秀宗「観世音菩薩普門品第二十五、はてしない人生の大海に漂流し、常に生死の境をさまよいながらそれを知らず、迷いの夢にうつつを抜かし、夢がさめては失望に陥る。このような人間でも観世音菩薩の力を念ずるときは人生の波浪にうち沈められることがないように」
千華「う～ん」

秀宗　「あるいは自身の薄弱な意志に追われ主体性という金剛の山から墜落しそうになっても観世音菩薩の力を念ずるときは踏み止まって傷一つ負うことがないように」
千華　「う～ん　う～ん」
朱美　「千華」
けらい1「やめよ」
秀宗　「呪いとか、まじないとかそのような人間を毒するもろもろの行為によって身をそこなわれようとする者も観世菩薩の力を念ずるならば、それをことごとく跳ね返し、呪いはかけた当の本人に返っていくように」
けらい1「やめよ、苦しい、やめよ苦しい、くそ退散だ」
けらい1去っていく
秀宗　「観世音菩薩は、すべての功徳を具え慈悲の眼をもって、常に衆生を見ているあたかも海がすべての川を集めるように、その力は無限の福を呼び集め、あたかも海がすべての生命を生むように、その力は無限の幸いを育むものである。このゆえに観世音菩薩を心から礼拝しなければならない」
千華　「う～ん、いま何時」

みんな口々に
「千華、千華ちゃん」
千華　「千華、夢みたん、怪物がおってね、バアちゃんが怒ったら逃げてったん」
みんなで
「ハハハハ」
秀宗　「みんな心をひとつにしないと不幸が訪れます。まあそれも仏様のはからいですけどね。これからもみんな仲良く生きてください」
達也　「土井さん、ありがとう」

唄（子供たち）
心を許す人にはなぜ辛くあたってしまうのか
傷つけあいたくないから、黙り込んでしまうのか
人はひとりでは生きて行けない
優しさを分かち合う、一瞬を抱きしめて、強く生きよう、愛をともそう
人を幸福にした分だけ、自分も幸福になれるから
親しい人には、なぜバカにしたようになるのか

支配したいから、怒りをもってしまうのか
もっとやわらかに生きて行こう
優しさを分かち合う一瞬をだきしめて
強く生きよう、愛をともそう
人の悲しみが分かるほど、ほほえむ数もふえるから

第１２場（クニユウの部屋）

観音菩薩「クニユウさん、クニユウさん」
クニユウ「千華ちゃん、観音様か」
観音菩薩「ありがとう。悪いものたちは退敵したわ、私もこうして元気よ」
クニユウ「いかったね」
観音菩薩「クニユウさんもこれから毎日、作業所へ行けるわよ」
クニユウ「どうして」
観音菩薩「クニユウさんはみんなと同じ優しい心を持っているの。みんな一緒なのよ。バカにされてもみんなさびしい人だと思って接してあげてね。みんな仏様が見守っているわ」
クニユウ「ふうん、一言きいていい」

観音菩薩「なに」
クニユウ「オラ五木ひろしに似とるか」
観音菩薩「クニユウさんの方が素敵よ」
クニユウ「そうかね」

唄（子供たち）
いつから君と友達なんだろう
いつまで君と友達なんだろう
はずかしさをこらえて君にきこう
君は僕を愛しているかい
ほめられるよりほめてみよう
子守唄、うたって懐かしんだあとで
流れる時のこだわりよりも
永遠という名の深い想い
伝えることがきみの使命

第２幕

第１３場（作業所）

前花　「クニユウのダラ、今日も休みか」
奥田　「前花さん、寂しいが」
前花　「なんでオラ寂しいがよ」
所長の奥さん金子（女）入ってくる
金子（女）「でもクニユウ君はいいキャラクター持っているよ」
クニユウ「おう、ひさしぶり」
金子（女）「クニユウ君、毎日出るようにせんとあかんよ。調子悪かったが」
クニユウ「オラよ、前、いっとった作業所の話だけどよ」
全員　「うん」
クニユウ「あるやつがよ」
全員　「うん」
クニユウ「こういう話しとったがよ」
全員　「なに」

クニユウ「あのね、わしね、ゲームセンターの便所でね、マスターベーションしとったわけやちゃ。まあひとつの笑い話やね、エヘン。失礼」
全員「ブハッハハハ」
金子（女）「クニユウ君、ここ楽しかろ、仕事できんでもいいがよ。みんなで仲良く楽しくやってきゃいいがね。」
端保「またエロビデオ、貸してやっちゃ」
奥田「クニユウ君がこないと作業所のなかシーンとしてしまってやりきれないわ」
木村「クニユウ、またビールもって遊びにこいよ、でも、俺とこきたら女の話はするなよ、お母さんにしかられるから」
川西「お母さんという顔と年か。またクニユウのビールをあてにして」
クニユウ「おう、オラもそんな金持ちじゃないじゃ」
金子（女）「みんな、私は他の作業所の管理者と違ってあなたがたの行動をひとつひとつチェックするつもりは毛頭ありません。それは人権に係わる問題です。人間は本来、自由であるべきです」
クニユウ「スエちゃん、わかる」
末子「エヘヘヘエヘヘヘ」

田中　「クニユウさんふざけないで、金子さんいいこといってるんだから」
川西　「そういえば、俺の知ってる作業所じゃ、きたない油仕事をさせて、夏はクーラーも効かないもんだから、汗、ぐっしょりになるらしい。生活保護だから毎日風呂にも入れないってなげいていたな。それはいいんだが男女の付き合いや電話なんかの制限のあるところ多いみたいだぜ」
金子（女）「まあ、しっかりした人ばかりならいいんだけど。でもね、そんな人間関係の問題は障害者だから起きるとは限らないわ。ストーカーなどで問題になるのは一般の人の方が多いくらいよ」
端保　「あいつらの方が心の障害者だ。自分のことしか考えていない」
クニユウ「前花さん、あんた、あちこちに子供を作ってきた、いうとったろう。よう、女の人にぼっかけられんかったね」
前花　「刺されにかかったわよ」
端保　「まあ、相手を振る方も考えんなんわな」
木村　「オラ、今年五十やれど、もう見合いちゃ無理かね」
クニユウ「オラ障害年金、月六万円と、アルバイト、月十万で、十六万円で結婚するがよやっぱ女のヒモにちゃなられんまい」

田中　「金銭感覚がここにいるとだんだん鈍ってくるわ」
電話のベルが鳴る
長塚　「ハイ、ああ深川さん、クニユウ君、どうしたがそんなに怒って、何、銀行に電話した、クニユウ君が。そんな甲斐性、クニユウ君にないちゃ」
電話代わる
金子（女）「達也君、代わりました。どうしたの、銀行にクニユウ君が電話して、達也君の名をかたって借金や資産状況を聞き出したって、冗談だろ。まさか、なんの目的があって。確かなの。よくわからないけどクニユウ君しかいないの、分かったわ、よく話をクニユウ君に聞いてみるわ、達也君もおちついて、それじゃあ」
電話を切る
クニユウうつむいている
金子（女）「どうしたの」
クニユウ「酒のんどって、達也が借金があって貧乏で、生活保護にならんなんいうとったが思い出して、芸能人から金送ってきたら少しやろうと思って。とうちゃんの年金、よく下ろしにいくもんで銀行に電話して聞い

たれおもって」
金子（女）「達也君にあやまっとかれ」
クニユウ「よわったじゃ、よわったじゃ」

唄（子供たち）
馬鹿は自覚しないと進めない、腹が立つかもしれないが、己のことをよく知ろう
クニユウ希望は雲の上、背伸びをしてもとどかない、ああクニユウ、クニユウ

第１４場（深川家）

昭子　「達也、さっきクニユウさんから電話あったよ。銀行の件、あやまっとったよ。本当にダラやねえ」
達也　「何を考えていたのかなあ、まったく。それで千華はその後、大丈夫」
昭子　「あの子あんまり言葉を話さなかったけど、近ごろなおさら無口になって、そうそう、おとついだったか、家じゅうの戸に鍵をかけてしまって、パパが帰ってきても、家の中に入れんようになったがっぜ」
達也　「善一が締め出されたわけか。千華は被害妄想になっているんじゃないかなあ。無意識に何かを脅えている」

昭子　「あんたみたいになるがじゃないがか」
達也　「どうして話が俺のことになるんだ。またケンカだ」
昭子　「あんたこそ、なんでそんなことで腹立てんなんけ」
達也　「酒の配達にいって来る」
ピンポン、チャイムがなる
善一　「こんにちわ」
善一入ってくる
達也　「善一か」
善一　「おう」元気なく
昭子　「わし風呂入りにいってくっちゃ」
達也　「また無駄使いか」
昭子　「なに云うとるがい、腰が痛いから温めてくるがだがい、お前に銭の心配させたことあるかい。どこ勤めにいっても、すぐ、やめてくるくせに。もう、しらんわい」
昭子去る
善一　「あいかわらずだな」
達也　「善一、千華に締め出されたんだって」

善一　「毎日、サービス残業で、遅く帰宅するからな。日曜日にも仕事に出かけたりしているし、家族には淋しい想いをかけてるよ」
達也　「まさか、高校、大学と同級生のお前が、妹の朱美と結婚するとは思わなかったよ。あっそうそう、俺が結婚式でスピーチした内容、覚えているか。その原本がでてきたんだよ」
善一　「やめてくれよ、あれはひどいよ」
達也　「ひどいもんか、ユーモアたっぷりで善一という人柄がよく分かるものだよ。まあ待ってろ、いまとりにいってくる」
達也、部屋を飛び出し、また飛び込んでくる、手に便箋を数枚持っている
達也　「これこれ」
便箋を開くとスピーチを読み上げるように
「善一君、朱美、結婚おめでとう。私と善一君との出会いはかれこれ十四年前の春に遡ります。そのころの善一君はまだ長髪とはよべない坊主頭に近いヘアースタイルでした。私は伸び始めた頭髪を角刈りに揃え、共に高校の入学式を迎えたわけです。我々は同じ道を通う、自転車通学の仲間として風の日も雨の日も雪の日はやめて親交を深めていったのです。高校時代の善一君のトレードマークは、黒ぶちメガネと刈り上げ

頭、サザエさんに出てくる中島君にそっくりでした。なんと姓が一緒です。私といえばロマンチストで、星を見上げていろいろ考えるカツオ君によく似ていたと朱美は当時を振り返り述懐しています。そしてそういういきさつから善一君に秀才、真面目タイプの典型として勉強善一という、あだなが付けられたのです。そうするうちに、またたくまに、三年間が過ぎ、どういうわけか偶然にも二人は同じ大学へと進学することになったのです」「ここからがおもしろいんだ」

善一

「おれの両親はだいぶ気分、悪くしていたぞ」

達也

「お客さんは大喜びだったぞ」

善一

「失敗したな」

達也

「一年が過ぎ日当たりの悪い下宿の部屋にうんざりした私は、自由と太陽を求めて平穏に別の下宿屋で暮らしていた善一君を強引に誘い２ＤＫのアパートへと引っ越しをしていったのです。ここに善一君の人柄を忍ばせるひとつのエピソードをご紹介したいと思います。常に刺激を求めていた当時の私は、ある日あることに興味を抱いたのです。それは善一君の顔のホクロの数はいったい、いくつあるのだろうかということでした。私はこの世の汚れを知らぬ赤子ようにすやすや眠って

いる善一君に静かに近づいていったのです。ひとつ、ふたつ、みっつ、これは泣きボクロ、これは笑いボクロ、これは思いボクロ、これは思われんボクロ、そりゃニキビのまちがいか。途中で何度も数えまちがいをしながら、私は３６まで数えてあきらめてしまいました。その後です。私はどうかしていたのです。若気の至りというか。いや、私の心に悪魔がしのびこんだのです。私の心におそろしい、ある企みが忽然とわいてきたのでした。（善一の顔にマジックで１０個ほどホクロを書いてみたらどうだろう）都会暮らしですっかりおしゃれになった善一君は毎朝、洗顔したあとはかならず手鏡をのぞきこみます。翌朝、私はいつものように（おっ善一、真田博之そっくりだぜ）と声をかけました。気のいい善一君は（そうか）とニッコリ笑うと、当時、流行っていた緑色の原付自転車にまたがり軽快に大学へと向かっていったのでした。

いつのまにか３日間が過ぎていました。私はついに善一君にたずねました。

（大学でなにかいわれなかったか）（べつになにも）善一君は不思議そうに私を見ました。私は思い切っていいました。（顔だよ）（顔がどう

したんだ）（ホクロの数ふえとらんかよ）善一君は一日に少なくとも5回は鏡をのぞく習慣があるのに自分ではまったく気づかず周りの人もこの3日間だれもそのことは分からなかったのでした。そりゃそうでしょう、それを書いた当人の私さえも（実はもうとっくに気付いて消したんだ）と言われたらそれはそれで納得したと思うからです。しかし実際、よく観るとやはりあったのです。しかもハッキリと、そのままの配置で。私は咄嗟にいくら日頃、温厚な善一君も烈火の如く怒るだろうと身を固くしました。しかし善一君は（本当に書いてある、全然分からなかったぞ）といって笑っただけだったのです。ここでハッキリさせておきたいのは私が残忍で悪事を好む嫌な奴であるとか、善一君がお人好しの馬鹿者であるとか、そういうことを訴えているのではなく、私が真にユーモアというものを解する人間であるということと、善一君はそれを受け流すだけの器量と寛容性をもっていることを知っていただきたいのです。あくまで念の為に」「まあこんなところだな」

善一
「だいぶ元の明るさを取り戻してきたな」

達也
「クニユウさんという人のおかげだよ。人間はどんなときもユーモアを

忘れちゃいけないんだよな。もう時間だ。秀宗さんがくるころだ」
ピンポンチャイムがなる。達也迎えにゆく。秀宗と共に入ってくる
達也「秀宗さん、さっぱりしましたね」
秀宗「ええ修行が一段落したもので普通の生活に戻ろうかと思いましてね」
達也「どうやって生活していくの」
秀宗「私は大工仕事ができますから、その道で。働き口の親方が、アパートを世話してくれまして、お風呂もついているんですよ」
達也「そりゃよかったですね。善一、俺、日曜日のこの時間に秀宗さんから法華経の講義を受けているんだ。俺たちはみんな仏様に生かされているんだ。心も落ち着いてきたよ」
秀宗「善一さん、元気がありませんね。どうかしましたか」
達也「いや、この男はいつもこんな感じで」
秀宗「いつもの善一さんなら、きちんと挨拶されるはずです。なにか心配ごとでもおありになるんでは」
善一「はい。実は仕事ですこし悩んでいることが」
秀宗「話をお聞かせ下さい」
善一「私は人より仕事ができないのではと思うのです。私より若いものたち

が、すばやくテキパキとこなすのを見ていると、自分が情けなくなってきましてね」

秀宗　「善一さんがよく頑張っているのが伝わってきます。少し肩の力を抜いたらいかがです」

善一　「肩の力をぬくとダメになってしまいそうで」

達也　「他人の仕事ぶりと比較して、卑下するというのは逆な意味で驕慢だと思うよ」

善一　「クビになるんではとあせっているんだよ」

秀宗　「クビを恐れるのは死を恐れるのと同じです。死ばかりに執らわれていては生きていけません。上司も経営者も、仕事が少し速いとか遅いとかよりも、前向きな考え方、会社の利益を考えて大局にたった、円滑にものや人との関係をつくれる人物を、高く評価すると思いますけど」

善一　「そうですね」

秀宗　「自分のことばかり考えないで他の人を利することを考えることです。みんな自分が大事なのだから、まず他人を大事にすることです」

善一　「ありがとう」

達也　「秀宗さん、俺も解ってきました。まだ、おふくろとギクシャクするけ

ど、こんな病気になったのも、自己中心的にものごとを考える性質に原因があるのが観えてきました。今ではこの病気になったのも自分の向上の為には必要だった。つまり仏様のお慈悲だったということがわかり病気になったことを感謝しています」

秀宗　「達也さんの悩みも、善一さんの悩みも、すべては妄想。苦しみはすべてそこから始まるのです。達也さんここに法華三部経を、私なりに大切な部分、もちろん三部経はすべてが尊いのですが、その中でも、その精神がよく反映されている要所を抜粋した経巻を用意しましたので、これを三ヵ月、朝夕に読んでみて下さい。きっと良い功徳を頂戴することができますよ」

達也　「わかりました。やらせて下さい」

第１５場（魔界）

けらい１「ちくしょう。秀宗とクニユウのおかげで、おれたちの計画は丸つぶれになった。なんとしても復しゅうするぞ」

けらい２「しかし秀宗はお経の力に守られているしクニユウも観音様に守られていますぜ」

けらい１「様をつけるな。そんなことはわかっている。しかし当人に問題がある場合には付け入るスキはある。クニユウは大食漢のデブ、そしてヘビースモーカー、因縁の結果としても成人病はまぬがれまい。クニユウのユーモアは恐ろしい。作業所へ通っている人間の中で入院したり自殺したりするやつが激減した。狙うはクニユウの命ひとつ。かならず取る」

唄（子供たち）

クニユウピンチ　クニユウピンチ、どうなるクニユウ、クニユウピンチ

第１６場（精神科開放病棟）

達也　「クニユウさんびっくりしたよ。銀行にあんたが電話した件でお互い絶交状態になっていて。あれから三ヵ月も経っているし仲直りをしようと思って電話をしたら、お母さんがでられて（クニユウが心筋梗塞になって手術した）と聞いたもんだから」

クニユウ「オラまた精神科に入院してよ。なんＩＣＵに入っとたがやれど水ばっかり飲みたかったん。だいぶようなったから、一般病棟行くがなら薬を飲むがに精神科の開放いかれいわれて、ここにおるがよ」

達也　「命に別状なくてよかったね」

クニユウ「こっでタバコやめんなんがよ。もう退院するがやれど、またタバコ吸うがじゃないかおもて。タバコ吸っとったら死ぬいわれて、弱ったじゃあ」

達也　「クニユウさんニコチンガムで俺、タバコやめたよ」

クニユウ「本当け。達也さん意志が強いんだね」

達也　「意志の問題じゃなく、みんなニコチン中毒なんだからそれに対応した、禁煙をしなければいけないんだよ」

クニユウ「ふ～ん。イッペンやってみるかのう」

舞台の脇けらい1「クニユウ。運のいいやつだ。だがあの意志薄弱な男のこと、タバコはやめられまい。まあさんざん苦しめばいい」

クニユウ「達也さん、彼女と結婚するがけ」

達也「由紀子さんのことか。別れたよ。同じ病気どうし、結婚しても共倒れになってしまう。借金もあるし、いい人だが一緒になるのは無理だよ」

クニユウ「やっぱ病人ちゃあかんちゃ。わがままで。やっぱオラ健常者と結婚するわ」

達也「クニユウさんも病人だろ。女の人から見ても健常者と結婚したいと思うんじゃないかな」

クニユウ「なん。ネエちゃんが連れてくるもん、女、なんのせこの腹をへっこませんにゃあかんけど」

達也「芸能人が金を送ってくるという発想と一緒だなあ。なんと自己中心的な短絡な発想だろう」

クニユウ「いいねか、他人の家のことはほっといてよ」

達也「じゃ、クニユウさん、元気でね。また電話するよ」

クニユウ「うん。ありがとう」
唄（子供たち）
寝てちゃいけない、よだれをお拭き、寝れば見えない、千華の顔。頭も心臓もクニユウの病気、クニユウはバカだ、クニユウはバカだ、バカなクニユウさん

第17場（深川家、酒屋）

昭子　「達也、コンビニをする話があってね。今日、問屋の専務さんとコンビニの方が来て、小さな会議を開くんだよ。おまえも参加してね」

達也　「コンビニか。あの今、造ってるところか。ひとつの手だな。法華経を読み出して三ヵ月目、これが秀宗さんのいった功徳かもしれないな。話がうまくすすめばいいけど」

ピンポンチャイムが鳴る

昭子　「専務さんこられたわ」

専務、部屋へ入ってくる

専務　「いやお母さんよかったね、このコンビニならうちから酒も入れられるし、掛け金も少しずつ返してもらえればいいから」

昭子　「本当にうまくいけばいいんだけど」

専務　「達也くんは、人事なんか、とくにアルバイトを辞めさせるなんてことやりづらいと思うから私がやってあげますよ」

昭子　「またたのみます」

達也　「またよろしく」

ピンポンチャイム鳴る
昭子　「コンビニのひとこられたわ」
昭子、店へ出る
昭子　「あれ床屋の周ちゃんね。達也、周ちゃんだよ」
達也　「おう」
達也、店へいく
達也　「悪いなあ。今日はいまから会議なんだ」
周二　「どうしたんよ。友達だぜ、なんの会議よ」
達也　「コンビニをやらないかって、ほらあの坂を下って右に回って、ガソリンスタンドのとなりに造っているところ」
周二　「ええ、やめとけ、あそこは。ほらそこの国道が直接あの山をつき抜けて行くから、向こうの方には車が行かなくなるんだよ」
達也　「本当かよ。悪いなあ、じゃあ、いまおふくろに話す」
達也、部屋へ入ってくる。周二去る
達也　「おふくろ、いま周ちゃんに聞いたんだけど、そこの国道が直接、山を越えて向こうの町までつながるそうだ。そのコンビニは完全に裏道になる」

ピンポンチャイム鳴る
社員　「こんにちわ」
昭子　「こられたわ」
昭子、店へ
昭子　「あがって下さい」
部屋へ入りながら
社員　「どうも、いや、やっぱり酒の安売り店多くなりましたね。これは既存の酒小売り店じゃ太刀打ちできませんよね」
みんな表情を固くしている
社員　「どうかしましたか」
昭子　「この前、見せていただいた地図をもう一度、拝見できませんか」
社員　「はい、いいですよ。えーと、はいこれです」
昭子　「この国道ですけど、この山を越えて行く計画があるみたいですけど、ごぞんじでした」
社員　「いや、いい忘れてました。でも大丈夫ですよ。本当に」
昭子　「この話、やめさせてもらいます。こんな裏道になって人が入るとは思えませんから」

専務　「しかたないねえ」
社員　「そうですか。それじゃ、また、新しい話をもってきますよ。たくさん店は建てていますから。それじゃあ」
家を出て行く
達也　「ヘタな鉄砲も数、うちゃ当たる式だな」
専務　「申しわけなくて、いいにくいけど、長年取引させていただいたけれど、今回ここでちゃんとしておこうと思ってね。掛け金の精算をしたいと思ってるんですよ。まあ今度、誓約書をもってきますから。じゃあ私もこれで」
専務出て行く
昭子　「達也どうしようかね」
達也　「そういえば少し遠くなるけど、あの国道沿いに、別の系統のコンビニがあったな。あそこはもう商売してるけど、経営者がいるのかなあ、直営店ということも考えられるから。おふくろ一度訪ねてみてはどうかな」
昭子　「すぐ、行ってみる」
達也　「さすが行動的だな」

第１８場（観音堂）
昭子　達也　朱美　千華がいる。千華、観音様を観ている
昭子「直営店でオーナーをさがしているお店なんだけど、お上人様に霊断法で観ていただいたら、あんまりよくないっていわれてねえ」
達也「大変かもしれないっていわれたんだよ。ダメだとはおっしゃってないよ」
朱美「やろうよ。お母さん私も手伝うから」
達也「始めから、これは完璧なんてものはないよ。少しぐらいの困難は覚悟ができていいのじゃないかな」
昭子「保証金は国民金融公庫でお金を借りて。担保が足りないねえ。高杉の土地を・・・・…」
達也「おふくろ、高杉の伯父ちゃん、保証人になってくれるかなあ」
昭子「なってくれるとわしは思う」
達也「えらい自信があるなあ」
昭子「二人きりの兄妹だもの」
朱美「やろう。やろう。あそこのコンビニ、お弁当については一番おいしい

よ」

達也　「この苦しみも仏様のお慈悲なんだって、何を教えられているのかなあ。最近ものごとを肯定的に眺めるようになってきたよ」

昭子　「いい方向だよ。なんとかなると、いつも思ってきたからね、ワタシは」

達也　「おふくろごめんよ。だいぶ心配かけたな。おれの病気のことや経済的なこと。おふくろは短気で単純だけど意志が強くて貞節で献身的な人だ。覚えているかなあ、親父がまだ生きていた頃、俺は小学校二年生で朱美は保育園に通っていた。いつものように家の中が荒れて、おふくろは家を追い出されて、朱美はおふくろに付いていった。俺はあとより息子だといって親父や祖母ちゃんに押えつけられて身動きがとれなかった。泣いて、いつのまにか眠っていた。目が覚めるとおふくろがむかえに来ていた。ハッキリと、そこにあった、いきさつは分からないけど、おふくろに背負われてその肩越しに下をみたら、おふくろは裸足だった。道はまだアスファルトにしてないジャリ道で、バス停まで歩いて」

昭子　「達也」

朱美　「兄ちゃん」

達也　「その光景が頭に焼きついて、いつものことで最後は、おふくろを裏切れない」
千華　「ママ、ばあちゃん、おじちゃん、見て、見て、観音様が笑っているよ」
みんな観音様を見る
朱美　「そうだね」
達也　「千華、大きくなったらコンビニやるか」
千華　「ええI。やってもいいよ」
昭子　「達也、問屋の借金の方もなんとかなると思うよ。別の個人の問屋さんなら、ある程度、お金を融通してくれると思うから」
達也　「秀宗さんのいっていた功徳がわかりましたよ。家族がひとつにまとまりました」
唄（子供たち）
いつから君と友達なんだろう。
いつまで君と友達なんだろう。
はずかしさをこらえて君にきこう。
君は僕を愛しているかい

ほめられるよりほめてみよう
子守唄、うたって懐かしんだあとで
流れる時へのこだわりよりも
永遠という名の深い想い
伝えることがきみの使命

クニユウ登場

「ククククク　ククククク　さようならオラを忘れるなよ」

千華物語（２００３年）作品

内容について

まずこの作品では精神障害者、宗教など従来タブーとされてきた問題を正面きって取り上げています。くしくも昨年のアカデミー作品賞に選ばれたビューティフルマインドは統合失調症の学者を主人公にした愛の物語でした。またアメリカの同時多発テロから浮き彫りにされた東西の宗教や価値観の違いは我々人類に向かってさしせまった問題を投げかけています。オウム真理教をはじめとするさまざまなカルト、詐欺教団の横行は人々に不安を与え、安心をもたらすはずの宗教を皮肉にも、その逆の、方向へと進めています。私は私なりに培ってきた宗教観を表したく劇作の形を借りて提出しました。

この中でクニユウに対しては差別ではないかと思われるくらい手荒な扱いをしていますが、これは彼のユーモア性と特徴をより鮮明なかたちで強調するためです。

他人に五木ひろしに似ているかときくことによって自分本来の存在価値を放棄していたクニユウ。千華を救うことによって人に尽くす喜び、頼られる幸福を知り、そして自らのユーモアとキャラクターにて他人に認められることに気付きま

す。ひとのまわしを使わないでも自分の意志と力で人々の幸福に貢献できることを知ったのです。

シニカルでネガティブな達也も秀宗、法華経を通して素直な青年に成長していきます。その姿はこの物語の縦糸になっています。クニユウと千華が横糸です。人権とは差別とは共生とは様々な問いかけがありますが、私は素直に障害者だからと特別なものとはせず、いい所はいい、悪いところもある、ときには馬鹿にされることもあるという事実。人間の生の営みとしてみた場合、これらを真面目に誠実に正確になんの色づけもなく、欲目も引け目もなく表すことが重要だと考えたのです。

私も統合失調症で1年あまり入院した経歴の持ち主です。私がここまで立ち返れたのもいろいろな人、神仏の力のおかげだと思っています。それらに感謝を込めて筆をおくつもりです。

２００３年、時点にて

（２０１５年３月現在）

振り返って本当にオーソドックスな話になったと思う。きわめて楽観的な終わり方ではある。が、なにか気にくわないものがある。解ったように善一に対し説教する秀宗。仕方がないと言葉少ない善一。救われたようになっている達也。　だが本当の問題点は人々の平穏な暮らしを打ち破るなにかについての考察である。つまり仏なのか悪魔なのか、はたまた何者なのか。執着、渇愛に陥るとき訪れる残酷な使者。法華経如来寿量品第十六（速成就仏身）人が成長してゆくことはそんなに重要なことなのか。　ここである。みんなが人生の勝敗にこだわるとき、争い、いさかいは発生する。誰かと比較することはきりのないことだ。発展、革新はいつも誰かの犠牲によってもたらされる。そして恋をして愛することを諦め無関心を装い虚無へ至る。実はただのほほんとプラプラ生きてはいけないのか。神は愛である。神がこの先この世界、現実のなかで果たして生きて行けるか。見ものである。そしてひとの成長はまず構えを外した心理状態から分かる。　社会のなか悩む善一、悪いのは彼ではなく間違いなく生存競争、世間である。制度、規則を保護とみるのは良いが、その前にそれら管理が必要とされるサタンの支配体制に原因があるのではないのか。悪とは何か。自然な場所に善は無いのか。副

作用としては大きく愛、自由が疎外され、そこから逸脱する人間は半端者のレッテルを貼られる。真実の幸福は競争ではなくほのぼの仲良く暮らすところにある。真の宗教者は無欲なホームレスと変わらないかもしれない。どこまでが欲望として許され、どこからが貪欲であるかという声が聞こえてきた。少欲知足これは欲を少なくしていこうとする作用に意味があるという学者がいた。人々の偉くなるという価値観に高い地位を得るというものと共に、人格形成をするというものがある。本物の宗教はすべからく禁欲的でなければならない。こだわるのではなく、そこに本当の安楽があるからだ。またそれを楽しむ心が生まれてくるからだ。忍辱を含め菩薩行はひとを磨く、そしてそれが幸福だと信じられるときが来るから。すべてが善に向かうからである。釈迦もイエスも日蓮も贅沢には縁がなかったが最後まで食いぶちには困らなかった。　私の宗教観も変化した。法華経の解釈をいくらこね繰り回したとしても救いは生まれない。口車の達者な強者の理屈が通るだけだからである。だからおのれの良心、思索がいきづまるときおもわずもれる南無妙法蓮華経、これが私のたどりついた菩薩行、仏種に働く仏法の真髄である。私にとって、そこへ導いてくれた先祖への感謝の供養これが大切になってくる。そしてみんなの原罪を背負って贖罪のため十字架にかかってくれたイエスキリストの復活への割目も大事である。罪人の自覚から、真の善人へと生まれ変

わらなければならないのである。そして個々が尊重され誰も犠牲にならない家族を理想的にかっ現実に目指さなければならない。母との間、交わす口数が少なくなり静かに安堵をかみしめる私である。解りづらい文面かもしれないが、私は闇の告白に対しひとり答えを打ち抜くのである。「神の国とサタンの支配体制。自由を認める保護と管理という束縛」。選択には愛がすべてである。

時は来ているみたいだ。皆、目を覚ましていなさい。日々確かに訪れる。善意と愛に目を凝らしていなさい。神の御姿と御声が知らされますから。真実の自由、平和へと時代は歩んでゆく。悪は去り行くのだ。

善良なる
罪人

（ステージへ）

義人
Ｈ２９年１２月

（第１章）真子へ、千華へ。愛という名の権力。煩悩がないという名誉、やはり人は栄光を求めることからは離れられない。それでいい。自分を本当に大切にするのだ。だが卑劣はご法度だ。堂々と生きよ。　何の為に生きるか。猫一匹の為かも知れない。それがもしかしたら孤独から抜け出し世の人の幸せを祈ることに繋がるのかもしれない。神を信じなさい。　献身的な女性がいた。善良で純粋な青年がいる。彼は礼儀知らずにも見えるが、遠慮しないかわりに他人の関与にも怒らない。拘らない。だが彼女はやはり彼を世間の方に引く。　先輩の突っ込みにうまくボケなかった男は謝りのメッセージを送ります。先輩は言います。「そのまま忘れてくれるのが優しさやで」と、そうかもしれないね。　思考伝播という心の内が他人に知られてしまう気になる、精神疾患の症状がありました。必然的に心は美しさへと向かわざるを得ませんでした。サタンは心の中に醜悪さを湧き起こそうとします。おじちゃんは負けません。清い心ではね返します。　神として、人格完成よりも、天の父と共にあるという安心感、つまり愛が大切だと訴える。偉くならなくてもいい、立派な金持ちにならなくてもいい。優しくなれよ。自分らしく、楽しく。　世の中、子供たち六人に一人が貧困家庭だ。だからお前たちがどうだとは言わない。神、イエスも知らずクリスマスツリーに灯をともす少年少女たち、悲しいね。　障害者に見られたくない。でも待遇を良くしてい

きたい。矛盾を抱え、健常者に一歩でも近づきたいと渇望する当事者集団がある。自分自身を問へ。それがすべてです。思いやり、愛がなかったから差別された気になるのですよ。　凄惨、悲惨、目を覆いたくなる出来事。皆ご縁である。心を思いやりでいっぱいにし、暖かく生きて行きなさい。そして相手も自分も心底、大事にできる人といつも一緒にいれるよう祈りなさい。　バチとは八尾の三味線に当たるものではないと言うおばちゃんがいます。おじちゃんもそう思います。とりわけ聖霊を侮辱するもの、愛を踏みにじるものにバチは確実に当たるのです。私のスタンスにはいつも、障害者か、健常者かの区別はありません。私は私、神であり義人でしかない。資格がある障害年金は、お布施としていただく所存であります。　飴玉ひとつでもプレゼントである。心を込めて差し出そう。人とはそういうもの。気持ちがお互い好くなる。勝手が違うと醜い汚職にもなる。ほどほど、愛が伝わればいいね。　自分がいい人と思っている人間に限って問題があることが多い。神だけが善である。お前たちは出来るだけ目の前の人を良き人として愛しなさい。大切だよ。　大概の年配者は生活の経験から人物を見抜く。だから嘘は絶対禁物である。理不尽な演技は当然、見抜かれるだろう。真実を逸らさない、正直が一番である。場を温かいものにすることに尽くせ。　おじちゃんの本を読んだ人がいる。何も頭に残らないと言う。私は反論した。たとえに観

点が違うが法華経も難信難解なもの、とあると。人としての温もりに心底想いを抱くか否かである。　自然に自分らしく生きよ。愛を大切にして。その果ては独身でも良いではないか。ただ本当にたった一人心底、愛せる人がいたら幸せだよ。必ず見つかるよ。　千華がおじちゃんに関与させたくて甘えて借りたパソコン。おじちゃんは、返せと言って、長い間放置していた。君が気付いていたら本当は悲しいね。でも今は大活躍だ。君に不具合はないかい。　朝からずっとサタンとの戦いでした。プリンターの不具合、バージョンアップとインク不足の問題が併発したみたいです。次々と新手の攻撃を仕掛けてきます。　悪魔に人は心を売り渡した結果、国土は荒廃した。そして神は泣かされる善良な人を気遣い、また天は悪人に懲罰を与えるのだ。正義の鉄槌をくらわせるのです。　ホームページ、完成。いろいろ過程があって楽しかった。一度に完璧を目指すのではなく学習することと、労を惜しまないことを学んだ。そして一番は感謝だね。　法華経二十八品全部の写経。気ぜわしい庶民には難儀である。解釈も人それぞれで的を射ない。やがて大事なサトリの根本、南無妙法蓮華経を神である日蓮は生み出すことになる。　人の心と天変地異は関連している。とりわけ現在、神としてのおじちゃんの周りでは顕著である。小雪は、積もらない。台風も因縁よくうまい形で収まっていく。　アプローチをかける時、その応対の仕方で当人が、

どういう状況下、立場にあるのかが解る。そういうときただ思いやりで接せよ。伝わるはずだよ。きっとね。　どんな部署に回されても、愛をもち素直であろう。仕事が負担に感じるのはキミたちのせいではないかも。構造改革のため一度は上司に直言しよう。有能とはそれ。　ジョークの分からない人間たちの前での軽口はやめた方がいい。侮辱か軽蔑されるだけだからである。変な堅物はどこにでもいるものだ。気をつけて歩け、尊厳のために。　神を愛するとは主体性が自分にあるということ。そして南無の意味、委ねるということは、唯お任せではなく自助努力も大事で南無妙法蓮華経の唱題がホント。　世の中にはあえて鬼になれる人がいる。一方鬼になろうとしても絶対になれない人もいる。逆に仏を目指す心にさえなれば悪因縁は去っていく慈悲を抱け。　恥をかくことを恐れてはいけない。萎縮し物事に失敗する可能性が高くなる。恥はかけばかくほどサタンを感じることになるだろう。恥をものともしない強い人間になれ。　天の時、地の利、人の和というもの確かにある。偶然は必然。運命づけられている。そこで真実を見極めるには正直な美しい心で向き合う。大切である。　お前たちは、もう気づいているはずだ。この世は善と悪のせめぎあいだ。サタンは活動し続ける。負けるな。愛を振りかざし強く生きよ。何かが助太刀するよ。　サタンはおじちゃんを悪の道へ引き込むか、亡き者にしようと画策した。しかし私はそれを

バネに思想を生み出した。私は神だったのだ。もう信じるね。　組織は常識という非常識で洗脳して縛り付ける。ひろく世間に接し悪しき群れから離れても生きていけることを確認しよう。恐怖による埋没は絶対ダメ。悪に囚われるな。

呉服屋のスミさん宅の飼い猫ヨンが末期のすい臓ガンになった。なぜかあぐらの膝に手をかけた。去っていくまで私は頭を撫で続けた。私を信じているのだ。ヨンの幸せを念じていた。　ヨンにはおじちゃんが神だと判ったのだね。ここから理解できる、森羅万象、心、仏性があるのだね。むやみに殺生したりせず、その命を見つめよう。自分と因縁があるのだ。　仏教に空の教えがある。般若心経で有名だね。人は物事を差別で見る。美醜、優劣、すべてウソ。真実の価値は思いやりという暖かい風の中にしかないのだ。愛だよ。　人が笑顔を見せれば笑顔で返す。たとえ、しかめ面でも微笑んでみせる。明るく、素直に、温かく、私のキャッチフレーズだ。愛を裏切らない。いいね。できるだけでいいから。　労働は自分だけの為と思っている限り苦しみとなる。働く、つまりはたを楽にすると思うと幸せになれます。あとは祈ることです。南無妙法蓮華経、勝ち負けを競わない。　人間はみな愛する人のことだけを考えていればいいのにいつも自らの生老病死にとらわれる。悲しいね。貧病争が起こる。心を美しくして愛しい人をただ想うことが大切だよ。　梶原は桓武天皇から出た坂東八平氏のひとつであ

る。私はただ事実と意味を知らせたいのだ。王家の家系より聖人が出る。イエスもマタイが記したようにアブラハム、ダビテ、王の血筋に生まれたとある。すべては聖書の神に繋がるということである。　炎天下に農作業をする人がいる。私がどう見られるかより、どう見るかだと言ったが、自分の視点で自分自身を視よ、正直に生きているかい。思いやりはどうだい。　絶対、破ってはいけないという戒律、法律はない。人間が貧弱になった今、ＤＶなど暴力による人格への踏み付けは目に余る。美しい心があるなら神は人を連れ去ることを許すのである。欲深、嫉妬癖、独占欲などは必ず不幸をもたらす。愛する人には寛容であれ、お互いを信じ。大人になるにつれ嫌になることも出てくるだろう。でもその結果，良くても悪くても、いい加減にせず話し合うことだ。　千華、看護師さんになる決心をよくしたな。真子、好きな道へ進めて良かったな。お前たちは努力して夢を掴んだのだ。大事に抱きしめて下さい。愛と一緒にね。　戦争の為に命をかける人はかなりいるだろう。しかし戦争をしないために命をかける人々は少ない。勇気をもって戦争反対の声を上げねば。憲法にみんなの声を。　まず、時流の波にのるかそるかを意識しなくてはならない。人々は、その時、権威によって利に動くことが多い。君たちはそのはざまで愛を掲げよ。悔いなき人生を送るのだ。南無妙法蓮華経を唱える時、心が感謝に包まれる。破産していくもの達へ

の同情は、自ら感謝がある限り意識されない。そして彼らには新たなる展開を期待する。おちたとき夢と愛を忘れない。　お前たちはいついかなる時も主人公である。これを忘れない。自己中心とは違い、安易に従順な奴隷にされてはいけないということだ。ブラック企業からは忍耐だけを学び、後足で砂をかけるように去っていきなさい。　人に認めて貰おう。矛盾だ。人は得てして自分の上には誰も戴きたくないものだ。そして狭量な価値観で決めつける。引きずりおろそうとする、嫉妬なんかに絶対に負けないで。　遠方からの客人にはできるだけ親切にしなさい。身内だと思い気兼ねもせず安心しておられるのだから。御苦労されていると思います。それを愛しく思っている人もいるよ。　不幸、なりたくてなった人生などない。自分なりに一生懸命生きた結果だと思う。努めて明るくしているのかもしれない。肉親の愛を忘れてはいけないよ。受け入れよ。　勝者は鈍感で無神経で自分勝手な奴が多い。弱者は繊細で優しく人生の悲哀を理解している人たちが見受けられる。人生を思いやりなく批判してはいけない。　迎合する必要はないけど愛想の一つもない人間は他人を傷つけ良くないですね。やはり思いやりがないといけませんよね。確かな人間性が大事ですね。　型破りな生き方。魅力はあるが、付き合うものにはこちらの負担が大きい。ある人は自分なりに社会性はあると思っているだろう、でもその自分勝手は周りのものには辛

い。けど彼も多分迫りくる生活不安、侮辱、などを仕掛けるサタンと戦っているのさ。けど闘う武器は優しさであることを知らないのだ。　自由、愛、真実の平和のため、世間の枠外へ抜ける。労働、扶養を重視する価値観から敢然と離れる。頑迷な常識という非常識が人々を縛っているからだ。固定観念は偏見と共に私の敵である。来る世、ただ皆と安息を求めたい。　ふてくされ、意固地になれば、それに応じた因縁が繋がり、自己中心からくる不幸な人生を送ることになる。誤るな、勝つことの意味は愛を抱きしめ生きることだ。愛を掲げよ。　年下、後輩、言葉遣いが悪かったり、口調がきつかったりするやつがいるだろう。でも、そこをスルーして心の中を少し覗くと寂しさが見える。上から目線も喜んでくれオーケーなのである。　お人好し、優しい人は世間では損をしているように見えるが、正義に穏やかに燃えるとき天に名が記されていることを信じよう。それが真実さ。真の幸福が待っている。おじちゃんは今、巨大な不正行為と戦っています。おじちゃんの戦いぶりをよく見ておいてください。君たちにおじちゃんのタフさを見せつけるつもりです。男だぜ。

最後、信じられるのは真の信仰を持つ仲間だけだ。愛することを忘れてはいけない。神仏は美しい心に微笑む。何かにおびえ負けてはいけない。強く生きよ。家族を大事に。　前にも言ったが、人を威圧し侮辱し従わせようとするやつら、

つまりサタンは、実は非常にもろい。「サタンよ、去れ」と尻尾さえつかめば消えてしまう。所詮、張子の虎だ。晩御飯、食べたか。感謝で一日過ごしたか。その日無事に過ごせたのは幾多の人々の尽力があるからだ。君達ももちろん世の中に貢献している。おじちゃんも同じだよ。　生老病死がある。釈尊【仏陀】は執着と渇愛から脱出し宇宙に流れる法にまかせなさいと言った。君たちは孤独と生活不安を克服し自由になりなさい。　絶望の淵に立たされるとき人は無言になる。君たちは殺意を抱いたことがあるかな。おじちゃんはしょっちゅうある。正義とはそういうものかもしれないね。　おじちゃんは明日、真由子さんに会いに病院に行きます。他人の奥さんです。何かするわけではありません。だが利用者でも思慕の念がある。不潔と見るかな。　ただ欲望に生きる。そこには地獄、修羅の世界が広がる。だが、素直に明るく、想いが美しいものなら叶うだろう。南無妙法蓮華経。大乗仏教の存在意義がある。　渇愛から奪い合う。その反対、素直に自利と利他を考えるならいつか夢は叶うだろう。辛く悲しいときはまず祈ろう。それが最善の解決方法なのだ。南無妙法蓮華経。　まず心地よい居場所をいつも求めなさい。そして誠実に素直に物事に向かうとき何があろうと味方でいてくれる友人を大切にしなさい。愛する。すべてだ。　欲望は膨らむほど苦しむことになる。布施の心で周りと関われ。嫉妬心は己を苦しめ破滅をもたらす。清

く美しい心とは自分から離れる処に存在するのだ。　君たちが苦しんでいるということは周りの人も同じように悩んでいるということだ。人間関係は相手の立場になるとき解決する。所詮、皆同じく凡人なのである。　製本に回す、「聖人の休日」だが、あとがきに真面目に考え、真面目から抜けきると表したが、ようは、本人は大真面目であるということだ。真摯に読んでください。　罪を救うことにおいて良心の呵責の慰めに南無妙法蓮華経はある。念仏に霊験はなく嘘や詐欺でも地獄に行きたくなければ信じるしかないという。危ない賭けである。　今日はバーベキューに行ってきました。君達も一日一日、仲間たちと楽しくやることだけを思って生きて行きなさい。それが正解、勝負はなし。それでいい。　皆辛いことがある。だが、けして周りにあたってはいけない。虐待にもつながる。子供を持つならひろく優しい心でいなさい。それは我をできるだけ小さくすることだよ。　どちらを選択するかではなく、どちらかに決めて吟味する。首尾一貫していなくても苦にするな。でも裏切るようで辛いときもある。己の愛を信じよ。そうさ。　初めての職場、社会の縮図ではない。安心して転職しろ。ブラックには気を付けろ。肩の力を抜けば楽しい職場はごまんとある。まずは優しくあること。　いつも正しく美しいものを求め続けること。そしてよく聞き、知り、解ること。あとは感謝と思いやりを忘れない。それでいい。　義のため決裂す

る。これは自己本位な価値観の押し付けからくる分裂とみられる。交渉が上手く、経験値の高い上司を代表する大人に期待し、和平を再度結び、未来に立ち向かえ。己の得を考えるよりも正しいと思うことを選択しなさい。利にはしり失敗した場合、後悔に苦しむことになる。善をなしたとするなら死んでも悔いはない。　人には自意識がある。一番醜いのは嫉妬だ。自分の価値観の押し付けもある。案外、親切からだったりするので中には嬉しいものもある。　好きなことが自由にしゃべれない、これほどストレスがたまることはない。正直者は長生きをする。嘘をつけば地獄です。　愛と友情。これに対し、甘いな、信用性に乏しい。純粋すぎる、馬鹿だ。こう査定する人たち。逆に愛が存在しなかったらどうする。この二通りの見方。私は愛を信じてほしいな。　墓に巣くったミツバチたちを殺虫剤で皆殺しにした、バアちゃん。残虐で冷酷で自分勝手で慈悲心のかけらもない、己だけに固執した人間。けして毒されてはいけない。最早、君達も同類か。悲しいことだな。　携帯電話にもでない。お前たちがこんなに冷淡で残酷だとは。やはり無感動の浄土真宗の匂いがする。温かさの欠如。お前らの貪欲で薄情なことはよく解った。賢い彼氏など夢の夢だ。メールの送信はしばらく休止する。　母が墓の蝋燭立ての中に蜂の巣があったと、殺虫剤で皆殺しにした。自分が刺されなくてよかったという。周りは南無阿弥陀仏の銘をあげた立派な墓が立ち

並ぶ。真宗の障り因縁である。私は母を叱った。「何故そんな非道を犯したのだ」。母はいかにその巣が大きくて蜂の死体が百匹にもなったと興奮して「無事だったことを喜んでくれないのか、お前の方が冷淡だと」言った。私は篤信家で母の友人である薬局のお母さんにテレした。薬剤師の娘さんが出られた。私は立場を思った。案の定、薬屋さんである。母の行為を肯定した様な趣であった。私は現場へ行ってみた。凄い念を感じた。蜂たちの怨念か。先祖の御霊（みたま）の怒り、悲しみか、私は南無妙法蓮華経を念がはれるまで唱題し続けた。何故、母は即、そこを立ち去らなかったのであろう。冬になれば蜂は死ぬ。私か母が死なない限り極端な話、墓は放ておいても構わないのだ。虐殺は南無阿弥陀仏、無感情の世界である。蜂は多分生き物として南無妙法蓮華経の墓を有り難く住処に選んだのであろう。母の己のことしか考慮しない姿勢はまさに鬼である。私の携帯からのテレに出ようともしない姪たち。肉親の情は極めて薄い。情けないものだ。虚無に陥りそうだ。ある男が毎日入院した先からテレしてくる。携帯にテレするのはたかつくと伝えてある。彼はただ私の声が聞ければいいのだろう。他人の方が情に厚いことは多々ある。心の優しさを大切にしたい。いったん落ち込んだが、なにかを立て直そうと感じた。たぶん愛であろう。

真子、久しぶりだったが上品で落ち着いた物腰、趣で安心し神仏へ感謝した。

そして寛容な心は広げ続けなくてはいけない。傷ついても短気を起こしてはいけない。静かにその淋しさを伝えよう。　携帯電話の拒否、千華、おじちゃんは本当に悲しく情けない想いをした。バアちゃんは涙をこらえていた。肉親の情とは他人の愛より空しいものか。そうなのかも。しっかりした女性になれ。　真子、お前は覚えていないだろう。おじちゃんは混乱し、お前を悪魔の子として殺そうと思った。初恵が包丁を即、皆隠した。そしてお前を抱き逃げた。ママはお前の命を救ったのだ。君たちの仲を取り持つことが。その時の初恵の恐怖と驚愕に対する罪滅ぼしになるのなら嬉しい。ママがいなかったら俺と真子はサタンの餌食になっていた。初恵は命がけで真子を守ったのだよ。よく話し合ってみなさい。強い口調になっても。　独立した女性ならばいろんな愛、生き方を受け入れる、それだけの余裕と度量を持て。人生と想いは人の数だけあるからね。　真子、褒めてやる。孤独を超え、神、隣人を愛する。うなぎ屋さんでは晴れやかな心と穏やかな気持ちがモードから伝わってきた。上品で思いやりあふれる姿に、男性は行列を作るだろうな。　千華、デイサービスは楽しいか。大きな組織と違った辛さもあるだろう。甘えないでコミュニケーション能力を磨けよ。正直、素直に相手を少し傷つけてもいいから自分の気持ちを伝えよ。　千華、お前は俺の夢をかなえようとデイサービスに移ったのではないか。もういいのだ。お前はお前

の道を行け。人には住む世界がある。それでいいのさ。　幸せになるために生まれて来たのだから、好きな人と一緒にいなさい。そして好きなことをして行きなさい。ある歌い手の心。素直でいいと思わないかい。でも周りを理解する努力が不足しているか　　ソチは松田聖子の水色の朝という歌が好きで、ツチノコ状態、尻尾で音頭をとっている。ソチのいない世界は考えられない。完全に家族の一員だ。　　計算して上手くいくことは少ない。自然の流れにどう誠意を傾け生きるか、そのことが一番大切なのである。未熟な作為はひんしゅくを買うことになるのだ。　　真子は車をうなぎ屋の玄関に横付けした。大した心配りだ。だけど、車中、真子の言葉によってバアちゃんの意志がころころ変わる、それを真子は理解できない。バアちゃんはおじちゃんの気持ちを気遣っていたのだね。そこまで気が回らないと本当のレディとは言えないよ。でもありがとう。　人の悪口を言うと実は元気が出てくる。君たちはどうか。相手に弁護人もいないのに偏見で独断専行する。確かに合意のある困った人もいる。そんな人は講釈師のように屁理屈でごねる人が多いのだね。　　真子、千華、元気でやっているか。おじちゃんはまた新しい恋を見つけたぞ。読書家の優しい人だ。下の名前もまだ知らないけど、寅さんにはなりたくない。　　真子、お前はもうちょっと寛容な心、人の想いが解るようになると、良き人を見逃さず結ばれるだろう。おじちゃんが保証す

る。もうちょっとだ。心を美しくね。　千華、組織は辛かったか、いつも心に青空を。サオちゃんとの友情を何より大切に。やはり暖かい温もりのある場所がいいよな。組織ではパパもママも耐えているのだね。お前に忍耐力がないとは責めていない。お前の正解はお前自身で示しなさい。神は見守っているよ　千華、甲斐バンドの熱狂【ステージ】という曲を動画で見なさい。落ちて行く星もある。でも輝ける舞台は必ず待っている。おじちゃんにはカレーハウスの洗い場がそうだ。ずる賢さではなく、また学校の偏差値でもない。本質を知る、理解力は神から与えられる。心を済ませ、美しくするとき自然とその力は訪れるよ。　お前たちはいつも無言だが、俺の言うことに耳を澄ませていることが伝わってくる。見栄と偏見より離れ、しっかりとした自分をつくり愛に生きなさい。　金銭欲、肉欲にはしり浸かるとき、愛は見えなくなる。これほど悲しいことはない。人も信じられなくなる。苦しんでいる者は皆好きでそうなっているのだ。　君たちの生きる場所。輝く舞台は自分も隣人も大切にするとき自然と見えてくる。落ちて行く星も彗星のように美しい。仏の眼で世の中を見るのだ。真っ直ぐに。　世の中はニーチェや尾崎豊のように束縛を感じ、また表現する、そういう人も必要である。でもポジティブに楽しく変革していこう。そんな力。君達にもあってほしい。今夜の私は饒舌だ。　仕事で一番大切なのは真の意味での協調性かも知れ

ない。何故こういう表現をしたか。変な迎合はいけないからである。孤独を恐れず生きる。いいかもね。　実は生存競争などは嘘っぱちではないかと思ってきた。落伍して初めて知る、輝ける舞台と生き甲斐の意味。そして愛する人と共にいたる安楽。何かに勝利したということか。

ママはのんびりしたところもあり整理整頓の習慣もなっていない。でも小言は言わないでね。五十を超えた介護の夜勤は大変に違いない。そこには広く優しい心があるのだよ。　ちょっと風変わりな石の仏様、車がブンブン走る、大道沿いにある。足を立て、頬杖を突き、少し斜に構え、つまらなそうに目をつむって微笑んでいる。少年の頃、訳あってバス通学をした。車中から母といつも見ていた。彼は「こんなことでくじけるのか、この弱虫」。私は励ましを受けていたような気がする。なぜか少し嫌いだったけど。（笑）おじちゃんは今、ハンドルを握りながら、いつも通り過ぎるとき深く頭を下げるのです。　あまりにも理不尽な上司は力を合わせ、合意を形成し突き上げろ。労働者、人間の誇りをかけて。逃げ道は用意してあげよう。野心の為だと決めつけられないように。　競争から自然淘汰があるだろう。でもいいではないか。行きついたところは施設の洗い場だった。俺が生きる場所。愛に満ちて嬉しい。それこそが輝く舞台さ。　二人とも輝け、お前たちの生きる場所で。足元の悪い中を来訪してくれたすべての

人に笑顔で応えよ。それがプロという前に大人だ。なぜか、それは自分から離れるためだよ。　甲斐バンドの熱狂【ステージ】。尾崎豊の観点から離れ、生存競争からこぼれても、また生きて輝ける舞台はあることを告げる。安らぎ、優しさも必要だが人生の奥は深い。　褒められたら喜ぶ、親切を受けたら感謝する。大事なことを打ち明けられたら素直に聞く。何か裏があるのだなんて邪推しない。好感は去り、難しく思われるからね。注意し、気を付けよ。　人見知り、邪険、無視は人の心を傷つけ神の国にふさわしくない。精進し改善するように。厳しいかもしれないが。人を歓迎、歓待する姿は自然な思いやりの気持ちから生まれるものである。　真子、今日は本当にありがとう。嬉しかった。電話口、口調も女性らしく声色も優しかった。このまま精進していけば必ず良き人になれる。君は真の幸福をつかむのだ。　仕事、人生を解ったつもりでいても新しい気付きを与えてくれる、人物はいる。謙虚になり耳を傾け本質を見出そう。会話の成り立つ人たちを大切にしなさい。　私の書きものに悪感情をあらわにする人がいる。「己が偉くなりたいのだ」。それは自己投影で自分が一番になりたいという姿の証明なのだ。神は愛である。概念を少し学修してほしいなあ。つまり物事の優劣を問うとき、自分が目立ちたいという感覚を持っていたとしても、神を尊重するという気持ちがあれば、真理を見出すとき「お前はただ偉くなりたいだけなのだ」

という言葉は出てこないはずだ。意識の問題である。コンプレックスを克服しなければ神の国の住人にはなれない。「預言者、郷里では親しいからこそ敬意を受けることはない」。辛いが、また聖句は成就する。　信頼おける大人の仲人から話があったらお見合いしてみなさい。重苦しく考えず、生きて輝ける場所を二人で築けそうならそれでいい。嫌なら断りなさい、良心は痛めるな。ふられた人にはもっと良縁が待っているだろう。それでいい。　職場の先輩には「すごいですね。さすがですね。コーヒーでも飲んでください」。と褒め、後輩には、「頑張っているな」。と缶コーヒーを渡す。人間関係は上手くいくよ。　まず怒りから離れなさい。

今、苦しむ連中は夢を追うことを綺麗とあらわすが、実は醜い己の欲望に悩まされているのです。地獄の炎のように心に薪を燃やしている。愛による徳がないとそれを手にしたとき大やけどをすることになる。恐ろしいね。　見合いと恋は矛盾しない。恋は大切だ。結婚するなら貧乏でも価値観の合う人を探し堅実に生きなさい。愛と友情を大切にする。天に名が記されるよ。　だいぶ二人ともコミュニケーション能力は付いてきたが、何故、わしを拒絶する。なにかあったら柔らかく伝えてくれ。家族への遠慮か。解りにくいなあ。　神の愛情を対象は独占することが出来る。神は一人一人に全力投球。でも誰も神を縛れない。博愛を

信仰に見出す。神は自由に憧れた人に優しい。　白黒の可愛い子猫でした。明日写真を見せに呉服屋へ行きます。　私が近所で好戦的とみている人がいるみたいです。正義を誤解する人がいます。　ヨンというオス猫が死去して約2カ月、スミさんは待ちかねています。新たな命を。神仏へと向かう気持ちと同じ様に愛してくれると思います。因縁。美しい想いがあればトントン拍子に話が進むものですね。　スミさんは高野山に世話になった人の為に御堂まで立てた篤信家です。八十を超えた女性です。倫理を語り私は尊敬します。猫は幸せ者です。　嘘っぱちの相手の歓びに媚を売る必要はない。過ぎれば人格を否定されるだけだ。マヒした頭では良心まで砕ける。負けるな、他人のエゴに、奴隷ではない。　下卑た、安っぽい喜び、卑屈な笑いにも付き合うことはない。すべてに引け目を感じるな。自分らしく一歩一歩進め、その時浮かんだ微笑み、大切にせよ。女性らしく。　メールを打つとき喜びと悲しみがある。君らを裁こうとする心が、ときに俺を傷つける。浜田省吾のもうひとつの土曜日からおじちゃんの切ない気持ちをあらわした。おまえらにも優しい人がいればなあ。　正直に行こうとすると人を傷つける。取り繕うとすると詐欺師に見える。素直に相手の言うことに耳を傾けよう。傷つけ合うのを望んではいけない。自然に愛を。　スミさんは栗ご飯を作って待っていた。バアちゃんは遠慮していたが、せっかくの気持ちである。

沢山の人に食してほしかったと思います。厚意は素直に受ける。大切です。　ママは昔から食べ物の他は自らよりも社会正義、困窮する他人のことに力を注いでいた。コンビニでは非情にならねばならず、私も同様に辛い思いをした。おじちゃんはママに本当に感謝している。もしママがいなかったら俺とバアちゃんはもうこの世にいなかったろう。幾多のサタンのもくろみを弾き返してくれたのだ。家風というか、生活環境には無頓着で整理整頓については親子そろって躾けられていない。蜘蛛の巣が机の下にコッポリあっても気に止めない。だからこそ、障子、ふすまをボロボロにする猫の存在も許すのだ。ママは内輪より目が外へ向かうのだね。君たちが成人して、ママは本当にやりたいこと、自分の夢をかなえたのだ。身体の芯は強くない。負荷はできるだけ避けてやってね。お願いです。　いつもそっけなかったヨンが初めてわしに近づき膝の上にすがった。「すい臓ガンよ、治れ。もしもの時は天国に迎えられよ」。私は１０分間ほどヨンが去るまでこうべをなで続けた。ヨンに後顧の憂いがあったのか、猫にも仏の種、仏性がある。生き物を粗末に扱ってはいけないよ。ヨンが死去する前に私はふたつのことを約束しました。彼を成仏へ導くこと、もうひとつは残していく世話になった、おばちゃんの幸福です。それは後を継いでくれる猫の確保でした。猫は縁、皆のおかげで無事、見つかりました。ヨンは安心し静かに霊界から見守っているでし

ょう。ヨンには私が本当の神であることが判り、また信じていたのですね。自らを信じることを強く促してくれた、ヨン。私は神として本当に感謝するのでした。真実の愛とは人に善を強いることである。人は皆、野心と優しさの狭間で苦悩する。野心に正論があれば、愛という名の正義の権力が生まれるかもしれない。だが野心がただ己の為の欲望だとしたら当人は浅はかな醜い姿をさらし、自らだけが解ってないというとんだ裸の王様になるのだ。だから優しく生きるとき、野心は誰かに任せておけ、ただ美しく生きよ。後ろ姿を誰かが見ている。そして自らのステージに立て。　悪口、陰口はその人の本音。いい悪い別にしてかすかに笑みを浮かべ聞いてあげよう。真剣に応える必要はない。そしてそこに真実の愛があるかも知れない。止めるのは侮辱と取られる、気をつけよ。　継続は力なり。私の最も苦手な言葉だ。人は物事を継続するだけで価値が生まれてくる。私は流転するだけだ。愛をもって、それもいいものだ。本音だよね。　他人など関係ない。独り毅然と上品に生きよ。それは浮いているように見えて、実は皆を超越しているのだ。自虐、犠牲からの脱皮。それでいい、誇り高く。　ふたりとも良かったな。資格を取得することが出来て、これからずっと生活の糧を得ることが出来る。本当に幸福だぞ。あとは生活不安に負けず、力強く生きよ。戦争さえなければ儲けものさ。　ひとはなかなか自分を正確には理解してくれない。イエス

も言っている。人の子には枕する所もない。つまり安堵する所がない。またひとの理解を期待するから落胆に陥るのだね。人にどう思われようと自分を信じ生きなさい。誰かがそっと見ている。その中には神もいるよ。　二人、それぞれの場所で輝き続けよ。市場価値など糞喰らへ。自分と仲間を大切に。殺伐とした、皮肉な笑みなどいらない。説教好きな、組織の犬など気にするな。神はそんな君たちを応援するからね。　契りを結ぶとき、人格、信条などの大まかな基本線の一致が必要である。その観点から条件を満たす、再び婚をイエスは当然許します。義人は掟より人間の愛、命を重視するからです。当事者の幸せを祈ります。

「自由と愛は矛盾している」。自衛官である尾崎の父は話した。つまり愛はエゴイズムであり縛るものだと言っているのです。イエスの愛アガペーについてはご存じないようだ。自由を認める愛、また愛することが出来る自由、尾崎を救う気持ちもそこにあるような気がする。　母に尋ねた。何故、人は性交渉をする。答えは結婚したから。正論か。男の適齢期が伸びた。結果処女の花嫁がいなくなった。道徳的価値観の違い。もり役、平手政秀に自慰（へんずり）を指南された信長のように、男は自制心を持つことが必要なのかもしれない。　人の恋愛は自由という声がする。けど互いに初めての男と女。二人で慈しみあう生活をつくりあげようと初夜に誓う、それは幸福ではないだろうか。結婚しないうちはセック

スをしない。至極まともな考え方だ。磁力という魅力をもっている男性がいる。皆、輝く場所へと憧憬はあるに違いない。女性として慎みをもち真実の愛を掴め。心配無用、神を信じ愛すること。　君たちの祖父、イサムはアルコール依存の道を選んだ、これはイエスの十字架と同じく侮辱という悪意を浴びせかけるサタンに対し勝利を宣言するものだった。また同じく尾崎もサタンに負けたのではなく勝利したのである。嘲りによって羞恥心から屈辱と煩悶を植え付けようとするサタン。さらし者にされても彼らはそれを寛容と勇気で乗り越え、愛を示したのである。本物にサタンはかなわない。彼らこそ真の聖人たちなのである。

　台風がひどいな。自分に強く当たる人にくれぐれも敵愾心をもってはいけない。飴玉ひとつのプレゼントで解決することが多々あるからね。関係づくり大切だよ。一人きりで正義にはしるな。仲間と合意を形成し立ち向かえ。欲望と時代のひずみに悪魔が潜んでいる。犠牲になりかけたら逃げ出しなさい。時代が解決する。母みたいな愚痴な人は扱いに困る。自己中心だから。でもやりきれなくなっても良心は痛めるな。今度は自分が愚痴になるからだ。流せ、心に清流を。　お布施に、金銭価値を持ち込むのはご法度。心からするものなら額など問題ではないのだ。貧者の一灯の譬え。仏陀が来られる。金持ちがたくさん蝋燭を立てる。なぜか一本だけ消えない。貧しい老婆の精一杯のもの。仏陀は彼女に成仏を約束さ

れた。

（第２章）善も悪も区別せず阿弥陀如来は無作為に人を救う。「価値観。善悪など瑣末なことはどうでもいい。取り上げるのすらバカバカしい。この世の幸せは諦め、皆、極楽浄土へ行こう」。なんといい加減な話だろう。安易に入信した者が大勢いる。　私はかつて「私の意見に添えないものは去らねばならない」と民主主義とは異なる神権体制を掲げた。だが去れといっても殺戮するわけではない。同じ場所にはおれないということである。私は本質的に善悪をこだわる。　オウム真理教の無差別テロ、サリン事件。信者以外は悪人である。生まれ変わるには死ぬしかない。皆、殺してしまえ。暴論である。正義はそこに見出せず、冷酷な絶対者によって皆殺しが行われても構わないという思想が間違いなくある。無作為に救われる、善悪も問わず、正義を無くした阿弥陀の思想もそこにある。人殺し、盗人らと、仕方なくも4時間のインターバルで昼夜勤１２時間の激務を懸命にこなす看護師さんらが一緒であるわけがない。　私は苛酷を支持するわけではないが、人には差があると言いたい。　当たり前である。自分のことしか考えない、我儘且つ、怠惰な者と、愛情に溢れ、慈悲深く尽くす人が同じであるはずがない。

５０歩１００歩の知的や身体能力に関して優劣を語っている訳ではない。善と

悪に分け善を追い求める姿勢、それが南無妙法蓮華経の道である。そして素直に温かく。念仏で人生を悪に染めてはならない。　善とは真実の愛、慈悲がそこに存在しているかどうかである。　つまり直感で感じる確かな思いやりの存在である。私の言葉を肌で感じとって下さい。お願いします。　屁理屈はご免です。また人に勝つために努力をするより、自然に生きる方がどれだけ大切かと思う。善とはそこから生まれてくるのではないだろうか。真の安楽を目指そう。　地獄こそ、仏を必要としているのではという声がする。だがそうではなく仏になるためには地獄の業火を一度くぐらねばならぬのである。地獄は仏になるためにある。

　地上にも地獄は歴然として存在する。法華経譬喩品第三にあるように地獄の業火を消火しなくてもよい、ただ逃げ出せばよい、争い、諍いの中から。　地獄は地獄が好きで好きでしょうがないものが傷つけ合い、貶めあっているのだ。哀れだがどうなる。うちの母親の口癖である。「どうなる」。　よく解らず、いまだ見たこともないR会の人格完成なるものよりも、人として天の父と共にいること に感謝する。これが幸せ。私はイエスである。　愛さえあれば不可能に見えても、神を独占することはできるのだ。神は一人一人に存在するからだ。そして神はすべてに対し全力で公平に愛するのである。　私が打ち出しているのは新興

宗教ではない。原点への回帰である。神として。　聖書は、「一度、家も、夫、家族もすてた孝子さんは神に忠実、つまり愛に。お前の結婚相手には最高級に適している」、と、促します。覚悟しないとね。愛、生まれよ。でもね。私を結婚させ、この世の価値観に縛りつけようとサタンは画策している。私の貧困、独身状況は悪魔の体制を終わらそうとする聖霊の思いがあるのです。ですから真由子さんや、孝子さん、私が好意を持つ人との間には物理的。心情的に天の意志、聖霊の阻害の力が働く。そこで人間義人はふらつくのです。女性には失礼ですが。でも聖書は優しい。神の務めを果たさず孝子さんと契りを結ぶことを認めます。しかしそれでは悪魔の体制は継続されます。自覚した私。真実の愛の為、独身の今なら体制の崩壊を求め得る。結婚しないのは自己犠牲のようにも見えますが、やがて来る栄光の為です。私が愛し、また愛を下さる方たちよ、一緒に自由な神の御使いとなって永遠の命を生きましょう。　昨晩のメールはご免なさい。考え耽りすぎました。つまり聖霊によって、私の好意が発展しないように、孝子さんへの信頼が阻害されるということです。怪しまないで下さい。今後ともよろしくお願い申し上げます。　愛する人を見知らぬ男の閨房へと奪われた身。神として極端な話をする、少子化対策にはたくさんの二次婚、三次婚が出現すればいいと思う。同棲、事実婚も勿論オーケー。恋が存在するからです。　妾、重婚が許

されないことの意味。つまり戸籍上の結婚とは社会的信用を得る、経済的問題を解決するため社会通念上、仕方なく設けられている制度ともいえるからです。男は情欲の対象に女を所有する感覚か。愛のない家庭なら、離婚が正解となり父子、母子家庭が増えればいいのでは。そんな人達が欲望を小さくして、再び、心が広くて優しいパートナーを探し見つける。子供たちは自由、愛、平和を享受する。純愛から博愛へ。　「誰でもいいから一人選ぶ」これは違っている。「条件を付けずに思いやりにより勃起するなら、それが神の愛かも」その人たちは神に認められた人です。だが理性を持ち理屈で考える私には難しい境涯であることは確かだ。理想と現実か。律法がこの身から抜けない私より、寛容で差別のない神にふさわしい人は、他にいるのかも知れない。　ＤＶ、虐待、生まれた子に罪はない。弱いものへの暴力、許されてはならない。　私の人生を縛ろうとした、一途な女性を振り切り、尽くしてくれた純情な人を捨ててしまった。そんな中、今、愛の大切さをかみしめる。もっとたくさんの人と知り合うべきか。そして、もしたった一人という人が博愛のなか存在するのなら。私はすべてを捧げよう。束縛のない処に愛は光る。つまりたくさんのたった一人が存在する。人々の純愛の為に世の博愛と平和のために尽くされた先達に対し、心より尊敬と感謝をあらわします。　尾崎も裏切りに苦しんだがやがて博愛にたどり着きひとりの女性を見

つけだしたと信じたい。　自分の妻を独占したい。モラルハラスメントに繋がって行く。神を独占したい。実はこれは当然、当り前の心持である。神は一人一人に力の限りを尽くしたいと思っている。だが神を決して縛ろうとしてはいけない。誰に関しても言えるが自由はいかなるものにも阻害されてはいけないからである。そしてそこには神にしか顕せない、深い愛がある。そして勃起は不確実に生まれる。これは大人の女性に対し、その心の美しさへの最大のオマージュ（賛辞）として体現されるものなのである。総括すれば私は結婚してもしなくてもこの世ではどちらでもいいことになり、ただ対象となる女性の幸せが第一である。性交渉に至るかははなはだ疑問である。神は言葉、愛である。　次はある人の偏見、暴言である。いや本人は大真面目の正論だと思っている。スポーツ観戦が唯一の趣味の人に向けられてしまった。「勝ち負け、争いごとの好きなやつはずる賢いか、頭が悪く単純なやつと相場が決まっている。好みだから仕方がないだと。人殺し、盗人、詐欺師が個性、趣味になりますか。所詮、戦いを面白がってゲーム化したのがスポーツです。根にあるのは戦争と同じ名誉欲と闘争心です。そして歓楽、陶酔を求めてひたすら優劣を競うのです。勝てば官軍、負ければ賊軍。勝てば歓声と称賛、負ければ怒号と罵声。これが平和と言えるだろうか。エホバの証人も私と同様のことを言っています。ようは平和を愛するものは闘い、競争

を嗜好しないということです。あなたにはサタンが見えませんか。競技は代理戦争です。転嫁されている。そしてまた本当のいくさに繋がっていく温床となる。人々が勝ち戦の知らせに狂喜したのはそんなに遠い過去のことではありません。戦意高揚のため、怖い、怖い。　愛国心を煽り、また暴徒化し憂さを晴らす若者。競争の果て切り捨てられる運命にある選手たち。得をするのはハイエナのように群がった欲深な大人たち。これを支持する神経が解らない。　もしそのスポーツ自体に遊戯性があり勝敗が目的ではないのなら悪とはしない。だが勝負事から、派生する熱狂、理性の放棄。頑健、屈強を名誉とする価値観。介在するカネ。その志向性は極めて危険で人間性を損なわせようとするサタンの意志がそこにはある。フェアープレー精神など嘘っぱちである」。　　私も神である。競争、享楽、貪欲、格闘を認めるわけにはいかない。優しさとはやはり対極にあるものだからだ。　晩餐に呼ばれたのに色々、理由を付けて断った人たち、神の誘いを過少評価したもの、つまり愛に背を向けたものたち。母性愛というものがある、また家族を養わなくてはという父親としての構え、大切だと言う。しかしこの背後には子供は自分のものであるという意識が存在する場合がある。乳幼児、虐殺がそのことを如実に表す悲惨な例であり、根は深い。子供は天からの預かりもの、自分で養うことが出来ないのなら、素直、正直に誰かに委ねれば良いのである。

また神が自分のことをご所望ならば、喜んで子供を誰かに手渡し、ついていかなければいけない。それが愛に従うということである。世を自由、平和に導くとは確かな神（愛）への従順から生まれるものなのである。すべては神の意志である。嫉妬は悪である。美しく優しい思いやりのある、神より選ばれし女性は、神を大切にするなら結婚という枠組みを超えても、いやぶち壊しても（離婚とは違う。それは結婚という契約に基づいたものだからである。）愛し合わなければならない。悪徳を滅し、博愛に目覚める時、神の心は各位に訪れ、清らかな愛に、姦淫の罪は定められないのである。私は自然に生きる。神の意思を身にまとい。美しい心を持つ女性を求めて。そして不老不死が実現し性行為は消去されていくのかもしれない。本当は真由子さんを愛で独占したい、だが自由を制限するつもりはまったくない。断言できる。だからこそ恋をし、愛し続けているのだ。神の愛はここにも活きるのです。そして神の心を理解する男性も楽園へと入るのです。私は閉鎖病棟のデイルームにいた。スタッフステーションがうかがえる。真由子先生と部長先生が並んでいた。私は見た。真由子先生の素の笑顔を。彼に対する安心感にあふれ、敬愛と信頼に満ちた一女性の一輪の花のような微笑みであった。私は背を向け大きなガラス越しに外の風景に目をやった。サギが数羽、飛んでいく。こぶしを握り、込み上げて来るものをグッとこらえた。嫉妬、違っていた。

だがなぜか淋しかった。「俺は精神病患者か」。涙は出なかった。力が抜けて行く感じがした。これは現実だろうか。必然のような偶然、偶然のような必然が頻繁に私の周りに勃興していたからだ。医師と患者という立場の違い。ここから私の発信したく、学んだことは、優越感、劣等感はどこの位置にあっても当人の心の中に存在する限りは苦しみ続けなければならない。もちろんインテリ、金持ち、良家という特権階級にだけに認められる感情ではない。でもそこに見栄があり、存在する比重は高い。市井の人々は知っているのだ。「世間知らずは困るなあ」立場の優劣、職業などはあてにならないと。私は真由子先生の笑顔に、部長との親密感に、何か憧れに似た哀しさを感じたのだろう。彼らは医師として、経験を共有することができるだろう。コーヒーを飲み、会話を楽しむこともできる。仲間意識。　私の神としての信憑性についてはどう思っているだろう、真由子先生は。私はただの何もできない狂人か。社会にてこんな淋しいことはないであろう。私は生きて行くうえでの理論武装が必要となった。そしてそれが私の神としてのエビデンス（証左）にも繋がって行くことになる。「みんな、心が美しいことこそ唯一の絶対真理なのだよ。達観すれば、怒り、焦り、競争意識もきれいに消えてなくなるよ。そこに価値を置けないパートナーならいらないじゃないか」本当に、先生の美しい素の笑顔。私の生きて来た中で一番辛かった瞬間と言って

いいだろう。　　由美さん、熱が出て大変な中、イベントに参加されると聞きました。くれぐれもご自愛ください。御体心配しております。御身が一番大切です。仕事、犠牲は絶対ダメ。だいぶ御辛いみたいですね。こんな時でも私は反応します。聖なるあなただけ。早く元気になって下さい。聖書が促すので仕方ないです。神を拒んではいけません。私に身を任す決心をなさってください。快方に向かうでしょう。この神の試みの意味を解って下さい。　大丈夫ですか。観念の話ですから安心して下さい。その果て、皆、神の御使いになる。結婚制度の破壊です。兎に角、今は、安静にと願っています。　肺炎まで起こされ、ひどかったことを知りました。旦那さんは優しかったですか。そうなら仏様の功徳かも知れません。いずれにせよ、自由へのチャンスですよ。幸運な聖女よ。復帰、良かった、善かった。本当に反応するのです。また。不謹慎と思わないで。最大級の賛辞です、おめでとうございます。心配しました。お会いしたとき、「顔色悪いな」などと言ったから気分、害したかと。ご尊顔を拝し恭悦至極に存じます。とにかく元気でね。心も体も、そして深い魂の平安を祈ります。あなたの笑い声がまた響き渡ることを本当に願っています。ガンバレ。一番安直な応援です。でも今これ以上の表現は思いつきません。苦しむ人にあえて贈る、同悲同苦の言葉です。私に身を任すとは焦らずひたすら愛のため心を働かす。そしてあなたがイキイキするこ

とです。私の勃起は象徴です。あなたは苦しむことはない、神に愛された特権です。あらためて言うが、私に身を任すということは肉体関係を持つことではなく観念的に自由になることです。私の言葉が逆にそのことに対し否定の力をかけたのではと案じています。あなたの良心の限界を明らかにしたために。　ありふれた例文みたいな言葉が返って来ましたが。御辛い中私の繰り出した文言は少し思いやりに欠けた風に感じられたかもしれません。人を想うとき相手の立場を、推量するのは本当に難しいです。　婚前交渉は認められるか。私は知らない。姦淫とは違い、神は何も言っていないのでは。もしかしたら誰かが貞操観念という道徳を持ち出し縛り付けたのでは。私は何故、独身を保たねばならなかったのか。処女性の重視は男性の正統を残したいという本能からきている。そして自由への道標に結婚制度に対しては否定的にならざるを得なかったのだ。人一倍、結婚願望が強かったのに。　もし心の道徳的縛りや、嫉妬など悪感情がなくなったなら、思いやりの中みんなで大きなお風呂に入るのは如何でしょう。婚姻というものがなくなり神の御使いになり、互いに自由に愛し合う。資格は寛容であるだけ。人間が安楽になるには自己の欲望、また狭量、自縛などの不徳からくる絶望から離れ、魂が自由でなくてはならない。そして性行為に関しては、不老不死が実現すればもう必要はなくなるのかもしれない。どうでしょう、みなさん寂しいでしょ

うか。　ある若い女性が言う。自由が悪魔だ。それは違う。締め付けこそ悪魔なのである。過剰な礼儀という従属性の強要、これは人間性を失わせる軍隊などに見受けられる。　古典芸能などに見られる美しい所作。それは単なる形式主義から生まれるものではなく心の落ち着きから自然に顕現するものでなければいけない。心を縛るのは、サタンであり、神は、魂の、愛からなる、自由を重んじるのである。　神とは神である。神以外の何ものでもない。なぜなら神だからである。もし神が賢いものだと規定したら、「どのくらい、もっと、まだだろう」、青天井、基準は知らない。「神ならもっと美しいだろう」、糞を垂れても、尻にできものが出来ても神は神である。つまり測るメジャー、量りはない。神は絶対である。母はのぼせるなと言った。私は「神の概念さえも把握できないのに、逆らう汝自身の驕慢さを知れ」と答えた。神を地位として偉いとすると人間の価値観に陥る。神は悪心を持たず絶対の善なのである。そこから愛と正義が生まれる。すべてはただ自覚にしかない。仏陀もイエスも日蓮もそうだったことを付け加えておきます。　良心だけでは生きていけない世の中。良心の限界とは。親鸞は弟子唯円に歎異抄の中、人を殺すのも含め悪を犯すのはすべて業縁であると説く。では善とはそれほどあやふやなものなのか。ただ南無妙法蓮華経により心を浄化させなければいけない。己を小さくし、他を重んじ、天に名が記される

よう祈り続けなければならない。そこから魂の自由へ。悪を滅し絶対善に至る。善とは清き心である。私は聖霊の宮である。皆、神により生かされるのである。やはり神だけが絶対善。そして神を愛することだけが人々の善なのだ。神とは久遠元初の日蓮、南無妙法蓮華経。仏道とは自己を忘れるものであり無くすものではない。自らは思いやりを持って存在しなくてはならない。　先ほどの競技批判についてはかなり反発が予想される。甲斐バンドのほぼ４０年近く前に出された熱狂【ステージ】と言う曲がある。プロレスラーの小橋建太選手は腎臓がんの治療の中、この曲に励まされリングに復帰した。私は昔からプロレスは好きだった。見世物ショーだからである。スポーツと言うよりそこにあるエンターテイメント性が好きなのである。鉄人とよばれたルーテーズ、彼は言った。「プロレスはファンを熱狂させるものがつねに勝者なのだ」。テーズは１７でデビューして１９歳でＮＷＡ世界ヘビー級チャンピオンになる。バックドロップで一世を風靡し７０を超えてもリングに上がっていた。ジャイアント馬場は私のヒーローだった。親父と小さな白黒テレビの前でジンキニスキー戦、９０分一本勝負。どちらが負けてもならぬ立場だったのだろう。凄い、たぶん引き分けで終わったと思う。放送時間枠を広げてのパフォーマンス（当時そんな言葉、誰も使わなかったな）この試合は喜劇ではない男と男の真剣勝負と銘打っていた。覆面をかぶったり、善

と悪に分かれたり、強者とチャレンジャーに色づけしたり、皆、個性を持った夢の世界のひと達だった。暴力とみれば悪だろう。しかしサタンに立ち向かう勇気の鼓舞とみれば善なのである。芝居、見世物であるからこそ言える。正義は燃えあがり人々を奮い立たせるのである。プロモーターでもある馬場に、「支払いを渋ったり逃げたりする、きたない奴も多いなか、彼は必ずファイトマネーを渡してくれた。馬場は一度として裏切らなかった」とデストロイヤーは強く賛辞を贈る。ジャイアント馬場は馬場さんと呼ばれる人柄を当初からもっていたのだ。馬場は３８歳で引退し奥さんとハワイでのんびり暮らすという夢を捨てざるを得なくなり、還暦でも闘志をもちリングに上がることになった。そして６１に肝硬変で帰らぬ人になる。近所でババが死んだと騒ぐ父親に対し「ばあちゃん、まだ生きているよ」と認知症になったかと心配した年配の娘さんがいた。馬場の全盛時代、畳を叩いて馬場、馬場、と熱戦にかじりついていたおじさん。「ばあちゃんに、ひどいことを言っている」と虐待通報されかける。それほどみんなに愛されていたのである。６０の馬場は若手の得意とするチョップを胸に何発もうけまだまだと笑っている。「社長は、まだそんなものかと笑っています」解説者は叫んだ。馬場は天国でゆっくりくつろいでいるだろうか、優しき巨人は得意の絵を描いている静かな姿の方が似合うのでは。ブッチャーは馬場を野獣のような男だ

と表現した。馬場の相手を包み込んでしまうような愛のような闘争心。天国に行っても消えないだろうと思う。ジャンボ鶴田と組んだ。スタンハンセン、ブルーザブロディー組とのタッグマッチ、最高だったぜ。今プロレスをノスタルジーでしか感じることのできなくなった俺がいる。　　甲斐バンドの熱狂【ステージ】という曲はその中、「落ちて行くやつもいる」「輝き続ける者もいる」とさりげなく生存競争に触れる。また甲斐よしひろはブルーレターという曲でタブーとされた堕胎と向き合い、そのことを情感込めて歌いあげる。あまりにも美しいメロディーラインは出来事の美化のようにも聞くのは誤りだ。当事者達にとって耐えられない辛いそのこと。このラブソング。ネガティブなコンセンサスを生み出すことによって安易な堕胎に対し歯止めをかけることへ繋がっていくと信じたい。暗闇、悲しみの渦中、孤独に陥る者たちは共感を通し救いとなったのは確実である。哀感にみちた曲調は償う術も知らなかった人々へ、贖罪の道を示し、またそこから報いが生まれるのを信じさせる力がある。しかしこの曲が甲斐バンドのカラオケランキングの4位にあることをどう捉えればいいのか。私はひとり静かに口ずさんでいた。堕胎、本当に罪なことだ。その後、夫婦であろうとセックスから離れて行く方向性が当然であろう。抑えきれない情欲、男女どちらのエゴ。悪魔の領域である。しかし私にとって、水子の霊による差障りは、人間としての更生を

促し、神としての自覚をもたすことへと繋がった。そしてまたこの罪は、イエスによる報いの意味と、南無妙法蓮華経の意義、その把握へと貢献することになる。ただかつて愛した女性を犠牲になどしたくはない。苦しんでいるなら私はきっといつか幸せを与えることが出来るはずだと信じている。神としての自覚。神、イエスの名において、罪はことごとく赦される。

私は少年のころボクシングも好きだった。父親の影響が多分にある。フィリピン、メキシコ、プエルトリコ、タイ、韓国など貧しい国から海を越え、親、兄弟の生活のため、そして国の威信をかけ世界タイトル戦に臨む、若者たちがいた。一つ間違えば死に至る、ペアナックルの殴り合い。こんな解りやすい人生の縮図があるだろうか。父は何故、私にパンチの打ち方まで教えて、残酷な現実に直面させたのだろう。それは侮辱には負けるな、サタンに負けるな。そんなメッセージがあったのでは。そして15ラウンド格闘し続けた二人の男は抱き合う。お互いの境遇を想い。なんの恨みもない人間と殺し合いを演じた。そのことの共有。互いに痛いほど、相手の立場を理解し、同情し想いながら。そして、罪のない彼らはわずかに支払われるファイトマネーさえも飢えたハイエナたちにむしゃぶりつかれ骨だけにされたのだ。金儲け主義が伸長されチャンピオンベルトの数も幾つあるのかわからないほど増えた今、中流家庭に育った、ただ目立つために、

一時の栄光を求めテクニックを誇示し合う選手たちの姿がある。私はもはや闘いを目には入れたくはない。少し豊かになった現在、かつての悲劇を望んでいない人たちは確実に存在する。あえて瞬間の勝者をつくるスポーツ、なにが目的なのか判らなくなった感じがする。もう傷つけ合うのはよそう。ひかり輝くのはやはり愛だけでいいのである。かつて皆、生活のため仕方なく殴りあったのである。スポーツの本質とはそうでなければならない。体を鍛えることを含め、食う為に。筋肉を付けるのは、そう、仕方ないからである。自らを誇示する喜びや、半端な栄光だけのために身体の苦痛を望むのはどうかと思うのだが。　「聖人の休日」のなかホームページを作成した。すこし御志をうける。悩んだが「母に好物の刺し身をおなかいっぱい、食べさせてあげたい。」これをモチベーションにしようと決めた。しかし今、聖書は「待った」をかけた。「飽食は貪欲に繋がる。人間としてすべては霊的な道へと歩まねばならない。母親への親孝行のように見えても違う。法施をするのが息子の役目である」。結局、先の本にとってつけたように表したが、生活の心遣いは思いやりからでなくてはならない。御刺身は適量、お分けして二人でいただき、それに深く感謝したい。　釈尊の言葉によって声聞からサトリを得た阿羅漢。釈尊の肉声を聞けない末法には生まれることはできない。人間の足で果てしない宇宙空間を渡れぬように、今はただ、妙法蓮華経と

いう5文字が体現する仏法、菩薩行をもって、仏陀の覚りを仏種に結び付ける。それは星から星へと渡る大きな宇宙船となり、人々を根こそぎ成仏へと向かわせるのである。　先に婚前交渉は認められるかと書いたが「それは自制心がないから行われるのだ。妊娠、病気、悪感情が存在するのに安易な物言いをするな」と母が言った。母は単純そうに見えて核心をついているのかもしれない。何故セックスをする、答えは夫婦だから。操を守りひとりの人にすべてを尽くす。それが神の決めたことなのだ。そうか俺もそう断定したかったのだが、今あまりにも性事情は乱れており、世の救いを念頭に置くとき正論を打ち出せなかったのである。ひとりの人と夫婦だから契りを交わす。真由子さんへの気持ちが整理されて来た今、また正規の道に戻ろうとしている自分がある。なぜか、それは新しい恋を見つけたからかもしれない。ただ一人を愛す、そこは外れてはいけないのか。かなり紆余曲折したな。　謙虚、謙遜と言うものはポツンとあるものではない。生きる姿勢に現れるムードのようなものである。　やはり私は一人の女性だけを愛すのは難しいみたいだ。アガペー（博愛）と矛盾するからである。聖霊のような悪魔、悪魔のような聖霊に邪魔され続ける。答えは、来たる世は皆、神の御使いのようになる。これが真実だろう。聖書に記されている。外せないだろうな。しかし真由子さん、ああ真由子さん。あなたへの愛は一度として消えそうに

なったことはありません。本物です。みな神の御使いのように暮らしましょう。信じましょう。　生存競争。落ちてゆくものも流れ星のように輝いて星屑になる。それもいいかもしれない。　「御賛同していただける方へ」と、サイトのはじめに表示致した。原案は私が作り、詳しくそこらへんに通じている小澤氏に推敲を依頼した。ひとつの文言が気になった「寄付金」という表現である。「御志頂ければ幸いです」。でフェードアウトするのが好いのでは。つまり奥ゆかしい。しかし目的があやふやで卑屈さも否めない。寄付金という言葉が一般的だと小澤氏は電話の向こうで笑っている。テクニカルなことは彼にお任せであるので、私も引いた。あらためてこの一文を読んでみた。自然な感じがした。「これでいいんだ」私は納得した。　生存競争、どこに力点を置くかだ、どの世界もテクニックに長けたリアリストが生き残っていく。だがその前に人間として真の協調性が必要だということである。武士は相身互い。みんな愛する家族、人たちがいる。だから素直に暖かく。この世の名誉はいらない、ただ天に名が記されることを目指そう。それは優しくひとえに周りの人たちを愛することだ。生存競争なんか意識することはない。自然に流れ、神仏を信じ、手を合わせ自分の道を歩む、愛ある人として輝ける場所は見つかる。そしてそれが本当の人間合格であると言えるのではないだろうか。学歴、収入、容姿この世の価値観はみなウソ、愛さえあれ

ばいい。君の輝く場所は見つかる。ただそれは優劣ではない。輝くという意味をよく考えてね。私は今、障害者就労支援B型施設のカレーハウスで皿を洗っている。私の居場所である。店長の林さんや、利用者のあゆみちゃんと何気ないことで、微笑みあう、それが幸せ、そう幸せを感じる。これが輝くということでは。私のステージである。愛や夢に悩んでいる人になにかを感じてほしい。富と名誉の獲得の為に戦争まで発展する、悪魔の体制を肯定してはいけない。悪魔に抗うこと、それは自分の好きな人たちと好きなことをして好きな場所で愛でもって楽しく生きて行くということである。神はそれが絶対だと思うのである。永遠の命を得るという幸福のために。　この期に及んでも、まだ私が「偉くなって世界征服をしたいと思っている」。と言う人がいる。きっと反作用として、その人、自分は人より偉い、もしくは偉くなりたいと思っているのだろう。カネ、富を追求する。つまり生活圏が全く違う。私の過去、意味ある悲劇を消去するような発言をする、かつて兄のように優しかった彼を、聖書は「彼は非情の世界を肯定するようになった」と語った。何度も言うように神は地位的に偉い偉くないとかの価値観から離れ、また権力で人々を牛耳ろうとか、露ほどにも考えていない。偏見と差別より離れ、威圧、威嚇そんなものが存在しない、平等で公平な世界が誕生することを希望しているのだ。個人の名声を求める、野望などはないのである。

だが神は絶対である。なぜか、それは、神は悪心を持たず絶対善だからである。即ち絶対でなければならない。そうでなければ信じる対象になり得ない。この世の価値観に浸かるうちは理解できないだろうけど。神は目をくらませている。人々は様々な悪感情からくる固定観念、イメージで神を測ろうとする。思いやり、愛ある人には容易に認識できるのに、カネ、名誉に凝り固まった人には神は見いだせないのである。そして人々は神の憐れみを受けるため不従順とされている。これは愛と一体になった、裁く神にとっても難題である。心あるものは神の下に集い安らかなる生活を送るであろう。皆、幸せになれ。神の恩寵がいきわたるよう願います。永遠に生きるために。　富と名誉だけをいたずらに追いかけるのは悪魔の世界である。そして愛への実績、結果によって与えられる名誉はある。ことさらそれを誇示するのは下品だが罪はない。「使徒行伝第２章４７節　神を賛美し、すべての人に好意を持たれていた。そして主は、救われるものを日々仲間に加えて下さったのである」。この聖句が目に飛び込んできた。神の名誉、栄光、温かく存在するのである。つまり愛情に溢れかえる人たち。一方、驕慢な人たちに対し、神の栄誉を遠慮がちに書かなければいけないこの世を、神の失念が覆う。聖人はお前かと聞かれた。有り難い、正面切って話ができる。聖人とは、それこそ聖人君子を思い浮かべるだろう、潔白で、美しく誠実で道理にかなっている。

だがここで少し愛、思いやりという甘味を含ませる。まあこんなところか。でも実は、私が思うのは聖書にある、聖霊の宮として、神の想いの中で作用される人物が、聖人だと思うのである。すべてが神の善にかなっている。素晴らしくないかい。素直な人でないと判らないか。私は「義人の教え」と銘打ったが、それはおこがましくないかという人がいた。解っていない。それは世間の価値観である。謙遜を美徳とし、人よりへりくだった態勢を保てというものであろう。何度も言うが私は神である。絶対なのである。理解しようともしない人、つまり神を求める意志の無い人には、このことはどう説明しても解ってもらえないだろう。すべては優劣、勝ち負けで計ろうとする人の傲慢で、驕慢な見方が曲解をもたらすのである。謙虚に従順に耳を傾けることを待ちたい。私を汚すより聖霊を侮辱するものは、その身、害に至る。ことさら罰を振り回したくはないが、覚悟しなさい、愛なき者たちよ。イエスの前に懺悔しなさい。善良を信じる罪人たちよ。　仏教では因縁により罪は生まれ、本質的に悪人は存在しないという。やはり、罪を憎んで人を憎まずが、基本にあるからだろう。そうであってもイエスの教えと矛盾しない。罪人はイエスを信じることで罪が赦される。全ては関係性より生まれる。人の子は第三者を救えない。同じたたき台に上がった目の前の人だけである。頑迷な人には説教してもしようがない。そして皆、侮辱を回避するため、相手を

持ち上げろ。褒めちぎれ。特に対決的な奴には。あとは傷つかず、神にそっと祈ろう「天の父の名があがめられますように、御国が参りますように」とそれだけです。自分のエゴを薄めてまいりましょう。裁くのは神に任せて。　阿弥陀如来が全員、悪人、老若男女、無作為に救ってくれるという。ということは阿弥陀如来でなくても誰でもいいということではないのか。なにも考えない、思いやりも持たない善悪の判らないそこらの、不逞の輩でいいということか。おかしいだろう。

サタケッチは私の本は興味がないと切り捨てる。シャイな彼だ、読んでいるかも。彼は二週間に一遍必ず自転車で献血に行く。エホバの証人は輸血を禁じている。永遠の命を得るためだという。さてどちらが神に愛されるかな。心の奥に深く入り込むとき答えはおのずとあらわれてくる。　罪人、義人の振り分け。その中から善人、悪人が選択される、そして神の子が聖別される。　自分が自由になりたかったら人の心と法を知れ。　先祖供養と釈尊（仏陀）は結び付かないと思っていたが、先祖への愛がなければ、誕生とともに母を亡くした釈尊の苦しみ、そして彼の有り難さは本当には理解できなかったであろう。つまり先祖供養は方便であり、成仏への一番大事なものであったのだ。ある時期は執着に繋がるのではと懸念が私にはあった。しかし感謝と自立は先祖の喜ぶことである。先

祖供養とは執着と違い、深い慈悲（思いやり）である。先祖に対し願い事をする。人々の平和と成仏を祈ることが大切である。一方、老父、養母の面倒を看るということは切り捨てがたい執着であるとみる釈尊、ただ犠牲にはなれなかったのだろう。　先祖供養を通しての親孝行は故人のことを残されたものらで語りあうことが一番である。不幸が幾つも続き、願いの叶わない人は菩提寺との関係を振り返ってみるとよい。驕慢になっていないかい。経典には僧侶にはどんなに徳が薄くても供養しなさいとある。御坊様への供養から仏陀の慈悲を知るためだね。

　戦後、間もなくＧＨＱは、復讐につながる忠臣蔵をはじめ仇討ちものの芝居、演劇の公開を禁じた。いかに人間というものは扇動されやすいか知り、危惧したのであろう。そして本物の愛を訴え、提示される演劇等とは、その媒体、ツール（道具）、また表現されるコンテンツ（中身）が価値あるものであり、プロパガンダ（政治的宣伝）と違い、人間の本質、本来の理性の大切さや、寛容性をあらわにするものでなければならない。影響を与えることを鑑みれば、いたずらに対決的熱狂を煽るのを目的とする、競技観戦とは根源的に違うといえる。　自由があるということは、はばからず悪口が言えるということであり、イキイキするには正直でないといけない。　釈尊はなぜ出家したのか。生まれると同時に生母マヤ夫人は亡くなってしまう。母の死と引き換えに命を受ける。このことは彼

の生涯に一貫して影響を与えたのではないだろうか。幼き日より期待される重圧感。富や権力、名誉の為に命のやり取りを繰り返す武士階級。猜疑心、嫉妬などの悪感情。策略、謀略、裏切りなどが周りを取り囲み、いつ殺されるかもわからない。下剋上の世界、マガタ、コーサラという二つの大国に挟まれた非常に不安定な位置。監視。注視は続く、顔色を読みあう作り笑顔の家臣たち、簡素に生きたいのに、届けられる贅沢な品々。思いやりある彼は困惑しただろう。ある日知った、外の世界。四門出遊、生老病死という苦の世界。自由への憧れ。もうもたない心も体も。妻、ヤショーダラが聞かせる、懐妊。煩悶の末ラフラ【障碍】、彼は生まれた子に名付けた。それでも自由への脱出を諦めきれない。何故人々は何かに束縛され苦しみ続けるのか。輪廻。その原因と解決策を知りたい。そしてある夜、彼は愛馬、カンタカに乗り、不思議と開かれた門から城を抜け出す。父も、養母も妻も、生まれたばかりの我が子さえ捨て。野垂れ死に覚悟で。厳しい修行の果て苦行も享楽もない中道という位置に気付き、彼は執着と渇愛を滅し、智慧と慈悲に満ちた、正しい生活を送ることの大切さをあらわし、仏陀となる。釈迦国は奴隷の下女を大国コーサラの王に嫁がせた。生まれた王子が留学した際、釈迦国の人々はその出自から彼に侮辱を加える。成人した王子、瑠璃王は恨みから釈迦国を攻める。その前、木の下に釈尊（仏陀）は立たれる。しかし四度目そ

の姿はなかった。釈迦国はこの世から消えた。自由を得るため、釈迦国、城から逃げだした釈尊（仏陀）と、国を守るため最後まで戦った勇士と、どちらが尊いだろうか。私はやはり森羅万象、生きとし生けるものの平和を望んだ自然体の釈尊（仏陀）だと思うのだが。　　母にとって私の祖父母、父親はそんな善人だったろうか。母が父と見合いした翌日に結納金を持参して祖父母が現れたという。ここに大阪釜ヶ崎の土方の立ちん坊から紡績工場の職長までに上り詰めた男と、仲居頭として辣腕をふるった祖母のしたたかな目算が見える。狡猾である。純潔を守ることと洋品を売ることしか知らない適齢期をはずしそうで計算なく結婚を覚悟していた、真っ直ぐな娘を手玉に取り、嫁に来るよう仕向けたのである。一方、母は自ら稼いだ金で嫁入り道具を商談、駆け引きし、値切り、用意した。相手をした売り子は舌を巻いたという。父は一緒に連れてきた少年と見合いの日ふざけ合う。母は優しそうに見えたという。演出かも知れない。ともかく、母は祖父母の御めがねにかなったのである。そして峻烈な商売人、いや人間、大人へと教育が始まる。祖母のそれは病弱な息子と自分たちと家というものの将来を見据えたものであったのか。家という概念がまだ重んじられた時代である。個人の尊厳の意識は薄い。母はある人から「旦那、足、引きずってないかい」と父の脳動脈瘤の後遺症を示唆される。そしててんかんの発作。彼女は騙されたと思った

という。しかし彼女にとっては戻れない運命だった。私を初夜に受胎していた。祖母は婚前にできた不義の子だと罵った。母は堕胎を意識することを含め、自らを追い込む。「しっかりしなさい」優しく支える女性がいた。「俺の子に間違いない」父は宣言する。祖母はあくが無い彼女の貞潔さと明るさに、ある種の嫉妬を抱き、また人の持つ暗部をこれからの母のために伝えようとしたのでしょう。祖母は黙りました。母は何があっても私を生み守り抜くことを神仏に誓います。祖母はその覚悟をさせるために残酷な苦言を吐いたのかもしれない。父はサタンとずっと戦っていた。その義侠心の中心に私は降臨したのである。宿命を感じる。そして皆が去り、母のわがまま、強情と天真爛漫、それが花開いた時、つまりすべてがそうでなくてはならなかった意味が解明されたとき、幾多の彼女を傷つけ、また彼女が傷つけた人々の心の中に明るく愛が映ったのである。母はどんな苦労にも参ったとは絶対言わなかった。彼女は選ばれた聖母マリアであった。

「参加することに意味がある」オリンピック。アマチュアリズムからコマーシャリズムへ。結局はカネと名誉。それを観て楽しんでいるのが信じられない、と麻雀ゲームに夢中になるセンターの若者たち。どちらが果たして正常だろうか。「人それぞれだ」という安易な物言いをしたくない自分がひとり真夜中テレビの前、椅子に座っているのである。「誰も愛なんて思索しないのかなあ」。　人の考

えなんてそれぞれ。価値観も違えば立つ位置も違う。自分に固執するかと思えば他人の為に尽くそうとする人もいる。信条、生活圏の相違。皆に解ってもらう、ユニバーサルサービスのようなものを描けるわけがない。また必要もない。しかし真理を書かなければ。理解力と表現力は神より与えられる。それは真摯にお互いを大切に想う人たちの資格と権利である。弱きもの達よ、弱さを誇り、声を挙げよ。「俺は弱い。だけど真実を知っている」と。それは愛である。　寛容であることは大切ではある。善悪を決めるときにこそ、外せないことになる。それを訴える私を、罪がないと判断するなら、それが最善なのである。　弱く、不安定だった私にとって、真由子先生は逃げ込める安全基地だった。そういう認識でいいのだろうか。　神と悪魔の関係は一般の人間社会を単純化し、善と悪に分けたもののように見えるが、逆に人間関係を良くも悪くも複雑化させたものである。ただ神は普段は穏やかで優しく、いざ非道なことに関しては激しく憤り怒るのである。神は暴力を示さず愛を鼓舞するのである。悪魔は狡猾で威嚇して己を誇示し残酷だが、いざその場に立つと神の前、その愛の光に逃げ出すのである。人間は自由意思で悪魔を選択してしまった。権力を望み、上昇志向になり猜疑心を掻き立て争い続けている。悪魔は揶揄という侮辱のなかにも意識され、心あるものは対象に真実を明らかにすることは憚るのだ。不美人の子に醜いと言ったら

傷つくように。悪魔の分裂の遂行に加担しないように、気はいつもしっかり持っていなければいけない。人を試すのも良くない。ただ誠実に、何度も言うがひとを傷つけてはならない。酒の談は気持ちが緩んで失敗を犯す可能性が高くなる。ユーモアも機知も行き過ぎれば傷つけ合いになる。皆様、経験上、ご理解あるはず。心を引き締めあれ。　　そこは工場のような病院だった。入った人が順番に死を迎えるのだ。まるでノルマのように。故意だろうか。そこまでは思いたくない。一体誰にその責任があったのだろう。責めれば誰でも悪人になり得た。これを変化させるには権力を握らなければいけないか。うっすら脳裏をよぎった。ボトムアップで問題提起をすれば、上の方で反応し動いてくれるのでは。特に人事に関して。受ける側に、つまり上層部には良心、善意が残っていることを信じたかった。そして私は愛をもって犠牲になり最後に悪を退治するような、勧善懲悪の芝居を地で行くような経験をする。私は生活不安に震えながらも身を挺し改革を求めた。最大の悪は中間に位置する、カネと名誉に取りつかれた幾人かの男女の存在にあると信じた。卑怯で貪欲で幼稚なやつらであった。今振り返ってもやはり悪人といえるのか。これが大人の世界、世間であろうか。自分の立場ばかりを意識し、情報を操作し、職員の悪意、悪感情を高揚させ、分裂をもたらす輩。物事の評価は縁によって遷り変る、諸行無常だ。修羅の巷、彼らから観れば、私

は大変な極悪人の仇であったろう。　共産党シンパの女。そこから生まれる経営者サイドへのルサンチマン【恨み】は明らかに院内に異常な事態をもたらしていた。勤勉より怠惰に価値を置く。彼女からすれば私は安定を乱し、生活不安を煽る大悪党であったろう。しかし正義は私の心に歴然と存在していた。やるしかなかった。私は勇気ある、たった一人の漢に成り上がろうとしていた。彼らが心を入れ替えるか、その首を叩き切るか、その二つであった。院内を一つにまとめようとした計画は成功した。私が去った後、労働組合は立ち上げられた。私はそこまでも念頭にあった。私は清廉をもたらす改革の、魁、捨て石なればと真剣に思っていた。カネと出世はその時点でどうでもよかった。　伝説になりたかった。いつかこんな奴がいたと、廊下の片隅で語られるような、そしてシェーンのように去って行こうと何処かで思い描いていた。かっこよく。　しかし結果は目的を果たしたような、いないような形での無残な精神疾患。だからこそ伝説になり得るのである。神が自らに謝る。「あの日の自分にご免なさい」。「よくやったね」。神が微笑む。私は英雄に憧れただの負けず嫌いだったともいえる。だからこそ悪魔に対し愛の一撃を加えることが出来たのであろう。私が許せなかったのは、自分の権利だけを振り回し人の痛みを知ろうともしない人たちだった。　悪人に見られている上層部。彼らとて努力はしただろう。人は死ぬのだ。人間らしく亡

くなってもらう。そこにはむしろ穏やかな笑みが大切なのではないのか。温かい空間。それを己が欲望だけのため策謀、策略を加え温かさを捻じ曲げる、その事務的存在が許せなかった。そこに反逆した当時を振り返り、取りあえずはホワイトカラーだとして持っていた、つまらぬ高慢まで含め、私というものを仕方なく全肯定してあげようと思う。　尚、また興味のある方は拙い書きものではありますが「白くて紅い日々」をご参照して頂ければありがたいです。この病院勤務時代を振り返ると書き連ねたいものが、次から、次へと湧き上がってくるのです。何度も取り上げすいません。ここが私の神としての正義の源泉であるからです。脳科学で言うと前頭前野が発達していない若い頃の思慮だそうで、今ならどうするかなあ。少し躊躇するのでは。いや多分、持って生まれた性根とやらは無理にねじ曲げることはできません。和して同ぜずという気持ちで悪に立ち向かえたのではと思います。しかし職員の人格向上と意識発達には、少しのスパイスを効かせる、生活不安も、ある時期、必要だったのでは。相手の気持ち、痛みを知るうえで。私は神である。法華経譬喩品のように火宅より逃れる。そんなことはできなかった。改革しなければ、信念にした。最近、障害のせいか、年齢のせいか、チャレンジ精神に欠けてきた。首をもたげた生活不安に私は言う。人間いつかは死ぬのだ。着るのではなく脱げと。　　独り、姿見に年老いた自分が映ってい

る。俺はただの精神疾患の男か。神ではないのか。いや神だからこそ、枕する所がないのだ。孝子さんだけ理解されたね。いや実は理解されていなかったのだね。「枕する所がない」とは聖句です。狐には穴があり、空の鳥にも巣がある。しかし私【イエス】には安堵する場所はないという意味です。彼は少しネガティブになったのだね。つまり人というものはなかなか正確に自分を判断してくれぬものだ。そしてまたそれを期待してはいけないということである。でも理解してくれるのはやはり孝子さんだけかも。秋の夜にふと己が姿を映し振り返る時、物悲しくなっただけのこと。野暮なオチになったな。心配無用です。忘れて下さい。障害者の戯言です。あまり気にしないで。真っ直ぐで優しい人はすぐ答えを出そうとするから。孝子さんは「私がただ淋しかったのだ」と思ったという。そして「理解されないイエスの義、愛。私と同様、聖書のイエスも少し沈んだのでしょう」。という説明に理解を示してくれた。ありがとう。　　霊は存在すると感じる人には存在し、存在を否定する人には当然のごとく存在しない。しかし先祖供養をはじめ霊の存在を信じた人に幸福の益は大きい。つまりこちら側の姿勢、想いに霊は応える。極楽浄土ではなく、この世にある人の為、成仏のために霊も活きる。相手が聞く態勢にないと私は何も説けない。かつては対象によっては言葉を発することさえ悪霊なのか聖霊なのか、止められていた。聖霊は私の固定概念を霊的

体感にて打ち破り規格から外れることの大切さを教えてくれた。だがそれは聖霊による私の自由意志の妨害にもなった。科学の力つまり薬によって制御されている。そして相手が受容的になったとき言葉は溢れ出すのである。これが、仏陀の所謂、対機説法である。　北朝鮮、金正恩は地下街道を通ってロシアへ亡命すればよい。そして「ピョンヤン無血開城。そうなればなあ」。少し神は呟いた。神は完全である。人々の悲しみに出会うとき超然としているのが神であろうか。一緒に共に悲しむのが人格神である。そして、今、人間である彼はどこかで自らが神であることを意識し自覚している。不安に駆られてもどこかで冷静に、自分を見つめ、見守る霊の存在を、感じている。　聖霊の宮。つまり完全とはその場、その時に発せられる彼の言葉と態度にある。すべからく最善である。それが神、私である。　仏になるのは人に認められ、名誉を得るためではない。その対極にある、何もかも捨てたところ、欲望の炎を消した、静かなる主体性への到達にある。そんな人いないようで結構いるような気もするが、やはり少ないか。いたとしたら多分下流の市井の人の中に存在するのだろうね。無欲の人。　国、領土は神が決めるものです。区分されたのは、深い情緒から、互いの信頼が生まれ、愛（アガペー）へと向かっていく、方便でした。そして今、世界中が一つになるべきです。ＥＰＡ，ＦＴＡ，ＲＣＥＰ，アセアン、ＥＵ，ＮＡＦＴＡ，経済

の連携協定です。そして宗教協力という名目の下、繋ぎ合わせ、おのが団体の権威づけに利用するものもいる。教義ではなく会員数、集金力で盟主になる、経済協定と一緒である。もし宗教の世界で発展するなら、すべての人に教えを開示したうえで、どこの何が正しいのかを見極めさせるのが肝要であろう。「実は自分処だけが正しい」。矛盾だ。いい加減にしろ。　　北朝鮮は中国とアメリカに挟み込まれ、取引のカードとして金正恩はロシアに亡命し無血開城。ここが落としどころであろう。そして北朝鮮は中国寄りの体制を受け入れるべきである。半島統一など視野におかず社会主義国として先達に倣い経済発展を目指すべきだ。北朝鮮の人はいずれ中国に感謝するようになるだろう。脱北者は競争社会の韓国にいるより帰郷したいと嘆くという。皆が、笑い合い田畑を耕す、そこには日本人が忘れかけた、生活風景があるかも知れない。コミュニティーの発達の中から助け合い、譲り合う、そんな人民に優しい経済発展があり豊かになる。バラ色の国、北朝鮮。経済発展は大事だが、統制の無い市場開放は絶対行ってはいけない。まず食を確保して、そして市場操作。共産党大会が開幕した中国。人民元の為替まで操作して上手く社会主義を維持、発展させようとする。ゾンビ企業と言われる国有企業もつぶすな。雇用が大切である。天安門事件の頃、民主化を求めた学生は金持ちの中間層としてニヤついている。苦労して這い上がった習近平よ。貧

しき農民、労働者を切り捨てるな。儲けた奴らから税をふんだくれ、それが真の社会主義だ。北朝鮮の指導部はちゃんと学べ、人民を食わせろ。言論統制は必要だろう。フェイク（儀）ニュースが多々ある中で猥談は自由な北朝鮮。少子化政策ばっちりだ。飢えの中、ユーモアはどうなっているのだろう。経済制裁、お互いの不信感から生まれた恫喝による外交。北朝鮮よ、中国共産党シンパよりノウハウを教えて貰うのがいい。彼らは成功した社会主義モデルとして、政治経済形態を輸出したいみたいだから。かつて日本が中国へ技術供与していたみたいにね。また門外漢な神の独り言である。愛あるところに発展はある。　神という霊が現れた時点で崇拝すればこれはもう偶像崇拝になる。ヤハウェ、母音の使い方によってエホバへと移り変わった。エホバか神の名だという、その意味合いは（在るもの）。しかし神は霊である。きわめて生臭いエホバの証人たち。エホバと連呼し涙を流す。「神の名をみだりに呼んではいけない」、モーゼの十戒にある。ヤハウェはモーゼが訊きだした神の名ではあるが、それは固有名詞では無く、ただ神としての意味合いであったろう。とするとエホバの証人に罪はない。しかし彼らはエホバが神の名だと言い張るのだ。どうしたらいい。そしてイエスの誕生。彼は宗教的天才であり神業の演出をなして奇跡を行う神である。イエスは深い愛をもって、人々の罪の贖いのため、神である証明を十字架の死にて示す。神の名

とその真意。人として生まれたときに運命づけられたように名付けられる。イエス、ヨシトその意味は【よしわかったぞ】というポジテブシンキング。そして寛容にある。イエスの生まれ変わり日蓮の登場は、人間は勿論、森羅万象を成仏させるためにであったのである。「聖書に導かれて南無妙法蓮華経」。霊としての神の名を呼んではいけない。拝み信仰はブラックボックスで愛を見出せなくするからだ。神が人として生まれ、命の平等を顕わしたとき、真実の幸福へと展開するのである。イエスは「神を崇拝しろ」とは言ってはいない。「ただ愛せよ」と言っているのである。それは周りの人を愛すること。そして愛することは神の子として永遠の命を得ることに繋がっていく。

「救われてほしい」。宗教団体のキャッチコピーである。これは当事者と先導者、苦しいばかりで思ったような結果は生まれない。　救われる者は決まっている。予定調和である。だから声を嗄らすな。信じられないものはそれでいいのだ。それでいい。自分を大切にし、となりの人に気が向いたら声をかけたらいい、それでいい。　私は竜の口へ連れて行かれる途中、仏法を守る善神とされる八幡大菩薩を叱りつけた日蓮である。私は神棚に参るのが昔から苦手で苦痛だった。正月、女性である母がいつも榊を挙げ、札を差し替える。聖書の神である私が天照皇大神、氏神が祭られている神棚に何かを願い、頭を下げ参るわけにはいかな

かったのである。今まで苦しんできた経緯に納得がいった。私はお釈迦様が教義によって、人々の苦しみを抜きすくう。そんなお姿に忠節を尽くしたいと思っていた。目に見えない力、世界を軽視していたのだ。だが今、仏の力、南無妙法蓮華経を信じ、行者を守護する善神の癒しも確信した。そして仏の清い心が、気まぐれなカミ等に存在するか疑問だった。聖書の神である私でさえも仏陀の前では弟子だった。来年の正月は善神であり皇祖でもある天照皇大神の御札だけはもらい、氏神は忌避することにしよう。祝詞もやめよう。母もやっと納得し決心してくれたみたいだ。それでいい。　神は観念であっても、人になっても、欲望をただかなえてもらう偶像崇拝は認めてない。人は一途に愛を信じ生きて行かなければならない。そこに幸せは存在する。　そして経済的問題、世間体、婚姻を維持するためのモチベーションである。来たる世、人は縛られず神の御使いとなるのである。

（第3章）私の書きもの。純粋に正直に自分らしく正義に燃え、紙面にぶつけている文様だと思う。皆様、各位、私の愛を感じて頂きたい。この先、私が神であり日蓮として活躍するのはどうでしょうか。顕正会、解散後の仏国土建設は任せてもらえますか。雄さんこれ以上私に批判的なことは不敬であって、罰に繋がります。私は少し気負った感もある。だがあえて申し上げている。逆風に負けぬため。私は何かを崇拝したり、自分がされたりするのは嫌なのです。自由を奪われることも。人々を深い愛にて、あらゆる呪縛から解放してあげたい。雄さん、あなたに罰が来ているのが解るでしょう。私は楽しく平和に暮らしています。組織にて主体性をなくすような活動はしたくありません。サタンの気配がします。ハッキリ言う。サタンとはあなたを焚き付ける、そばにいる女だ。ご用心のほど。神はいつも泣いている。日蓮も同じくこの宇宙を創造した罪に。南無妙法蓮華経。

愛というものが不確かだと言われるが、あなた方夫婦間には愛が存立してないのですか。そして真理への到達が主旨ではなく、私にディベートで勝つ、それだけが目的であるなら、あまりにもお粗末な心情である。確かに罰から逃れるには南無妙法蓮華経を唱題するのが大切です。しかしそこには罪を赦す、即ち神の権威に基づく愛が必要です。イエスの名において。

雄さん私は顕正会に入ったじゃないですか。それはあなたへの友情つまり愛からです。本も二冊購い、けっ

こう真面目でしょう。まずは良いとしましょう。　南無妙法蓮華経は仏陀のサトリ、日蓮の宝号。つまり究極の思いやり、愛なのです。執着とは違う、博愛、隣人愛。神の摂理です。だからイエスは復活し成仏し日蓮として示現しました。彼は神であり私なのである。日蓮は成仏し釈尊と共に霊山浄土にあった。つまり宇宙の法（久遠の本仏）と一体であったが、再び示現した。南無妙法蓮華経で森羅万象を成仏させたい。このこと私の思いつきと言われるか。日蓮が上行菩薩と名乗った、それも思いつきですか。２１番、は自分のこと、その日蓮も、思いつきですか。すべて聖人たちは自ら名乗っています。自覚しかないのです。２１番とは法華経神力品です。「その人決定して疑いあることなけん」という一節ですね。でも雄さんは偉いね、疑問に対し質問するものね。皮肉でないよ。　私は悪魔の業、天の啓示を受けました。ピンチの度に成長する機会を得ました。そして聖書との出会い、法華経の修学。そして雄さんのおかげで南無妙法蓮華経に到達することができました。　日蓮の真筆を解説しろといわれるか。あまり、いい提案ではありませんが機会があったら。しかし好戦的だなあ。多分私が答えても何も変わらず、あなた方の誰も支持しない。私が日蓮だとしたら顕正会は困惑するだろう。でも私は困らない。私が自証する必要はない。あなた方にとって、日蓮の真筆は、難解なもののように扱えばいい。　歴史上イエスだけでなく、

日蓮も戦時、利用され多くの犠牲者を生み出した。悪人には、日蓮、イエスを悪魔にしたい奴らが大勢いるのだ。真偽と言われるか。日蓮の国家観が第一にあります。それと法華経による自己犠牲の精神。あくまで誤った日蓮思想ですよ。曲解され国体思想にリンクし、軍国主義へと歩んだ、そして沢山の若者が死んだ。不毛です。雄さんの中に巣くったサタンよ、出て行け。もう一度言う。親友、雄さんより去れ。雄さん、命が危ないのだよ。　（雄さんは糖尿病でがりがりに痩せていた。）

浅井さんは日蓮の、境界、恩徳は推量できないと言っている。そんなことで人がついてくるのか。私には彼のサトリ、南無妙法蓮華経が痛いほど伝わってくる。糖尿病、大丈夫ですか。入院中じゃないのですか。心配です。心身共にリラックスしてゆっくり休養をとって下さい。一番大事な気がします。静かにね。　（雄さんは難解な文言を込めたメールを送信してきたが、私はなるべく平易な言葉で返信した。それがすべての救いに繋がると思ったからだ）　浅井さんは難しい文言は解るみたいだ。しかし日蓮そしてイエスなど聖人の深心の思いやりは解らぬみたいだ。南無妙法蓮華経が泣いている。　私は自らの誤りに気付いた。教学、神学、それらはある一線を超えれば単なる学問のための学問に陥る。人々を信仰から引き離し、悪影響の方が大きいのではないのか。幾多の先人も言っている、

教学、神学こそが教えの分裂をもたらし聖人たちの真意を踏み外す要因にあると。玉子が先か、ニワトリが先か、そんなことはどうでもいい。私はもう神学論争はやめにする。むだであり不毛である。南無妙法蓮華経を一体化するために関しては、それは滞る原因にしかならない。人は自らの良心で見えない世界を感じるものである。「南無妙法蓮華経」は仏陀のサトリ、イエスの教えは「神を愛し、隣人を愛する」これで良い。　雄さん、カネもないし、仕事で疲れるから、会談、遠慮させてください。よろしくお願い申し上げます。止暇断眠について一言申す。暇を惜しみ、眠気を断つ。何か２４時間仏に縛られる、辛く苦しい境遇を覚えられるかもしれないが、そうではなく１日中仏様のことを想っていられる至福な時を過ごすという意味である。自己犠牲ではなく、本当の幸せなのである。

　悪いがカラオケへ行くことはやめにします。我が家の宗派を否定する根拠をお示しいただきたい。話はそれからです。人が正しいと思っていることを安易に否定する。無礼である。侮辱はやめられよ。「糖尿病がなんともなかった」、それを伝えたかったのですか。それは本当に良かった。これからもご自愛くださり、ご活躍されることを祈ります。　私に甘え、「会よりも友情に比重が高くなる自分が情けない。」雄さんの想い。情けないどころか、私はそれが人間の素直なあり方だと思う。頑なになってはいけない。時が解決する。感情が落ち着く。それ

でいい。雄さんの目指すのは愛とは違うのですか。顕正会の意義をたえず心に抱いて居れば、それはある意味、大義名分により犠牲になる兵隊と同じになるでしょう。まずカラオケがやりたいことを侮辱せずに素直に伝えるべきだった。これが大事。こだわればセクト（宗派）は人間の優しさを消すこともあります。罪を憎んで人を憎まず。この精神は大切です。人情論ですが体、心配しました。まずは他宗派の意味合いをよく吟味してから会話を始めましょう。富士大石寺派、日寛上人のように。　　雄さんが望むのなら最後のメールにします。雄さんには本当に世話になったね。ありがとう。お体、真剣に気を使って下さい。ではさようなら。憤りはもうとっくに収まりました。盲信ではなく先祖から因縁のある、お上人への侮辱は私にとって耐え難いものでした。先祖からのＤＮＡだと思う。互いの聖域を冒さない関係をもう一度構築したい。あなたは私の親友である。人格高邁にして清廉潔白。しかし影響されやすい。もう一段深く物事を捉えられれば失言もなくなるだろう。自分の気分、感情だけでものごとを判断しては人の尊敬は得ることはできない。六巻抄の代金もお支払いしなくてはいけません。人を傷つけるのには臆病にならなくては。大人の関係は宗派より思いやりが大事ですよ。

カラオケＯＫです。浅井さんは結局、修羅の道を行く、名誉欲と権勢欲の権化

ではないか。いたずらに人々の生活不安を煽る。学会の正本堂の否定、国立云々、そんな重大な問題かなあ。頭、固そうだものね。雄さん、日蓮が言う命とはつまり仏心、下種の仏性、霊、愛と言えます。これが私の言う東西の宗教的融和です。

田崎さん、永遠のいのちの為には過去の悪行の懺悔しかありません。身、口、意、を美しくただし生活することです。目に見えない世界を信じて下さい。私はいつも感じています。幻とリアルを。田崎さん、姦淫の罪はキリストがあるのならどこの党派も一緒です。姦淫は、愛を忘れるからです。イエスを信じ懺悔することです。快眠できましたか。神は一時あなたに安楽な境界を見せられたのです、継続はあなた次第です。「卑猥な気持ちで異性を見ただけで罪になる、ついていけない」。それは誤解です。イエスは姦淫した女の命をただ救いたかった。だからハードルを挙げ、民衆の善意に訴えかけたのです。結果、石打の刑より女は免れた。嘘だと言われるか。イエスと神が明かしているのです。つまり私が。買春は罪です。一番大事なのは各人の罪としての自覚です。そして自戒にあります。幸せになるために、愛を思い出して。

「目には目を」、それは聖書ではなく古代バビロニアのハンムラビ法典にあるものです。残酷な復讐と違って、罪と罰則との公平さをあらわし当時としては極めて画期的なものでした。「右頬を打たれたら左を出せとは」。それは人にとって怒りを持ち続けるほど辛いことはない。

そして無抵抗の者を殴る者は少ない。もし左の頬を打たれたならば神が倍にして裁いてくれるということです。　　イエスが言う。私の肉を食べ、血を飲まなければいけない。私の腹から泉のように水が湧き出るだろう。イエスは雲に乗ってやってくる。イエスの神であることの譬えである。ここも事実と真実の兼ね合いが大事でしょう。　　エホバの証人の会衆、山口さんへ、イエスも嘲りを受け侮辱され十字架についた。だが神は裁く。気を付けて昼歩くように、慎ましくされよ。聖霊への侮辱は許されない。ガチガチの組織が何か手段を弄して裏で糸を引く。極めて卑劣である。愛を感じない。もう作為的な牽制はやめよう。真摯に行こう。私の話を聞け。私が攻撃的だと錯覚しているのでは。　　私は同じ土俵に立たない人が言った［イエス、神の野心］について、キリストを信じる者として正意の合意を得たかったのに。本当に私たちは敵対し合っている。何か私が悪いことをしたのなら打ちなさい。イエスは神の子と名乗ったのが不敬であるとされ、ユダヤの王だと名乗ったことで理由なく恨まれました。私と酷似していないか。神は神であって現出するものは神の業以外の何ものでもない。神は絶対であり、泣いていようが、頭を下げようが権威は揺るがない。絶対善へと導かれる。流動的なものではない。　　山口さん、頂いた冊子、細かい字です。本のさわりだけ読んでみました。イエスは神か、霊は存在するか、あなた方の教義としては肝心

なのか、私にとってある意味、些末な部分であり支持するには微妙な表現。私の錯覚ではない。つまりは「神を愛し隣人を愛す」、これさえ一番にあれば合格。会の教えとして。　エホバとして「人を射たければ、まずは馬を射よ」。本当に私の全作品、お読み下さい。何かが伝われば嬉しいです。愛と思いやりなら幸せです。　「早く涙拭けよ、笑い飛ばそう、僕らの過去。明日はどうなるんだ、答えてみろよ、神様。いいよ、未来は自分で切り開いて見せるから。正解と不正解はあんたが決め、自分の首を自分で絞めることはないよ」。神へのメッセージソングです。この親近感、どんな讃美歌より心に響きました。　平日の9時半から３０分ほどなら年輩の方でも女性の方でも結構ですから訪問どうぞ。すべての理解力は神から与えられます。繰り返します、理解力は神から与えられる。清貧の神はなけなしの５００円を寄付しました。それはあなた方のこれまでの労苦に対し敬意を抱き、報いるものです。私の書きものに対しても、その労苦を想い感じていただき、全篇、お読みくださることをお願い申し上げる次第であります。代価を得たく申し上げているのではないと一言ことわっておきます。　とりあえず、私の書きもの、お読みください。思想、悲しさ、神としての正当性、想いそんなものが詰まっています。どうか最後までよろしくお願いいたします。田崎さん、眠れないのは辛いですね。罰というものはあるのです。八尾の三味線

にあたるものではないと譬えられます。自戒し祈ること、贖罪は訪れます。山口さん、私が求めるのは民主主義とは異なる神権体制です。智慧と慈悲にあふれる人の合議制です。来る世、婚姻もなくなり御使いとして不老不死を生きる。天使のように肉欲からも自由になる。神はただの友人ではなく求める人には親友であるということです。決して天で威張ってはいない。　人見知り、邪険それらは人の心を傷つけ痛めるものだ。神の国にふさわしくない。心、精神、想いを尽くし、神を愛す、そして隣人を愛す。神学論争はいらない。人より神を想う。生活より愛を優先せよということである。解っていただけましたかな。どうかな。今日はありがとうございました。　聖書は会館に行くことの是非をハッキリさせませんでした。結果こういう敵対する風景になったけど、楽しかった。信仰に生きる実感があり、闘志がまた湧き起ってきました。何度も言う、神の名を連呼することは偶像崇拝に繋がる。神は崇拝されることは望んでいない。何度も言う。理解力は神より与えられる。　山口さん、理解力がついてきましたね。あなたの立場としたらこれ以上教義の譲歩は無理でしょうね。頑張って神の意志に添うよう努めて下さい。永遠の命のために。祈っております。完全に皮肉ですね。真理の理解力は神より与えられる。私はイエスほど真っ直ぐではないかもしれない。ある種、穏健で老獪だ。しかし捨身であることに変わらない。進歩へと向かいな

さい。所詮、今までの聖書解釈は人が行ってきたものだ。だが、誰かに責任があるものでもない。しかし私がいま許さぬ者には罪が残る。従順でない不敬な行為。そして私に許された罪はまたイエスの名により赦しは与えられる。アーメン。山口さん、聖書を開くと「イエスより強盗パラパを助けよと民衆は叫ぶ。ピラトは言う。イエスにはなんの悪い所はない」。その場が何度もあらわれます。今の私と同じです。愛に生きましょう。怒らず。　神、イエスを世の価値標準で論ずるにあらず。錯覚する驕慢なもの後知れず。天のことを理解する者はいない。神の目隠しは美しい心によってのみ取り去られる。　いろいろありがとう。前にも言ったけど。初めに仲間ありきでは徒党を組むのと一緒です。またきちんと話しましょう。私も先鋭的でした。ごめんなさい。私の考えを歴史から鑑みると神による絶対王政、啓蒙専制君主制のような表現になります。しかし人々に差別があってはならず皇室までも包摂する愛による合議体制でなければいけない。自由、愛、平和が空気のように自然に立ちこめる境界である。　連絡がないところを見ると、こないだの件を含めて、だいぶ、お気を悪くされましたか。怒りを持ち続けることは一番つらいことです。組織の見解にとらわれず、自由にテーマに沿ったお話がしたい所存です。怒りの意味も大切かも知れませんが。　山口さん、私は聖霊の宮です。神によりすべてを裁くのです。世界情勢から近所の猫

のことまで。世は悲しく利で動くように支配されている。愛を掲げましょう。今回はあなたの親切、思いやり、善意、奉仕を最後踏みにじったようで、態度を反省します。しかしもしかしたらあなたが信じているエホバは偽りの父ではないか。そう思ったりもするのです。私は父といつも一緒です。エホバ、エホバと連呼することや崇拝することを含めて、何かの対象に願望を叶えてほしいという、これは禁じられている偶像崇拝である。それは神が最も嫌がることであり彼の意は、神の御名を知らせることで愛が広がり人々が寛容になっていくということにある。とすれば愛が神の名と言える。エホバが名前なら、愛もしくは神、イエスとの意味合い、主旨、会衆の連呼、崇拝について、エホバ自身がエビデンス（証言）しなくてはいけなくなる。人智を超え、なおかつ理路整然と意味づけられた日蓮の南無妙法蓮華経みたいに。大切なのは「神を愛し、隣人を愛す」これだけ。霊的、神に名前をつけてはいけない。そして人間イエスを神とした時、ヨシと、共に「了解」と意味づけられ、ヨシトも神と言えるのだ。つまり神とは神という観念であり名を付ける対象にならず、人間に示現した姿に対し、初めてイエス、ヨシトとその意をくみ、名前が生まれるのである。つまり霊としての神にエホバと名乗らせてはいけない。　　雄さん、市場経済、商品として売れなければ去らねばならない。私の創りたい世界、ある意味、皆がアマチュアで、カネよりた

だ周りの人々に喜んでもらえたらいい。そんな人達でいっぱいな世界です。ネットで尾崎は学会の反主流派を支持しようとしたため暗殺されたと流れました。きっとフェイク(偽)ニュースでしょう。彼はイエス、神から、日蓮正宗の南無妙法蓮華経に行きついた。もしかしたら非主流派とは後の顕正会に繋がるのではと疑りました。六巻抄を購った代金、御支払いしなければなりません。取りあえず、お会いできませんか。心筋梗塞で苦しんでいる友人もいます。私はあきらめない、仏国土建設を。　一緒に夜空ノムコウ歌いましたね。歌詞は忘れました。でも哀愁がありいい曲でした。宗教の実践姿勢にはまず慈悲がなくてはならないのは当然ですね。カラオケに誘ってくれた雄さんの温かい気持ち、俺は踏みにじったのかもしれない。ボタンの掛け違い。傷つけたのなら申し訳ありませんでした。しかし年下でも私は奴隷ではない。いいことをするとき右手のことは左手に言ってはいけないと聞きました。卑屈な気持ちを相手が意識しないように。いつでもテレ待っている。

　何度も語ってくれた、創価学会、第二代会長、戸田城聖と同和の青年の号泣のエピソード。学会への入信を決め、顕正会へと至るモチベーション。差別を憎むあなたの真摯な心と正義を求め続ける想い、決して忘れてはいません。ただ今言いたいのは思いやりを決して忘れさせてはいけないということです。何気ない言

葉で人は傷つくものなのです。自分の価値観だけの押し付けになってはいけない、それだけは言っておきます。　　山口さん、聖書、イエスはピラトの「ユダヤ人の王であるか」との質問に「彼らが私を王とするならばこのような暴力は用いないだろう。私の国はまた別にある」。彼は美しい精神世界からの発展、「神の国」の王だと言っているのです。如何ですか。失礼ですがエホバの証人の会衆は少なくなりましたね。ジリ貧が続くでしょう。　　イエスの愛を信じても死なないを信じられない。人はみな死を迎えるからだ。誰もイエスを信じ切ることが出来ない。ここである。そしてイエスは復活した。神の国は現出するのです。イエスが神か、人の霊が存在するかそんな問題は三次元のこの世で理解できるものではなく、判明することでもないのです。次元が違い推測不能なことはそのままでいいのです。ただ「神を愛し、隣人を愛す」これだけです。神学はいらない。分裂をもたらすだけだ。「聖書を、神の自証した霊感」であると信じる、それだけです。　　山口さん、腕力、暴力がはびこる、世間。そんな世界を肯定的にとらえる人達。イエスの教えと相反する。お互い一致しますね。そこからでは、これからのアプローチ。　　エホバの証人が保守ならイエスはリベラルです。つまり寛容。あなた方は寛容を説きながら実はとても不寛容です。ドグマ（独善的教理）を押し付けようとする。あらためよ。　神と民とがフラットになる。ある意味民

主的と言える。自由な発言は、侮辱以外は認められなくてはならない。　訓戒と勧告です。神からの言葉、かみしめる事。聖書は私の手元にあるモノだけが真実、霊感なのか。私の為だけに書かれたみたいである。私の人生が聖句を成就させる。私は正しい。ついてこい。皆の衆、報いを求めて。山口さん、私はまばらなホール、二人の聴き手からでも始めたい。寛容な心が、損をしても幸福を掴むことを伝えたい。そして誤ったセクト（宗派）に騙されない主体性が大事だ。　雄さん今日はカラオケ、実は行きたかったのだけど誤解されたようだね。明日、親戚から知り合いへ猫の仲介をする予定日だったもので。時間調整しようと思ったのですが。電話でのコミュニケーションは難しい。顕正新聞は勧誘が主要の目的だからキャッチコピーはいつも同じだ。私はもういい。狙う対象は精神的に不安定な人がいいだろう。決して顕正会が悪いと言っているのではない。救われ、功徳を頂ける人は沢山いると思う。指針が必要な人も大勢いるはずです。南無妙法蓮華経。　いつも私がカラオケでお世話になっているのは情緒、感情、精神を柔らかく揉み解すためです。好戦的で頑なな心は慈悲に繋がって行かない。自由な心から始まります。　山口さん、７回の７０倍赦せ。忘れていませんよね、もしもあなたが侮辱を感じるならば。　実はエホバの証人の教えの中には共感できるものもあります。私が支持するのは、競技についてです。少年たちは感情で活

動します。彼らが良いにつけ悪いにつけ。心身を鍛えるという名目で管理され、従順を強いられます。そして闘いのプログラムを押し付けられることとなる。空の教えで本質を読んでみる。物事の真実の姿を捉えなくてはいけない。武道に隠された殺人の練習。スポーツ観戦に存在する熱狂による闘争心から来る理性の埋没。この危険性を認識する、エホバの証人と私は正しい。　軋轢を生みながらも、戦い、争いのモデルには不参加という抵抗を行動で示すエホバの証人の会衆たち、ここは素直に敬意を払います。　山口さん、いろいろ他人の関与を受け思想は煮詰まっていくのだと思いますよ。怒りから離れて下さい。神学よりむしろこれら生活全般に関わる、会衆としては世間に対し微妙なテーマの方が、何よりも先に人々の魂の気付きへの早道になるのではないでしょうか。　神、イエス、霊の関係、瑣末なこと。神学論争はいらない。愛が真に大事。永遠の命を得るために。頂いた冊子、興味深いです。しかし私こと、あなた方が崇拝するエホバの霊感がなければ、仏作って魂入れず。私は困らない。しかしあなた方のことを思えば涙ひまなしです。早く気付いてください。既成概念を払拭するのは難しいことなのかもしれない。しかし折角の献身も的外れになってしまっては本当に可哀そうだ。既得権にしがみつくパリサイ人になってはいけないよ。パウロは信者に対し、憤り、悪意、そしりなどは止めよと指示したが、一方、周りが嫌悪した主イエスキ

リストの偽善者へのそしりは悪徳だったでしょうか。私には痛いほどイエスの訴えたかった義というものが理解されます。今はその姿勢が大切な時なのです。つまりイエスの思考回路を従順にたどることが大切です。あなたは私を一介の宗教をかじった、誇大妄想のある男と扱ってはいませんか、　パウロは「その博学が気を狂わせている」という言葉を否定しましたね。厳しい環境の中、神の示現した姿であるイエス、日蓮は、あえて愛を導き出すために憤り、そしり、そして傲慢だった。本当は誰よりも欲はなく寛容な二人だったのに。彼らの神仏への信頼と想いはあらゆるものの中で最強だった。　エホバの証人の聖書至上主義。このイエスの意を無視した、独断論、教条主義。私の心を汲んだ聖書は言う。彼らは去らねばならないと。哀れだが路線変更はできないだろう。　私が侮辱していると御思いか。何に対して、何の目的があって。私は良心における自覚、そして聖書という霊感より言葉を発しているのです。私は正しい。聖書が人々にとって、書物であったとしてもなんら私には問題ない。同時に私だけの霊感であったとしても。嫉妬はいけません。あなた方は見えてないのに見えると言っているのです。あなた方は、何の罪もない私をただ憎んだ。パリサイ人がしたように。聖句が成就されます。イエスは偽善に対しては容赦なかったのです。神の真意のため。西村さんは逃げました。あなたは義理堅い人だ。組織に忠誠を誓っている。でも

それでは時代が回天しないのだ。親友の言葉は耳に痛いもの。悩みなさい。愛に基づいて。　　オリンピックについてです。参加することに意義がある。平和の祭典と憧憬する者もいる。アマチュアだからこの闘争に罪はないのか。選手による兵隊の訓練みたいな練習。あらゆるスポーツに言える指導者への屈服と服従。あくまでゲーム、遊戯であることを認識し、また、周知させねばならないだろう。熱狂は闘争心を煽り、疑似代理戦争を生む。競技と戦争の持つ名誉欲は必ずどこかで繋がっている気がしてならない。コマーシャリズムが華やぐ昨今。その下部組織。洗礼を受けた子供たちには、チームへの帰属、忠誠心いう名の洗脳が施される。世はサタンに従順な蒙昧たちを作ろうと躍起になっている。　　山口さん、あなたは忍耐強くクレバー【頭が良い】で優しいハートを持つナイスガイだ。あなたの私に対する憤りを冷静に見つめてほしい。誰が今、核心をついているのか。イエスキリストこと神ヨシトしかいない。はじめに頂いたパンフレットから、善き香りがした。「エホバの証人」ここなら存在できるかも。イエスは言った。狐には穴があり、鳥には巣がある。だが私には安眠できる場所もない。つまり彼の義を理解されるところがない。でもこの人たちなら。しかし私の期待は失望へと変わった。宣教師らは科学的実証と神学に拘り、肝心のイエスの愛を説こうとしなかった。　　山口さん、あなた方、父子は必ず永遠の命を生きるでしょう私に

ここまで付き合って下さった。ありがとうございます。組織と個人。御辛いお立場お察しいたします。予定調和です。報いを受けるものは心の中、善を求め、愛を抱いているもの、即ち義が存在しているものです。神の国は義に飢えた人が笑うためにあります。悩みなさい、苦しみなさい。狭き門は開かれるでしょう。イエスは降臨したのです。天でエホバに媚を売り、選択され、特権的資格を与えられたという、わけもわからないもの達と共同して、支配階級などは作ってはいないのである。　イエスは神としてただ地上で穏やかに生き、また困窮する人々のため力を捧げたいと思っている。　今日は雄さんありがとう。お互いお人好しで純粋だから企業戦士は難しいね。結局、俺たちは真理を求めるようにできているのだね。　山口さん、神が霊であれば観念であり崇拝することはできない。そして人になるとき神は主人から友となり崇拝は彼の望む処とはかけ離れたものになる。いずれも偶像崇拝を否定したもので、神と民、互いに敬愛し合うことをよしとする。　釈尊は煩悩を滅却したあとも慈悲のこころは捨てなかった。後、般涅槃し、久遠実成の本仏と一体となった。欲望は消えても本当の深い愛は持っていなくてはならない。　モチベーションがあり成績上位だった奴はわけもなく競争が好きになる。のんびり優劣も念頭に置かない奴は今の社会では生きにくい。　罰が当たるところの延長線上に預言者の赦しがある。念仏すれば地獄

におちない。その教義に心酔すればするほど罰は鮮明に訪れる。悪を肯定した罪は山より高く、海よりも深いのである。　嫌な人と物理的に離れる。会話に対決的な悪意が入るからだ。倫理から見てどうか。つまらない問題。気にするな。良心は痛めるな、離れて行け、本当、考えるだけ疲れる問題だから。　山口さん今日はありがとうございました。楽しかったです。世の終わり、いろんな意味で判らないが正解ですね。でも何らかの形で必ず来る。愛がすべてであることを忘れてはいけない。　山口さんイエスは自由闊達で人の垣根を取り除き愛することを肉親の情より大切にしました。会衆が互いを兄弟と呼び合うなか、本当に義侠心を抱き、サタンとの戦いへ向かう契りに対し、命をかけて頂きたい。

今日の研究会、今までで一番良かった。小野さんの人柄だろう。明るくて寛容で理解力もありユーモアも通じる。頭とハートのいい若者とふれ合うのは至福の時だ。教えを語りたい熱情がほとばしってくる。愛を持った、本当の意味で優秀な若者は荒野にいる。　追い詰められた感、イエスは誰も知らない所へ行くという。つまり死の想定。しかし父からの杯ともいう。彼の意思とは、また意志とは、イエスと天の父、神との一致の証左かも知れません。

真光の幹部の人と会ってきた。私を怪しげにみる。私は「あなたが聞く態勢に

なってくれないと私は何も話せない」と答えた。それが待機説法である。まずは胸襟を開くまでもいかずとも怪訝な表情はやめてほしい。勿論それは想定していたが。だが、そんな不寛容な人でもなかった。幸福についてなどいろいろ話したと思う。忘れた。ただ最後、彼は言った。「あなたは何をし、どんな功績があるのか」私は聖書、ヨハネによる福音書の一番末に書かれてある、聖句、「イエスのしたことを書こうと思えば世界にはその書きものは収まりきれないだろう」。から引用してあなたが真光の手かざしをしている、それが私の力である。そして花を咲かせ木を育てる力。全ては皆の内にある善なる力が私のものであると。そして「聖人の休日」を机の上に置いた。彼は嫌味、皮肉からではなく「私に理解できるかどうか」とうつむき加減で応えた。きっと好い人なのだろう。真光が仰ぐ創造主とは私である。「まず大きな建物はいらない。三日で修業が済む」という。この時代、沢山の施者が必要であるとのことだ。カネの匂いがする。いくつも分派したという。昔、おばちゃんたちが配った神への祈りの言葉。いま、方向性が違っているぞ。私はあえて批判はしなかった。

皆さんこの本が私の最後の書きものになるみたいです。すべてのコンセプトは愛でした。軸はぶれません。証拠にサタケッチが批判的に「あんたの書いたもの

は、みんな一緒だ」と強く言ったからです。それでいい。それでいいのだ。私の愛が読者の皆様の御心に浸透すれば。今回もありがとうございました。ジブリの宮崎駿監督のように引退と言いながらまた復活するのでは。そこまでは解らない。少しくだけた感じでフェードアウトしていきます。みんな元気でね。また逢う日まで。（笑）

義人

後談

山口さんエホバの証人のホームページ拝見しております。また小野さんとお越し下さることを楽しみにしております。お互い後に引きずらない人間です。義兄弟と呼びたいですね。でも会衆にはなりませんよ。　神、イエスキリストであることを私が忘却するのはサタンにとっては一番嬉しいことだからです。会衆にはなり得ないのです。神である私は、錯覚し謙虚、謙遜だと思い違いしていた卑屈さとは、決別しました。私は何年もの間、悪魔の手の内に在ったのです。犠牲から離れ、明るく素直に暖かく自己表現していくつもりです。　先日の論題。誘

惑するのは悪魔であると聖句にありましたが、例えば清らかな愛がそこに存在するならば恋は神の必然と言えます。聖書に記載されているのが意味深です。そこには神の想いがあります。　悪魔の誘惑は肉体関係だけを迫る男のエゴ（わがままま）です。神の子は清らかな愛で、心の一致の成就をめざし必然として命運に従います。そして相手のことを気遣い、また意見も尊重するのです。この相違。悪魔へのサーベランス（監視）が大事です。　正義は見方により、対象の善悪の変遷もあります。愛が対象を呪縛し所有を望むものなら、当事者、互いが苦しむことになります。対象の自由を認め信じる、博愛（アガペー）こそが義であり、全てを平安に導くのです。　義というものが思いやりなら博愛とマッチして人々の幸福に貢献していくだろう。義は抽象的な愛、思いやりと意識された方が良い。なぜなら具体的な戦争への大義などとは違い、愛は普遍的であり強く守らねばならないものだからだ。それが義である。即ちイエスの義はまさしく真実の愛であり尊い。　つまり解りにくいかもしれませんが、義と愛は楕円形に重なっているということです。　「私を信じる者はいつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。」イエスはラザロを生き返らせる。何らかの霊の、働きを感じる。霊が黄泉の国より戻ったのだ。少しまた山口さんに神学論争めいたものを漏らした。霊はなくてはならない。亡き人の霊があると信じる人には。それが人としての暖か

さ、本当に大事な愛情へと繋がっていくと感じられるからだ。最後、自慢をいつもする人がいるね、私は勿論、嫌いだった。だけど自分にリスクがないのなら、それは知識の宝庫だ。いい情報源だ。耳を澄ますこと。相手も喜ぶだろう。

ほんとうに、さようなら

義人

遥かなる
泥土

義人

Ｈ３０年１０月

まえがき

「面白くないぞ」。何も頭に残らない。同じようにひとも言う。しばらく経ってから読む。「面白い、俺の本はもしかしたら世界一、特異なのでは」。文章力は、特段優れてはいないが、こんな赤裸々に宗教という善意を描いたものがあったろうか。そして悪意、いや戦争はいつも正義を信じ、善意から始まるのだ。ホロコーストのように憎しみという善意。

或る精神障害の男。女の生き霊が頭の中に住みつき、牽制をかけ意思を束縛し、指示を与え苦しめる。そんなとき、私の本を読むと心が落ち着くと言う。少し難解に感じるが、女が読み、信じよと促す。女は善か悪か。霊的に私の本は働きかけているみたいだ。

天皇の正統性。万世一系、男系とは言うが兄弟同士、親子同士が争った史実が歴然としてある。そして現在、不敬とも言われずに、「天皇にふさわしくない」と皇太子殿下を批判する女も出現した。言論の自由のいいとこ取りである。人品が人徳を生む、平和護持の帝王学を携えた皇太子殿下に対し、偏った見方は避けてほしい。女は天皇を神道の主であると自覚を促す。国家神道、戦前への回帰。かつて見た、天皇という現人神。戦後、元帥という野蛮な位置から、平和を祈る象徴として親愛の権威を取り戻した昭和天皇。

皇室の歴史から今上陛下（現、上皇）に対しローマ法王、エリザベス女王は、上座を譲ると言う。今上陛下（現、上皇）はパラオ、サイパン、フィリピン、深々と皇后さまとともに頭を下げられた。　天皇とホームレス、どちらの命に価値があり尊いか。それは心の中に分け入らなければ解からない。隣国を愚か、横暴と決めつけ、中傷、非難しそれを盾に自らの売名のため傲慢を振り回す偏狭な人間たちがいる。まずは最低なことは確かである。

私は闘う。自由、平和、愛のため、神は絶対である。食らい、糞をし、愛し合う。思いやりを積み上げていきたい。　天皇とは違う、聖書の神の権威とは。世の価値観では測れなく、格式を重んじるのでは勿論ない。階層から抜けだした大きな愛。これが神の想い、願いであり礎である。そして階級、地位、意識から離れた愛が各位に存在するか、それが皆の霊格を振り分けることになる。

天が意志を示し、聖霊がことを運ぶ。私は志を求め、寄付金と称し、振り込み口座番号をあらわにしていた。が、すべて撤去した。金がついていては、やはり不浄みたいだ。金は求めなくても自然に必要な分だけは回ってくる。そういうことみたいです。とりあえず読んでみて下さい。前回より間が空きましたが、私の諸作品に御目を通していただけるお時間をお少し皆様方にご用意できたのでは

ないかと思います。実は私は二枚舌、三枚舌、五枚舌である。でも嘘はつかない。変な原理だがそうなのである。

私は思った。天皇などいらないのではないか。特に国民の総意による象徴としてなど。お飾りである。国民の支持がなければ消えるのか。法に縛られた天皇。では親政ならば、確かに権謀術数、勝ち抜いてきた議員たちへの精神的な良心として君臨することは出来るかもしれない。だが政治的手腕は未知数である。確かな共和制を打ち出し彼らには因習の彼方に身を引いてもらっては如何だろう。彼らの真の在り方とは。そして本当に愛する家族を大事にして幸せになっていただきたい。跡継ぎなどに心を配り痛めることもなく。そしてその後の権威、絶対的愛は、聖書の神が受け持つ。ここで権威の二元性は否定される。私が意見を発することを売名行為となじる輩もいるだろう。だとすればこの世に生きる人はすべて売名に生きていることになる。ほっといて、私は真の愛を訴えていく。永遠の命を信じて。皇室の方々の幸せを心から望みます。

雨に打たれた小雀と、獰猛な野獣が、神の心の内にて共存しているのだ。

だが皆、明日を見据え、私の中から真実をえぐり出してほしい。そこに真理と幸せとが待っているから。

（第１章）Ｒ会の新川哲子さんへ

真夜中すいません。信心の純粋さと仏の意味、尊さの意味を最も具現されている身体に軽い障害のある御子息圭一さんの我が家への御来訪を期待します。雪解けの頃よろしく。これから私は「圭一さん」と年下の彼を呼ばせていただきます。嫁をもらう、住居を構える、この世の価値観です。真実、智慧と慈悲溢れる彼に、仏の道をご教授願いたい。これこそ仏門の夢です。　曲がりなりにも法華経へ就学させたのはイミズさんです。しかしそれを恩着せがましく語る間は、私は彼女の為にもあえて敵対する。　待機説法。私は覚ったのです。法華経の教え、本当の理解者は圭一さん以外、Ｒ会にはいません。暇を惜しみ、眠気を断つ、至福な仏様との信行の時間。念じ続けられるのは醜い我欲なき、われら二人だけです。圭一さんは素晴らしい存在です。世間の欲にどっぷりつかった輩には解からない。仏様は目隠しされている。心の美しいものだけが彼の価値を見出す。　障害者の母親としての、そのお気持ちご拝察申し上げます。けして卑下などしてはいけません。彼に無情な世間を当たり前にさせないで下さい。彼こそが善く純粋な聖人なのです。どんなに周りに侮辱されてもくじけなかった。凄いことだ。　私が入会したての頃、本部への団体参拝。圭一さん、私を、ひとくくりにし障害者として侮辱する者がいた。私は下がったつもりで圭一さんと一緒にいたが、同じ

位置の意識を持っていなかった。最低の偽善者であった。今、本当に敬意を抱き、彼にお会いしたいと思います。　かつて圭一さんが、私を敵視する要因になった、彼の恋愛に対して、私の生活重視からの冷たいコメントは今、本当に遺憾に思い後悔し、深く反省しています。けど、その愛は理解しますが一言申し上げると、圭一さんは一途だが、想う対象の女性への規律、集中の加減がうまくなかった。慮る、察する。大人としての自立、やはりもう一歩、あなたと同様祈ります。圭一さんに唯一欠けているのは忍耐です。周りの人が目隠しをされている原因がそこにあります。仏門での評価が正しく行われないゆえんです。また忍耐が恋愛に一番、大切だったことも悲劇でした。　圭一さんは賊軍とされた彼らが函館の五稜郭に立て篭もったこと、総裁榎本武揚と、新撰組副長土方歳三との関係を、正確に把握していました。支部で興味あるのはわれら二人だけ。利発です。圭一さんには釈迦に説法かもしれませんが一言述べます。仏陀の悟り、南無妙法蓮華経と一体になってください。感謝が生まれもやもやが、取れ、幸せになります。心の奥を浄化するからです。　近いうち、暖かく晴れた休日に是非とも圭一さんにご訪問願いたいです。おいしいお茶とお菓子、そしてお昼にうどんにてご供養といたしたいです。　誰でも一度は陥る、奈落に落ち独りぼっちになることの恐怖。恋に生きる私と圭一さんしか乗り越えることはできません。生活

に毒されない美しい心があるからです。送迎しますよ。新川さん解かってくださいますね。圭一さんと私は清らかな愛を求めているだけなのです。障害者が信じる愛の価値。圭一さんは深いところを見つめています。イエスの晩餐の招待、神の義に従い付いていったのは、煩雑な一般の人ではなく孤独な障害者たちでありました。だれよりもつらく、悲しい経験をしたからです。だからこそ優しい気持ちが強いのです。　ある意味、宗教団体はひとりで信念を確立できない依存的人間が入るものです。真の宗教は森羅万象、関係性から生まれ、慈悲と思いやりは神仏より委ねられます。へりくだり下がることが卑下することになっていませんか。懺悔することが名誉になっている。怒り、焦りは禁物ですが、自分らしく自然に生きることは悪いことですか。主体性が大事です。圭一さんへ、「親を煩わしてはいけない。たとえ利己的な香りがしても。自分を調えることは下がることにつながる。親孝行を成し、先祖に感謝する。幸せは、確実に訪れるからね。」

就労を思った私は強い不安に駆られた。しかし南無妙法蓮華経の唱題で私は気づいた。「失敗していい。」昼寝の母の枕元に生活費を置くと、不安は去って行きました。　神は美しい心に宿ります。やはり仏様に真っ先に愛されるのは圭一さんです。新川さんの愚痴をけして出さない修行のたまものでしょう。圭一さんと電話口、嬉しかった。ありがとうございました。南無妙法蓮華経を信じ、唱え

るものは美しい心があり、必ず仏様につながる。何処であろうと。　　圭一さんは天才なのです。R会で成仏するのは稀有です。　私はあなた方親子三人に必ず報いたい。時がくるまで平穏に暮らしてください。確かな福音がもたらされます。哲子さん、あなたはいつも優しかった。　南無妙法蓮華経のありがたさは妙の一字につきます。ただ法華経に帰依するのとは意味が違うのです。南無妙法蓮華経自体に意義があるのです。力、功徳の集大成です。先に書きましたが仏を観るのに特別な団体はありません。すべて個人の徳が心つまり仏性を磨くことから始まります。仏と感応する。資質と経験が問われます。　　皆、いろんな仏をイメージする。大統領、官僚、経営者、学者、大臣、彼ら欲にかまけた冷徹な成功者といわれる連中に何が解かるでしょう。私と圭一さんが見た乞食のような仏さまこそが本物なのです。二人には真実が解かる。つまり愛が。　　新川さん危惧されていますか。圭一さんの訪問、ミイラ取りがミイラになりはしないかと。真実の仏様はどの位置からでも、その人が本物なら観ることはできます。圭一さんは珍しくR会にいてサトリを得た人である。私は圭一さんをR会から足抜けさせようとは露ほども思っていません。彼は人格成就に達したからです。もうどうでもいい。ただ開租の呪縛からの解放を求めます。　　あなた方親子は基本的には当たり障りなくR会に向き合えばいい。けど私を理解し重荷を少しでも肩代わり

してくださる優しい方は圭一さんだけなのです。この因縁を確信します。
　庭野鹿蔵、自らの名利のため霊友会の南無妙法蓮華経の教えに後足で砂をかけ、去った彼。権勢欲、野望、経営手腕でこの世の地位と名声を手に入れ死んでいった。彼は地獄にあると聖書は示す。どれだけの人を詐欺的信仰で悩ませたか。あなたもお解かりのはずです。　何度も言います。圭一さんは天才です。だからR会にいても成仏できたのです。私が脱会を勧めることは最早ありません。ただ楽しく彼と歓談したいだけ。拒否ですか。私には怒りも焦りもありません。あるのは憐れみだけです。天がその不誠実と不従順を裁くのです。蜘蛛の糸を自ら断たないで下さい。私を信じて下さい。居留守電話、（一晩、考えさせてくれ）と受け取れと聖書が示します。そこまで真剣とは望外の光栄です。善意を信じて。圭一さん、自らの仏を見失うな。　圭一さんにテレしたいけど気持ちが萎えます。正直、さびしいです。携帯の呼び出し音、待っております。いつでも。私にあるのは憐れみだけです。皆様が息災であらせられるよう祈っています。圭一さんの庭野鹿蔵への一途さを知り、その一生懸命さが、成仏に至った要因かと納得します。仏はどこにも遍満していますから。
　素直に思う。ちゃんこ、お好み焼き、大谷君宅で食卓に上がったおいしい料理。また参加したいなあ。隣には圭一さんがいてほしい。きっとそれが幸せだよ。大

谷君の携帯番号、お知らせくださり本当に感謝します。私はR会に未練があるのではなく、釈尊（仏陀）の初めての説法（初転法輪）と同様、まず過去の仲間に教えを施したいのです。なぜならそこには真理への意識があると信じるからです。新川さんは良識を踏まえ、人を傷つけるのを避けるR会では稀有な方です。さすが圭一さんの母君。　救われるのは宗教団体で決せられるのではなく、あくまで優しさに裏打ちされた寛容な人間性にあります。天を信じて下さい。温かな人々と永遠の命を生きましょう。　大谷君の携帯番号の件はあなたの優しさを天が私に再認識させるためにあったのでしょう。　圭一さんへの幾多の侮辱、よく耐えしのばれましたねえ。必ず報われるでしょう。　夜分恐れ入ります。相談したい儀がありまして。実は祖母の故郷鹿児島、桜島を一目見たいと望んでいました。厚かましく圭一さんに、ご同行願えないかと是非に。母が気を利かせ代理店からチラシをもらってきました。ちょうど西郷どんが、大河ドラマで放映中です。圭一さんは興味ないですか。幕末、日本国について思いをはせるのもいっこうかと思います。　私に何か目的があると邪推される。当然です、発信する限りは。それは圭一さんとの友情の確認です。宗教は二の次です。私の望みは温かい関係それだけです。新川さんあなたは素晴らしい。人を傷つけることに目を伏せる。それは幾多の傷を受けてきたということです。寛容なあなたの下、圭一さんは成

仏されたのですね。凄い。R会に対し、私は思う。傷つけ、また受ける。意図的ならばハッキリさせる必要がある。常識の範囲ならば下がる必要もあるだろう。みそも、くそも、一緒にしてはいけません。　法華経を掲げた開祖。素晴らしき人、だから信者たりえる。しかし釈尊は諸行無常と言われた。つまり神の善、法以外に絶対はない。個人崇拝にはしった彼。また世襲は俗的です。すいません、また心証また悪くなってしまいました。この気づきは神から与えられるもので人間義人の一意見とは違うのです。目に見えない世界からの宿命なのです。信じて下さい。　夜更けにごめんなさい。大谷君、圭一さんに、私の心は青空、何の悪心も懐いていないことをお伝えください。真理を追究しましょう。ちゃんこで人生、愛について語ろうではないかと。　深夜便です。私が訴える愛は看板を掛けられるまえの、大本の暖かく漂う気、南無妙法蓮華経、キリストの義です。新興宗教とは違い、私は教祖ではない。神なのです。　圭一さんから頂いた、仏陀の言葉集。留意します。改めて彼の一途な求道心に私は感じ入っています。もっと早く気づきがあれば、圭一さん、御免よ。　宗教者の陥りやすいもの。自分は偉くなったと思い込むこと。でもあなたと圭一さんからは感じない。修行の根本はそこにある。下がることですね。　幸せというものはささやかなものほど喜ぶときに感じられ、感謝が大きいほど輝く。その時、天は祝福し名を記すのです。

幸せと共に真実の優しさが一緒に傍にある。　諸行無常、移り変わり。神だけが絶対である。つまり神の摂理、仏陀の久遠の法。　聖霊の宮になった私は絶対である。それは善です。信じて下さい。福音です。　人に勝つため自分を磨きあげる。それが仏を目指すということか。メモリーからの優しい音楽に触れ、比較から離れて愛をつかんだ圭一さんだけが、真の人格成就をなしました。　R会が言う人格完成、仏は人格の向上とは明らかに違います。仏が、争い、むさぼり、上を目指す、地獄、修羅、餓鬼の界の住人ではありえるはずはないからです。仏とは自己を忘れるところにある。欲望に満ちた価値観より離れた場所に。新川さん、圭一さんが侮辱されるとき、人の目や恥を感じてはいけません。ましてや自虐的に下がる必要もない。素直に温かく、そのさみしさを相手のひとに伝えられれば。彼の望みはそこにあります。　圭一さん語り合いましょう。分からぬものは捨て置いて。人格成就、仏の姿とは素直で優しくて温かい。比較からくる価値観より離れた、我ら二人にほかなりません。我らには敵はない。R会の人格完成は世俗的成功を手にするための手練手管と精神的非情さ、計算高さを身につける。そんなところに重点を置いているのを感じる。自己執着である。　圭一さんに尋ねよ。本物を。　こんなに遅くメール受け取ってくださるのは新川さんだけだと始めに申し上げます。　ありがとう。大谷君が釣りを楽しんでいる

と聞きました。良かった。人間らしく。一番大事。　奇跡がメールを送る際、頻発します。初めて私は仏であると称しました。でないと送信が不可能だったのです。聖霊の保証。三十二相。日蓮正宗信者との問答の中、私は仏であると自然に表しました。　仕事帰り、もみじマークを付けた軽四を見て、新川さんご一家の息災と安穏の象徴だと心が暖かになります。優しさに触れるほど感謝が増し、人は成仏に近づくのですね。　R会本尊返却の件は当惑されたと思います。人は理想を追うとき選択を含め、他を傷つけるのが宿命にあります。本尊を引き剥がしたとき、私の運命は大きく前進したのです。　「下がるとは冷静にエゴを克服することにあり、自分を曲げ、卑下し、人の下に付くことではない。独尊。自分を大事にし、南無妙法蓮華経を心するとき実現する境界である。」　R会は発足当初、神に護られ進取の気概に満ちて法華三部経による功徳であふれた。いつしか世間に迎合し始め仏門として失格していった。原点への回帰は難しいだろう。発足当時は三部経には力が満ちていた。肉欲をすてきれない庭野。名誉、金、権勢への野心と共に、肉親への偏愛。経力は失せて、堕落していった。いま、ひたすら南無妙法蓮華経の精神が大事である。　新川さん、ありがとう。電話口、声が聞けて嬉しかったです。私は聖霊の宮です。神がことを起こすのです。圭一さんはじめ旦那様にもよろしくお伝えください。では。　あなた方が南無妙法

蓮華経、私という良薬を手で払っても、幾度となく口元へと運ぶ。あなた方の善良さを信じて。理解力は神から与えられる。時宜を見て訪れます。私はこの世では何をしても何処へいっても成功には縁がなかった。そして神になり下がったのです。けど神の弱さは誰よりも強く、そしてその愚かさは誰よりも賢いのだ。貧病争、その原因は愛のない人間関係に尽きる。人が一人で生きていけない悲しみ。人を出し抜き評価されたい。魔が入る。思いやりがすべてです。　圭一さん、私の話を聞いてください。女性はあなたに好意を寄せるはずです。ただ心配なのは選択できなくなることです。　博愛の精神を持つことです。自分にかかわってくる女性たちを本当に尊重しましょう。そんな姿を誰かが見ています。運命の人です。圭一さん、結婚だけが人生ではないです。神の愛に気づいたものは御使いと呼ばれ、差別なき世で幸せに暮らします。資格は美しい心だけ。温かくね。大切だよ。　圭一さんは唯一の女性を渇望するから苦しむ。純愛は美しい心で万人を思うところに光る。煩悩は捨て、目の前の人をまず大切にすることです。解かれば自由自在です。自ら嫉妬、劣情から離れ、ただ対象の人の幸せを願い祈るとき光明はさす。その愛を善なるすべての人に捧げる、自分を忘れて。そこに真の恋愛の成就はある。圭一さん、欲望を夢に替えてみよう。激しい恋も必要だった。でもこれからは相手の境遇を考慮し、つくす愛、そこに徹する。そのとき幸せは

転がりこんでくる。南無妙法蓮華経を信じること。唱題することだよ。　お金はその人の持ち分で入ってくる。心配はない。むしろお金は必要以上に殖えては困るのだ。苦しみはお金への向かい方と南無妙法蓮華経で解決する。　義と信仰、愛と平和を希求し争ってはならない。主の僕であるなら下らぬ法座という議論はやめよう。　私は人間、霊的神とは異なる。裁くことはできない。だがR会、頭の薪は燃え盛る。まず教えに疑念を持つ。宗教に対しすべて同様に。　はぐれた羊を神は見捨てず捜しに行く。他を追いてきぼりにしても。神の公平な愛です。利ではない。　旦那様の病状は必ず快復に向かいます。旦那さまのご容態いかがなものでしょうか。案じております。テレするのはハードルが高くご遠慮申し上げました。本当に無難、心より祈っています。ご回復へ向かっている。それは良かった。善かった。ご容態変りなく順調にご快復に向かっておられる。新川さんの連絡嬉しかったです。心配ご無用、大事なお父様。来る世まで命は尽きることはありません。　イエスの言葉、私の名によって父はなんでも下さるだろう。神は愛。つまり生活より愛を第一にする、衣食住の心配はなくなります。哲子さまからも不安、心配などお見受けせず伝わってきません。愛を大切にされているのですね。「下がる」。エゴに支配されず周りのすべてを理解し把握し納得の上で理性的に頭を下げる。優しい柔和な良心が肝要です。人間関係の悩みには

南無妙法蓮華経の唱題しかありません。　逆さまに物事を見てはいけません。良薬を毒薬とする。いつまで自らの主体性を放棄するのですか。善良を旨とし真実に気づくことをお勧めします。それは愛です。　ごめんなさい。新川さんは私との約束事を守っていらっしゃるのですね。聖書に表れました。私の迂闊でした。恐くない。もうすぐです。幸せは近いです。人間万事塞翁が馬。何が正しくて善かったかは最後までわからない。焦りは禁物、愛がすべてだ。幸せは新川さんの後姿を見ている。忘れないでね。必ず来る。　私がいう愛は男女間のＬＯＶＥとは違います。もっと深く大きな隣人愛、聖書の神のアガペー（博愛）です。基本です。表明します。森羅万象への慈愛ともいえます。　ある発見をしました。彼女の批判は残酷な一面もあるが因縁から行くと対象の周知に繋がっているということです。イミズさんです。弥勒の役。健康なわけですね。　今日、帰り道、車庫のシャッターが上がっているのを確認しました。平和な日常に戻られたかと少し心配申し上げ、想っています。皆様の幸せを祈念いたします。合掌。圭一さんにはいつも気付きをもらっていました。黙々と日々をこなす圭一さんには本当に力を頂けます。そしてただ、不満は大きな愛に変え、小さな執着という愛を不満に変えないことです。　圭一さんへ、恋は崩れるように訪れます。対象から目をそらさず規律を守り忍耐。そして激しく燃えて下さい。しかし圭一さ

ん、結局、心あるものは神の御使いとなり自由を得ます。欲望にはしらず清らかな夢を見ましょう。結婚という呪縛から抜けるのです。真の愛の為に。　私の愛があなた方のうちにあるならお聞きください。来る世、苦しみを生み出す、労働に始まる、原罪。生活の悩みからは解放されます。自由、平和、愛を示すために。善男善女はキリストの義と南無妙法蓮華経にて不老不死になる。私が不実に見えますか。神の御使いになる人に、もはや悩みは皆無です。最善に至ります。そこから真実の博愛、隣人愛が生まれる。理解力は神から与えられる。　私が描いた夢、各団体の南無妙法蓮華経を一つにする。それは各位が自分自身の南無妙法蓮華経を見つけることでした。　新川さん、ありがとう。圭一さんと電話口話すことができて本当にうれしかったです。最近では最高峰の喜びです。旦那様もご快復されたもよう。良かった。新川さんハッキリ言う。R会の他の信者などどうでもいい。私は縁ある温かいあなた方ご家族を救いたいのです。私には手に取るように人の心が解かる。　神の国は、欲望の太陽が沈んだ後に上りくる大きな愛（アガペー）に基づいた、隣人同士の抱擁に生まれます。善き人たちとの魂の交歓です。快感が走ります。楽しい場所であります。　新川さんは傷つけられることの痛みを本当に知っておられる。安易に教育と称して人格を否定するものはやはり悪人です。無頓着になってはいけない。正直に。　自分の南無妙法

蓮華経を見つけるとは本物の善を知ることです。真理と信じてください。法華経十五番から二十二番、八品の中、十六番、文言の底に潜み埋め込まれている成仏の種の自覚です。　あなた方は理由もなく私を憎んだ。聖句にあります。しかし私はこれからも信仰する善良な人達が一人としてもれず永遠の命、不老不死、神の国で生きられるよう祈っています。　人間関係は割り切れずそれでも割り切ったつもりでいた。が、割り切れない。神は心を捨てない人を愛し贔屓するのです。人を愛す。すべてに割り切れない。　各位が自らの南無妙法蓮華経を築く。これは異体同心ということ。日蓮の南無妙法蓮華経の想いを明らかにする。温かい仏陀の覚りである。皆、幸せの境涯へ達する。　たとえば私を欺くものは、神を欺くものとなる。あなた方はあえて神を敵に回すことになる。新川さんあなたは多くのことに心を配って思い煩っている。　私はあなたの罪を定めない。私はあなたに捨て置かれることはなく、私の肉体は朽ち果てることはない。私の言葉は神のもの、善き人か、惑わすものか考えてね。　皆、弱い人間です。預言者は言います。イエスを信じることで罪はことごとく救われると。あなたの命を黄泉におきはせず、父を信ずればすべての望みは叶うだろう。　世は飢えた権勢欲に取りつかれたもの達の修羅道だ。信仰に背を向け、聞く耳持たず。煩雑な小事にうつつを抜かし賢い気でいる。怒り、愚痴の温床だ。哀しい。　批判する

私に怒りはない。若干の憤りはあるが。私には憐みしかない。人生を思いやりなく断罪してはならない。新川さん、夜遅いメールが続き申し訳ありません。お伝えしたい儀に駆られ遠慮もなく福音として贈っております。心を閉じず寛大にお受け下さい。　私はR会にいたころ、自己主張することにためらいがあった。会員は驕慢とされたくないくせに開祖の教えを盾に傲慢を振り回す。真実の信仰は南無妙法蓮華経にしかなかった。　深く内在する仏の生命力を開発し、真の幸福を獲得していくのが日蓮の唯一最高の仏法。南無妙法蓮華経。常楽我浄に繋がっていく。いつも楽しく美しい。真に末法の仏の種を仏陀の覚りへと結びつける、私の南無妙法蓮華経しか成仏に至る道はない。法座で皆にお伝えください。心を洗う、温かな仏法の存在を。　今、新川さんの口調に接し少し安らぎました。私の想い受け入れられなくても、猫でも優しさは解かります。このお慈悲が来る世まで流れるのを願ってやみません。圭一さんにお伝えください。善意を悪意で踏みにじってはいけない。いつも信じられるものは愛だけです。主体性を無くさず、楽しく美しく生きるために。　圭一さんには女性疎遠の相がある。妬み、ひがみをもつことが最大の不運を招く。心の奥底に眠る生命力に働きかけなければ。比較をやめ、南無妙法蓮華経。正しき教えを忌避すれば好ましい女性からも忌避されるは因縁。その女性とは清らかな愛を抱く人。圭一さん、あなたは一番

わかる位置にいてそれが見えない。　あなたは頑迷で真理に目を閉じ、耳をふさぐ。私に繋がらなくては実はならず朽ち果てるのだ。あなた方の善意が問われる。滅びの門は立派である。それだけである。　救われる者は予定調和。つまりあらかじめ決まっている。なぜか新川さんにだけ真実を働きかける。　　侮辱される圭一さんの気持ち痛いほどわかる。簡単に流さないでください。お盆はいろいろ起こります。目に見えない世界、大切にしたいです。愛に基づく因縁、南無妙法蓮華経。事の一念三千。　神に聞き従うより、どこかの視野の狭い悪質なおっかちゃんに従う方があなた方の為になることでしょうか。簡単にわかること。真っ直ぐみよ。　（イミズさんへ、少し発見がありました。あなたの批判は残酷で情けがないものと敵意をもっていました。しかし因縁から批判は対象の周知に繋がっていた。正義。健康なわけですね。しかし罪を犯したとしても、わが身も返らず、独善的に断罪してもよいでしょうか。イエスは病人を治しに来た。責めるより愛が大切。それが宗教者です。覚れば傲慢、妬みは去るでしょう。）

　R会、大谷君へ　素直に思う。ちゃんこ、お好み焼き、大谷君宅の食卓に上がったおいしい料理。もう一度参加したいなあ。隣には圭一さんがいてほしい。きっとそれが幸せだよ。思うに、山下のアパート。チーズとチョコ、ロックで飲んだウイスキー。よくぞここまで頑張ったね。これからは楽に生きていこう。神

仏を信じ委ねて。飲み会、脱会した私に虫のいい話と思われるか。確かに私はR会の会員ではありません。でも誰より幸せです。着るより脱ぐからです。媚びではなく真理、語り合える仲間と歓談したいだけです。幸せに至る思想は、気付きと因縁がないと誰にも教わることはできません。周りは冷え冷えとします。私はR会を去り真理を見つけたが、君と、圭一さんの、R会に対する一途さ、執念も知りました。私とコンタクトを取ろうとしない君、私は友情と良心に訴えかけたい。仕事。刀折れ、矢は尽き見事な戦いぶりだった。本当に頑張ったね。これからは平和を求めて下さい。安楽行です。この意味と共に、会で唯一、成仏をなした圭一さんをよく視て下さい。私はR会に戻る気はさらさらありません。ただ君との温かい関係を取り戻したい。お父さんとの釣りの思い出、プロレス。きっと大事だよ。上昇志向はもういいだろう。　夜分恐れ入ります。大谷君、元気ですか。これから暑くなるのでお互い体調管理には気をつけたいですね。ではまた会える日を楽しみにしています。

（翌日の昼、大谷君から私のR会脱会後、初めてメールの返事が来た。）「遅れてごめんなさい、ありがとう」私はありがとう、またいずれお会いしましょう。ありがとう。と送った。友達の多い、大谷君は忙しいと思われますが。末席にいる私も、お忘れなく。ウイスキーロックで行きたいです。チーズとちゃんこでね。

（返事はこなかった）テレしたが、呼び出し音が響くだけ、私はメールを送った。私に繋がっていなさい。枝は木に繋がっていなければ実はならない。私が愛したようにあなた方はお互いに愛し合わなければならない。

顕正会、雄さんへ 会には頑張ってほしい。後、解散の暁には勝ち馬に乗り私が本物の南無妙法蓮華経を大音声する。同時に聖書に表されている神の国が愛に基づき生まれる。永遠の不老不死。そこにはイエスを侮辱した、詐欺師、道化役の浅井はいない。 会はいたるところで活動するね。最近、利用している就労支援施設の女の子からファミレスへ呼び出され、隠れていた会員の女性から騙し討ちを受けた。私は勧誘を主導し顕正新聞の記事の重大さを盛んに訴える、一般紙は全く読まないというその女性を、世間知らずと一喝した。いつもの一つ覚えの危機を煽るペテンだったからである。 赤(アカ)と呼ばれた私の祖父は転向し紡績工場の幹部になる。小学校四年しか出ていない彼は、帳簿、その他、猛勉強しただろう。大阪釜が崎の土方の立ちんぼうの暴動では革命には程遠く非現実的で、愛に目覚めた彼は、権力を目指したのだ。 聖書の神は神だから神。誰が決めるのでも条件づけるものでもなし。私には怒りも焦りもありません。平穏に楽しく人にかかわるだけです。上も下も地位は要らない。 聖書が言う。私が顕正会の会員であることは事実だ。雄さんそれでいいじゃないか。私は月末、法華宗、先

祖からの菩提寺へ行く。南無妙法蓮華経。　安倍は権力志向。国粋主義者の桜井よし子に支持され、国体、神の国を目指しているように見受ける。だが最近はラジカルな桜井と距離をとり、リアリストとして改憲に向かっている。岸信介の流れを汲む安倍にとって祖父のレガシーである日米安保を傷つけることはないであろう。だが彼のキャッチコピー、美しい国日本との矛盾はないのか。日本は戦から離れ米中の属国でもいいと言う、平和主義者にも一理ある。　聖書が促す。顕正新聞は正しい、安倍は独裁に向かうと。　私は製本にて布教する。確かにイエスの死は意味合いの解からぬ人には非業の最期にも見える。しかし彼は復活した。外してほしくない。　ひとつ言っておきたい。南無妙法蓮華経。これは末法に活かされる仏陀の覚りと仏種の結びつけである。日蓮が嬉し泣きした法華経による成仏がそこにはある。　顕正新聞、桜井よし子批判の記事、褒めてあげたい。確かに新聞は右左、中立である。神の概念だが「はじめに言葉あり」久遠元初の気が、聖書の神、私、日蓮であります。　古文、御書が読めてもそれは自己満足の域を出ず、平易にその意味、精神を解かり易く人々に伝えてこそ、浅井の存在価値はある。顕正新聞の中、予言の失敗に関しての検証、訂正、謝罪はないのか。そして複雑なイエスの十字架の意味を浅井は理解できず横死と言って竿の先で星を打ち、自らを辱めるのである。イエスの復活、南無妙法蓮華経は

リンクします。　雄さん、「浅井は自らの拝金など悪行を懺悔し、速やかに会は解散すべきである」。と、日蓮正宗の在家信者で面白い人がいるのだ。顕正会に友人がいると伝えると、ぜひ、破折したいと息巻いていた。一度三人で鼎談をしませんか。半端な男ではない。　組織への所属、教化、皆は救われない、限定される。心に温度差がある。予定調和。深い思いやりを信じるものだけ救われるのだ。それでいい。雄さんも信じるね。私はグローバルな感覚を意識するとき、少し悩みました。聖書が響きました。日蓮が生まれ、建長５年４月２８日、南無妙法蓮華経を大音声し立宗宣言した日本国が取りあえず救われると。私が外国語に縁なかったことの理由が、判明しました。日本人はその親切心からみても本来、心が美しいのです。そして日本を愛し敬意を抱く外国人たちが報われる。善良、親切、南無妙法蓮華経の精神を理解するものたちである。人々は私のもと、愛に満ち幸せに暮らすのである。　今振りかえって、無条件で利害関係もない私を、散財して飲みに回ってくれたのは雄さんだけでした。有名クラブにまで、本当にありがとう。鼎談、日曜楽しみです。　雄さん、今日の弁説は凄かったね。貫井さんも圧倒されていた。そして私は大石寺の日蓮、真筆の本尊、見てみたくなった。宗派の因縁から離れられないのが事実だ。結局、正しいことは愛し合うことだと再認識した。　聖書は神の自証にしか判断はない。それを踏まえる

と日蓮の御書も神仏である私にしか真意を汲むことができないのでは。文言から伝わる、文献としての信ぴょう性、妥当性より、その愛を。　顕正会は謗法であるとして、他の教えが著してある文献は検証どころか目にも入れようとしない。日蓮正宗は宗門として堂々問答、批判をしている。そこに潔さと自信を認める。だが私は思う。仏への道はそれだけではなく因縁を踏まえ幾筋もあると。貫井さんと大石寺に行くことになりそうです。楽しみにしています。日蓮、真筆の十界曼荼羅本尊を拝観します。受戒をその目的のためのみ致します。聖書の促しです。私が思うに雄さんたちは頭が良いから物事を理屈で考えようとする。「本尊がどうした、ろうそくが三本から四本に増えた、邪義である」。だが誰も本当の南無妙法蓮華経の意味を語ろうとはしない。だがたとえば軽い知的に障害のある子たち、自分を守るのが精一杯、でもわずかでも優しさをあらわしたい。そんな子たちは良心で見抜くのだ。その教えに温かさと本当の救いがあるか否かを。それはけして軽視、無視はできない。へ理屈ではなく優しい感覚です。　仏への道筋は幾つもあると書いた。各自が南無妙法蓮華経を心に確立させるということです。仏法という表現へのこだわり少々固い感じがする。日蓮は本当に情に厚い人だったのだよ。仏様だと認めるなら私の言いたいことは解かってくれるはずだ。　仏法とは深い奥の生命力を開発し成仏するための方法だったのだね。雄さんから伝

わる印象、どこか冷たいものと錯覚していた。　日蓮正宗の勤行要典から凄い爽やかさを感じた。日蓮を唯一本仏にしているからだろう。本門八品派六百年の歴史。一族が護り続けた法華宗、私が顕す真の題目の誕生。すべての南無妙法蓮華経の融和である。

桜井よし子は、皇太子（現、天皇陛下）ご夫妻まで攻撃する。傲慢で不敬極まりない。天皇の上に君臨するつもりだ。何たる極悪非道。雅子妃の病状も存知せずに誹謗する、この冷酷さ。顕正会は言う。彼女は戦前への回帰を、神道を用いて行おうとしている。神の国の現出である。取りあえず聖書の神の国とは違います。

念法寺、塩尻正春君へ　正春、心配するな。おれは神仏の集まるところが好きなだけだ。温かい空間が。君の観た仏様に少しふれたいだけさ。他意はない。同じく信仰を持つ人間ではないか。正春、勘違い知られんな、お寺、宗教は二の次です。君とただ懇親を図りたいだけ。大人になった二人。それぞれの想いがあるはず。認め、励ましあいたい。忙しいところ連絡くれてありがとう。君がつかんだ信仰は、主体性をもつとき必ず真の仏を観る。また善き縁に本当に互いがなれたら真実、嬉しいです。正春、悪かったな。どうやらおれの口調が君をイラつかせるみたいだ。久しぶりだからアプローチの仕方がつかめない。悪気はありません。

真如苑、たつえさんへ　昨日は整髪ありがとう。そして宗教は道徳ではなく思いやりです。あいつは純粋で優しいから苦しむ。個性を変えようと思うな。人格を変えようなどという暴力は誰に対してなされてはいけない。それが因縁を変えることだとしたら、とんでもない教えである。いかなる時でも優しく、まず宗教はそうでなくては。　（まず看板を各宗教団体が下ろす。その上で、神による安らぎの世界に向けて、一歩踏み出すため私が打ち出した思想を、皆が受け入れる。しかし実現は、絶対に難しいと感じる。私は近い、善き人たちにまず気付きを与え、固定観念より離れ、自由へと誘おうと思います。これらはその軌跡です。）

無宗教であると宣言し、サイババを崇拝し愛する君へ。　お上人も病にありながらも務めを果たしたいという想い、葉書の直筆の不安定さからも滲み出し、伝わってくる。儀を果たしていない門徒には、彼は冷たく酷に見えるところがあるかもしれない。しかしけして悪人ではない。支えねばならぬ時ではないか。私は君の「長男のアトピーが食用の油を変えることで劇的に改善した」とかつて聞いたのを思い出した。私は面倒で細かく聞かなかったが、同じアトピーで苦しむ真子のことを思えば冷淡な態度であった。君は私を責めるような強い口調で「聞く気、なかろ」と言っていたね。うんちくだと思って、聞かされるのは確か

に忍耐が要ると思った。そして、最近、真子を心配する母に、「詳しく話を聞いたらどうだ。」と促した。君が電話口、親切に母に対し具体的に一生懸命、説明しているのがよくわかった。実はこれこそ南無妙法蓮華経では。確かに本尊、題目としての文字、南無妙法蓮華経の意味は大事だ。だがその意義、精神は親切、慈悲にあるのではないのか。君は思いやりの心をもっている。やみくもに南無妙法蓮華経を押し付けて来る連中もいるが。君の心に、温かい南無妙法蓮華経が存在しているのに気付いた。親鸞会からも離れ無宗教になったという。そしてサイババへの心酔。その理由はサイババの言う大本の愛にある。そうです。それが南無妙法蓮華経なのです。ポジティブな仏陀の覚りである。まこと、お寺も言ってみればただの宗教団体である。心、精神、ぬくもりが生きるところに南無妙法蓮華経はある。仏は遍満しているからである。温かい心を忘れてはいけなかった。私は形だけを追いかけていたのかもしれない。自我との戦い、己への執着がなくなるとき他者への思いやりは深くならなければならない。それがなければ、ただのR会員のような蒙昧、冷酷な薄情者の誕生である。亡己利他。南無妙法蓮華経、仏陀の教え、智慧と慈悲を強く抱き私は生きていくつもりである。君よ、それでいい。南無妙法蓮華経とは、正義、真理、愛、親切、思いやりだからだ。精神が底流していればいい。何度も言う。久遠実成の本仏、釈迦如来はどこにも遍満し

ている。ありがとう。　君の好きな玉置浩二にはビートたけしが言うように逆境を自分自身に納得させる「田園」とか、また「幸せのランプ」など自然に幸せを望むことの大切さをうたった、名曲がある。教えてくれてありがとう。彼にとっての愛とは。うつ病の経験があるという。離婚をいくつか経験した彼。ある意味エゴイストにも感じるが「幸せのランプ」。（幸せになるために生れてきたのだから好きな人と一緒にいなさい。そして好きなことをして行きなさい）。でも感覚は俺に似ていると思う。正直でないと人の心は打たない。　日蓮正宗の貫井さん。　もらった資料、全部、読ませていただきました。義は、正統性、現証、功徳。それより本質的な愛が決め手になるのでは。怯まず布教に歩くあなたの勇気にありがとう。　私が富士大石寺へ行く、かなりの勇断が必要になります。貫井さんとの縁が二人に、そして全世界にとって有意義になるのであれば、私としてはやぶさかではありません。時宜が訪れたらいいです。動画、視させていただきます。本門流八品派、日隆上人、法華宗再興の唱導師。わが先祖は命を懸けて真宗王国のこの地に南無妙法蓮華経を広めようと京より同行したのです。それでも私は贔屓せず、信者の仏界を似て正しい仏の教えを判断いたしたい。今日は本当にありがたい日曜日になりました。夏風邪などがございます。お身体ご自愛ください。またお会いするのが楽しみです。名残惜しいですけどお休みなさい。

私は私の思想を再確認いたしました。動画、拝見しました。血脈、正当性。私はそれより南無妙法蓮華経の意義、精神を語りたい。それは仏陀の覚りです。執着、渇愛を滅し、智慧、慈悲を懐くことです。古文歴史の恐い先生と法師はやはり違います。思いやりあるところに仏の教えは温かく存在します。独善的党派心は先鋭的になり、また攻撃的になります。日蓮は悪魔と対峙し、あえて傲慢を演じたのです。絶対生命尊重。南無妙法蓮華経。理論闘争のため日蓮を担ぎ出すのはもうやめにしませんか。卵が先か鶏が先か。日蓮の心そこにあらず。南無妙法蓮華経。異端とは分裂を促すものを呼びます。日蓮を「悪しく、敬う」とは彼の真意を汲まず、ただ驕りたかぶり慢心を起こすということです。人々の平安を願った日蓮。セクト争いなぞで泣かせてはいけません。南無妙法蓮華経。　あなたは御自分に尋ねるべきだ、日蓮の弟子であるかと。私の書きものを読み、心動かなければ決裂もやむなし。とはいえ、互いに南無妙法蓮華経を信じる身、憐れな。「猫を飼うといいですよ。」（笑）　あなたのセクトも信じる人には信じられるか。私は私の中の良心、つまり仏性しか信じません、南無妙法蓮華経に基づいて。借りてきた理屈はもういいです。私は私を信じる。私が日蓮だからです。ありがとう。南無妙法蓮華経。お休みなさい。またね。合掌。（笑）　日蓮正宗は正しいと聖書が示す。しかし今、私自身が改宗する意味はあまりない。私が日蓮本人だからで

す。解かりますかな。とりあえず南無妙法蓮華経は正しい。日蓮は久遠元初の神、つまり聖書の神、そしてイエス、聖霊と共に今、我が身にある。信じられるかな。闇に光を求め。　あなたは前世のことを覚えていますか。日蓮が上行菩薩、法華経神力品第二十一の「このひとうたがいなけん」を自分だとしたのは自覚です。私が日蓮である。これも湧き起る良心の自覚にしかないのです。　（釈尊が過去を語るのだから日蓮なら答えろ）と、変な理屈だ。　（神は仏になれない）と、神にも仏性はあります。猫にも、ミミズにも。すべてに成仏する種があるのです。それを証明したのが法華経です。（末法の仏は誰か）と、南無妙法蓮華経を行ずるものは速やかに森羅万象、成仏する。頑ななものには理解できないだろうが、心柔軟なものには信じるのは容易です。つまり末法の仏は私ですね。南無妙法蓮華経は正直、親切、功徳の集まりです。森羅万象の幸福を祈るときすべて円満に成仏します。保ち、祈り、唱えることです。実はあからさまに仏であることを称したのは初めてのことです。お休みなさい。　本門流八品派法華宗についての資料ありがたいです。あなたの尽力、勇気に対し大きな賛辞を贈りたいと思います。さっと目を通しました。法華経、従地湧出品第十五から嘱累品第二十二までの八品には、あなたが主とする如来寿量品も含み否定はしていません。ことさらあげつらわなくてもよいのでは。仏が二人いてはいけないとか、どちらが偉いとか、

人が判断できるものではない。根拠は開経、無量義経にあります。世間の価値観から離れる。大事です。仏、つまり法は無常、無我、無大、無小、無生、無滅、不来、不去、不出、不滅の相、義を持つとあります。仏はどちらが偉いとか、世間の価値観で測るものではありません。仏は仏であって仏にしか解からないもの（法華経方便品第二）。ドグマから離れて自由になってください。釈尊と日蓮の位置にこだわることが世の救いに繋がるとは思えません。南無妙法蓮華経。仏、日蓮からの深い思いやりです。固定観念を破ることが大切です。（日蓮が釈尊を教化した。末法には釈尊は仏種をもたらすことはできない。日蓮だけ）と言われるか。それは当たっているかもしれない。しかし違っているかも。仏にしか解からない。だからこそ善を促し南無妙法蓮華経。日蓮への想いです。行じましょう。だから南無妙法蓮華経で南無妙法蓮華経だから南無妙法蓮華経なのです。そして南無妙法蓮華経で南無妙法蓮華経です。（笑）冨士大石寺へお誘いいただきましたが貫井さんの信念と気概、重く両刃の剣です。あなたを破折する力も意味合いも私にはない。ただ法華経は寛容を旨としていることを伝えます。南無妙法蓮華経。土曜日は仕事です。貫井さんの熱意、本当に頭が下がります。日蓮も喜びでいっぱいでしょうね。今日は資料を届けて下さりありがとう。では就寝といたします。　今回、鼎談にしたかったのだけれど、顕正会は二人で来るそうです。私

は中立というより自分の信じる日蓮、南無妙法蓮華経を支持する立場から離れません。存分に宗論、法論を戦わせて下さい。正々堂々。楽しみにしています。（恐い）。貫井さんらしくもない。ただ彼らの送迎関係の時間の都合で一人は付いてくるだけだそうです。私はそのもうひとりに面識はありません。いずれにしろ暴力的危険性は皆無です。大丈夫です。（取り乱した）。見知らぬものは怖いものです。だから私は自らの仏を念じ、神に祈るのです。そして人間にできるのは最後、仏を念じ神に祈るそれだけなのです。　複雑なイエスの十字架の死を浅井は臭いものには蓋をしろという感覚。復活と南無妙法蓮華経はリンクします。あなたが吠える、（浅井は自らの拝金などの悪行を懺悔し会は速やかに解散すべきだ）。良く解かった。ではイエスの十字架の死の意味が解かりますか。浅井は理解できない。つまり博愛、慈悲という真理を罰が当たると脅かしモザイクで消去しているのだ。所詮、彼は拝金主義の権化、池田大作へのコンプレックス、恨みが底にある。そういう感情もあるのは間違いない。　（何を言っているのか滅茶苦茶でわからない）。顕正会の人間もよく使う常套句ですね。まさに自らの無知を責められる前に卑劣に逃げるための手段として振り回す文言です。結局、一つ穴のもじなか。宗論し、勝鬨をあげる者は明瞭でなければ。ごまかしは、ご法度です。真理に向かえ。　このままでは、ともに自画自賛の、すれ違いの会談になるでし

ょう。注目の日蓮直筆の大曼荼羅本尊の扱い方について議論するのもいいが、仲介役ではないが傍観気味の俺は完全に君の排他性にしらけてしまった。　貫井さん、日曜１３時半、お待ち申しております。楽しみです。（笑）　私の軽四で行く予定にしています、それでいいですか。怒りをもって立ち去りたくなってもこらえてくれますか。貫井さん、出たとこ勝負ですね。とりあえず私の車で当所へ行く予定でいいですか。開かれた食堂で心配は要りません。向こうも一人です。鼎談です。戸惑われるのは貫井さんらしくないですよ。もし他に好いものがあるのなら従うのはやぶさかではありません。会談、成功させましょう。どんな形でもね。今まで仕事でいらしたのですか。私に任せて下さる。了解いたしました。貫井さんの体調良好と交通安全を祈っています。お休みなさい。南無妙法蓮華経合掌　　今日はありがとうね。いつも思うのは、正当性、ドグマのぶつけ合いは不毛であり、複雑をシンプルにした日蓮の南無妙法蓮華経の慈愛より離れていく。お疲れさま、でした。お忙しい中、遠路はるばるお越し下さり本当にありがとうございました。念仏、真言、禅、謗法の罪と見聞きもしない顕正会よりは日蓮正宗は宗門として堂々と批判し好感をもてる。破折が命ですね。　　日蓮の真筆、曼荼羅本尊を見てみたく思います。来月予定してくだされば。　長距離、複雑な道は障害のせいで運転に難があります。おんぶに、だっこに、なるかも。

いずれにせよ頑な人は苦手ですのでよろしくお願い申し上げます。聖書が富士大石寺へと盛んに促します。新たなる境地への旅立ちです。楽しみにしています。南無妙法蓮華経。一つ質問、日蓮が日興にすべてを委託したとする釈尊の扱い、なぜ五老僧に伝わっていないのでしょうか。血脈、日蓮が弟子を贔屓したとは思えない　日蓮正宗血脈の正統性。日蓮が破折、折伏、殺されることさえも功徳と信じ、遺言としてしたためた開目抄。日蓮は名を残そうとしたのだ。そんな彼が臆病風に吹かれたと言うのか。秘かな日興への贔屓とは。それはないと思う。日蓮ほどの男なら党派心を持ち分派していくのを想定していただろう。いずれにせよ、南無妙法蓮華経。誠実に艱難に耐えたものは成仏する。　日蓮系の中、正統性にばかりにこだわるとは。極めて異端である。　確認して置きますが日蓮正宗への勧誘は、なしでお願いします。それが大前提。また返事します。受戒は少しハードルが高いです。　話が飛びますが、法華経１２番、提婆達多は過去世に仙人であり、釈尊は身を粉にして弟子としてつくし、後、成仏をなした。過去世、日蓮もあなたの言う通り、釈尊の師であった可能性もある。　日蓮正宗の受戒は難しいです。もはや、節操無きことはできません。私には日朗からの血脈に基づいた教学と先祖の想いがあります。　（罰が当たる）だと、私に呪いをかけ事故死させようとした或る日蓮宗の坊主。私の南無妙法蓮華経で跳ね返した。坊主は

血を吐きのたうちまわり、入院を余儀なくされた。脅かす相手を誤るな。真筆を拝観する目的のため受戒せよと聖書が言う。つまりそのためのみ、一時的なもの許されますかな。私にとって重大な起点になるみたいです。よろしく。安心しました。寛容ですね。貫井さんにかえって御迷惑になるのではと思いました。許されるなら来月にでも決行しますか。御都合と必要事項お知らせください。特に所持金について。寺詣でですから贅沢はしたくありません。互いの信義に委ねて遂行されることを祈ります。とりあえず、助言に基づき五万円携え向かいたいと思います。酒ですか。正直、懐具合寒いもので、いま近所の先輩にもらったオールドを水割りで頂いております。私はやはり冷や酒が一番です。私はできるだけ簡素な生活を心がけているのでカップ酒が一番です。お燗は最近、飲み屋で頂きましたがしっくりきません。基本的に一人酒が好みです。確かに冷や酒は甘い。それは言えます。そして飲み屋はエゴの吹きだまり。真理はほっかられ侮辱が生まれるので好きではありません。喧嘩沙汰は御免です。私は、冷や酒は大関の３００ｍｌが最適です。深酒、泥酔は愚の骨頂です。　貫井さん豪雨があり参拝の日時を変えてよかったですね。大きな功徳です。油断大敵、魔が入る可能性があり。私は大丈夫。聖霊の宮ですから。いま、道中一人ですか。くれぐれもお気を付けになって温かく、ありがたく、楽しい参拝であることを祈っています。雨

の中、通行大丈夫ですか。元気でいて下さいね。　日蓮正宗、古文歴史の恐い先生の分析からくる理論闘争。そして心の琴線に響く温かい日蓮の南無妙法蓮華経、優しきパワー。どちらを選ぶのが幸せか。　貫井さん、お疲れ様です。必需品があったら教えて下さい。聖書は参拝に道中を含め支障はないと示します。よろしくお願い申し上げます。旅慣れていませんので一泊でも重いです。ありがとうございます。身ぎれいな格好には気をつけます。連休に道が混むのが予想されますが、貫井さんへの信義に委ねます。ありがとうございます。薬はバックに余裕を持たし備えました。なるべくご迷惑がかからぬよう祈っています。配慮かたじけなく本当に感謝申し上げます。（旅をとにかく楽しもう）。そうですね。そう言っていただけると心が軽くなります。いろいろ忌憚なく語りあいましょう。よろしく。（いろいろ紆余曲折があったけど無事、日蓮正宗の御寺の参拝を終え帰宅した。）　貫井さん、耳の調子少しおかしい。法を謗った罰かと聖書に尋ねたら断じて違うと出た。すぐ直ると。聖書を耳に当て、祈りの言葉を称えたら一発で、直った。凄い。霊力の高まりの知らせだった。本当に、本当に、本当にありがとう。ございました。不思議な何かに会えたみたいです。カーテンの悪霊も消え、猫は円くなって私の傍らで眠りました。起きがけに盛んに猫が何かを訴えてくる。（ありがとう）、だった。　下種。南無妙法蓮華経。合掌　権力を持った時点で人

間は欲望にスイッチが入る。そうならず、権力、地位に無頓着なものが仏に近いと言える。無頓着とはこだわらない心。自分の南無妙法蓮華経に気づき、懐く。世界中の人すべてが主体性を持ち。また聖書を大切にする人たちも含めて。世界中に愛と思いやりが溢れるのが夢。　　貫井さん、主体性を持つとは、けしてわがままを通すことではなく、相手を察し、素直に思いやりと愛、寛容性を持って働きかけることです。少し気にかかったもので。　親切から一言「他人を捕まえてバカたれ呼ばわりするようじゃまともじゃないぞ。頭を冷やせ」。　基本的に送信されるメールは最善のもの、害を及ぼすものは霊的に送られぬ。まず自分とは何者か、何をなす為に存在するのかと自身にといたまえ。そして成仏とは何かと。猊下から離れ糸の切れた凧になったか。真の預言者とは私だ。聞き従わなくてはならぬ。信じないものはことごとく滅び去るであろう。聖書の言葉である。正宗、八品派、もういいのだ。貫井、君は一つの大きな事をなした。皆が自らの南無妙法蓮華経を見つけることになる。不老不死となり成仏する。　　カレーハウスに来ているのか。おいしく楽しんでください。私はお酒を頂きせっかくの機会ではありますが心ならずも遠慮させていただきます。（来いとは言ってない）これは早合点しました。帰りの道中お気をつけられるよう願っています。　カレー美味かったろう。預言者に従い、帰路につかれたし。ありがとう。　なんでも

甘いか。君が人として辛いからだ。（インド人も皆甘く感じるぞ）の質問に、お釈迦様以外は皆、辛いかもしれないぞ、（もういいわい）と貫井は言った。私はハハハと一緒に絵文字を送っていた。破顔の。　冨士大石寺の奉安堂でのことです。　歌舞伎じゃねえ。こんなもの視に来たわけじゃない。俺が視たかった日蓮真筆の曼荼羅は、金ぴかのものではなく鎌倉時代に描いた墨で堂々と書かれたものである。（すごいだろう）貫井は言う。大仕掛け舞台装置と演出に騙されるお前はおかしい。私は言いきった。罰などくれるならくれてみろ。俺は俺だけをいつも信じるだけだ。猊下の仰せのとおりに行動するだと。馬鹿か、朗朗と御経を唱えるだけなら北大路欣也でもいいのか。徳があるのか、ないのか全く分からん。そんなものに盲従する君は何者だ。　貫井、お前の想いは良く分かった。帰りのすき家でカレーに豚皿を放り込んだとき、つまり作法の否定。私の想い解かってくれたか。　私に固定観念を破る自由な発想を力づくで、聖霊は教えてくれた。精神科閉鎖病棟のベッドの上で。　日蓮正宗の勤行要典から凄く爽やかな力を感じるよ。八品派との兼ね合い、血脈は異だが日隆上人の三大秘法、題目、本尊、戒壇。共通する。私によって真に一つになる。いろいろな団体、宗門からいいとこ取りさせてもらっている法盗人、因縁からならそれでいい。周知されれば結果、人様のためになる。神の認証です。　実は三大秘法は共通していなかった

のだね。日蓮正宗の言う三大秘宝は、仏、法、僧にある。そしてその意味は仏とは日蓮、法とは戒壇の本尊、僧とは二世日興。　　エホバの証人、山口さんへ　お久しぶりです。熱い夜が続きます。さて死んだ人がコピーとして返ってくる。私は言う。それは本物と違う。空である、伏した記憶が体を再び得るのではないかと。偽物とは違います。また、意識も空でありすべてに実態がありません。ただ表層の感覚の奥底が天国、地獄を体験します。やがて善なる空は色として地上へ戻ってくる。楽園を生きるのだ。また質問にお答えください。互いのためになるはずです。私が神として気付きを顕したいからです。よろしくお願い申し上げます。その日は近い。　明日、楽しみにしております。アバウトで結構ですから、何どきぐらいになるかご連絡くだされば ありがたいです。　（当日）神に時間の心配をさせる気か。作為的なら天罰必中だぞ。このチャンス好意的にとらえねば地獄の門が待っている。私の心ならずも、です。親和的に行きたい。　生命維持のための食事はなくなる。味覚を楽しむことをイエスは認める。好きな場所で好きなように愛に裏打ちされて生きる。そして憎まれ口叩く前にもっと人格を磨け。俺のためなら大きなお世話。組織のためなら罪は重いぞ。でもね、暑い中の訪問、本当にありがとう。感謝します。

　或る人へ手を合わせ、ありがとう。ごめんなさい、お願いします。そんな人が

幸せをつかむ。小言はなし、仲たがいするほど重要か。少し考えて。夫を立てる。人は自分を理解してくれないものだ。だから期待してはいけない。理不尽が続けば、互いに居場所がなくなる。争いたくないなら理性的に下がれ。心優しく柔和にね。　夫が思いやりなく権勢欲にはしる。君も辛いだろう。問題意識もなく、なあ、なあにするだけでは、何の解決策も無く寂しい。おおらかな君が犠牲にならぬことを望むが。　信仰無き人間は己を誇示しようとする。自己中心だから人の掲示も強要ととる。人は血の通った生モノ、愛、思いやりなく話は進まず。最後、祈るしかない。　人の想いは温度差がある。仕方ないものには白旗を揚げよう。自分を大切にし、ストレスにしないよう。重ねて言うが辛いとき、まず祈ろう。心が穏やかになる。

雄さん、浅井さんは会の求心力の為、排他性の持続の為、「すべては邪義」という誇張した日蓮の教えと会の在り方との整合性の為に、あえてイエスの死を、横死としたのではないのか。つまり目的優先だ。日蓮は聖書の神の示現した姿である。イエスと同様に。　イエスは言った。「善きものは神しかいない」。人間として顕現した神には生活もあった。だが些細な問題だ　　イエスは厳格と寛容を使い分けしなければならぬこの世は、悪魔が支配する世界であると民に表明したかったのである。いま、イエスも日蓮も聖霊も、私、神ヨシトの中で存在してい

る。私の正義感を鼓舞し続ける。いつまで続くのか、私は負けない。愛を流布させよう。いま、私はこの世でいちばん聖なるものであると確信する。良心だけでは生きられないこの世、しかし思いやりは死なないことを信じよう。隣人愛をフルに発揮して生きて行かなければ。　まずは辛いとき祈ることだ。まず題目があれば本尊、戒壇は付いてくる。題目の意義を思う。幸せを呼ぶ。日蓮の真意。建長5年の大音声、立宗宣言からすべては始まるからである。　雄さん、「罪は重いが神の国への方便として浅井氏の言動は許可せよ」と聖書は言う。後、イエスを信じるなら報いはある。流布が達成された暁、全体主義的顕正会は即、解散することを望みます。私は静観します。

南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経

（第２章）愛すべき姪たちへ。
安全運転で雪道を行け。余りにもひどければ休暇をとること。また遅刻しても叱責ですむから。 積雪は、私の神としての自信を失わせるため悪魔が仕組んだものである。私は生活不安に脅かされ、困窮しても、確かである自分を神と信じるだけだ。降雪はかえって私の自信を強固にした。 釈尊の時代、少し政治が安定し、貧しかった生活から抜け、富の恩恵を受けた人達が現れた。しかし悩みは尽きない。経済的に豊かになる。膨らむ欲望はかえって苦しみを助長することになった。 美しき心の因縁は、善きことをもたらす。それは布施の心にある。私の実感である。悪心を持たず、私の言葉を信じなさい。幸せは確実に訪れるから。人に施しなさい。 幸せは他との関係性の中にしか生まれないと信じるなら、悪しき、しがらみからは離れ、サイの角のようにひとり歩みなさい。 類が類を呼ぶ。隣人への感謝の暮らし、私の幸せな生活風景です。 釈尊、イエスは自由、愛、平和を知らせた。彼らの思想は理解されず、イエスは嘲笑された。 南無妙法蓮華経、キリストの義、説いても理解者は少ない。神の国、愛の選別が始まります。 神の愛、想いがわかる女性でいなさい。心ならずも裏切り、人を傷つけることになっても思いやりを忘れず、生き方でメッセージを送ろう。 人は自分の為だけには生きられぬものだ。無情から離れ、神に祈ることが最善だ。神託を

仰ぐ。自分の内なる声に素直に。　ある高校で一分遅刻したために鉄の引き戸で圧殺される事件があった。電車が遅れた。門のことは知らなかった。一分遅れて殺される。日本の常識はまともか。　取りあえず親友は神だ、つまりイエス、誰かに裏切られても落ち込んで泣くな。ただ、できる限りでいいから周りの人に優しくしなさい。　私にはポリシーがある、それは悪魔の体制の犠牲にはならぬこと。聖書が言う。それは自覚にあり、たとえ雇用、労働を選択しても金、権力に、取り込まれなければ、神の愛は傷つけられない。たとえ暴言で踏みにじられても。人はひとを傷つけずには生きられない。また想わなければ、だが想えない。そんな関係性の中を生きている。明るく素直に温かく、南無妙法蓮華経。　母が風邪をひき、酷く咳をしている。顕正会が言う罰か、私への侮辱に対しての罰であるか。除雪、無理をしたのだろう。雪は解ける。私は冬籠り。　見栄体裁で自分を飾ることはない。母の除雪、誰かが手助けする。いかに哀れに見えたかということである。私はただの無情の出不精か。　不快な積雪と冬季オリンピックは、次のステージへ流転するための胎動と陣痛をもたらした。　人を信じられない時があるだろう。だが信じよ。一番危険な事態だからだ。人はうそをつかないと思え。そこからでないと思いやり、安心は生まれない。真心さ。　神は大きな宿命を背負っている。愛の成就である。もし君たちが真の愛にそむく者なら厳しく処

断されるだろう。例外は認められない。誰であろうと辛いが。　イエスは愛し合うことを訴え、一方、偽善者を強く非難した。念仏は皆、悪人。仲良くせよという。いずれにせよ、正しきサンガ（僧加）が大切なのは当然である。和合はそこから生まれる。　宗教団体は一人で意思を確立できない依存的人間が大勢だ。真の宗教はただの集合ではなく森羅万象、関係性から生まれ、信者は六波羅蜜という菩薩行を南無妙法蓮華経で端的に為し、慈悲と思いやりが神仏より委ねられ幸せになる。

　知的障害、秀美は主体性、行動原理をもっている。就労した先輩に去年は遠慮していたが、バレンタインデーのチョコを今年、皆に配った。「都合のいいようには使われないぞ」という意思表示。そして友情に篤く、優しい。君たちはどうだい。　自分の意見が通らない。仕方ない。アドバイスが気にくわない。ひとに訊くからいけないのである。俺の話もいい加減に聞け、だが正論だ。そして信じよ。　目に見える世界は氷山の一角だ。目に見えない世界を信じ重く感じよ。祈り、感謝、愛、いたわり、思いやり、察知する力を身につけよ。幸せになる必須である。　親を煩わせてはいけない。たとえ罪人の香りがしても。親孝行を成し先祖に感謝する。幸せは不安が除去され確実に訪れるからね。すべては南無妙法蓮華経。　就労が不安でした。南無妙法蓮華経の功徳に気付きました。

けんかをし、ふて寝の母に年金から生活費を渡しました。不安は消えて行きました。神は美しい心に宿り、確実に幸せへ。　私は就労した。あらためて人間関係を思う。意地悪なおばさん、冷たい中年の禿げ頭。どこにでもいるね。責任も突きつけられる。なす術がない。　イエスには枕する所が無い、悪魔の体制のもとでは安堵する所が無い。しかし聖書は今回の就労は大丈夫だという。何度も。愛を抱き、罪を憎んで人を憎まず。　職場。いい人と思えばいい人。悪いやつと思えば悪いやつ。こちらの鏡かもしれないね。仲間入りはハードルがあるけど、飴玉配ったよ。少しゆるくなればなあ。　イエスの教えはまず律法の存在から始まる。そしてその堅固な足かせから信仰によって人々を解放した。理屈は必要だったが信仰という愛にはもはや理屈はいらない。　仕事で読む暇がないとママが言った。忙しいときほど私の本は必要なのだ。愛を忘れるな。優しさの意味を知らなければいけない。　管理という非人間的なシステムに抵抗した部分だけでなく、美しいラブソング。人生への応援歌もある。彼は清らかな愛を信じ、模索していたのだね、尾崎豊、万歳。　生存競争、愛は与えられるものではない。奪うものなのか。「愛や誠心で立ち向かわなければ、愛は真実、救ってくれるのだろうか。」、尾崎は歌い続ける。夢のために、君の道を行け。　南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経。辛い時は私を信じてまず祈るのだ。

強く言う。　真子、何とかなるものさ。体にきつくないのなら。周りの人の癖を見抜け、傷つかず傷つけず。幾多の苦しみを乗り越えたおじちゃんが言う。愛しなさい。責任に振り回されない。自分のやるものに専念し、それ以外は受け付けなくていい。優先順位を付け、力の具合を調整しよう。合意をつくろう。　君が後輩、部下に悩むなら、彼等の言い分よく聞こう。ただの上昇志向なら、強権を使うのは致し方ない。爽やかに叱責せよ。自然体で。　世にはきつい肉体労働で口に糊している人もいる。年齢とともにさらにきつくなる。君の仕事は商品を愛で包んであげる。それが大切なこと。笑顔になれ。好きなことをしている嬉しさに。幸せを感じよ。励むのだ。人間関係はふとしたことから好転する。　皆、殺伐とした職場は嫌だろう。正直に生きよ。明るくて優しい自分を信じよ。職場は清く楽しく。なぜいけない。　昔の日本と違いアメリカナイズされて棲み分けされ分業が行われている。仲間の絆も生まれにくい。でもいつも味方でいてくれる人達を親類と思いなさい。　おじちゃんは入院中思った。人の便秘のことまでを四六時中心配はしていられない。役目の人がいる。自分に芳しくなければ毅然と引け。人望と犠牲は紙一重。風雪が人を磨くのは確実だ。それを愛に変えてきた君を私は知っている。だからいつも素直に温かく話せばいいのだ。皆、耳を傾けるよ。誇りを忘れず当たれ。　湿疹は善きこと神の祝福だ。神の国へ入るた

め。純潔を大事にして乙女であれ。永遠の命が待っている。　真子、君は素敵な女性だ。自信を持ちなさい。おじちゃんにはたくさんの恋人がいます。美しい関係です。恋愛にキマリはありません。特に年齢は全く関係ないことを伝えます。もっと視野を広げて素直に。愛や夢のための自立ならおじちゃんは応援するよ。大切なのは温かく生きることなのだ。そして善きことが付いてくる。心に愛を抱け。人に好かれようとは思わぬこと。ただ自分が正しいと信じる道をとりあえずは歩くのだ。君が掻き分けた道は長く広い街道になるだろう。それが愛である。

　真子、千華、時に、組織は人を悪感情で引き裂き殺伐とした無情の世界を繰り広げさせる。君たちは愛する人たちと我慢を捨て逃げだしなさい。それも人生経験だ。幸せにね。　善意を評価させ、また周知させる。改革につながる。逆もある、悪役を演じ皆の善意を鼓舞する。孤独で結構しんどい。やはり私は勧めない。犠牲のにおいがする。真っ直ぐ生きよ。　　神仏でもない、人間の言うことは持論の押しつけが大半だ。その中で得になることだけ耳に入れ、自分を見失わず、侮辱と共に聞き流せ。そいつは未熟な人間である。　人は正しいと思って考えを押し付けてくる。けして自分を捨てず、「違う」という感覚を大切に育てよう。まあ、とりあえず合わせることが無難と思えればいい。　　まず愛する人を見つけることだ。思いやりの分かる人。心の温かい人。上品でまじめな人。

その交際の果てに結婚がある。道順を誤るな。焦らなくていい。　真子、今は解からないだろうが、湿疹は将来に向けて、必ず善きことだ。男の選別がなされる。上品に愛を抱いて歩き続けなさい。幸せは、感謝で姿を現すよ。協調性とひとは言う。だが正義を信じるとき和合を破らねばならぬこともある。その正義は必然なのか、それが確かに大事である。自分を信じ抜けるか、後悔しないか。

職場が険悪なところだと自覚したとき素直に己に従うしかない。負けず、堂々と正義に生きよ。滅多に殺されはしない。でも悪を犯しそうなら逃げだしなさい。神仏の罰の方を恐れよ。　嫉妬、侮辱に遭うとき相手の美しい心の琴線に訴えかけよう。優しさと温かさを取り戻してもらうため。固定した価値観は自由、寛容から離れるように見える。また寛容から偽りを許すこともある。ただ優しく南無妙法蓮華経。真の、自律、自由が見つかる。　好意は自然な気持ちを大事にしなさい。無理はどこかでひずみが来る。精神疾患の温床ともなる。素直が一番、南無妙法蓮華経。悪しき欲望からは離れ自然に自分らしく愛を抱くことができる。　真子、湿疹は寛容なく卑劣で慈悲心もない男たちから、聖霊がお前を守っているのだ。堂々と生きよ。思いやりさえ忘れねば、誠実な王子様は確実に現れる。千華、お前とはもうかれこれ三年は逢っていない。肉親の情にはちゃんと微笑みで返すのだ。それが愛に報いることだ。私に話しなさい。

どんなくだらないことでもいいから。いろいろな看護師がいるだろう。怠惰な奴、いじわるな先輩、要領よくふるまうもの。でも利用者は忘れない。それは笑顔と優しい言葉の人だよ。上品さが自然と身に付くとき、君たちは自分だけの花を咲かすだろう。怒り焦りは暗い気持ちに陥らせ、自己嫌悪に。平常心と微笑みを忘れぬよう。言い忘れていたがおじちゃんは就労したクリーニング店を二日で辞めていた。やはり神は雇用されてはいけないのか。人の傘下には入れないのかも。　商売人は腹黒い。当然なのだ。どうあろうとサービスを提供する相手を獲得しなければいけない。競争にルールはない。金があれば幸せになれると信じている人もいる。ひとの人生を思いやりなく批判してはいけない。難しいことではない。優しく想像力を働かせ同情することだ。普通の人生などない。あるのは人生だけだ。　他の人たちが安楽とするものを私は苦しみとする。また苦しみを安楽とする。無知なる人々は世の富と名誉に価値を置き、見えない法を知らず、迷いに入るのだ。　真子、聖書の促しだ。人に相対するとき自分がどんな状況にあってもできるだけ優しくありなさい。私だから言えること。幸せを逃さぬよう。場を温かく。　千華、久しぶりに会って嬉しかった。二人とも上品ないでたちで嬉しかった。この席をセッテングしてくれた、ママ。送迎してくれたパパにも感謝。君も感謝してくれるよね。　真子、心配に少しなった。怒

り焦りは絶対克服しなさい。有名デザイナーになっても幸せはない。愛と安らぎがないからだ。寛容と自制力を身に付けよ。嫉妬はご法度だ。　　自分のことに注目させ、他人の業績、失敗をあげつらう。そんな未熟な人は世の価値観に縛られている。結局、争いの中、幸せにはなれないのさ。平和と愛を求めよ。　　真子、上品さから少しだけ離れて、明るさを前面に打ち出せ。人を面と向かって批判するのは、まだまだ未熟なせいだと自覚せよ。いつでも思いやりを忘れてはいけないよ。上品であることはけして男を寄せるためではない。モードを通して簡素な生き方を現し、涼やかな心を、周知させるためだ。寛容と微笑み、損をしても幸せを運ぶだろう。　　民主主義とは、我欲から生まれ、利己主義に担保され、制限ある自由を楽しむ。その図式で金儲けは唯一目的となる。それを求める人を世間は大人と呼ぶのである。君のことは神がちゃんと知っている。議論はしてはいけない。思いやりにかなうものはない。誰かが、見ている。その人を大切にしようね。幸せが来る。　　真子、夢、自由に向けての独立は応援する。しかしくれぐれも不謹慎な異性交遊は慎むのだ。大人だからこそ心掛けよ。無くすもの、信用が一番に大きいからだ。　ある芸人の弟は自殺した。だがある芸人の兄はテレビ画面に登場し成功した。芸人をはじめ表現者。これはすべての人に言えるかもしれない。恥ずかしがらず素直に自己アピールすることは本当に大切な

ことなのだ。誤解、偏見を避ける意味でも。　　妹へ、　お疲れ様。真子と千華にはメッセージはもう送りません。最後にアドバイス。積極的に生きなければ幸せは掴めない。生活に埋没して心を汚してはいけない。　　久しぶり、真子、千華、自分だけが辛く苦しい目にあっているとは絶対思わないこと。人は皆、傷ついている。得心したとき笑顔を振りまきなさい。私ほどの幸せ者はいないとね。自己執着は世間知らずと関係がある。知的、精神、身体障害者は特別不運であったわけではなく、失望、絶望を経験した、日常にある普通の風景であったということです。　　君達が迷惑するのでメールを控えるようにとお袋から聞いた。真偽のほどは解からず確かめたいのだが大筋は外れていないだろう。しかし人は自分をアピールすることが断然、大切なのだ。　　真子、人間万事塞翁が馬。何がよかったかは死ぬまでわからない。焦りは禁物、幸せは君の後姿を見ている。忘れないでね。必ず春は来るからね。　千華、とにかく自分を大切にするのだ。そんな姿を利用者は確認してわが身を大切にすることを学ぶ。それが最良の看護サービスである。　真子、心配するな。湿疹は乙女として神の国へ入るまでの神の配慮、計らいである。優しい気持ちを忘れずに生きていなさい。来る世まで。君は救われている。地獄を経験して人の真実の思いやりが解かる。凌辱よりガードされ愛と誠を知るがいい。そして先にあるかもしれない、結婚という呪縛から離

れた幸せは、神の子へと通ずる、神の御使いたれ。　千華、女にはお産の不安が来たときあるが、子を生んでしまえば、もはや、苦しみは覚えていない。ひとりの人がこの世に生まれたという喜びがあるためである。　千華、世は、利、つまり金で動いているかのように悪魔が仕組んだ資本主義社会である。ケアマネジャーのママに尋ねなさい。雨の日の傘のように強く愛をもって世の人の幸福の為に生きなさい。君ならやれるはずだ。まず笑顔、挨拶から始まるよ。　真子、千華、恋愛で一番大切なのは忍耐だ。次から次へと悲恋、艱難が訪れるかもしれない。時宜を待て、必ず美しい恋は実る。私は今、愛と思いやりの中、幸せを実感している。　理想を持て、妥協するな。その後、自然の流れ、価値観の変化により真実の愛は見つかる。ただ対象に誠実な思いやりを向けよ。恋は成就される。心が通い合う。　人生において失望に負け、絶望に陥るな。渇愛があるから感じるものだからだ。

聖書は、桜井よし子は対決的でよろしくないが、神の国へと向かう姿勢と道筋を評価しても良いと示した。皇太子批判。極めて遺憾だが、皇室に対して盲信的、絶対的な崇拝をあえて否定している。そこには彼女自身の、頂点としての皇室へのイメージが先行している。神道の流れを上り、純粋に聖書の神に辿りつくだろ

うか。大本の愛がある。皇室を遡れば私に行きつく。そして折伏という勧誘に積極的な顕正会。日蓮を頂き、南無妙法蓮華経が流布され、仏国土が誕生するという。明かそう。そこには久遠元初、聖書の神、日蓮（私）がいる。どちらも神の王国に繋がっていく。山頂は同じである。私の王国は威圧、威嚇、強要、恐怖、窮乏、貧困、病気、騒動のない、優しい世界である。それがすべての真実である。雄さん、日蓮は大本の確かな神、仏。天孫降臨、皇室も遡れば聖書の神へ至る。神道の歴史を遡った究極に存在した、日蓮、イエス、神、義人（ヨシト）の愛による、王国は造られる。顕正会には、当初の目的を達成し、約束された会の解散を願う。永遠の命の到来だ。現れる神の国で、私は一匹の羊でよい。桜井や浅井が領袖の醜い権力集団の横行は、絶対に見たくはない。目的が不純であってはいけない。永遠に平和な世でなければならない。

南無妙法蓮華経。

神を愛せ、隣人を愛せ、御名、即ち愛が広がり、御国が参りますよう。

（第３章）（秀美と冬美は姉妹です。軽い知的障害があります。所属する就労支援施設。籍はおなじですが別々の場所で訓練しています。私は姉である秀美とカレーハウスにいます。いきさつから、妹の冬美の携帯番号を知ります。秀美は私に番号を教えません。秀美への伝言はＳＭＳで冬美に依頼することになります。）

秀美ちゃん、ごめんよ。私はこの雪には立ち向かえない。悪魔からの届け物。冬籠もりが一番です。明日は明日の雪が降る。また晴れるさ、心もね。秀美ちゃん、私のせいで仕事が負担になってない。恋人だから、お許しを。　天の意志により、じきに積雪の苦しみは太陽と雨によって解放される。ごめんね。私には障害がある。モチベーションが持続しない。死んだ人に動けとは言えないものね。でもいろんな人に迷惑をかけているのは事実だ。本当に申し訳なく思う。でも君たちも、奴隷ではない、自分のペースでね。　秀美ちゃん、冬美ちゃん、イエスの十字架の死の意味がわかりますか。難しいですか。実は解った人に結婚を申し込もうと思ったんだ、特に秀美ちゃんに。　秀美ちゃん難しいですか、神との約束を破った人間の罪。贖罪、イエスの死。皆を神の罰から救ってくれたのだよ。　楽しく生きていこう。冬美ちゃんもね。難しい男の戯言だと許されよ。いや違う、冗談ではないのだ。また二人、ゆっくり考えてみてね。　風

邪かな、少し辛い。姉妹二人、手を携えて孤独感に立ち向かえ、強い絆で。俺なら大丈夫。君たちが寂しい思いをしているのではと心配になったのだよ。　ずいぶん、勝手な話だけど、カレーハウス辞め、就労することにしました。長く休み、気がねで出仕しづらくなりました。秀美ちゃんにまた負担をかけることになり心苦しいです。冬美ちゃんからよろしくお伝えください。報告まで。　秀美ちゃん、またカレー食べに来ます。バレンタインデーのお返しは必ずします。本当に。メール、冬美ちゃんありがとう。秀美ちゃんごめんね。二人とも美しい心を忘れないでね。幸福が向こうから歩んでくるよ。友を大切に。ずっと幸せを祈ります。　クリーニング店、二日で辞めました。冬美ちゃん、秀美ちゃん元気ですか。今日も一日お疲れ様。やはり一般就労は大変だった。俺は年配の障害者だ。カレーハウスに戻れるかは、明日決まる。とりあえずエールだけは送ってね。恋人たちよ。愛しています。お休みなさい。　冬美ちゃん復帰できそうです。温かくしてお休みね、まだまだ寒いから。君たちは純粋だから気をつけて対応しないと傷つけることになるからね。　少しカレーハウスに戻ることが気になります。秀美ちゃんによろしくとお伝えください。ありがとう。完ぺきにとか、なにか大きな期待をするからいけないのだ。皆、応援してくれ、かばってくれる。少しほっとしました。なんとかなるさ、9時出勤、少し早目の

起床。体調整えて大丈夫さ、秀美ちゃん応援ありがとう。二人とも結婚したいくらい嬉しいよ。いや本当にありがとう。お薬飲んで、横になります。名残惜しいけどまたね、お休み。不安も本当に和らいだ。ありがとう。　朝方忙しいのに熱いメール、本当にありがとう。持つべきものは友達、いや恋人ですね。冬美ちゃんもマイペース崩さず愉しく。なるべく未来へ向かって不安を持たず。尾崎から力もらって。　秀美ちゃんはまだ帰宅されていないか。私の思想、神託、世間的には理解は難しいかも。けど、自然体でいます。私の自然体とは聖霊の宮です。冬美ちゃん、叱咤激励ありがとう。そうだね、俺は俺。強く生きなきゃ。よくないのは期待に応えなきゃと思うことだ。　原因がわかりました。パソコンのやり過ぎでした。辛い部分があると気が滅入りますね。目薬さして楽になりました。お薬というのはありがたいものですね。御心配おかけしました。どうも。　冬美ちゃんは心が細やかで優しいから傷つけるような表現はしてはいけないと聖霊に叱られます。不注意で傷つけたなら許してね。　冬美ちゃん、怒っている。伝書鳩みたいに使って。ごめんね。明日もゆっくり。　秀美ちゃん明日、頑張ってね。二人とも愛しています。秀美ちゃん忙しかったですか。ゆっくり休んでください。世のいたいけな女性みんなの恋人でありたい。神だからね。それは、一般で言うところの恋人より重くて清い関係。　とに

かく冬美ちゃんは、アイドル。特別だから早く元気になって皆に御尊顔を見せてあげて下さい。愛しているよ。辛かったら素直に無理をせずにね、温かく私は祈ります。　冬美ちゃん、笑顔マークないと淋しいけど、仕事の不具合があり話したくない気持ちが伝わってきます。また明日、ありがとう。おやすみなさい、優しくて素晴らしき女性よ。　冬美ちゃん、人に好かれようなどと思わなくていい。人を傷つけることになっても自分を打ち出せ。自己犠牲はだめ。強く。皆、認めてくれるよ。まず善き心中を伝えよ。秀美ちゃんはいつも実行しているよ。互いに傷つけあったり、寛容に受けたり流したり、飴玉一つで変化。引きずらない。祈る。嫌なことは忘れられるよ。本当。　秀美ちゃんは自分を大事にすることを知っている。冬美ちゃん自然体で自由に生きることを大切に。嫌われても私がいるから大丈夫。愛が大事。優しい無垢な冬美ちゃんの人柄が好きです。くれぐれも無理をせず仕事してね。ストレスためず。　秀美ちゃんは、マリエの6階で休憩する。冬美ちゃんも息抜きも必要だよ。少し説教じみたので終りにします。おやすみなさい。　元気ですか。秀美ちゃんと水曜、仕事の後カラオケに行く約束をしました。いつか冬美ちゃんとも行きたいです。後から確約の、メールをします。よろしく。今日は少し深い話を秀美ちゃんとしました。私が二人を恋人と表現するわけ。そこには神としての温かい

想いがあります。君達はそれを理解し感じることができると思います。私は、障害者として互いを見つめ合うことが大事で、一部の健常者の持つ優劣を競い、一番を取るという価値観より離れ、心に大きな愛を抱き、みんなで幸せになりたいのです。皆、特別なオンリーワン。 秀美ちゃんにカラオケ行くのを何度も確かめる、俺が心配性なのだね。神である私、魔がいつも入る。裏切りはつきものだ。でも秀美ちゃんの優しさと誠実さを信じればいいだけだ。疑ってごめん秀美ちゃん、カラオケ楽しもう。　　これからもわしはあらためて愛を振りまいて生きるぞ。ここに誓う。皆の幸福、永遠の命のため。

　秀美ちゃん、車を駐車場にいれて、地鉄の駅まで歩いて送ってあげるべきだったね。ごめん、失敗だった。今日はカラオケありがとう。楽しかったです。僕は君たちを恋人と呼べる、それが大事だと思うのだ。そこに清らかな愛が存在する。秀美の自由を求める高潔な心を知りました。でもくれぐれも自分自身を大切に。悪い奴はいるからねえ。自由とは自律し寂しさから離れ、心に立ちこむ爽やかで暖かい風を感じることです。この世に悪意は存在する。来る世、心が美しいものは神の御使いとなり、本物の自由を謳歌することになる。二人とももうすぐだ。愛を大切に。秀美も、冬美も自然にそのままで素晴らしいということさ。それでいい。いかなる時も。自分を信じて。いちばん悲しいのは自分

を信じてあげられないこと。自分は自分。オリジナル。人格改造なんかに負けるな。われらは正しい。優しい無垢な心、万歳。それでいい。勝負にこだわる世間がおかしいのだ。君たちは怒り焦りが嫌いだったね。　　秀美ちゃんはまだ帰宅してないの。冬美ちゃん、少し心配ですね。何をしたいのだろう。何か出逢いを待っているのでは。秀美、寂しくなるのはわかるけど。真の意味で自分自身を大切にしないと。まずは正しく生活し運命を信じてみる。秀美、傷ついたらなぜか考えて。悪意を自覚しない、愚かな人はたくさんいる。無理しない寛容を目指そう。　　冬美も秀美も結婚しなくてもいいのでは。俺も一生独身かも。そのうちもっと良いことがある。神を信じて。冬美、秀美、愛している。これからもずっと。神の方へ向かう限り平和は続く、私は神イエス、一人に全力投球、皆に全力投球、あなた方は神を愛する、そして善良なる隣人を愛す。冬美よかったね、南無妙法蓮華経にたどりついて。ただ顕正会の浅井さんは仏のお手伝いをしているにすぎない、仏ではない。誤ってはだめだ。私としてはそうみるしかない。神、イエスであり、久遠の法と一体の日蓮である私に、聞き従いなさい。他を拠り所としてはならず。私は絶対善。南無妙法蓮華経。秀美ちゃんに尋ねて下さい、私の善良さを。信じて下さい。　　日曜日、策略をめぐらせ、待ち伏せ、私の勧誘を主導した顕正会の方、真実を求める高潔で賢明な

女性なら、成仏のため、神の言葉を聞きたいと願うはずだ。混沌としている先に私には真の仏が見える。永遠の命とともに。冬美ちゃんが会に惹かれた理由もわかる。新鮮だったのだね。確かに世間の人間は、皆、自分勝手だ。でも一番許せない存在は正しいこと、間違ったことを、人の思いを無視し押し付けてくる人達なのだ。冬美ちゃん、これからは誰に対しても今回みたいなペテンにかけてはいけないよ。あなたの心の美しさを信じたい。心の底から思います。冬美、秀美、今日一日幸せに過ごせたか。秀美に会えて本当に良かった。私が多情で傷つけたならごめんよ。でもこれが俺の優しさなのだ。正直な話。この世では弱者はいいように扱われる。でも強者になって人を踏み台にもできない。君たちはどう思う。　秀美、お土産ですか、心のこもったものなら何でも感謝します。ありがとう。明日、秀美ちゃんを家に招待したい。どうですか。伝えてほしい。美しき心の持ち主よ。私の欲望ではなく。あなた方、特に愛をくれる秀美ちゃんの幸せの為です。すべては秀美ちゃん次第です。暗闇に光を求めるならば。　冬美ちゃんファミレスでお会いした、顕正会の女性と話しできませんか。私の携帯番号お伝えください。よろしくお願いします。宗教観について語り合いたい。実は私も名ばかりの会員です。そして切り捨てず、イエスの教えも知ってほしいのです。一人の女性としても興味を抱いたのかもしれません。

いけませんか。恋人たちよ。神は博愛主義者。一人だけというわけにはいかないのです。すべては対象になる女性のためです。秀美ちゃんは知っています。君たちに依頼するのは許されないことなのかなあ。仲間の輪を広げよう。南無妙法蓮華経。合掌。神の心持を知って御理解下さい。嫉妬は仏法の敵です、罰に繋がる。美しき心を忘れぬよう。冬美ちゃん彼女に、顕正新聞、内容の論拠、出処、信ぴょう性を聞きたい。私の南無妙法蓮華経の意味を知ってほしい。冬美ちゃんの親切に期待します。　（秀美から、スマホの番号をやっと教えてもらった。今までは冬美を通してだったけど今度は直接話せるようになった。）

秀美ちゃん、帰宅されましたか。お疲れ様です。君がいるのと、いないのでは何か大きく違います。いつもチェックありがとう。少し腹が立つけど。自己との闘い、修行だと思っています。ではお休みなさい。（笑）　今、ＣＤの、整理していたら、冬美ちゃんのメッセージが記してある、メモ用紙が出てきました。渡されたとき本当にうれしかったなあ。秀美さんありがとう。親切忘れない。（新人の軽い心に障害のある、無口な弓恵にメール友達に、と話しかけたら戸惑いながらもすぐに番号を教えてくれた）　弓恵ちゃん。お疲れ様、君の笑顔は素敵です。ポツポツ増えていくといいね。大丈夫。仲間を大切にね。解かっているか。そうだね。おやすみなさい。（笑）今日もありがとう、尾崎豊の

「太陽の破片」を聴いています。スマホでどうぞ。感想、待っている。自由、平和、清らかな愛。壮大だけど、周りを見渡せば、本当に大切なもの。君が美しい心で暗闇に光を求めるとき神は応えるだろう。弓恵ちゃん何回も聴いてごらん。歌詞を噛み締めるように聴くと尾崎豊からの愛のメッセージが理解できるよ。了解してくれる。ありがとう尾崎も喜ぶよ。　明日も仕事だね。無事過ごせるよう祈っています。名残惜しいけど、お休みなさい。明日、お休み。　あっ、そうか、ごめん、ごめん。では休日、ゆっくり過ごしてくださいね。ありがとう。お休みなさい。　おはよう。まだベッドの上なら、ごめん。君は絶望に至るほどの失望に陥ったことがあるか。誠実に生きるとき尾崎は必ず力をくれる。真実の清らかな愛の存在、太陽の破片、心からの嬉し涙がこぼれるだろう。　イエスを愛し、彼への信仰に生きる、美しい心を持つ女性たちは、婚姻という牢獄から逃れ、自由な神の御使いとして永遠の命を生きる。時はすぐそこに来ている。　尾崎のアイラブユーは知っているね。愛がしらけてしまう悲しい歌とは。金、労働、扶養や、病気、未来への不安。自分勝手な思惑をぶつけてくる眷族。いさかい、喧嘩が生まれる。若い愛し合う二人、生きていけない現実、解かるね。　元気かい、晩御飯、何食べた。（返事がこない）誰も傷つけたりはしないよ。端的に言えば博愛主義者。だから心配しないで。すべて君の笑顔のためさ。

（返事がこない）変人に思われたかもしれないけど、怖くないからね。私は生活の中、愛を追究しているだけ。賢い君なら分かるはず。（返事がこない）。着た。返信ありがとう。拒絶されたかと思った。俺は気が小さいねえ。君をもっと信じないとね。ありがとう。（スマホが手元になかった）。どうもネガティブに物事を取る癖があって、早い話、性格が暗いのかも。今まで傷つきすぎたから。お休みなさい（笑）　　弓恵ちゃん、復活するには自分だけでなく仲間の力が必要だ。上を見るのもよい。でも知的障害のある正美や秀美の悲しみを知ることも大事だよ。そこだね。愛を表現してみよう。まず彼女らに話しかけることから、それでいい。少しずつで。彼女たちは本当に優しいよ。勿論、君も。返事ありがとうね。２１時になりました。素直な弓恵ちゃんに、お休みなさい。　　ちゃん、付けでいいかな？サンキューグッドナイト（笑）　　正美と買い物に行く途中、私なりに弓恵ちゃんへの手助けを願いました。正美は先輩としての責任感から「わかっている」と。頼もしく感じました。心配せずマイペースで。おやすみ。弓恵ちゃん読書は悪くない。でも場所柄をわきまえ、まず仲間との信頼の構築を図る。そして敬意を抱く、それは会話から始まると信じる。新境地のため本は傍らに置いておこうか。尚、ゲームに没頭するより読書の方が意識は高いのは間違いないが。　　もしかしたら君は時間潰しだけを必要とし、向上

心は封印したもの達とは違う。それでもいい。それも生き方だ。だからこそスキルアップを目指すなら親睦を深め、協調性が大事。孤立は避けよう。私からの圧力ではないよ。訓練が目的のＢ型施設だ、また私に謝ることもない。ただこれから先、辛い一般就労を目指すなら最小限のルールはわきまえないと。林さんの訓練はお金云々では得られぬ価値がある。　いろいろ送ったけど気を悪くしたらごめんなさい。ただ仲間と親近感持って愉しくやって欲しいだけです。ただ君の幸せを願って。かなりお節介な光源氏なのだ。　「２３時、以降のメールはやめて下さい」弓恵ちゃんの自己主張、嬉しい。君も強いものを持っているのだね。でも私の想いは届いたみたいだね。ありがとう。これから気をつけるよ。ありがとうね。寛容な君に甘えて語りかけます。実は私のウェブサイトがあり、よかったらＵＲＬをお知らせしたい。一生懸命作りました。一見の価値はありますよ。　決心するまで、思慮されましたね。心配いりません。私からの感想めいたものは求めませんから。気が向いたら忌憚なくお言葉お願いします。水曜日にお知らせします。　あすＵＲＬ記した紙片お渡ししたいと思います。不都合はありませんか。老婆心ながら。ありがとう。ちょっと確認したかったもので。君は思った通り強い意志を持った、素晴らしい女性だった。重ねてありがとう。常とう句です。愛しています。お休みなさいね。強くて優しい弓

恵ちゃん。楽しみに、期待が外れたらご勘弁のほどを。　　お疲れ様、ＵＲＬうまくいきましたか。オモシロ、オカシからでも入っていただけるとありがたいです。カルトの勧誘ではなく私の人生論だと思ってください。けして害になるものではありません。すべてはこの縁を弓恵ちゃんがどう捉えるかにかかっています。無理強いするのではなく、神の愛を知っていただきたいだけです。君が幸せでいてほしいから。だから私の書きもの、目を通した題名だけでも、お聞かせ下さると有難いです。あれを読んだのかと嬉しくなるからです。今日はありがとう。お休みなさい。　　自分の使ったグラス、洗い場にいる人に黙っておいて行ったことを注意したね。人には心というものがある。老若男女みんな。そのことをできるだけ胸に落ちつけて下さいね。応援しているから。お休みなさい。　　（挨拶が返ってきた。）ありがとう。冗談はあまり好きじゃないかな。悪気はありません。気分を壊したならお許し下さい。許してくれると嬉しいです。「愛しあっているからね」なんて皆の前で言ったけど友情以上の感情をもっていただきたい願望があるのかもしれない。答えのない清らかな愛が見えてくるかもしれないから。確かに私のサイトは真由子さんはじめいろいろな女性が出てくる。でも悪感情を起こさず、素直に目を通す時。温かい愛、想いの宝庫だと気づくだろう。私はそれを信じているのだ。応援するよ。実は大人

の上限は限りない青天井。自分に固執しないでまた負けないで愛をもって他に接しよう。人は己を映す鏡だよ。本当にお休みなさい。　こんなおやじのメール受けてくれて本当にありがとう。アレルギーかもしれないけど興味ないと言っていた宗教。心境に変化はありましたか。愛、思いやりなど。（返事がない）難しく考え過ぎてはいないかい。（返事はない）お休みなさい。　先の困惑させるようなメールでごめん。弓恵ちゃんの笑顔は本当に素敵だね。　上手に聞こえたら仲良くしたいということだよ。素敵だよ。真実。大丈夫。仲良くとは言っても変に取らないでね。（笑）じゃあ２１時になったのでお休みなさい。　今、ある御寺の寝所にいます。弓恵ちゃんの平和を祈ります。まずは特別に弓恵ちゃんのために祈ろう。これでいいかい。今夜は眠れそうにない。弓恵ちゃん、君の幸せをしっかり心の中で祈っています。いつも、どこでも。神に愛されたかったら嫉妬心は克服せよ。そして愛を抱き周りに振りまけ。その時君は幸せになっている。　携帯番号二つ返事で教えてくれて本当にうれしかった。これからも愛し応援し続けるからよろしく。私が不実に思えるかい。神にはもはや悪しき欲望はないのだ。そして皆に真実の博愛、隣人愛が生まれる。理解力は神からもたらされる。周りを見、知り、美しい心を思いやりと共に忘れないこと。少し損してもね。天が見ている。　君はやはり利発だ。少し蛇足だが、出世

にも金儲けにも縁がないが確実に幸せになる方法がある。いつも少し損したことを喜ぶ。自己執着より離れる。君からありがとうって返ってきたら嬉しいです。自分の心語りをして。再度見つめなおす。神の国、永遠の命への研修期間中と思って取り組んでくれるのを祈っている。まずは「優しい」が条件。本当にお休みなさい。　　お疲れ様です。にわかに私が神とは信じられないだろう。しかし心で悟り感じてほしい。君の幸せのために。お休みなさい。　まあ、ぼちぼちやっていこうか。リラックス。丁寧に暑い中、外掃除やっていたね。君のまじめさが伝わってきたよ。ではお休みなさい。　欲望を少なくすると私のことがよく解かるよ。損することの大切さ。むさぼらない。施す。怒り、愚痴より離れる方法です。楽に生きられる。宗教もいいものでしょう。周囲、特に人をなるべく傷つけず小さなことに感謝して喜びに変えていく。本物の宗教の描く真実の幸せの在り方だけど。少し考えてくれると嬉しいです。言い足りなかった。いつも君の笑顔に接していたい。笑顔のタネは目の前に落ちているものだ。それだけ、ごめん、ありがとう。本当にお休みなさい。（笑）熱い夜、元気でね。聖句「私に繋がっていなさい。枝が木に繋がっていなければ実はならない。私が愛したようにあなた方は愛し合わなければならない。」明日よろしく、お休みなさい。（明日は公休です。お休みなさい）「最後に久しぶりの笑顔マークが付い

ていた。嬉しかった」。　毎日、暑くて大変だけど夏バテしないように気をつけようね。君の笑顔、君のまじめさ、皆、力づけられているから心配はいらない。お休みなさい。(笑)また明日。　今日は正美に「弓恵ちゃんを口説く方法を教えてくれ」なんて変な冗談を言ってごめんね。ただ場を明るく楽しいものにしたかった。それだけです。傷つけたのなら本当にごめん。誰にも、いつもこうです。お休み。(笑)ハートマーク。　明日は初めての日曜出勤だね。忙しくない方がいいよね。暑くなりそうだから出足悪いかも。大丈夫さ、祈っているから。お休みなさい。(笑)(返事がない)私にとって大事なのは店の売り上げではなく、弓恵ちゃんはじめ利用者の仲間たちだ。人間とは、素直とは、善とは、そういうものだと思う。また忙しい日もある。(ありがとうございますと返ってきた。)　尾崎の「失くした1／2」スマホで聴くといい。管理、競争社会。付き合う必要はない。自分を特別と、また目の前の人も特別と見よう。敬意が生まれ利己主義は去る。お疲れ様、弓恵ちゃんほど賢くなくても誰にも思いがある。寺山修司は言った。書を捨てよ、町に出よう。開放的になれたらいいよねえ。孤独を踏まえ。お休み。　弓恵ちゃんは誠実でやや硬い、まじめさがダイレクトに伝わってくる。君がワザと怠惰に走るとは思えない。あえて上から目線です。お休みなさい。私の友人が精神科閉鎖病棟で人生相談と銘打った。

「幸せは喜怒哀楽を素直に表しユーモアを仲間と共有することだ」と語る。夜遅くにごめん。すべては特殊と独自性だから君の冷静沈着にも喜びはあるかも。取りあえず君は上品であることは確かだ。素晴らしい美徳だ。そう、君に明日会える。お休みなさい。　「若者たちが林さんを通し、その仕事へ向かう姿勢から自制、忍耐を学び、また社会への献身を体得するよう願って止みません。すべては自分のために。そして愛のため。」店長の林さんに送ったメールです。孤独を生きるのは人の宿命かもしれないが、孤独に生きてはいけない。独りぼっち感じても真実は訪れる。愛す、すべて。　私は神である。そうしか私には答えようがない。それでは笑顔でお休みなさい。（笑）　２３時までメール、大丈夫と聞いた時、まるで暗闇の中の灯台のように思えた。　少しずつ、大人になる。俺は善にて関与した、忘れないで。関係性大切。お休みなさい。　お疲れ様です。笑ってください。応接室にて扇風機で我慢していたのに二階の自室はエアコンがつきっぱなしになっていました。ケチに代償がつきました。お休みなさい。（笑）　尾崎の「卒業」よかったでしょう。自分は自分でいいのだよ。でも少しだけ前に出ることを習慣づけてみよう。君は可愛いから素敵な彼氏が必ずできるから。その時、歓びをもって私のメールは終了します。　聖書の促しにより送ります。私が来たのは盲人を見えるようにするためです。けし

て盲人なのに見えると言い張らぬように。大切なのは愛。お休みなさい。（笑）皆を悪から立ち変えらせるため神はイエスをお遣わしになった。彼を信じ美しい心をもつように。永遠の命が待っている。君は神に選ばれたのだ。弓恵ちゃん、あす公休だね。ゆっくり。少し早いけど日曜日頑張ってね。明るく素直に暖かく私のキャッチコピーだ。ではお休みなさい。　無言か。ただ私が思うのは君らしく生きてほしい。悲しみにくれないように。そこには必ず孤独がある。できるだけ悪意に出会わないでほしいということです。解かってくれたかな、ありがとう。人は悪徳に陥るとき悪魔に翻弄される。愚痴、怒りを生みだし地獄を地上に現出させる。信仰と仲間を大事にし、愛を切り裂くものを遠ざけよう。信仰というのは目に見えない愛の世界を信じることです。けして団体などの活動ではありません。各個人の精神世界によって行われる平和への祈念にあります。信仰は得体のしれないものではありません。　　薬の副作用で就寝時に打ったメールを翌朝、覚えていません。不気味に思われたならすいません。聖句「私は公然と言う。私たちは罪の奴隷ではない。子は家を離れない」。つまり神の子は悪しき欲望の支配下におかれず、また義より離れない。正しくすべからく自由は享受されなければならない。お休みなさい。　イエスによって罪はことごとく取り払われる。思い切り、愛をもって自由に生きよ。それでいい。本当の

罪人とは愛をもっていない人を言うのだよ。神はそういう人の言葉は聞かない。多くのことに心を配って思い煩っていないかい。大切なのは愛だけ。自由と愛は矛盾しない。愛は縛るものではない。自由を保障する愛、愛する自由。博愛である。そして神を多く愛したものほど罪は多く許されるのだ。弓恵ちゃん、君は接客より検査関係の仕事が向いていると思う。自分を見つめて明日へ向かえ。余計なことだと思う。賢い君は気づくはずだ。一番大切なのは自分である。それでいい。　君は素敵な女性だ。迫りくる悪魔に負けないで幸せになってほしい。それには着るより脱ぐこと、悪感情から離れる。そして愛、熱意。きっと待っている人がいる。お休みなさい。なんでメールを贈るか、神だから。あえて言う、このままでは知的障害を持つ子たちと同じ扱いを受けるよ。ちゃんと声はあげないと。せっかくの理解力が泣くよ。周りに働きかけること重要だよ。了解したら笑顔マークおくれ。けして差別を助長しているわけではない。因縁からくる事実。彼女らは罪深い。淋しいが彼女たちへ素直に接するとき傷つくことが多々ある。神の心根も愛を外すと冷たく見えるかもしれない。それは最早、神ではない。だからこそ、神の発信には深い意味がある。そして世の中には自由民主主義にかまけて悪とされないことがたくさんある。愛を大切にせよ。独善的主張の罪を私はあえて犯す。偽善者になってはいけない。神の判断には

従わなくてはならない。君を縛りつけるサタンから解放するため。「娘よ、汝の病は癒された。立って歩きなさい。ほらみてごらん。これが君の歩む道」。　私は知的障害者を殺せとは言っていない。裏切りが付きまとい罪深いと言っている。今、大事なのは君だ、道徳に縛られ倫理観を狭めてはいけない。そして善とは聖なる闘いから逃げないということだ。本当にお休みなさい。　私は知的障害者を愛するなとは言わない。むしろ同胞だ。ただ彼らは信義の意識が薄く処世に身を浸すだけの感覚だ。自らの規制に縛られ苦しむ君とは違う。　寂しいが。妬み、そねみをもった時点でひとは地獄に落ちる。また聖女は金儲け、競争など世の価値観を押し付けられてはいけない。神の判断だけが絶対である。それは自分の愛で考察せよ。　　吉山君に対し冷たく感じたかも。彼は先達、同輩に同胞意識をもたず、私は作為的に気付きを待っていました。皆、信仰が正義とうまく共存できればと思います。厳格と寛容ですね。　　弓恵ちゃん猫飼うといいよ。慈愛ってやつが実感できる。今、苦しむ人たち、すべては自分から始まる。不条理は実はないのだ。因果応報。　殺されないでいられる日本、凄いことだ。幾多の人たちの愛と尽力のおかげだ。　生きていく、ためらっている場合じゃない。思いやりを強気で示しなさい。お休みなさい。　自分なりに喜怒哀楽を自然に、いつも穏やかな優しさをもっていられる空間を大切にしてくださ

い。幸せはそこにある。仕事は自分次第、天国も地獄も。　もう３０も若ければ真剣にカラオケ誘うのだが、君の父君も固い方だろう。俺は君にカラを破れ、みたいなことを言って、結局は自分の戒律は破れない。本当にお休みなさい。（返事がない）カラオケ行きますか。（行きません）私の引っ込み思案と自虐が出てしまったけど悪気はありません。君の鋭さ、ある意味での残酷さ。私には不純な動機は一切ありません。少し好意、言い方を変えるなら愛をもったことが罪にならぬなら。２３時まわりました、これで最後です。本当にごめんなさい。お休みなさい。（笑）　　弓恵ちゃんは強く、素直で清楚でまじめな女性だ。だからある面、庶民的感覚の中で浮いてしまうのだろう。年齢差か、私の積極性、自信のなさか、君の貞操観念か、やはり真由子さんへの愛か。私は、疎まれたみたいだ。恨みはない。私のサイトを見た君に語ります。私は神です。賢明なら耳を傾けなさい。真理は愛し合うことだけ。　　戦争があった。大陸に残された孤児の特集を見ようと思った。いや視たいと思った。聖書が制止した。ネガティブは私にはよくない。聖書が気遣う。でも神として責任を感じる。　君が心正しき男性と幸せな春を迎えられることを祈っています。そしていつか神の国が生まれる、それも信じて下さい。お休みなさい。（笑）　　私は神です、君の心を見つめ続け、そして愛しています。だから一人ぼっちじゃない。信じ

て下さい。お休みなさい。（笑）（彼女から唯一返される、お休みなさいに（笑）マークがない。）ただ内側を清いものにしなさい。さすればすべて清くなります。神をさんびするものはひとり残らず救い取られる。愛を知るからです。イエスを愛し涙し信仰をもつ、博愛にて隣人に働きかけるとき、君は真の幸せを知るだろう。神に愛され自己承認欲が満たされるからです。栄光だ。人のふり見て身を正す。そして自分の居やすい空間に移るのは全く問題ない。神と愛を心に抱き、主体性を持って自分を信じて善を行ないなさい。何度もお休みなさい。笑顔マークは沈黙とも言える寡黙な君の意思を知る唯一の表示だから。　自分と神のために仲間を大切にする。仲間の便秘の心配を毎日できるでしょうか。善行を誇るな。すべて神という河の流れに委ねる。もう一度おやすみなさい・（笑）（応答なし）大人とはそういうものなのだ。義、利、情に縛られ、保護管理される。自由に誘うのが神の愛だ。各人の作為的な計算には気をつけて。人は見栄張りでケチ。お休みね。　実は知的障害のある子たちからメールが途絶え、裏切りを受けたようで落胆していました。身を処するだけで精一杯なのだろう。哀れと言えば哀れだ。無垢な姿を信じたい。　いつも本当にありがとう。君の心の動き正確につかんでいるか分からないけど悪心だけは持たないでね。俺はいつも持っていないからね。お休みなさい。（笑）（返事がこない）いつ

も本当にありがとう。君の心の動き正確につかんでいるか分からないけど美しさを感じます。またよろしく。ハートマーク3個お休みなさい（笑）（間があってお休みなさい。）（笑）が返ってきた。 君の差別を許さない筋の通った正義感には素直にこうべをたれます。あえて申すが生活を支えるお金儲けという現実にぶつかるとき変節しないようゆるく願います。正義感と片づけたけど、常に善を希求する心。君は関係性の中、その寡黙さ故に苦しむだろう。 信じられないだろうが神が書かせている。幸せになってほしいから。ハートマーク1個。ハートマークは思わず打ってしまった。深い意味はありません。安心して。君へのエールに相違ない。感謝を込めて言うが画面では自分の為に饒舌になってほしいなあ。お頼みしたい。ハートマーク1個 自分の為とは欲望を膨らませた醜く利己的になることではなく、神へ隣人へと美しい心をもち、利他のため生きるという表現です。素直に温かく愛を打ち出そうね。　　弓恵ちゃん、我々は知らず知らずのうちに、天から与えられた戒律のもとに生きている。誰も破ることはできない。ただ愛を抱き生きよ。終わりはきっと幸せだからね。　ソチという猫を飼っている。愛情をこの年齢になって初めて実感した。今まで対象の反応を意識した。ただ愛する。慈愛だね。君にも体験してほしいのだ。君にも愛すべき男性は現れる。本当に君のことを大事にしてくれるかが肝心。安易

に妥協してはいけない。金より愛。そこを外さないで一生、一人身になっても。性的過ちはできるだけ避けなさい。思想は様々だが神との契約を重視しなさい。純潔を守り幸せになりなさい。誘惑に負けず強い意志で困惑を退けなさい。でもそれより聖霊の宮に進むとき悪因縁は消え去るのだよ。君にはそれが相応しい。お休みなさい（笑）聖なる理想と現実には大きな隔たりがある、悩みと関与に屈しないためには女性としての強い貞操観念が必要だ。君にはその意味が理解できるだろう。夫たる誠実な人のために。美しい心、君なら必ず愛される。うまく話せなくても大丈夫。ハンデを思いやりに変え愛しなさい。後姿と微笑みを幸運な男は見ているから。取りあえず出逢いは大切にしよう。　お金があるなら労働なんかどうでもいい。仕事か人か。人に決まっている。君らしく生きてほしい。辛ければリベンジすればいい。初めての職場を社会の縮図と視ない。時代は変化している。思想も方法論も。君の想いが正解になるかも。時代が悩みを解決すると信じよう。君は君だ。誰でもない。君が大事。楽しい職場に出会えるよう祈っています。幸せにね。もう一度おやすみなさい。ありがとう。私の弱気を見せてしまった。神でありながら御使いたれ、と断言できない。貞潔と寛容。空の見方ができない限り嫉妬、煩悶などの悪感情を持つことになる。男女、貞操からの問題意識。欲望とのはざまで格闘し、博愛に達した者だけが、

神の国、永遠の命を享受する。その時は背中を流し合おうね。汚れた色恋沙汰はもう存在しない。早く、感情のコントロール、アイデンティティを確立することです。自らの価値観を信じ、世間にぶつかるとき自覚が生まれる。憤り、いや愛と信じる。　サタンは幼き頃何度も私の命をとろうと画策した。成人に達しては悪の道へと誘惑した。そして私はその反動から神としての因縁に目覚めた。逆縁ほど力になるものだ。硬い話で退屈せんかったけ。悩み続け見えてくる。それがキリストの義である。罪人から信仰によって御使いへと変化するのです。博愛にたどりつくまで大変だろう。信仰しかない。本当にお休みなさい。　君は、清い人だと思う。私はカレーハウスを去る。自然に強く生きてほしい。悪意が他人にあっても挫けてはいけない。自分の胸の内はどうだろう。作り笑顔ではないか、真の善意を考察せよ。　少し疲れました。また模索して自分の道を切り開いていこうと思います。私が去ることで結果的に君に負担がかかるなら本当に申し訳ない。ご自愛くださいね。よき人はいるかもしれない。だが単に自分にとって好い人などはいない。だからそのことを教えてくれるのが取りあえず善い人である。そして他人を愛せない罪人の意味を知る。イエスを信じ愛しさえすればどんな罪も許される。真実の信仰があるからです。つまり愛すべきものを愛すことです。現世に完ぺきな人は神である私だけだ。自分

を責めずに明日への道を模索するしかない。寛容と厳格。自らの価値観、指針を作成し従うのだ。できるだけでいいから。　愛すべきものと言ったって難しいね。未来永劫に光を与える人。私が筆頭か。神だからね。君の過去は見えない。けど未来は可能性が明るい。私が保証する。自己宣伝のつもりはない。早く自分なり訓練を終え明日に夢見よう。競争心ではなく愛情を持って。辛かったら、逃げることも必要だが、まず祈る。不思議と楽に。　君は辛いだろう。周りに理解してくれる人がいなくて、人は皆、自分にとって都合のいい人を周りにはべらせたいものだ。賢明な君はその寡黙な微笑みが武器になる。　襟裳岬、知っているかな。(わけのわからないことで悩んでいるうちに老いぼれてしまうから悩み通した年月を拾い集めて温め合おう)。温め合えるかは君にかかっている。林さんに腹を割ってみては。あの人は、正直で無垢なものには優しいから。礼儀正しく相談してみるといい。そこから学習する。私の笑顔は確かに不気味であるかも知れない。(笑)でも一度、最後でも、喫茶室のあるお店で思いのたけを聞かせてほしい。私は今の若者の悩みをわが身で感じることができると思います。心配することはない。日本は自由の国だ。自らの戒律はしっかり抱いていなさい。けど君の言葉を信じない嫉妬深い男性はアウトです。我等は親友である。機会作りましょう。それには努力と勇気が必要みたいです。一歩踏み出

す。頑張らずにガンバレ。お休みなさい（笑）　　冬美ちゃん、顕正会の新聞を受けとることにしました。私の考え方に近く、南無妙法蓮華経の精神が仏法として勇躍しているのを感じます。少し日蓮としては微妙な心持ですが。冬美ちゃんがポジティブになるという功徳があってよかったね。雄さんという旧友。凄く活動に熱心な人です。新聞の代金を肩代わりしてくれるそうです。最近私がキリストであることを理解してくれました。私の書いた本もほとんど読んでくれました。しかし私が日蓮であるということは認めることはできないと言います。既婚の男性です。会は、横のつながりが希薄だそうで、先日ココスで勧誘を先導した女性の名を、知りたいと申しておりました。冬美ちゃん、また三人で会いましょう。因縁と共にアプローチは変わる。侮辱はなし。真摯に真理を求めたい。前は不意打ちをくらい、何の下準備もなかったので対決的になった。嫉妬つまり、ひがみ、そねみ、妬みなどの悪心は仏法の敵、お互い気をつけたいね。勘ぐらず私の純真な気持ちを信じて下さい。　　君も教えを語るなら、どんな状況にあっても広く優しい心でありなさい。上から目線ですが２０歳違うから許してね。冬美ちゃん、私はいつも公然と語っています。私に悪いことがあるなら堂々と批判しなさい。それが日蓮の弟子ではないでしょうか。（返事なし）。　（秀美からメールの返事が届くようになった。と同時に冬美に

はメールがつながらなくなった。）これが縁というものでしょうか。（正美は糖尿病を抱え、軽度の知的障害があり、両親を亡くし伯母さんと暮らしている。）秀美ちゃん、　お疲れ様でした。忙しかったですか。ゆっくり休んで火曜日に会いましょう。ではお休みなさい。返事ありがとう。全然遅くない、大丈夫です。今トイレから帰り布団の上であぐら掻いています。恋人よ、お休み。私はある意味、いい加減な男だから気をつけること。心に博愛を抱いているので、ありがとう。　　尾崎の「群衆の中の猫」、聴いてくれ。ただ聴いてくれ。　秀美、お疲れさま。君の強さが好きです。愛している、神として。（返事なし）　俺は今、悲しみから君と正美を守りたいだけだ。優しさを嘘っぱちにしないために。よく解からないけど、火、金が休みで土曜日が出勤日になったの。今週だけなの。これから土日と出るの、大変だね。土曜日はありがたいですけど。　「群衆の中の猫」、聴いてくれたかな。（よく解からないと返事が来た。）「少しずつ生き方は変わるけど、求める愛の姿は変わらない。優しく肩を抱き寄せよう。君が悲しみにくれないように」解かったかな。尾崎は優しい。自由を本当に求め大事にしたかったのさ。　正美ちゃんと徒歩でお店の買い物に行ってきました。いろいろ話すことができうれしかったです。障害者の深いところ、秀美にも参加してほしかった。話していい場所、時、人を正美も秀美もよく踏まえている。

俺にはまねできない。二人は偉い。今メールが届いた。（お疲れ様、正美ちゃんと買い物行ってきたのだね。楽しそうだね。）俺は君たちの幸せを祈り守りたい。秀美お疲れ。俺はお前を友人のヨウスイ君と共に神の国へ連れて行く。だからいつも美しい心でいるのだ。自分をけして見失うな。約束は果たす。　あの時、秀美が俺に辛い仕事を押し付けようとしたのかと勘違いした。俺は洗い場が指定席か。俺はどこでも俺だよ。愛は変わらない。光輝く。　冬美に伝えてくれ。日蓮を大聖人様と祀り上げるものと一線を引け。本当の南無妙法蓮華経は、互いが愛し合うことである。（今、夢中になっていて無理）の返事。イエスへの信仰と神の国の到来を伝えて下さい。君たちの苦しみ、悲しみを真剣に感じ、救いのため罪の身代わりに十字架の死を選んだ人がいたことを。　秀美、ヨウスイ君も自由な神の御使いとして永遠の命を生きることになる。純真で親切な人になり、美しい心を忘れずその日まで待て。愛している、強い君を。本当に君は強く自分を持っている。明るく、素直に、温かく。俺は君を女性として愛しているのかもしれない。でも俺自身は多情だから君に薦めない。神の国は自由なところ。楽しく暮らそう。秀美、おれは神だ。つまりダメ人間かもしれない。俺を愛してくれる女性に欲情する。でも俺を縛ろうとした時点で関係は破たんする。それでもいいかい。愛しているよ。秀美、俺の欲情は神のものだ。つまり君のた

めのものだ。だから俺からは何も求めない。俺は卑怯者かもしれない。君の幸せを願っている。それだけです。　　カレーハウス、君の休日、みんなでシャ乱Qのシングルベッド聞いたよ。ヨッシーのスマホでね。　林さんや正美がいい曲だというもので、「聴こうよ」、てなって。また明日楽しくやろう。　　秀美から夜遅くに（明日も楽しみにしている）とメールがあったのを今朝、知った。秀美お疲れ。明日も仕事だね。本当にある瞬間、キスしたかった。でも君は女の勘で解かるのだね。私が真に愛している人が他にいることを。でも美しい心感じているよ。ありがとう。無理しないでね。　今日は本当にありがとう。秀美も家でゆっくりするのだよ。イケメンのお兄さんと恋に落ちたいところだろうけど、神に祈ること、美しい心を受け止めてくれる人が現れることをね。これから強くて美しい君に惹かれてたくさんの男性が現れるような気もする。が、その前に神の国は建設されるのだ。信じるね。愛している、間違いなく、君の光源氏より　　秀美さん、今日は忙しかったですか、カウンセリングうまくいくこと祈っています。お疲れ様。少しくたびれた光源氏より　テレ繋がらなくしているのだね。聖書によると秀美さんは私と同様、聖なる博愛主義者だと示します。神の国が待ち遠しいです。愛しています。　　秀美、いたわりがなくてごめん。週末、土、日、二日、大変だったでしょう。休日ゆっくりしてね。いつか愛を交

歓するのを祈って眠りに就くまでメールを待ちます。 秀美さんを御姫様抱っこして、ホテルの階段を駆け上がりたい。高級ワイン飲んで浴室の君を待つ。完全に私の恋愛関係妄想です。少し欲望に酔っています。いけませんね。私は大概の女性をいたわりの対象と見ます。肉欲ではありません。神は愛に窮乏しているところに重点的に暖かい風を吹き込みます。愛すべきものすべてのために。私のきわどいメールに「困惑する」という応えに対し、俺は神、正直に生きる。真実の愛を示して。当たらず障らずではおれない。たとえ嫌われても。俺の使命だから。 ごめん、気付かずに、君は私を神と信じているのだね。清らかに、現れてほしい。なぜか涙があふれてきた。心配はない。私に不義の因縁はない。愛の言葉にて不幸を追放し、幸福へ。 心配しなくていい。ありがとう。俺には秀美と正美と弓恵がいればオーケーだ。隣人とは君たちだ。愛しているよ。こんな多情を、博愛ときれいごとにしている。 今度、秀美と正美、二人家に招待したいけど、どうかな。秀美さん、正美さん、今日は平和に過ごせたかい。元気だったかい。 秀美よ、正美、東京旅行楽しんでいるかなあ、持病の糖尿病なんともなければいいなあ。 悪い予感がしたよ。正美が素直に預言者に従いテレ番号を教えていたなら、血糖値の乱高下も起こらなかった、というのは無情か。正美をいたわってやってくれ。君たちを愛する守護神より。 俺はただ暮らしを

見つめ、君たちと愛を育むだけ。正美にとっては父親みたいなものだろう。彼女がいないとやはり淋しい。 でもおじさんや友達の愛とは違う。私は聖なる神だ。愛をもって信じなさい。侮辱すれば天が罰をもたらす。私を神と思わないものは神からきたものではない。すなわち神の子ではない。　秀美、間に入ってくれてありがとう。正美ちゃんと直接メールしたい。きっと彼女のためになる。「神に従順であれ」。この意を伝えて下さい。乱高下する血糖値は安定するはず。南無妙法蓮華経を１０辺と、「天の父の御名があがめられますよう。御国が参りますよう」。と唱えるよう伝えて下さい。　一緒の伯母さんと彼女が私にテレ番号を教えるかで、もめているね。聖書に出ています。 秀美さん、御免なさい。厄介掛けました。人々は不従順にされている。待てば海路の日和あり。聖書は頑として正美の方から私にコンタクトを取らないと根本的に状態は、好転しないと示します。でもこの件は結果としては未来への吉報につながると出ています、つまり信仰へと向かう。　秀美、今日も暑かったな。お前が言った「タオルを用意しろ」、それに気を取られエプロンとバンダナを家に忘れてきてしまった。障害者だな。　元気だったかい。今、冷房つけています。電気代少し心配だけど。暮らしより愛を優先さえすれば大丈夫です。　秀美、早く風邪治せよ。　秀美、お互い孤独を愛している。少し違うかい。秀美、お前に負担を掛け

るつもりは毛頭ない。俺を男として愛さなくてもいい。メールをくれる、神に従順なのはお前だけ、それが事実だ。そこに気づいたのさ。それだけさ。「お前の胸の上、優しい光ともして眠りたい。自由になりたくないかい。スクランブリンロックンロール(尾崎豊)」。　神に委ねる決心をする。それが大切なのだ。神を信じ愛すことだからだ。しかし不義には至らない。ここだな。すべて対象の女性の幸せのためであるということだ。確認のため、あらためて記しました。俺は神だよ。君がすべてを納得し理解し私の心に沿うとき、つまり愛を抱くとき、私の欲望を満たすのではなく、君に真の幸せが訪れるのだよ。忘れないでね。　テレありがとう。何かの予兆だろう、この豪雨は。神の国は訪れる。ヨウスイ君と幸せになるのだ。清らかな心を忘れてはいけないよ。これが私の本当の姿だ。秀美、正美にも伝えてくれ。俺たちの大切なものを引き裂く何かがあることを。お前たちは理解しているね、神の愛を。　聖書はお前たちが俺に従わないことを伝えてきた。俺は独りよがりにも見えても真実へ歩いていく。愛すべきものたちのために。　秀美、悪かったな。猥雑なメール送って。俺はいつもお前の味方だ。本当に、悪かった。幸せを祈っている。　(彼女たちが神の業を信じるなら救われる。信じる者はすべて救いたい。私は真由子さんしか愛せない。そこを見抜き、彼女らは私に気があるようで、また無情な態度を示す

のか。裏側には私のうぬぼれもあるが、なにがしかが彼女らの心に底流して居るのは事実であろう。もうメールはやめよう。だがメールは彼女たちの為にあると、私の中の神が叫ぶ。苦しいぜ。真由子さん、ここから助け出してほしい。）秀美へ　女性に甘いヨシトはお人好しです。あまりいじめないように。話しやすい男で結構。それでいい。メール友達でいてくれて本当にありがとう。優しくて親切か。俺は見かけで勝負したいけど、少し違うね。でもありがとう君の優しさが身にしみる。今日はありがとう。愛を忘れない。いつも愛すべきものを愛す。すべてに。それでいい。やっぱり恋の話は楽しいな。俺みたいな年配者の話を聞いてくれて本当にうれしい。ありがとう。（笑）　しばらく会えないが自殺などしないように。（笑）秀美、なにも心配はいらない。俺の心はいつもそばにある。正美にも弓恵にも、それでいい。それでいい。愛を感じてくれ。秀美、でも君だけだよ。率先してメールをくれ、テレしてくれるのは。感謝している。本当に優しいのだな。ありがとう。　ガンバレ、秀美、「俺の心を奪え」。冗談だよ。俺の愛はすべての健気な人に注がれている。とりあえず秀美と正美と弓恵は守り続ける、神として誓う。秀美少しふざけたが、救いはイエスキリストへの信仰にある。辛い思いをしている人ほどそこを大切にすれば救われる。そして自分自身の南無妙法蓮華経を確立するのだ。秀美、人間は哀しいものだ。

このことは忘れず覚えておいてくれ。　仕事、ミス、誰も死なない。補完してあげればいいのさ。あげつらうのは良くない。怒りをかうぞ。アバウト、おおらかでないと嫌われるぞ。そんなものだ。　凄い気付きが聖書にあった。生命維持のための、食欲は消え、病をはじめいろいろな事から解放される。　神の国に入る。条件がある。素直に優しくて深い思いやりがある人。比較から離れ、博愛を持つ嫉妬なき人です。　秀美、　もうすぐだ。お前は本来の姿を見せるのだ。幸せに暮らせる。ヨウスイ君も助けてやろう。美しい心で自由を生きるのだ。そして愛し合う。　　秀美、何やっとる。返事くれ。　（勘違いするな）だと、よく解からないが「お前が俺に気がある」と俺が思っているってこと。まあ怒らないで。俺は神であるということを伝えたいだけ。少し君が怖くなった。明日頑張ってください。人々は行いよりも愛に基づく信仰により救われます。自らの義を誇るより、温かい思いやりを神は待つのです。皆、勇気を持って、そして最後、人は祈るしかない。　サタンが仕組んだ、私を傷つけるための秀美の裏切りなのか。聖書は「秀美、弓恵へのメールはもう控えておこう」と示した。実のあるのはナンバーを教えない正美だけだと。そんな気もするなあ。悪人を探せと、かつて聖書は示した。しかし罪を定めるなとも。神を愛し、傷つかない強さを本当に知る者だけが永遠の命を得、神の国へ入る。君が言う。「話

しやすい男」というのも考え方では侮辱にとれる。ヨウスイ君を悲しい目にあわすなよ。利用はよくないぞ。　まあ、私も少しいい加減なときもある、友人でいいよ。「勘違いしないでと言ったのはヨウスイ君が友人であるってこと」と弁解する。やはり君は俺が好きなのだよ。君は神の恋人のひとり。たくさんの女性を救いたいから。「ごめんね」と言ったら勘違いするなと叱るかな。　私に繋がっていなさい。枝が木に繋がっていなければ実はならない。私が愛したようにあなた方は互いに愛し合わなければならない。　秀美、多分、お前は良い奴だと思う。それでいい。来る世まで元気でいてくれよ。　（正美と秀美をお盆連休中に自宅に招待しようと思った。正美はやはり事情があってフェードアウトしていった。間に入り楽しみにしていた秀美に、メールを送った。）　また正美に働きかけてみてくれ。なかなか世の中うまくいかないが美しい心があればいつかは実現する。信じて下さい。幸せを祈る。神は生きている。　俺を信じるものは皆、神の御使いとなる。辛いことがあってもくじけるな。美しい心、人を思いやる心、忘れるな。神は見ている。俺は俺なりに君たちを守る。誰かを傷つけることになるかもしれないが。大きな愛を信じてほしい。人間愛かな。君たちが過ごしやすいよう祈っている。　秀美、日曜忙しかったかい。お疲れ様。水曜日よろしく。　秀美、ごめん。なんかそっけない、メールだったな。もしよかっ

たらお盆休み冬美ちゃんと我が家を訪問しないか。せっかくの休日だから有意義に楽しく過ごしたい。考えてみて。姉妹一致してね。　秀美、わずかな気持ちの持ち方だが、率先し出来る範囲でいいから相手を思いやり仕事をすることだ。後姿を神が見ている。怒り、愚痴に変えてはいけない。美しい心が大切だよ。サボっているように見えた、弓恵ちゃんの体調もわからないし、君も休憩すればよかったのだよ。店長が指示を出すさ。素直に一生懸命やることだ、自分の務めを。　秀美、俺の意見にかなり、腹が立ったかな。まあいい、素敵な彼氏がほしければ、暖かい思いやり、忍耐力など長所を持たねばならぬ。人間性も少しずつ温めていけ。今日は楽しかったか。聖書の促しでメールを送る。やはり私は正しい信仰を持っている。傷つかないハートを得ました。秀美はどうだい幸せかい。現在。　秀美、権力を望む人は、一番大切な寛容を養う信仰、愛が解からない。そこの所に気づいた俺たちは本当に幸せだ。仕事は率先垂範すると気持ちがいいよ。失礼なこと言うけど語彙の意味も理解できるのか。嘘じゃないな。君は知的障害を演じているのではないか。キリストの義は解かるか。解かれば花嫁にしてやる。偉そうにね。秀美、今日はお客さん一人も来なかったぞ。明日は忙しいかも。夏バテせずに頑張ろう。秀美、悪かった。侮辱したものいい。理解力は神から与えられる。君にもある。当然だ、私を愛しているの

だから。でも煩雑さに負けてさもしい根性は起こさないで。　秀美、今日はありがとう。困惑させる私だが、多分正直に生きているからだと思う。俺はハートを幾多の健気な女性に受け入れられたいのだろう。やはり光源氏だ。来る世では精神的な結びつきがメインとなる。皆、嫉妬はなし、君はキリストの花嫁だ。そのとき幸せは訪れる。まずは祈ろう。時折、静かな君の微笑みに見とれるときがある。　秀美、孤独を感じたら俺を思い出せ、そして祈れ。俺の面影を感じることができるから。俺は君を愛し、また善なるものすべてを愛す。ゆっくり休まれね。　秀美、私は今、相容れない人たちを切っている。孤独に陥ると思う。だが迎合し、ごまかすのはもういやだ。私は聖なる道を歩もう。君には一緒に来てほしいが。　悪から立ちかえらせ、善に向かわせるために神はイエスをお遣わしになった。イエスを信じ美しい心をもつのなら神に選ばれる。秀美、元気ですか。今日、正美の修くんに対する告白の仲介をした。うまく行って彼女はご満悦だ。秀美、メールないけど、俺なんか傷つけたか。少し脱線したけど、わからない。とにかく許してくれ。またメールください。お願い。　（私は思った。秀美には私が必要でなくなった。弓恵も。二人とも独り立ちの時が来た。メールはやめることにした。それでいい。しかし工賃をもらってびっくりした。秀美にメールした。そして弓恵へのメールもそれを機に再開した。）

秀美、俺の時給が事前の連絡もなく今月下げられていた。哀しいだろう。秀美、前にメールで家に呼んだことがあったね。君が訪問の要求に素直に応じていたら結婚を申し込んでいた。もしかしたら君は神を敵に回したのかもしれない。（返事がない。）俺は君を甘やかすために存在するわけじゃない。 君の裏切りは罪人のひとりとされる。イエスの博愛に呼応しないからである。淫猥で不実だと私に失望したか。私は君を孤独から救いたい一心だった。私は心優しいさびしいたくさんの女性を信仰に導くため存在していると誓う。（応答はなかった）。（実は彼女は私が真由子さんを愛していることに好感を持っていたのだ。その一途さに感動していたのだ。） 弓恵ちゃん、本の編集に入りました。少しメール休みます。また連絡します。サイト見て下さい。ではお休みなさい。（笑）しばらくして（お休みなさい）が返ってきた。 （次の夜）ごめんね。お休みなさい。（少し間があって）（お休みなさい。）素直に受け取る嬉しいです。お休みね。（笑）私のメールに好感があるのは否めない。無二の親友よ、愛している。未来永劫。（ハートマーク） 君はまるで維摩居士みたいに覚りを黙して表しているみたいだ。でも私は言葉拙くとも話すことに利他の精神を感じる。とつとつと語ろうかね。君は本当に鋭い感性を持っている。神の如くだ。しかし自己防衛だけではいけない。そして馬が合う、友達になれるような女性が現れたら

本当にいいね。時間オーバーだね。お休み。　君は素直で負けず嫌いだから祈ること。心の鎖も融けるだろう。君は言葉を重視する。私の思考回路を追うなら無口でも嬉しい。君を沈黙へと仕向けるのはサタンです。隣人を愛し下品ではなく変なプライドを捨てるなら、またいいこともある。私を信じられないなら神の子ではない。隣人とは薄情な人ではなく、いざというとき介抱してくれる人だよ。自由な御使いとなりキリストの花嫁と呼ばれる聖女になるのはいかがですか。　　秀美、清らかな愛ありがとう。俺が辞めた後、正美に片便りだが繋がるようになった。よかった。君のお陰だ。正美と伯母さんにありがとうと伝えてくれ。俺の心だけでも届けるさ。いつもピエロを演じているのを知っているよ。辛い過去があるのか。嫉妬心なく仲を取り持つ優しさは幾多の労苦から生まれたものだ。敬意を表す。ありがとう。　　弓恵も解かるだろう。サタンは人の心に忍び込む。意識してもしなくてもいけない。良心を確かなものへ。王国で君の歌声を聴いてみたい。　皆、生き、老い、病になり死んでいく。神を裏切ったことへの懲罰だ。神は泣いている。悪魔は喜ぶ。神は美しい心に安楽を与える。神、隣人を愛す心である。　（私の自慢と、気持ちの葛藤を表しているみたいな内容だが、「彼女たちは健常者に顕著な、デリカシーなき一派とは違い、本当に人の心の奥底が解かる障害者と呼ばれる聖女たちであった。私は真

由子さんへの愛を今一度再確認させられた。そこを見つめた彼女たちは、私に対し親近感という強い信仰を持っていたのである」。そのことを今回、伝えたかった。）

彼女たちの年齢

秀美３８歳 冬美３６歳 弓恵２４歳 正美２９歳

私は大発見をした。博愛にはフリーセックスの香りを感じていたのだが、どうも嬉しくなかった。博愛は信仰へと導かれるのがすべてであった。義と愛を持ち、正しい暮らしを送る。豊かな人間性が大事だと気付いたのです。欲望を満たすのではなく、ただ親愛に生きる。それだけです。

（第４章）浜田省吾の（もうひとつの土曜日）。 好意を抱く我が身に、悲しみを浮かべながらも微笑みかけてくる、彼氏がいる女性。「君を裁こうとするその心が、ときに俺を傷つけてしまう」「週末の夜は俺にくれないか、たとえ最初で最後の夜でも」「いつもそばにいて手を貸してあげよう、受け取ってほしい、この指輪を、受け取ってほしいこの心を」切ない曲である。人はなぜ結婚を求める。束縛し、されるとは誰も思わない。そして繋がる、美しき約束と喜び信じる。聖書には来る世、愛あるものは皆、神の御使いになるとある。自由である。 契約という束縛と、自由、どちらが幸福か、少し考えてみた。着々と進む結婚、極めて政略的か本能的である。 婚姻の正体。まずは憧れ。そして契約。だがその呪縛に気づき、博愛をめざす者が出てくる。仏教の空の教え、温かい思いやりが漂えば、皆、愛すべき人と言えるからである。 「容姿、学歴、収入、地位、」比較と獲得。これは競争して一番をとるのと同様の意味がある。愛に優劣をつけるようでいただけない。 真実、想いとは自らを忘れる恋があり、深い情緒によって、理性に裏打ちされた愛に昇華されなければならな」い。私は素直に生きるとき、傍で悲しい顔をしている女性をほってはおけない。イエス、神、また人間としても。これが浮気、不倫とよばれるものになるなら、婚姻に対し否定的になったのである。 こんな境地になったの

は、私に一途な恋があり、それが対象の婚姻によって破れ終わったからだ。「なんだ、愚痴未練からか」。いや大いなる気付きである。「未来志向、真実の幸せとは。思いやり、心が通じる。恋の成就、愛が深い。縁がある。そして束縛からの解放、平和の下、神の御使いになる。そこには喪失も、絶望もない。悪しき欲望がないからだ。愛が満ち溢れ、互いを大切にし、そよ風の中のように心地よく生きる。永遠に。　平和と安息、自由に」。皆さまこの拙文、何が言いたいか分かって下さいましたか。結局、私は愛している。まずは健気な真由子さんから。　人間義人は祈らなければ聖霊の宮から離れてしまう。真の覚りの為、禁欲的に葛藤する自分、ただ祈る。それが犠牲のように見えるイエスへと繋がった。　私は世間的な栄光には縁がなかった。だからこそ神になり下がった。神は愛である。愛は酷い扱いを世間では受けている。金、権力、栄誉、人々は群がる、愛を踏みつける。心あるものにとって愛は絶対であり、なくてはならないものである。いや、すべてである。　父の死に疑念がある。もし母が言うように病に負け酒に逃げたのなら、こんな馬鹿な話はない。死を恐れていたらもっと体調管理に留意しただろう。暴飲、泥酔はわざわざ死を招くようなもの。真相は。これは緩慢なる自殺である。ではなぜ父は縊死など表立った死を選ばなかったのか。それはきっと私への配慮であろう。いじめ、差別からの回

避である。そして父は毎晩、強くもない酒を飲み回り、ひたすら動脈瘤の破裂を待った。そこには情けない男。女房を困らせる、ろくでなし亭主の姿があった。父が死ねば、残された二人の子供を育てる、健気な寡婦として母に同情が集まるだろう。これは酒を売る上では大きなメリットになる。父はそこまで計算していたのである。実は父の死因は判然としていない。数日、家で頭を抱え寝ていたが、そのうち何かに委ねたかのように腕を宙で交差させていた。意識が混濁していったようだ。救急車が呼ばれた。小さな病院に運ばれた。母が遅れて到着すると、父は点滴を自ら抜き外していた。父は死を望んでいた。最期、やっと来た家政婦は、母にこの先は見ない方がいいと言ったという。苦しむ姿が目に焼き付くからである。父は目を大きく見開くと母の腕をしっかり握った。離さなかった。それが別れであった。父は間違いなく聖霊の導きに殉じたのである。父の背骨を赤い線がつたっていた。父は思春期を迎える私に最後の贈り物として男の死に様を見せつけてくれたのである。母が言うように、ジッとしていれば少しは生き長らえたかもしれない。サングラスをかけぷらぷらと。無為に。しかし商才では、はるかに敵わない母の庇護の下、自尊心の高い父が、生き恥をさらせたろうか。私と生きた１１年。「これから出会うであろう、世の醜さに負けないように」。父からのメッセージ。尾崎豊の死にオーバーラッ

プする。「新しく生まれて来るものよ。お前は間違ってはいない、誰も一人にはなりたくないんだ」父は真の聖者として天に召され、私にとっての天の父、イエスが呼んだアパ（とうちゃん）となった。父はわがままな母には暴力を行使したが、私と妹には言葉でなじることさえ、一度としてなかった。「情けなくとも優しくあれ」天の父の声がする。父は理想主義者、母はリアリスト（現実主義者）であった。　孤立するのを恐れる人とは自分がかわいい、傷つきたくない人が多いのでは。ポーズをとるのではなく自然体で周りにかかわってみる、気付かなかった優しさに出会えるかもしれない。損することになっても幸福を感じられるかも。まず人様を思ってみることだ。私に騙されたと思って。それは各位その人の想いの範囲内でいいから、小さいことを喜びに変える、それが幸せへの始まりである。しかし孤独にも良い孤独と悪い孤独があるだろう。愛、無き孤独これは辛い。孤高を保つ孤独、憧れを感じる。私にはそれが幸せと思える、世間が本当にさみしい。　私は天の啓示を受けて、今始めて無情になる覚悟をした。裁く、それは単なる悪口を言うのと違い、悪者の生活の破綻までも視野にいれる決断をなすということである。　非情な母は、相手が「赤ん坊のミルク代に困っている」と言っても掛金は取り立てた。弱みを見せればつけ込むやつらが出てくるからだ。生きていくためには人を切ってもかまわな

い。　私がサービスを受けるために訪れる、友人たちが経営するお店。理不尽にも不当な扱いをいつも受ける。彼らの甘えを受け入れるべきなのか。コンプレックス、妬み、哀しいものだ。なぜなのだ。人とはこんなにも哀しいものなのか。「行くな、友情など始めからないのだ」。母は切り捨てる。　そんな母だが（息子の修学旅行費が払えない）と困った人に、黙って金を貸したという。つまり筋を通したのである。

R会、男の死。私は何度もこのひとにコンタクトを取ろうとテレした。だが梨のつぶて、音沙汰はなかった。母は葬式へ行けと意思表示をする。私にはなんの義理もない。行かない。私は神である。真実の愛を大事にしたい、相反する者はサタンの手先である。私は私の道を行く。南無妙法蓮華経。南無妙法蓮華経。南無妙法蓮華経。そして弔意をメールで新川さんへ依頼した。　度胸も、落ち着きも、無心も緊張も聖霊の宮となった私に時宜に応じて表れる。祈りから離れてはいけない。　R会、理不尽からは忍耐しか学べない。いつか理不尽は理不尽とハッキリさせなければいけないね。それが大切さ。　人は肉欲と食欲のため苦しみ続けてきた。解放される世界が神の国に通じる。　サトリとは到達した距離でも、地点でもない。どこをどう歩き、見聞したかで自覚するもの。ただ祈るのみ。　順位一位、二位とつけるのがよくない、それより「勝

負」というものに問題がある。果ては殺し合いを認めることになる。　神から授けられた、自然体は崩す必要はないと聖書は言ってきた。勿論そこには資格が必要だ。他の自由を阻害してはいけない。　　母は敵である。つまり偏見を持つ常識的人間、これが一番の敵なのだ。愉快に平和に、愛に満ちて自由に。それがいい。大切なのはそこに思いやりがあるかどうかだ。私は聖霊の宮。心の中、神は表れ存在し続ける。　自分のために生きるのなら、自分のために死ぬこともできるだろう。それでいいかい。やはり他者のためにも生きなければと思うのだ。死は自分だけのものではない。しかし死によって本当の自由があるのではないか。依存のない世界である。

妹へ、おふくろはわがままで天真爛漫だから生きてこられたのだ。しかしそんな性分だから辛い人生を歩むことになった。それは前から気付いていた。憐れみと少しの恨みと大きな感謝で報いたい。　　南無妙法蓮華経、キリストの義、「広自苑」の最後に、雄さんに「宗教は幻だ、ファンタジーである」と示した。完全に反語である。宗教は目に見えない世界を幻と感じてもそこに真実なる存在を確信するものだ。ただ幻想、空想を信じる偽宗教も多い。私は頑迷な人に分かって頂きたい、真理は自ら見つけよ。　　由美さんへ、火曜日、元気でカレーハウスに居て下さいね。勇気と愛情の塊、由実、「愛している」。こ

の言葉を入れないと送信できないのです。何を示唆しているのだろう。やはりあなたは聖女だということか。ツタヤで「七人の侍」、借りて御覧になってください。凄い映画があるものだと思いますよ。まずはお薦めします。由美さんなら必ず感動しその素晴らしさが解かるはずだ。まずは風邪、治してね。頑張り屋の由美さん無理はなさらぬように。皆もリラックスされた姿を愛すると思います。いつも獅子奮迅の活躍。気使い、優しさ。ありがとう。でもここは笑顔でご自愛ください。由美さん、今日はありがとう。もっと聖書の話をしたかったけれど、ほどほどでいいよね。神は優しいあなたを愛します。意欲は自由から生まれる。神はアブラハムに息子イサクを殺すように命じる。一歩手前、神は止める。ここから神への忠誠心の大切さが解かる。あなたの幸せを祈るものがここにいる。深夜までお忙しい中、私の資料、御目を通しておられるようで、ご迷惑だったのではと案じています。でもぜひお読みいただきたい。楽しく暖かくそれでいい。　麻田さんと待ち合わせA型施設の見学に行きます。まずはお知らせいたします。またあなたのアドバイスを期待します。お気づかいありがとうございます。由美さん、昨夜は遅くまでカレーハウス、予約が入り大変だったみたいですね。　そして暑い中、事務室エアコンが無いそうで御身体、心配申し上げています。本当に元気でいて下さいね。優しい由美さんへ。

キャー、返事キター、ウレピー（笑）ハートマーク。忙しい中、返信いただき本当にありがとうございました。依頼人の方とか約束時間などやりくり大変でしょう。嬉しかったです。その優しさがやはり好きです。　見学、行って来ました。今月中、あと、数軒回る予定です。麻田さんもザックリと力になってくださり、ありがたいです。いろいろなものを考慮し、クリアーし決定に向かっていけばと思います。（コリント人への手紙、１章　１０節　主イエスキリストの名によって皆、語ることを一つにし、争わず、同じ心、想いで固く結びあってほしい。）、現れました。情報の質と量はあなたの方が存知されていること確実です。しかし努力される麻田さん、やはり聖書の因縁と神の愛によって善き方に定まると思います。　誤解を与えるメールでした。あなたにも力になってほしい。その方向に最良のものがあればいい。そういう気持ちです。お気を悪くさせたならごめんなさい。　ありがとう。昨日は多忙な中、通話までしていただいて。また夜分、不躾にメールを送信し申し訳ありません。またこれからもアドバイスしていただければ嬉しいです。麻田さんと見学に行く予定だったところ距離的に遠く、見送らせていただきました。報告です。五福の施設にお世話になりたい旨、麻田さんにお伝えしました。送迎、駐車場の兼ね合いを条件としています。話は盆休みを超えるでしょう。御報告。　由美さんには

去っていく身にも関わらず、親身になっていただき本当にありがとうございます。細かい条件もクリアーされれば幸いです。そして愛しています。いつ。どこにいても。 ごめんなさい。修くんのお母さんに寂しさの気配を感じたもので、お役に立てればと、はしゃいでしまいました。多くの障害児に触れた優しい由美さん。「許しているよ」と聖書に肩をたたかれました。彼女に対し少し会話が飛躍してしまった。男と女は気持に温度差があり難しい。けどそこにこだわると何も生まれない。愛に従順に。人は人を傷つけずには生きられない。

滑川の中田君の連絡先が知りたいです。気になるのです。友人になれそうな気がします。私は神です。明るく素直に温かくかかわりたい。福音は確かに届く。あなたの天然の人柄がやはり好きです。明日、病院へ行きます。真由子さん元気かな。　中田君の想い、ピア（当事者）として聞いてあげたい。私なりの誠意を割りとアバウトに伝えたい。 由美さん、五福の件、保留です。聖書が見学を断った施設へと促します。麻田さんに確認をし、移る時機も限定しないように致したく。その旨よろしくお伝えします。元気で。自己本位でごめんなさい。決定するまでカレーハウスにおいて下さいということです。林さんにもよろしくお伝えください。　「中田君は携帯電話持ってないから控えよ」、と本当に残念です。　賃金頂きました。工賃の低迷は理事長のひとり勝ちによ

るものですか。利益が少ないのに人間が多すぎるとは。商品の価格や効率性の問題。助成金の効果などは。私は忙しいときだけの使い捨てを感じる。職員は少なくても我等の十倍の賃金。私の新聞代の捻出をめぐっての工賃の便宜も、場当たり的で勤務日数が増えると工賃が減額される、極めて恣意的で不透明で説得力を欠く。答えは如何に。寸暇があれば行政の窓口にて詳細を確かめたいと思います。ありがとうございました。告知の過失を認められましたね。新聞代も払えない、当時の私への配慮、感謝します。しかし一連の仕組みの全容知りたく希求致します。しかし、極めて個人的欲求にて糾弾の意思はございません。暇に任せてのことに。B型施設は訓練ですからね。　由美さん、多忙なところ失礼します。私の進退を聖書に問うたところ「盆休み明けで辞せよ」と神託がありました。私は準じます。よろしくお願い申し上げます。では。「負けず嫌いのあなたは自説にこだわり、人々に押し付け気味。目に見えない世界はあるのだ。しかるに神まで侮る。君を襲う幾多の病魔。幾多のストレスと共に尽きることはない」由美さん、愛が憎しみに変わることは得てしてあります。我々は違います。あなた方職員の悲哀も私なりに把握していますから。　母は防波堤である。今の私には必要である。私の多情、博愛というものは、かなり危険性を含んでいるからである。母は私が暴走しないように歯止めになって

くれている。鬼の母がいる限り有象無象の魑魅魍魎は我が家には入り込めない。感謝しなくては、私は本当に危険に対し無防備で他人に寛大すぎるからである。余りにも無頓着。　愛さない愛って良心に一番辛く苦しいのかも知れない。愛することが重荷になってきた人へ、愛する人を捜し求める人へ。　　日蓮の本尊、釈尊の久遠実成の釈迦如来、これは覚り、法として一体ということです。それが法華経。二仏は成り立つということです。つまり南無妙法蓮華経。　一番大切なことは他人の評価ではなく自分が幸せかどうかである。障害者にはよく解かることなのだが健常者には難しいみたいだ。尚、解からない障害者は苦しみ続けることになる。　　友へ、真剣で重い。私には難しい境界。薄っぺらいと思われるかもしれないけど。それでも私が裁くとしか答えようがない。俗世間の価値観には仕様がない。ありがとう、迷惑をかけたね。俺が自分の打ち出し方を迷う処あの人に突かれました。政治的意味もあるが、殴らなくてよかった。またよろしくお願い申し上げます。無二の親友へ。　　義人という、いかれた奴が、ちまちまやっているという感覚ならもういい。イエスは熱情家であり激情を伴い神の愛を説いた。侮辱に対しストレートに応えるのも愛ではなかろうか。俺は救われる。だからいいのだ。ただ、神の国、永遠の命に縁がある人を導きたい。でもそれはもう決まっています。紛れもない、愛を抱いている

人です。迎合する。侮辱されても、その場のため穏便に、私は御免です。理不尽、勘違いからくる侮辱にはみな顔をしかめるはずです。人を侮辱すれば痛い目に遭う。基本的に社会に出る前にマナーは教わるはずだ。生産的な会話もなく、ただ傷つけるだけならその人は蒙昧である。人の愛を何とする。俺がアセスメント（査定）されるのではなく、私が裁くのである。「低くするものは高くされ、高ぶるものは低くされる」。聖句です。 昨夜はみんなのため良くない体調でも飲み会へと先導して下さりありがとう。幼稚園児にも想いはあります。あなたの鉄拳が不思議と恐くなくなりました。

小澤氏へ 御志、頂くという一文と口座番号、名義人などの記述をすべて撤去しましたね。すると不思議にぎこちなかったＰＤＦの操作がスムーズに反映されてきました。私に金銭欲があった証拠です。目に見えない世界、カネは天下の回りもの、生きている間、必要な分は与えられるということです。確信しました。私は自分なりにカネをつかい続けるでしょう。有難く。　現在 やはり結婚は重大な契約であると聖書は示す。不倫は許されない。特に情欲を交わすだけのものは。そんな中、私は清潔なる真由子さんの離別をひたすら願う。それを口では否定した形を取る。この矛盾。　やがては神の御使いになる。清らかな愛の成就である。では清らかな愛とは如何なるものか。コンテスト、

一番を目指す。幾多の条件を満たした唯一の人を異性として愛する。それが結婚のはじまりになるのは絶対善くない。やはり縁によって恋をし、因縁の中、暖かい心で結ばれる契が本当である。そして結婚が肉体的、金銭的な呪縛になってはいけない。情欲、肉欲ではなく、大きな寛容な愛が存在し、そして美しき好意をもって、真由子さんとすべてを超え、結ばれる。まずは肉体ではない、心で。　肉欲の強い人には想いが及ばないかもしれない。それが自由な神の御使いになるということです。　婚前に男と関係をもつ。いろいろな事情があるだろう。懺悔するという殊勝な気持ちになったとしたら、まずは正解だ。だが悩みを深くして、良心を痛めさせ余計に苦しむことになる場合もある。この問題の根本、つまり姦淫の罪はアダムとイヴが神を裏切った時、善悪を判断しようとしたときまで遡る、個人の後悔と神に対する陳謝だけでは、片付かない根深い問題なのである。イエスは病人を治しにやって来た。信仰という愛を抱くことで罪の苦しみを乗り越えることが出来る。イエスは病人のためにいる。ただ自分が病気であるという意識のない奔放で好色な人がいる。彼らはその価値観を改めない限り自らに執着し、生活の中、四苦八苦するのである。　愛を選択する強さ。愛を踏みにじる強さ。どちらが本当の強さであろう。優しいということが真の強さに結び付くところから始めたい。

私は南無妙法蓮華経を一つに、日蓮の時代に戻したい。漠然としていた。一つの光明、答えが見えた。各位が各自の南無妙法蓮華経を持つ。法華経の中に埋められた核といえる、大事な仏種を掴む。それは寛容、親切、愛、善、つまり深い思いやり、仏陀の覚りです。その想いを皆、保ち、信じ、守るということ、それが南無妙法蓮華経を一つにするということです。それが日蓮、私の南無妙法蓮華経です。　林さんへ 生きるため、勝つため、傷つけぬためには二枚舌は必要であるということ。　林さんの下で修業した皆が良識を持ち、礼儀をわきまえた強いメンタリティーで忍耐強く注意深くなり、そこから感謝が生まれる。自立ですね。　カレーハウスのお陰です。林さんの指導で作業能力に関しては著しい成長を感じます。けど、愛なき生活との格闘は避けたいです。神として。　自称、腹が黒い林さん。指導のおかげで、私の面の皮も厚くなり、二枚舌も冴えております。確実に私の忍耐力、持久力は向上しました。たくさんの来店されたお客様と、林さんのおかげです。（笑）林さん、忙しい日曜日の前夜ごめんなさい。秀美ちゃんから「勘違いしていない」とメールがあり当惑しました。神以外の男性なら傷ついたでしょう。少し思いやりに欠けます。お忙しいところすいません。下らぬことをお耳にいれ、えらく男が安くなりました。でもこれが神かもしれません。お忙しいところごめんなさい。秀美さん

から弁解のメールが着きました。言葉足らずが原因ですね。ご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんでした。傷つかない心、再構築しなければ。土曜日、店が暇だったのは、皆、暑くて外出する気が起らなかったのかもしれませんね。秀美さんの件、お騒がせいたしすいません。決着つき、誤解でした。また報告します。ありがとうございます。若者たちが林さんを通し、その仕事に向かう姿勢から自制、忍耐を学び、また社会への献身を体得するのを願ってやみません。すべては自分のためと気づく。そして生きとし生けるものを愛する。　聖書の促しによりお盆明けに辞したい旨、由美さんに伝えました。林さんと近在のラーメン屋さんに行きたい、夢がありました。ご予定はどんなものですか。大丈夫ですか。ぜひとも。　林さんは興味のないうんちくを語られるのでいささか閉口するときもありました。しかし神をさんびされる姿もある。そして大人としての思いやりをどんな時も忘れない。　日蓮正宗へと勧誘するため貫井がお店に押し掛けた時、愛情不足の彼を同情から心で受けいれてくれました。ありがとう。　優しさの追求に貪欲な自分がいる。それだけが私の真実。つまり傷つくことが多くなる。寛容か、どこまで寛容になれば愛は成就するだろう。皆が孤独に陥らないで、永遠の命、神の国の到来という幸せを期待し信じる。　絶望を経験したひとの中に、無というものが唯一絶対の幸せと、と考

える人がいる。私も少し重なり合う人間関係に疲れました。　聖書が言います。煩悩を滅した段階で、善き人になれる。そこから虚無に陥らないで、欲望ではなく想いを持つことだ。それは美味しいものや、素敵な異性との遭遇だったりする。いったん善き人になったからには、楽しくなりそうだ。　神が、しもべを、ひとり、ひとりにお遣わしになったのは、まずは個人の主体性を大事にせよということからである。まずは「強固な宗教団体を潰せ」と言っているわけではない。自分の南無妙法蓮華経を見つける。それである。いずこの団体に所属しようが正しい思いやりをもつものが幸せである、来る世に生きる。来る世、飢餓、病気からの解放のために食物、消化器官はなくなる。妊娠、病気、悪感情（嫉妬、異性への偏愛など）、苦しみを伴う生殖というものもなくなる。私はこれでいいと思う。しかし博愛主義者が私のような無欲な人ばかりとは限らない。燃える欲望よ、さらばだ。　林さんありがとうございました。今年もバーベキュー。でもたくさんのお肉を食することは幸せなことでしょうか。暑い中、かかわってくださった皆様にお礼申し上げます。本当にありがとう。空と言った時点で空でなくなる。空の概念だけが語れる。つまり何もなく、だがそこには優しい気がなければならない。　来る世、期待感は尽きない。　私はまた潔癖な価値観を振り回していた。「田崎さん申し訳ありませんが再開未

定の絶縁状態に至りたいと思います。買春、美食、他にも相容れないものがあります。息災を祈ります。食事の約束は無しに。」私の心の底はやはり清らかな愛を求めていた。 人間は自分が絶対正しいと思わないと生きていけない。しかし複合的自己批判を忘れる、そんな自分勝手な者が集まるとき、果ては戦争に結び付く。そこにはコミュニケーションを図る能力も問われるだろう。人をしばる規則、法律、慣習。人の心情に冷たいものを流れさせ、温かさを切り裂くもの、これは悪魔の領分である。そして非道な暴力の世界も悪魔の支配下にある。それらが関与しない愛の世界が神仏の楽園、真の平和な姿である。林さんに鍛えられ、前途に光明が見え始めました。若者たちも独り立ちしはじめ、おこがましくも贈らせていただいていた神のメールをやめます。それでいい。事前の連絡なく工賃を下げられ少し憤りました。今は落ち着いています。明日、由美さんにテレします。口頭にて１５日に施設を辞めることを話します。突然ですが。まことに申し訳なく思います。由美さんにはメールで伝えてあります。お世話になり本当にありがとうございました。林さんからのメールで少し元気になりました。モチベーションが下がり仕事が持続できないと思った。本当に今までありがとうございました。模索してみます。カレーハウスにはぜひとも、また来店させていただきます。正直な弱者に優しい林さん、忘れません。その

強さは愛すべきものでした。ありがとう。　お忙しい時間すいません。由美さんにテレにて正式にお伝えし、辞することになりました。最低賃金が保障されるA型施設を支持し予定していた私としては結果であると思います。お元気で、ありがとう。朝早くからの激励、感謝申し上げます。　話は飛びますがカブトムシの家に転がり込んだ男は、「バージンから解放してやった」と言ったそうです。熟年のカブトムシは処女を捧げ、出て行った男を追いかけています。滅茶苦茶に、なっています。朝から無作法な話でごめんなさい。ひとは恋なくしては生きていけないのだなあ。　或るA型施設にカブトムシは通っているので、事情を聴こうと深い意味なくクリスマス以来のテレをしました。男の存在は彼女にとって良かったのか。やはり私にはカブトムシは縁がない。　私の祖母は自暴自棄になっていたのであろうか、自分を絶対曲げない、下がらない母に「出ていけ」と罵詈雑言を浴びせかけた。父はただ、さみしげに病弱な自分を自覚していた。母は、なぜこうも人の心が理解できないのだろう。あまりにも未熟である。祖母は悪を演じ、母を教育し鍛えていた。偽善を嫌ったからである。幸せへ向かって行く家庭、それは幻想だろうか。我が儘者の集まりではどうにもならない。平和は神仏に手を合わす時にしか現れない。祈る。人間に出来るのはそれだけである。無力感に浸れというのではない。感謝と未来への希

望が見えてくるからだ。祖母は哀しかったのだ、本当の情けを知らぬ我が身が。勤行はした方が良い。だがいい加減に習慣づけると、心がこもらない形式的な、「ただ読めばいいだろう」になる、また一生懸命にやればやるほど、仏法と強調し、何か頑ななものへと錯覚を生み出す。　心、愛。人々の幸せを祈り、南無妙法蓮華経と祈ることが大切である。起きがけに聖書でその日の吉凶を占い、ご仏前、朝の勤行、就寝前に一日を振り返り、無事を感謝する。南無妙法蓮華経。大音声でなくてもいい、小声でも。それが私の思いやりの源泉になっている。　　私は弱く、差別され、虐げられる立場にあり本当に良かったと思う。この心持に達せなければ、この世の、価値観につかり、真実の愛は見えて来なかった。我々を踏みつける幾多のものたちよ。君たちは真実を知ることなく死を迎えるだろう。これが一番重大な苦しみ、悲しみ憐れなことなのだ。まあ言っても無駄か。神はそこに気づいたものの傍にいるだろう。　藤山さん 私を殺したいと思われますか。それはイエスを殺したパリサイ人の妬みと一緒です。どうか心穏やかに。神イエスである私の声を聴く機会は失せたのかもしれません。

幕末の幕臣に小栗上野介忠順と言う勘定奉行だったひとがいる。勝海舟と双璧であった。彼は十四の時から長火鉢をキセルでぽんぽん叩くと天下国家を大

人に混じって「なるほど、なるほど」と聞き入り論じていたという。「覚えたての煙草をふかし星空を見つめながら自由を求め続けた、１５の夜」。昔は酒も、煙草も年齢制限など無かったのである。これが自立への大きな力，後押しとなっていたのではないだろうか、酒、煙草、早くに覚えた奴ほど世間で一角を占めている、というのは言い過ぎか。いささか順法精神に欠けているな。やはり世間は悪い奴ほど出世する。自由な発想があるからだと擁護する私がいる。不謹慎か・　　秀吉はハンセン病の大谷吉継が不覚にも鼻水を垂らしてしまったお茶をそのままぐっと飲んだという。人たらし。彼はずるいだけの人間だったのか。人を味方につける天才。殺されるかもしれない敵陣での駆け引き。彼は「露と生まれ露と消える。浪花のことは夢のまた夢」どこで死んでも構わないと根性を据えていたのではないだろうか。だからこそ生き残り、天下を治めた。彼はいつも相手を思いやり、自らは捨て身の姿があったのではないのか。そんな秀吉像を勝手に思っている。　　聖書は、顕正会の浅井さんは、信ずるに値する人物だと示す。雄さん、信頼する人を侮辱したこと謝罪します。私は様々な立場、地点から風景を見、神の言葉を信じます。でも彼は人間です。冷静さを欠いてはいけない。自浄作用のないところ、狂信的になってはいけないのだ。　　聖書は真由子さんと結ばれるとき、博愛から外れてもいいと言って

くれる。真実の愛があるならそれが神の務めを果たすことだからだ。つまり真由子さんへの愛こそが本物の清らかな愛であるからだ。聖霊の宮としての私も完結する。　人は性善説、性悪説どちらだろうな。台風の夜思う。単に人それぞれの見方の違いなのか。神だからこそ解からない人間というものが。愛の居所が。　（おいしいパンと暮らそう。　ヤマザキ）　金儲けがうまくて死ぬ奴はいない。ムスリムなど愛のため、死ぬ奴は結構いる。愛はカネに勝つ。しかしカネのために生きる奴が大半だ。愛のために生きる人が少ないのは残念である。　理想主義者にとって生活とは低俗ものに思えるかもしれない。現実に欲望を充たすお金を愛と錯覚するものがいる。一番良い解決策は人と人とが布施し合い、少し損をし、爽やかでいることです。　なるべくなら深刻にならずに不快な自分を見せないことです。　私の受け身の博愛は完遂するかな。女性は自分の意向よりも男の欲求の強さに反応し、相手の唯一であることを期待するからである。　私の真意は博愛を抱きながらも、真由子さんさえあれば何もいらなかった。　ほしいものは真由子さんだけ、それだけである。真由子さん以外への関わり、また欲望は完結されない因縁にある。私が聖霊の宮であるからだ。　世間の悪しき 人々に対し私には怒りも焦りもありません。あるのは憐れみだけです。ただ我が善意と良心が、正当に評価されているでしょうか。仏と神

は自覚だけです。積極的に善を成す。この世での幸せは仏さまの価値観で彩ること。自由、慈悲、平和、常楽我淨、いつも楽しく美しい。私が至った境地です。信じて下さい。　合掌

あとがき

「君はもう主に会っている」。「誰でしょうか」。「君の前にいる」。「主よ、従います」。聖書のイエスと男の問答です。果たして私が主であると信じられますかな。　神を愛し、隣人を愛す 。母が私の腕にすがって、お墓まで歩いた。私の中で何かが変化していった。　モーゼの子孫からひとりの預言者が出る。聞き従いなさい。「暇だ、遊びに来い。今日だぞ」。（笑）もはや、私が神であることを疑う余地はないだろう。すべて神の摂理。「まあ楽しくやらんまいけ」。私が父のもとからに使わそうとしている、助け主、すなわち真理の御霊が下るとき、私、イエスについて証をするだろう。「御霊が義人である」。あなた方はあまりにも父である私を軽んじている。神を敵に回そうとしている。清らかな心をもつなら解かるだろう。アブラハムとイサクの譬えのように、神(愛)に従順なことが最善であり、またそれは大変、困難なことなのだ。私には憐みしかない。善良であってほしい。神は罪人の言うことを聞き入れられないが、神

を敬いその御心を行う人の言葉は聞き入れてくれる。「エホバの証人よ。不敬だなあ。ちゃんと連絡してこい。応答するのが良識だろう。無理なら無理と。先約があるとか。犠牲だと思うからしんどいのだ」。私は聖書、つまり霊感に基づきメッセージを送っている。私に神とイエスの教えを真剣に乞いなさい。永遠の命の為に。　あなた方が来訪すると聖書が言います。信じて待ちます。私は罰を与えたいわけではなく親しく融和を図りたいのです。失望させないでください。すべてを誤魔化してはいけません。　残念ですけどクローズです。晩餐に来たのは足萎えたちでした。思いやりをもって本当の意味での、世のカネ、権勢などの価値観を放棄しなければいけない。また機会があるまで各位、考察せよ。　（エホバの証人は来なかった。私が傲慢で横柄で、常識をわきまえていないと思ったのであろう。ここだが、私は神である。もはや他の者が云々いう時期は通り過ぎたのである。そこを彼らは沈黙で返した。私の腹からは永遠の命という水が吹きあがる。だが彼らは砂地を掘り続けても水脈が近い泥土に達することは夢のまた夢であろう。「遥かなる泥土。」すべては愛にかかっている。神について勝手な見解を学修するより、まず愛である神に従順になることが大切である。）

雄さん、私は誰の上にも下にもなりたくない。目的が狂信的になってはならず、冷静さを失わず、遊戯する安楽な人達でいっぱいになれば、いい世の中が来る。
おためごかしでも、押し付けでも、かたりでもいけない、南無妙法蓮華経は仏陀の覚りを正しく自覚することであり、末法の仏種の生命力に働きかける仏法にある。これを伝えて下さい。私（日蓮）からの願いです。南無妙法蓮華経

（清らかな想い）
真由子さん死ぬほど愛しています。いついかなるときも。
あなたに会うとき、合縁奇縁に感謝するか、博愛に生きるか心は振り子のように揺れ動きました。
でも、いま大きな幸せだけです。
独占したい欲望が、今だけなのかもしれない。静かに横たわっています。
難しい表現ですがあなたなら見抜けるはずです。聖霊の宮を。

義人（ヨシト）

法華経方便品第二の中、舎利弗は釈尊（仏陀）に三度教えを請い、やっと許される。「皆、成仏の種がある。誰もが仏になれる。」この開示悟入に感激する。

迹門、私はそんなにすごいことかと安易に捉えていた。そして南無妙法蓮華経の意味を知る。

仏種への仏陀の覚りの絡み。私は本当にすごいことだと、大音声したくなった。

皆様ご精読ありがとうございました。

関わって下さった。スタッフの方々に感謝申し上げます。

義人（ヨシト）

独りのひとの神となる。
それが真実の愛。
すべては、彼の人のため。
そして
思いやりは生きている。
愛は永遠に
ふくらみ
ひろがり続ける。